埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第306集

大里郡妻沼町

飯塚北遺跡 I

妻沼西部工業団地造成事業用地内
埋蔵文化財発掘調査報告
―I―
<第２分冊>

２００５

埼　玉　県
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目　次

口絵
発刊に寄せて
序
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1．発掘調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
　3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 … 3
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 6
Ⅲ　遺跡の概要 …… 10
Ⅳ　縄文時代の遺構と遺物 …… 13
　1．土壙 …… 13
　2．グリッド出土土器 …… 15
Ⅴ　弥生時代の遺構と遺物 …… 16
　1．再葬墓 …… 16
　2．土壙 …… 26
　3．遺物集中区 …… 28
　4．グリッド出土土器 …… 45
　5．グリッド出土石器 …… 53
Ⅵ　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 55
　1．住居跡 …… 55
　　(第149号住居跡まで) …… 258
〈第２分冊〉
　　(第150号住居跡から) …… 259
Ⅶ　まとめ …… 443
　1．弥生時代の遺物 …… 443
　（1）飯塚北遺跡出土の弥生土器 …… 443
　（2）再葬墓と他の遺構との関連性について …… 447
　2．奈良・平安時代の遺物 …… 451
写真図版
付図

挿図目次

〈第２分冊〉

第281図　第150号住居跡 …… 259
第282図　第150号住居跡出土遺物 …… 260
第283図　第151号住居跡 …… 261
第284図　第151号住居跡出土遺物 …… 262
第285図　第152号住居跡 …… 264
第286図　第152号住居跡出土遺物 …… 265
第287図　第153号住居跡 …… 266
第288図　第155・163号住居跡 …… 267
第289図　第155号住居跡出土遺物 …… 267
第290図　第163号住居跡出土遺物 …… 268
第291図　第156号住居跡 …… 268
第292図　第156号住居跡出土遺物 …… 269
第293図　第157号住居跡 …… 270
第294図　第157号住居跡出土遺物 …… 270
第295図　第158号住居跡 …… 271
第296図　第158号住居跡出土遺物 …… 271
第297図　第159号住居跡 …… 272
第298図　第159号住居跡出土遺物 …… 272
第299図　第161号住居跡 …… 273
第300図　第161号住居跡出土遺物 …… 274
第301図　第162号住居跡 …… 275
第302図　第162号住居跡出土遺物 …… 275
第303図　第164・175号住居跡 …… 277
第304図　第164号住居跡出土遺物 …… 277
第305図　第175号住居跡出土遺物 …… 278
第306図　第165・172号住居跡 …… 279
第307図　第165号住居跡出土遺物 …… 280
第308図　第172号住居跡出土遺物 …… 281
第309図　第166・186・219号住居跡 …… 282
第310図　第166号住居跡出土遺物（1）…… 283
第311図　第166号住居跡出土遺物（2）…… 284
第312図　第166号住居跡出土遺物（3）…… 285
第313図　第166号住居跡出土遺物（4）…… 286
第314図　第186号住居跡出土遺物 …… 289
第315図　第219号住居跡出土遺物 …… 290
第316図　第167・220号住居跡 …… 291
第317図　第167・220号住居跡出土遺物 …… 292
第318図　第168号住居跡 …… 294
第319図　第168号住居跡出土遺物 …… 295
第320図　第169号住居跡 …… 296
第321図　第169号住居跡出土遺物 …… 297
第322図　第170・213号住居跡 …… 299
第323図　第170号住居跡出土遺物 …… 300
第324図　第213号住居跡出土遺物 …… 301
第325図　第171号住居跡 …… 302
第326図　第171号住居跡出土遺物 …… 303
第327図　第173号住居跡 …… 304
第328図　第173号住居跡出土遺物 …… 305
第329図　第174号住居跡 …… 306
第330図　第174号住居跡出土遺物 …… 307
第331図　第176号住居跡 …… 308
第332図　第176号住居跡出土遺物（1）…… 309
第333図　第176号住居跡出土遺物（2）…… 310
第334図　第177・198・202号住居跡 …… 311
第335図　第177号住居跡出土遺物 …… 310
第336図　第198号住居跡出土遺物 …… 312
第337図　第202号住居跡出土遺物 …… 312
第338図　第178号住居跡 …… 313
第339図　第178号住居跡出土遺物 …… 314
第340図　第179号住居跡出土遺物 …… 315
第341図　第179号住居跡 …… 316
第342図　第180号住居跡 …… 317
第343図　第180号住居跡出土遺物 …… 318
第344図　第195号住居跡 …… 319
第345図　第195号住居跡出土遺物 …… 319
第346図　第201号住居跡 …… 320
第347図　第201号住居跡出土遺物 …… 321
第348図　第181号住居跡 …… 322

第349図　第181号住居跡出土遺物 …… 323
第350図　第182号住居跡 …… 324
第351図　第182号住居跡出土遺物 …… 325
第352図　第183号住居跡 …… 326
第353図　第183号住居跡出土遺物 …… 326
第354図　第184号住居跡 …… 327
第355図　第184号住居跡出土遺物 …… 328
第356図　第185号住居跡 …… 329
第357図　第185号住居跡出土遺物 …… 330
第358図　第187号住居跡 …… 331
第359図　第187号住居跡出土遺物 …… 332
第360図　第188号住居跡 …… 332
第361図　第188号住居跡出土遺物 …… 333
第362図　第189号住居跡 …… 333
第363図　第189号住居跡出土遺物 …… 334
第364図　第190号住居跡 …… 335
第365図　第190号住居跡出土遺物 …… 336
第366図　第191号住居跡 …… 337
第367図　第191号住居跡出土遺物 …… 338
第368図　第192号住居跡 …… 339
第369図　第192号住居跡出土遺物 …… 339
第370図　第193・205号住居跡 …… 340
第371図　第193号住居跡出土遺物 …… 341
第372図　第205号住居跡出土遺物 …… 342
第373図　第194号住居跡 …… 343
第374図　第194号住居跡出土遺物 …… 343
第375図　第196号住居跡 …… 344
第376図　第196号住居跡出土遺物 …… 345
第377図　第197号住居跡 …… 346
第378図　第197号住居跡出土遺物 …… 347
第379図　第199号住居跡 …… 347
第380図　第199号住居跡出土遺物 …… 348
第381図　第200号住居跡 …… 348
第382図　第200号住居跡出土遺物 …… 349
第383図　第203号住居跡 …… 350
第384図　第203号住居跡出土遺物 …… 351
第385図　第204号住居跡 …… 352
第386図　第204号住居跡出土遺物 …… 352
第387図　第206・207・222号住居跡 …… 353
第388図　第207号住居跡出土遺物 …… 354
第389図　第222号住居跡出土遺物 …… 354
第390図　第208号住居跡 …… 355
第391図　第208号住居跡出土遺物 …… 355
第392図　第209号住居跡 …… 356
第393図　第209号住居跡出土遺物 …… 357
第394図　第210号住居跡 …… 357
第395図　第210号住居跡出土遺物 …… 358
第396図　第211号住居跡 …… 359
第397図　第211号住居跡出土遺物 …… 360
第398図　第214号住居跡 …… 361
第399図　第214号住居跡出土遺物 …… 361
第400図　第215号住居跡 …… 362
第401図　第215号住居跡出土遺物 …… 363
第402図　第216号住居跡 …… 364
第403図　第216号住居跡出土遺物 …… 365
第404図　第217号住居跡 …… 366
第405図　第217号住居跡出土遺物 …… 366
第406図　第218・229・247・253号住居跡 …… 367
第407図　第218号住居跡出土遺物 …… 368
第408図　第229号住居跡出土遺物 …… 369
第409図　第247号住居跡出土遺物 …… 370
第410図　第253号住居跡出土遺物 …… 370
第411図　第221号住居跡 …… 371
第412図　第221号住居跡出土遺物 …… 372
第413図　第223号住居跡 …… 373
第414図　第223号住居跡出土遺物 …… 374
第415図　第224号住居跡 …… 375
第416図　第224号住居跡出土遺物 …… 376
第417図　第244号住居跡 …… 376
第418図　第244号住居跡出土遺物 …… 377
第419図　第225号住居跡 …… 378
第420図　第225号住居跡出土遺物 …… 379
第421図　第226号住居跡 …… 379
第422図　第226号住居跡出土遺物 …… 379
第423図　第227号住居跡 …… 380
第424図　第227号住居跡出土遺物 …… 381

第425図　第228・237号住居跡 …… 383
第426図　第228号住居跡出土遺物 …… 384
第427図　第237号住居跡出土遺物 …… 384
第428図　第230号住居跡 …… 385
第429図　第231号住居跡 …… 386
第430図　第231号住居跡出土遺物 …… 386
第431図　第232号住居跡 …… 387
第432図　第232号住居跡出土遺物 …… 387
第433図　第233号住居跡 …… 388
第434図　第233号住居跡出土遺物 …… 388
第435図　第234号住居跡 …… 389
第436図　第234号住居跡出土遺物 …… 389
第437図　第235号住居跡 …… 390
第438図　第235号住居跡出土遺物 …… 390
第439図　第236・239・250・282・299号住居跡 …… 392
第440図　第239号住居跡 …… 393
第441図　第236号住居跡出土遺物 …… 394
第442図　第239号住居跡出土遺物（1） …… 395
第443図　第239号住居跡出土遺物（2） …… 396
第444図　第250号住居跡出土遺物 …… 396
第445図　第282号住居跡出土遺物 …… 397
第446図　第299号住居跡出土遺物 …… 397
第447図　第238号住居跡 …… 398
第448図　第238号住居跡出土遺物 …… 399
第449図　第240・333号住居跡 …… 400
第450図　第241号住居跡 …… 401
第451図　第241号住居跡出土遺物 …… 402
第452図　第242・243号住居跡 …… 403
第453図　第242・243号住居跡出土遺物 …… 403
第454図　第246・251号住居跡 …… 404
第455図　第246号住居跡出土遺物 …… 405
第456図　第251号住居跡出土遺物 …… 406
第457図　第248・260・261号住居跡 …… 407
第458図　第248号住居跡出土遺物 …… 408
第459図　第260号住居跡出土遺物 …… 408
第460図　第261号住居跡出土遺物 …… 409
第461図　第249号住居跡 …… 410
第462図　第249号住居跡出土遺物 …… 411
第463図　第252号住居跡 …… 412
第464図　第252号住居跡出土遺物 …… 413
第465図　第254号住居跡 …… 414
第466図　第254号住居跡出土遺物 …… 414
第467図　第255号住居跡 …… 415
第468図　第255号住居跡出土遺物 …… 415
第469図　第256号住居跡 …… 416
第470図　第256号住居跡出土遺物 …… 417
第471図　第257号住居跡 …… 418
第472図　第258号住居跡 …… 419
第473図　第258号住居跡出土遺物 …… 419
第474図　第262・295号住居跡 …… 420
第475図　第262号住居跡出土遺物 …… 421
第476図　第295号住居跡出土遺物 …… 421
第477図　第263号住居跡 …… 422
第478図　第263号住居跡出土遺物 …… 422
第479図　第264・312号住居跡 …… 423
第480図　第264号住居跡出土遺物（1） …… 424
第481図　第264号住居跡出土遺物（2） …… 425
第482図　第312号住居跡出土遺物 …… 426
第483図　第265号住居跡 …… 427
第484図　第265号住居跡出土遺物 …… 428
第485図　第266・286号住居跡 …… 428
第486図　第267号住居跡 …… 429
第487図　第267号住居跡出土遺物 …… 430
第488図　第268・269・270号住居跡 …… 431
第489図　第268号住居跡出土遺物 …… 432
第490図　第269号住居跡出土遺物 …… 432
第491図　第270号住居跡出土遺物 …… 433
第492図　第271・272号住居跡 …… 434
第493図　第271・272号住居跡出土遺物 …… 435
第494図　第274・275号住居跡 …… 436
第495図　第274号住居跡出土遺物 …… 437
第496図　第274・275号住居跡出土遺物 …… 438
第497図　第276・285・292・303・304号住居跡 …… 439
第498図　第276号住居跡出土遺物 …… 440

第499図　第285号住居跡出土遺物 …… 440
第500図　第303号住居跡出土遺物 …… 441
第501図　第277号住居跡 …… 441
第502図　第277号住居跡出土遺物 …… 442
第503図　再葬墓出土土器と関連資料 …… 445
第504図　弥生時代の遺構 …… 448

図版目次

〈第2分冊〉

図版1　遺跡全景
図版2　遺跡全景
図版3　第1号再葬墓（SK602）遺物出土状況
第1号再葬墓（SK602）
第2号再葬墓（SK879）遺物出土状況
図版4　第3号再葬墓（SK936）遺物出土状況
第4号再葬墓（SK701）遺物出土状況
第4号再葬墓（SK701）
第5号再葬墓（SK789）遺物出土状況
第741号土壙遺物出土状況
第741号土壙
第938号土壙
図版5　第1号住居跡遺物出土状況
第2号住居跡　第5号住居跡カマド
第5号住居跡　第6号住居跡
第10号住居跡　第11号住居跡カマド
第11号住居跡
図版6　第13号住居跡カマド　第13号住居跡
第14号住居跡カマド遺物出土状況
第14号住居跡　第15号住居跡
第16号住居跡カマド　第16号住居跡
第17号住居跡
図版7　第18号住居跡
第20号住居跡カマド遺物出土状況
第20号住居跡
第21号住居跡カマド遺物出土状況
第21号住居跡
第22号住居跡カマド遺物出土状況
第22号住居跡
第23号住居跡カマド遺物出土状況
図版8　第23号住居跡　第24号住居跡カマド
第24号住居跡　第26号住居跡
第27号住居跡カマド遺物出土状況
第28号住居跡カマド
第28号住居跡カマド遺物出土状況
第28号住居跡
図版9　第28号住居跡遺物出土状況
第30号住居跡
第30号住居跡遺物出土状況
第31号住居跡
第33号住居跡カマド遺物出土状況
第33号住居跡　第33・43号住居跡
第34号住居跡カマド遺物出土状況
図版10　第34号住居跡
第35号住居跡カマド遺物出土状況
第35号住居跡遺物出土状況
第35号住居跡
第37号住居跡遺物出土状況
第37号住居跡　第38・57号住居跡
図版11　第38号住居跡　第42号住居跡カマド
第42号住居跡　第44号住居跡
第45号住居跡
第48号住居跡遺物出土状況
第48号住居跡
第49号住居跡遺物出土状況
図版12　第49号住居跡

第53号住居跡カマド遺物出土状況
第53号住居跡
第54号住居跡カマド遺物出土状況
第54号住居跡
第56号住居跡カマド遺物出土状況
第56号住居跡　第58号住居跡
図版13　第59号住居跡カマド遺物出土状況
第59号住居跡　第61号住居跡
第62号住居跡カマド遺物出土状況
第62号住居跡
第63号住居跡カマド遺物出土状況
第63号住居跡遺物出土状況
第63号住居跡
図版14　第64号住居跡カマド遺物出土状況
第64号住居跡　第67号住居跡カマド
第67号住居跡　第68号住居跡
第70号住居跡　第71号住居跡
第74号住居跡
図版15　第76・79号住居跡　第73・78号住居跡
第80号住居跡　第81号住居跡
第82号住居跡
第85号住居跡カマド遺物出土状況
第85号住居跡
第86号住居跡カマド遺物出土状況
図版16　第86号住居跡　第90号住居跡
第91号住居跡カマド遺物出土状況
第91号住居　第92号住居跡
第93号住居跡遺物出土状況
第93号住居跡
図版17　第95号住居跡カマド遺物出土状況
第95号住居跡
第96号住居跡カマド遺物出土状況
第96号住居跡　第98号住居跡
第100号住居跡　第101号住居跡
第101・102・103号住居跡
図版18　第103・104号住居跡
第107号住居跡カマド遺物出土状況
第107号住居跡
第108号住居跡遺物出土状況
第108号住居跡　第109号住居跡
第111号住居跡　第115号住居跡
図版19　第116号住居跡　第117号住居跡
第120号住居跡遺物出土状況
第120号住居跡　第122号住居跡
第123号住居跡カマド　第123号住居跡
第125号住居跡カマド遺物出土状況
図版20　第125号住居跡　第126号住居跡
第127号住居跡カマド　第127号住居跡
第128号住居跡　第129号住居跡カマド
第129号住居跡　第132号住居跡
図版21　第133号住居跡カマド遺物出土状況
第133号住居跡カマド　第133号住居跡
第134号住居跡カマド遺物出土状況
第134号住居跡
第135号住居跡カマド遺物出土状況
第135号住居跡　第136号住居跡
図版22　第137号住居跡
第138号住居跡遺物出土状況
第138号住居跡
第139号住居跡カマド遺物出土状況
第139号住居跡遺物出土状況
第139号住居跡
第140号住居跡カマド出土状況
第140号住居跡
図版23　第141号住居跡遺物出土状況
第141号住居跡
第144号住居跡カマド遺物出土状況
第144号住居跡遺物出土状況
第144号住居跡　第147号住居跡
第148号住居跡カマド　第148号住居跡
図版24　第150号住居跡カマド　第150号住居跡
第151号住居跡カマド　第151号住居跡
第152号住居跡カマド　第152号住居跡
第156号住居跡　第157号住居跡カマド

図版25　第157号住居跡　第158号住居跡
第159号住居跡　第161号住居跡
第162号住居跡　第164号住居跡カマド
第164号住居跡　第165号住居跡カマド
図版26　第165号住居跡
第166号住居跡遺物出土状況
第166号住居跡　第167号住居跡
第168号住居跡カマド遺物出土状況
第168号住居跡
図版27　第169号住居跡
第170号住居跡カマド遺物出土状況
第170号住居跡　第171号住居跡
第172号住居跡
第173号住居跡カマド遺物出土状況
第173号住居跡
第174号住居跡・第240号土坑
図版28　第175号住居跡　第176号住居跡
第178号住居跡　第179号住居跡
第180号住居跡
第181号住居跡カマド遺物出土状況
第181号住居跡
第182号住居跡カマド遺物出土状況
図版29　第182号住居跡　第183号住居跡
第184号住居跡
第185号住居跡カマド遺物出土状況
第185号住居跡　第186号住居跡
第187号住居跡　第189号住居跡
図版30　第190号住居跡
第191号住居跡カマド遺物出土状況
第191号住居跡　第192号住居跡
第195号住居跡　第196号住居跡
第196・197号住居跡　第197号住居跡
図版31　第198号住居跡　第200号住居跡
第203号住居跡カマド遺物出土状況
第203号住居跡　第204号住居跡
第205号住居跡カマド　第205号住居跡
第210号住居跡
図版32　第211号住居跡　第213号住居跡
第214号住居跡　第215号住居跡
第216号住居跡　第217号住居跡
第218号住居跡古銭出土状況
第219号住居跡
図版33　第223号住居跡カマド遺物出土状況
第223号住居跡
第223・224・225号住居跡
第224号住居跡　第225号住居跡
第227号住居跡　第228号住居跡
第230号住居跡
図版34　第232号住居跡　第234号住居跡
第236号住居跡　第237号住居跡
第238号住居跡カマド遺物出土状況
第238号住居跡　第239号住居跡
第239・260号住居跡カマド
図版35　第241号住居跡　第242・243号住居跡
第244号住居跡　第246号住居跡
第249号住居跡カマド遺物出土状況
第249号住居跡　第251号住居跡
第254号住居跡カマド遺物出土状況
図版36　第254号住居跡　第255号住居跡
第256号住居跡　第257号住居跡
第258号住居跡　第262号住居跡
第264号住居跡　第277号住居跡
図版37　第１号再葬墓出土遺物
第2a号再葬墓出土遺物
第2b号再葬墓出土遺物
第４号再葬墓出土遺物
図版38　第１号再葬墓出土遺物
第2a号再葬墓出土遺物
第2b号再葬墓出土遺物
第５号再葬墓出土遺物
図版39　第３号再葬墓出土遺物
第510・511号土坑出土遺物
図版40　第１集中区出土遺物
図版41　第２集中区出土遺物

図版42　第３集中区出土遺物（1）
図版43　第３集中区出土遺物（1）(2)
　　第３周中区出土遺物（2）
図版44　第４集中区出土遺物（1）
図版45　第４集中区出土遺物（2）
図版46　第５集中区出土遺物（1）
図版47　第５集中区出土遺物（1）(2)
　　第５集中区出土遺物（2）
図版48　第５集中区出土遺物（2）(3)
　　グリッド出土遺物（1）
図版49　グリッド出土遺物（1）
　　グリッド出土遺物（2）
図版50　グリッド出土遺物（2）
　　グリッド出土遺物（3）
図版51　グリッド出土遺物（3）
　　グリッド出土遺物（4）
図版52　グリッド出土石器（1）(2)
図版53　第２号住居跡出土遺物
　　第４号住居跡出土遺物
　　第５号住居跡出土遺物
　　第12号住居跡出土遺物
　　第14号住居跡出土遺物
図版54　第17号住居跡出土遺物
　　第20号住居跡出土遺物
　　第21号住居跡出土遺物
　　第22号住居跡出土遺物
　　第23号住居跡出土遺物
　　第24号住居跡出土遺物
図版55　第24号住居跡出土遺物
　　第26号住居跡出土遺物
　　第28号住居跡出土遺物
図版56　第28号住居跡出土遺物
　　第30号住居跡出土遺物
　　第33号住居跡出土遺物
　　第35a号住居跡出土遺物
図版57　第35a号住居跡出土遺物
図版58　第35a号住居跡出土遺物
　　第35b号住居跡出土遺物
　　第36号住居跡出土遺物
　　第37号住居跡出土遺物
図版59　第37号住居跡出土遺物
　　第38号住居跡出土遺物
　　第42号住居跡出土遺物
　　第48号住居跡出土遺物
図版60　第48号住居跡出土遺物
　　第49号住居跡出土遺物
　　第53号住居跡出土遺物
　　第54号住居跡出土遺物
　　第59号住居跡出土遺物
図版61　第63号住居跡出土遺物
　　第67号住居跡出土遺物
　　第68号住居跡出土遺物
　　第70号住居跡出土遺物
　　第71号住居跡出土遺物
　　第76号住居跡出土遺物
図版62　第80号住居跡出土遺物
　　第82号住居跡出土遺物
　　第85号住居跡出土遺物
　　第90号住居跡出土遺物
　　第91号住居跡出土遺物
図版63　第92号住居跡出土遺物
　　第93号住居跡出土遺物
　　第94号住居跡出土遺物
　　第96号住居跡出土遺物
図版64　第96号住居跡出土遺物
　　第98号住居跡出土遺物
　　第100号住居跡出土遺物
図版65　第101号住居跡出土遺物
　　第102号住居跡出土遺物
　　第103号住居跡出土遺物
図版66　第103号住居跡出土遺物
　　第107号住居跡出土遺物
　　第111号住居跡出土遺物
　　第115号住居跡出土遺物

第117号住居跡出土遺物
図版67 第115号住居跡出土遺物
第117号住居跡出土遺物
第120号住居跡出土遺物
図版68 第120号住居跡出土遺物
第122号住居跡出土遺物
第123号住居跡出土遺物
図版69 第125号住居跡出土遺物
第128号住居跡出土遺物
第130号住居跡出土遺物
図版70 第129号住居跡出土遺物
第132号住居跡出土遺物
第134号住居跡出土遺物
第136号住居跡出土遺物
第137号住居跡出土遺物
第138号住居跡出土遺物
図版71 第140号住居跡出土遺物
第143号住居跡出土遺物
第144号住居跡出土遺物
第146号住居跡出土遺物
図版72 第148号住居跡出土遺物
第149号住居跡出土遺物
第150号住居跡出土遺物
第151号住居跡出土遺物
第152号住居跡出土遺物
図版73 第152号住居跡出土遺物
第161号住居跡出土遺物
第162号住居跡出土遺物
第165号住居跡出土遺物
第166号住居跡出土遺物
図版74 第166号住居跡出土遺物
図版75 第166号住居跡出土遺物
図版76 第166号住居跡出土遺物
図版77 第166号住居跡出土遺物
第167号住居跡出土遺物
第168号住居跡出土遺物
第169号住居跡出土遺物
図版78 第169号住居跡出土遺物
第170号住居跡出土遺物
第171号住居跡出土遺物
第173号住居跡出土遺物
図版79 第173号住居跡出土遺物
第174号住居跡出土遺物
第179号住居跡出土遺物
第180号住居跡出土遺物
第181号住居跡出土遺物
第182号住居跡出土遺物
第184号住居跡出土遺物
図版66 第186号住居跡出土遺物
第187号住居跡・第218号住居跡出土古銭
第189号住居跡出土遺物
図版81 第190号住居跡出土遺物
第191号住居跡出土遺物
第194号住居跡出土遺物
第195号住居跡出土遺物
第196号住居跡出土遺物
図版82 第196号住居跡出土遺物
第197号住居跡出土遺物
第199号住居跡出土遺物
第201号住居跡出土遺物
図版83 第201号住居跡出土遺物
第203号住居跡出土遺物
第207号住居跡出土遺物
図版84 第209号住居跡出土遺物
第210号住居跡出土遺物
第211号住居跡出土遺物
第213号住居跡出土遺物
図版85 第214号住居跡出土遺物
第215号住居跡出土遺物
第216号住居跡出土遺物
第219号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
第224号住居跡出土遺物

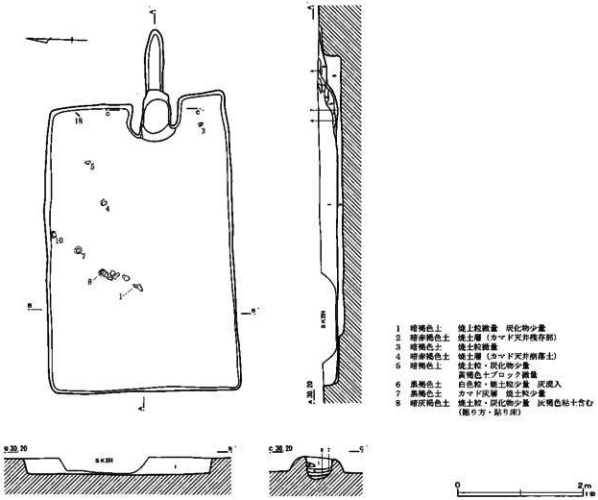
図版86　第224号住居跡出土遺物
第227号住居跡出土遺物
第231号住居跡出土遺物
第233号住居跡出土遺物
第235号住居跡出土遺物
第237号住居跡出土遺物
図版87　第237号住居跡出土遺物
第238号住居跡出土遺物
第239号住居跡出土遺物
図版88　第239号住居跡出土遺物
第244号住居跡出土遺物
図版89　第244号住居跡出土遺物
第246号住居跡出土遺物
第247号住居跡出土遺物
第248号住居跡出土遺物
第249号住居跡出土遺物
図版90　第251号住居跡出土遺物
第252号住居跡出土遺物
第254号住居跡出土遺物
第260号住居跡出土遺物
第262号住居跡出土遺物
図版91　第262号住居跡出土遺物
第263号住居跡出土遺物
第264号住居跡出土遺物
第269号住居跡出土遺物
第271・272号住居跡出土遺物
第274・275号住居跡出土遺物
第277号住居跡出土遺物
図版92　第４号住居跡出土遺物
第28号住居跡出土遺物
第48号住居跡出土遺物
第63号住居跡出土遺物
第103号住居跡出土遺物
第133号住居跡出土遺物
図版93　第148号住居跡出土遺物
第168号住居跡出土遺物
第200号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
第228号住居跡出土遺物
図版94　第236号住居跡出土遺物
第238号住居跡出土遺物
第244号住居跡出土遺物
第256号住居跡出土遺物
第260号住居跡出土遺物
図版95　第59号住居跡出土遺物
第93号住居跡出土遺物
第96号住居跡出土遺物
図版96　第120号住居跡出土遺物

第150号住居跡（第281・282図）

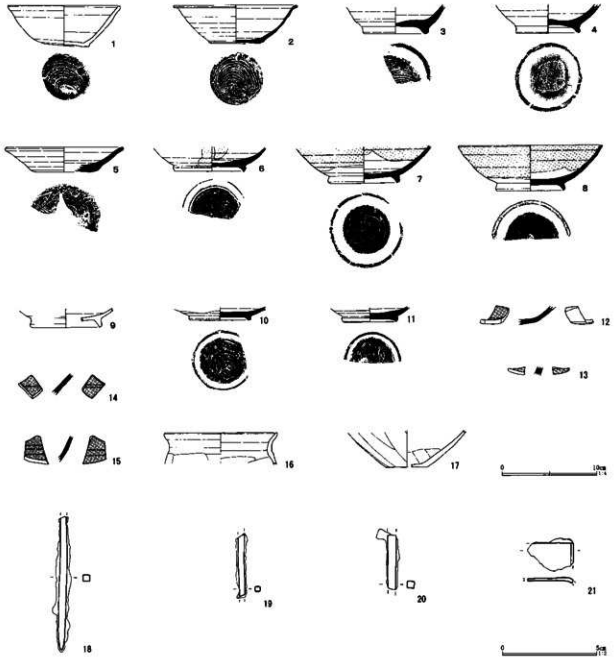
K－13・14グリッドに位置する。第164・168号住居跡・第201号土坑と重複し、土坑に西部が切られ、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.71m、南北3.00m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－89°－Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、81cm×43cmを測り、煙道部は長さ95cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台坏埦、土師器甕、灰釉陶器高台付埦・高台付皿、緑釉陶器と鉄製品が出土した。18～20はいずれも角棒状の鉄製品である。18は現存長7.0cmで、端部が存在することから釘など接合具の可能性もある。19は現存長3.4cm、20は現存長2.8cm。ともに用途は不明である。21は現存長2.4cm、厚さ約0.1cmの鉄板である。曲がった部分で折れた様子が見て取れる。用途は不明である。



第281図 第150号住居跡



第282図　第150号住居跡出土遺物

第150号住居跡出土遺物観察表（第282図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.0	4.4	5.2	ABCFJ	普通	橙	85	覆土	酸化焔焼成　やや歪みあり
2	須恵坏	13.2	4.1	5.7	ACJK	良好	灰	90	掘り方	底部回転糸切り
3	須恵高台坏			(7.0)	AG	普通	灰黄	25	覆土	
4	須恵高台埦			6.7	ABFG	不良	灰黄	70	覆土	
5	須恵皿	(12.6)	2.7	(7.0)	AFJ	普通	灰黄褐	40	覆土	
6	灰釉高台埦			(7.3)	ACG	良好	灰白	25	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ 内面赤色　東遠江産
7	灰釉高台埦			7.0	AG	普通	灰褐	80	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産

第150号住居跡出土遺物観察表（第282図）

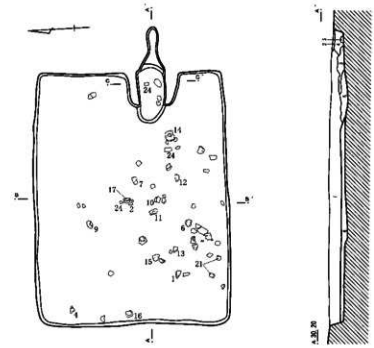
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	灰釉高台埦	(15.2)	4.8	(7.0)	G	良好	灰白	40	覆土	底部高台内へラ削り　施釉ツケガケ　浜北産
9	灰釉高台埦			(7.1)	A	良好	灰白	20	覆土	底部高台内糸切り　施釉なし　東濃産
10	灰釉高台皿			6.0	AG	良好	灰白	70	覆土	底部高台内糸切り　施釉ツケガケ　東濃産
11	灰釉高台皿			5.5	AG	良好	灰	40	覆土	底部高台内糸切り　施釉ツケガケ　東遠江産
12	緑釉陶器						―	破片	覆土	外面施釉なし　猿投産
13	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
14	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
15	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
16	土師小型甕	(12.0)			ABCJ	普通	褐灰	10	覆土	
17	土師甕			(4.4)	ABFJ	普通	橙	20	覆土	

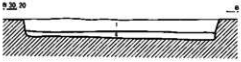
第151号住居跡（第283・284図）

K・L－13、K－14グリッドに位置する。第165号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西3.95m、南北3.10m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、94cm×43cm、深さ10cmを測り、煙道部は長さ60cmが確認できた。

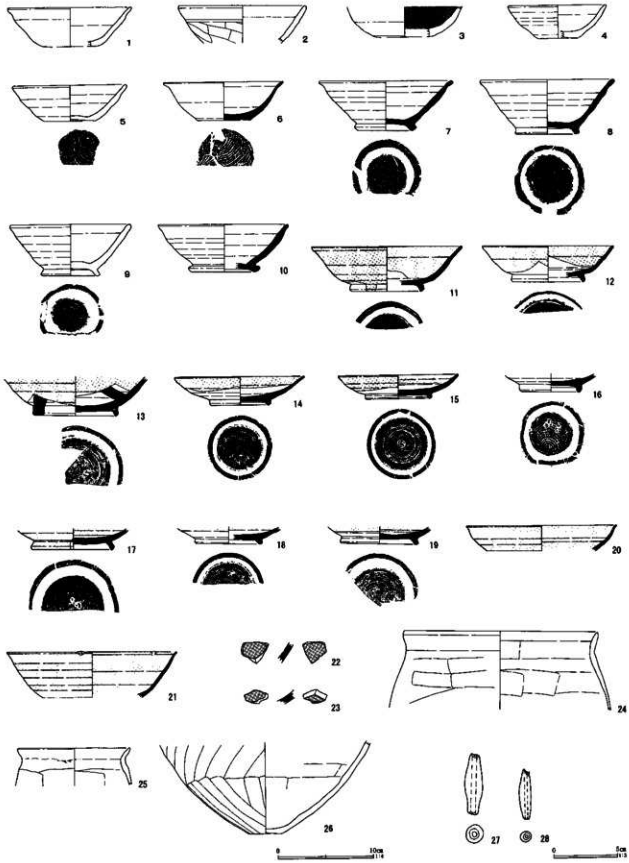
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏埦・灰釉陶器高台付埦・高台坏皿、緑釉陶器、土錘が出土した。





1　暗褐色土　灰混入　焼土粒・炭化物・黄褐色土ブロック・白色粒全体に汚む
2　暗赤褐色土　焼土層（カマド天井の残存部）
3　暗赤褐色土　焼土層（カマド天井崩落土）
4　暗褐色土　焼土粒・炭化物多量
5　黒褐色土　灰層　灰・焼土の硬土層
6　暗灰褐色土　砂粒・粘土を含む　焼土粒若干混入（貼り床）

第283図　第151号住居跡



第284図　第151号住居跡出土遺物

第151号住居跡出土遺物観察表（第284図）

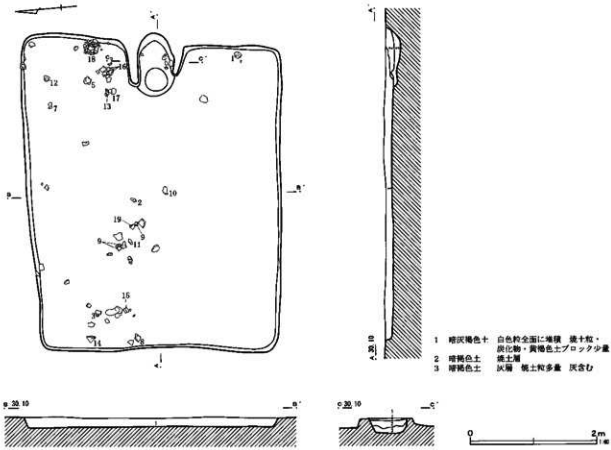
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)	(4.1)	(5.6)	ABFK	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
2	土師坏	(13.2)			ABJ	普通	浅黄橙	20	覆土	
3	土師坏			(6.6)	ABF	良好	浅黄橙	13	覆土	黒色土器
4	土師坏	(10.2)	3.5	(4.2)	ABFK	普通	にぶい橙	30	覆土	
5	須恵坏	(11.8)	3.7	(5.4)	ACFJ	不良	明褐	12	覆土	底部回転糸切り　酸化焔焼成
6	須恵坏	(12.4)	4.0	5.6	AIK	普通	オリーブ黒	45	覆土	
7	須恵高台埦	(13.7)	5.2	6.5	ABJ	普通	にぶい黄	30	覆土	一部酸化焔焼成
8	須恵高台埦	(13.9)	5.8	6.8	AJ	普通	灰	55	覆土	底部回転糸切り
9	須恵高台埦	(12.5)	5.4	6.2	AFJ	普通	にぶい褐	60	覆土	酸化焔焼成
10	須恵高台埦	(13.6)	5.0	(7.5)	ACJ	普通	灰	25	覆土	
11	灰釉高台埦	(15.6)	4.7	(7.4)	AJ	良好	灰黄	30	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
12	灰釉高台埦	(13.6)	3.8	(7.5)	AG	良好	灰白	30	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕あり　東濃産
13	灰釉高台埦			(8.5)	A	普通	灰	25	床直	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　一部油煙付着　東濃産
14	灰釉高台皿	13.5	3.0	6.3	AGK	良好	灰白	95	覆土	底部高台内糸切り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕あり　浜北産
15	灰釉高台皿	(12.6)	2.5	7.0	AGK	普通	灰	40	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
16	灰釉高台埦			6.1	AGK	良好	灰	底部	床直	底部高台内糸切り　施釉なし　浜北産
17	灰釉高台埦			8.5	G	良好	灰黄	50	覆土	底部高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ　東遠江産
18	灰釉高台皿			(7.0)	AJ	良好	灰白	50	覆土	底部高台内糸切り　施釉ハケヌリ　東濃産
19	灰釉高台皿			(7.8)	A	普通	灰黄	30	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
20	灰釉埦	(15.6)			AG	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ　東濃産
21	灰釉埦	(17.6)			AG	良好	灰白	20	覆土	輪花埦　施釉ツケガケ　東濃産
22	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
23	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
24	土師甕	(20.4)			ABF	普通	橙	20	カマド他	
25	土師甕	(11.7)			ABCF	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
26	土師甕			(3.4)	ABFJ	普通	橙	60	覆土	
27	土錘	長さ4.2　径1.35　孔径0.4					にぶい橙	100	覆土	
28	土錘	長さ(3.85)　径0.9～0.95　孔径0.25					にぶい黄橙	95	覆土	

第152号住居跡（第285・286図）

L－14グリッドに位置する。第193号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西4.98m、南北4.06m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cm×57cm、深さ14cmを測る。

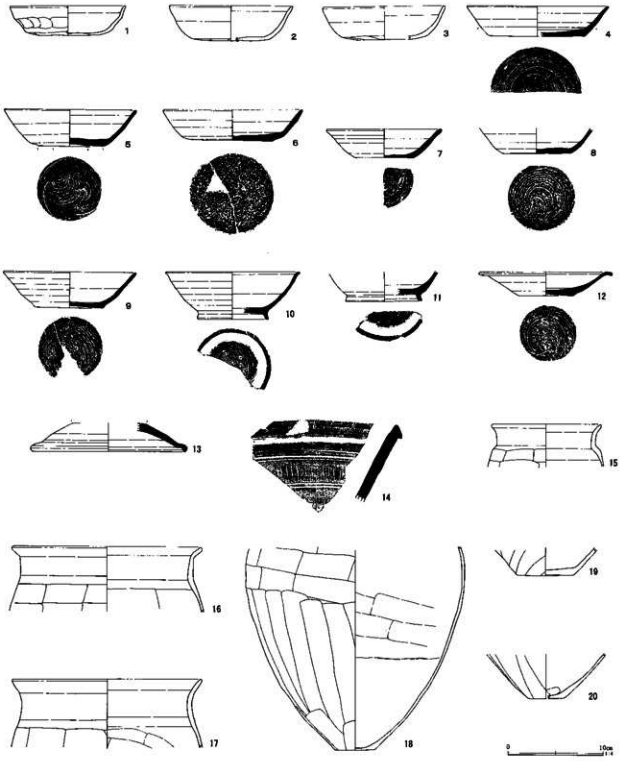
遺物は、土師器坏・須恵器坏、高台坏埦・皿・甕破片、土師器甕が出土した。



第285図 第152号住居跡

第152号住居跡出土遺物観察表（第286図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)	3.2		AB	普通	橙	50	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
2	土師坏	(12.8)	3.7		ABDJ	普通	橙	25	覆土	
3	土師坏	(12.7)	3.5		AF	普通	橙	25	覆土	
4	須恵坏	(14.9)	3.2	(10.2)	AH	良好	灰	45	覆土	外面体部下端～底部全面左回転ヘラ削り 火襷痕 南比企産
5	須恵坏	(13.7)	3.8	6.7	AH	良好	灰	50	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
6	須恵坏	14.4	3.2	8.7	AJ	不良	灰白	85	覆土	底部調整不明
7	須恵坏	(11.9)	3.0	(6.0)	AK	良好	オリーブ灰	20	覆土	
8	須恵坏			7.0	AC	普通	灰白	60	床直	
9	須恵坏	13.3	3.8	7.1	A	不良	灰	80	覆土	
10	須恵高台坏	(13.9)	5.0	7.5	AG	普通	灰	25	覆土	
11	須恵高台坏			(8.0)	AB	良好	黄灰	15	覆土	末野
12	須恵皿	(14.0)	2.5	5.8	AJ	良好	灰	70	覆土	底部回転糸切り
13	須恵蓋	(16.0)			AF	普通	灰黄褐	30	覆土	天井部右回転ヘラ削り
14	須恵甕				FG	普通	灰白	－	覆土	
15	土師甕	(11.3)			ABF	普通	にぶい褐	25	覆土	
16	土師甕	(19.6)			ABF	普通	橙	35	覆土	
17	土師甕	(19.7)			ABF	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕			4.2	ABFJ	普通	にぶい橙	70	覆土	



第286図　第152号住居跡出土遺物

第152号住居跡出土遺物観察表（第286図）

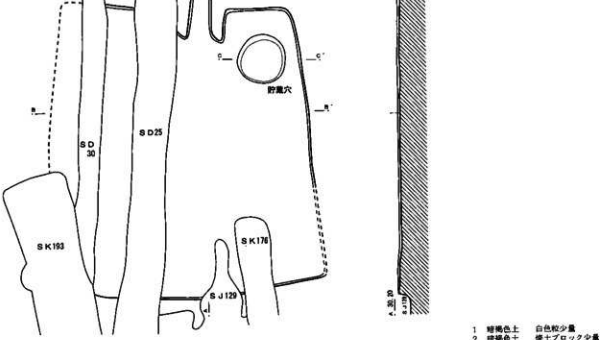
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
19	土師甕			5.8	ABCF	良好	にぶい橙	70	覆土	底部一方向ヘラ削り
20	土師甕			(3.7)	ABF	良好	にぶい黄橙	20	覆土	

第153号住居跡（第287図）

J－13グリッドに位置する。第129号住居跡・第176・193号土坑・第25・30号溝と重複している。すべての遺構に切られており、北壁は確認できなかった。規模は、主軸長東西4.36m、西壁で確認できた南北3.70m、深さ4㎝程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、76㎝×76㎝の円形で、深さ21㎝を測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、60㎝×33㎝を測り、床面と同じ高さである。



第287図　第153号住居跡

第155号住居跡（第288・289図）

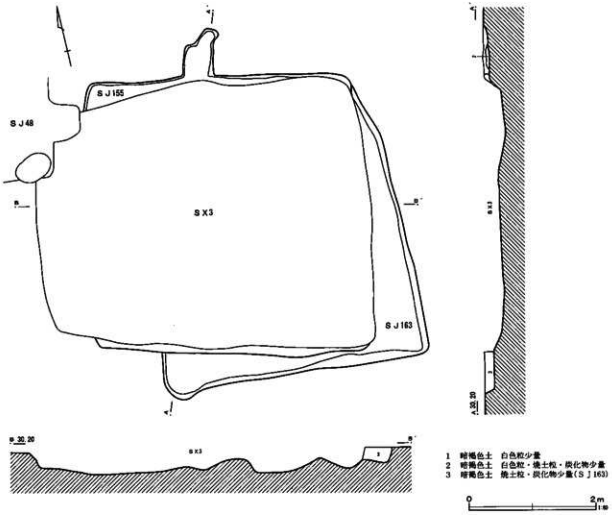
H－13・14グリッドに位置する。第163号住居跡・第3号性格不明遺構と重複し、性格不明遺構に住居跡の殆どが切られている。主軸方位は、N－20°－Eを指す。

カマドは、北壁西寄りに設けられている。燃焼部は、確認できた35㎝×47㎝を測る。

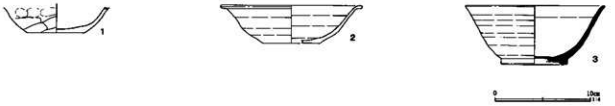
遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付塊が出土した。

第163号住居跡（第288・290図）

H－13・14グリッドに位置する。第155号住居跡・第3号性格不明遺構と重複し住居跡殆どが切られて



第288図 第155・163号住居跡



第289図 第155号住居跡出土遺物

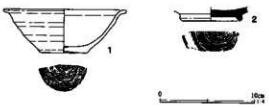
第155号住居跡出土遺物観察表（第289図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(6.0)	AFJ	普通	にぶい橙	25	覆土	
2	須恵坏	(14.7)	4.0	(6.0)	AFJK	普通	にぶい黄橙	25	覆土	酸化焔焼成
3	須恵高台埦	(14.5)	5.2	(7.0)	AIJK	普通	灰	30	覆土	

いる。規模は、主軸長南壁で東西4.20m、東壁で南北4.00m、深さ23cm程を測る。主軸方位は、N－0°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、灰釉陶器高台付塊が出土した。



第290図　第163号住居跡出土遺物

第163号住居跡出土遺物観察表（第290図）

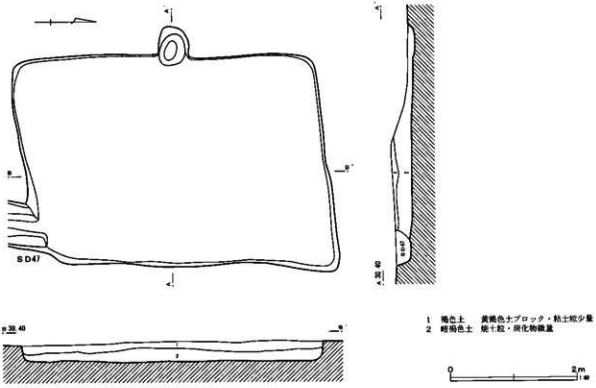
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.6)	4.6	(5.1)	AFJ	普通	にぶい赤褐	65	覆土	酸化焔焼成
2	灰釉高台塊			(6.5)	AJ	良好	灰白	10	覆土	底部高台内へラ削り　施釉なし　浜北窯

第156号住居跡（第291・292図）

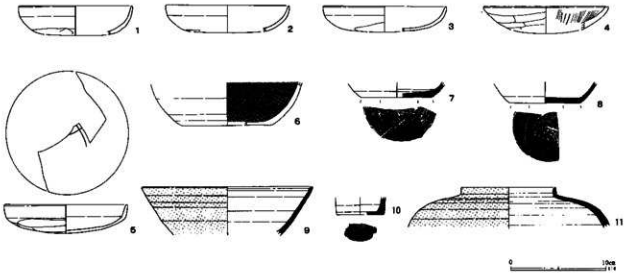
H・I－14グリッドに位置する。第47号溝と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.34m、南北4.77m、深さ30cm程を測る。平面形は、歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N－90°－Wを指す。

カマドは、東壁に設けられている。60cm×48cmの掘り方が残存していた。

遺物は、土師器坏・塊、須恵器坏・塊・コップ型土器・短頸壺が出土した。



第291図　第156号住居跡



第292図　第156号住居跡出土遺物

第156号住居跡出土遺物観察表（第292図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)			ABCF	普通	にぶい橙	15	覆土	
2	土師坏	(12.9)			ABF	普通	にぶい橙	20	覆土	
3	土師坏	(12.9)	(2.7)		AB	普通	にぶい橙	20	覆土	
4	土師坏	(13)			ACFJ	良好	橙	15	覆土	内面放射状の暗文
5	土師坏	12.8	3.0		ABF	普通	橙	40	覆土	底部内面「×」のヘラ描き
6	土師塊			(9.4)	AFG	普通	にぶい黄橙	20	覆土	黒色土器　底部右回転ヘラ削り
7	須恵坏			(7.4)	ACGH	普通	黄灰	35	覆土	
8	須恵坏			(7.3)	AGH	良好	灰	25	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
9	須恵塊	(17.8)			AG	良好	灰	10	覆土	外面自然釉
10	須恵コップ			(4.9)	AGH	良好	灰	25	覆土	
11	須恵短頸壺	(9.9)			AG	良好	暗緑	10	覆土	外面全面自然釉

第157号住居跡（第293・294図）

N－12グリッドに位置する。西壁は攪乱を受け確認できなかった。第200号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長南壁で東西3.00m、南北2.80m、深さ16cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

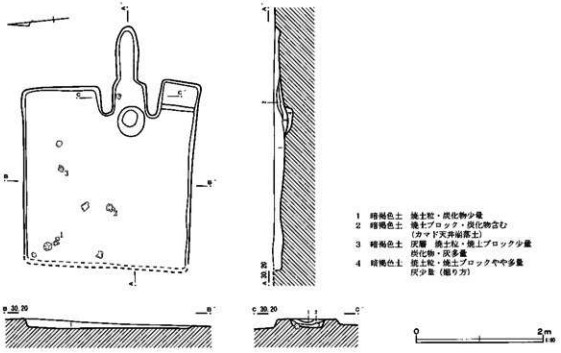
東壁のカマド南側が、15cm程高く棚状になっている。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、85cmが残存していた。煙道部は、長さ88cmが確認できた。

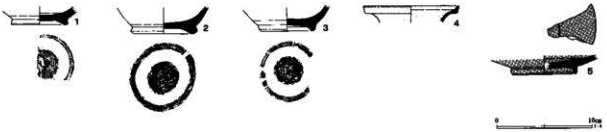
遺物は、須恵器高台付塊、灰釉陶器長頸瓶、緑釉陶器高台付皿が出土した。

第157号住居跡出土遺物観察表（第294図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台塊			(6.0)	IJ	良好	オリーブ黒	35	覆土	底部回転糸切り
2	須恵高台塊			7.0	ABJ	不良	にぶい黄橙	70	覆土	
3	須恵高台塊			5.8	ACI	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
4	灰釉長頸瓶	(9.9)			G	良好	灰白	10	覆土	施釉ハケヌリ　東濃産
5	緑釉高台皿			(6.7)	A	良好	―	10	覆土	底部内面円文　猿投産



第293図　第157号住居跡



第294図　第157号住居跡出土遺物

第158号住居跡（第295・296図）

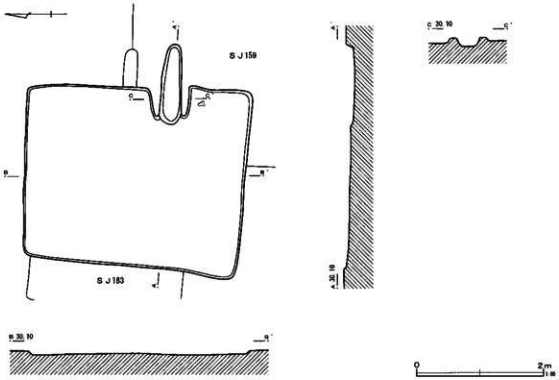
M・N－12・13グリッドに位置する。第159・183号住居と重複し、2軒とも切っている。規模は、主軸長東西2.95m、南北3.45m、深さ8㎝程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、掘り方として125㎝×33㎝、深さ8㎝が確認できた。

遺物は、須恵器高台付埦・蓋が出土した。

第158号住居跡出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埦			(5.9)	AG	普通	灰	25	覆土	
2	須恵高台埦			(7.3)	AF	普通	灰	20	覆土	底部のみ酸化焔焼成
3	須恵蓋	(13.8)			A	良好	灰	15	覆土	天井部右回転ヘラ削り



第295図　第158号住居跡

第296図　第158号住居跡出土遺物

第159号住居跡（第297・298図）

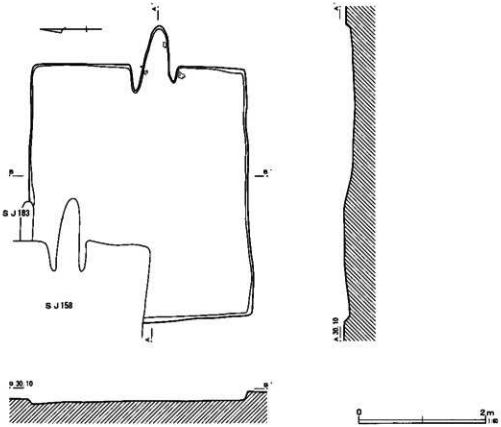
N－13グリッドに位置する。第158・183号住居跡と重複し、北西隅が切られいる。規模は、主軸長東西3.95m、南北3.46m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられ、掘り方のみが確認できた。

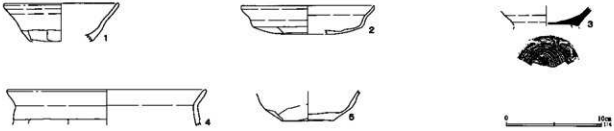
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付椀が出土した。

第159号住居跡出土遺物観察表（第298図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)			AB	普通	灰褐	10	覆土	
2	土師坏	(13.9)	3.0		AB	不良	橙	15	覆土	
3	須恵高台椀			(6.7)	AJ	良好	灰	30	覆土	高台欠損
4	土師甕	(20.8)			ABF	良好	灰黄褐	10	覆土	
5	土師甕			5.5	ABCF	普通	にぶい褐	70	覆土	



第297図　第159号住居跡



第298図　第159号住居跡出土遺物

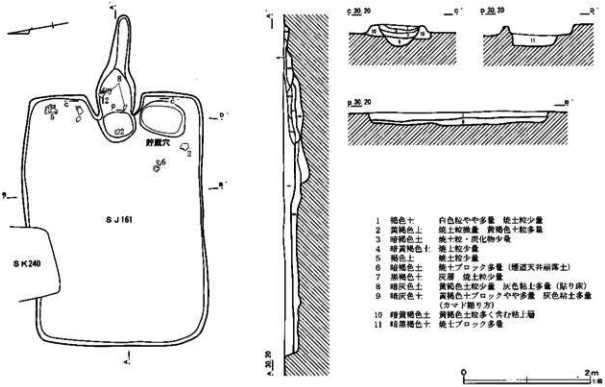
第161号住居跡（第299・300図）

G－15グリッドに位置する。第174号住居跡・第240号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。第240号土坑・当住居跡・第174号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西3.98m、南北2.84m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－98°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、55cm×71cmの楕円形で、深さ34cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、110cm×62cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ90cmが確認できた。

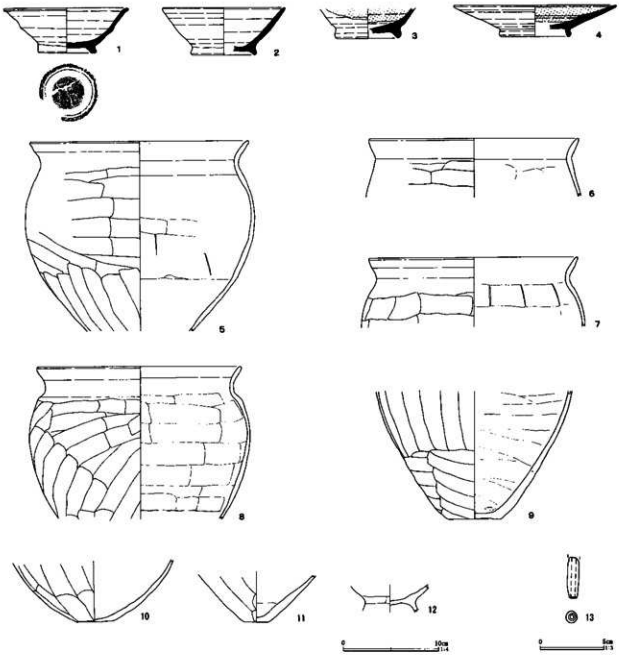
遺物は、須恵器高台埦、土師器甕・台付甕、土錘が出土した。



第299図　第161号住居跡

第161号住居跡出土遺物観察表（第300図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埦	13.2	4.7	6.2	AFJ	普通	灰黄	80	カマド	底部回転糸切り
2	須恵高台埦	(12.8)	5.0	(6.5)	AJ	普通	黒褐	15	カマド	
3	灰釉高台埦			(6.4)	AG	良好	灰白	15	覆土	底部高台内糸切り　施釉ツケガケ　浜北産
4	灰釉高台段皿	(17.0)	3.3	(7.0)	AK	良好	灰黄	15	床下土坑	底部高台内ヘラ削り　ハケヌリ一重　二川産
5	土師甕	(22.7)			AFG	普通	にぶい褐	40	床直	
6	土師甕	(21.8)			AFJ	普通	浅黄橙	10	覆土	
7	土師甕	(21.7)			AF	普通	橙	25	貯蔵穴	
8	土師甕	(21.3)			ABFJ	普通	橙	50	カマド	
9	土師甕			5.6	ABFJ	普通	灰褐	60	貯蔵穴	
10	土師甕			(3.9)	ABFJ	普通	橙	40	床下土坑	
11	土師甕			(2.5)	ABFJ	普通	橙	35	貯蔵穴	
12	土師台付甕				ABF	普通	灰黄褐	70	覆土	
13	土錘	長さ3.2　径0.92　孔径0.30				普通	橙	70	覆土	



第300図　第161号住居跡出土遺物

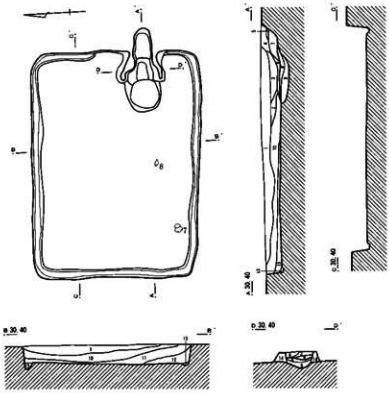
第162号住居跡（第301・302図）

Ⅰ－13・14グリッドに位置する。第169・191号住居跡と重複し、2軒とも切っている。規模は、主軸長東西3.54m、南北2.60m、深さ30cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

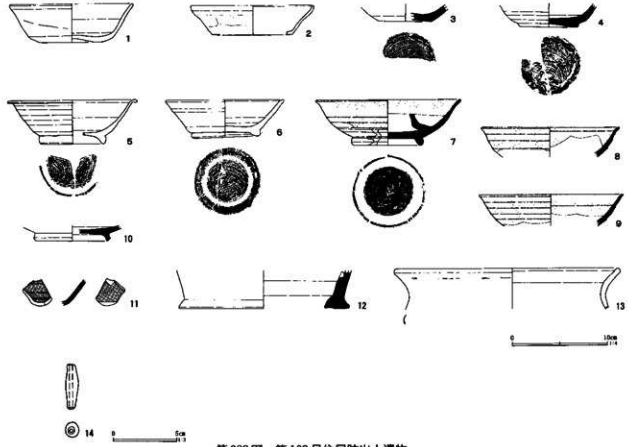
壁溝は、カマドを除き全周し、幅8～18cm、深さ5～10cmを測る。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、85cm×55cm、深さは床面と同じで、煙道部は長さ46cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台坏塊・甕、須恵器坏・甑、土錘が出土した。



第301図 第162号住居跡



第302図 第162号住居跡出土遺物

第162号住居跡出土遺物観察表（第302図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.3	4.0	6.5	AF	普通	にぶい黄橙	65	覆土	
2	土師坏	(12.9)		(8.3)	ABCJ	普通	にぶい橙	20	カマド	
3	須恵坏			(5.5)	AJ	普通	灰黄	40	覆土	
4	須恵坏			6.2	ABCF	普通	明赤褐	85	覆土	
5	土師高台椀	(13.6)	4.6	(6.6)	ABFJ	普通	にぶい橙	50	カマド	ロクロ土師器　底部回転糸切り
6	土師高台椀	12.4	4.0	7.3	ABFJ	普通	橙	90	覆土	底部右回転糸切り　ロクロ土師器
7	灰釉高台椀	15.0	4.8	7.0	A	良好	灰黄	60	覆土	底部～体部内面一部に油煙付着
8	灰釉椀	(14.4)			A	普通	灰黄	25	覆土	底部高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
9	灰釉椀	(15.0)			AJ	普通	灰黄	20	覆土	施釉ツケガケ　東遠江産
10	灰釉高台皿			(7.5)	AG	普通	灰白	10	覆土	底部高台内糸切り　施釉なし　二川産
11	緑釉稜椀					良好	―	破片	覆土	猿投産
12	須恵甑			(17.7)	GJ	普通	灰白	10	覆土	
13	土師甕	(23.4)			ABFG	普通	にぶい黄褐	15	覆土	
14	土錘	長さ3.5　径1.0　孔径0.3				普通	にぶい黄橙	100	覆土	

第164号住居跡（第303・304図）

K－13・14グリッドに位置する。第150・175号住居跡と重複し、第150号住居跡にきられ、第175号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.69m、南北3.30m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－86°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、123cm×78cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ84cmが確認できた。

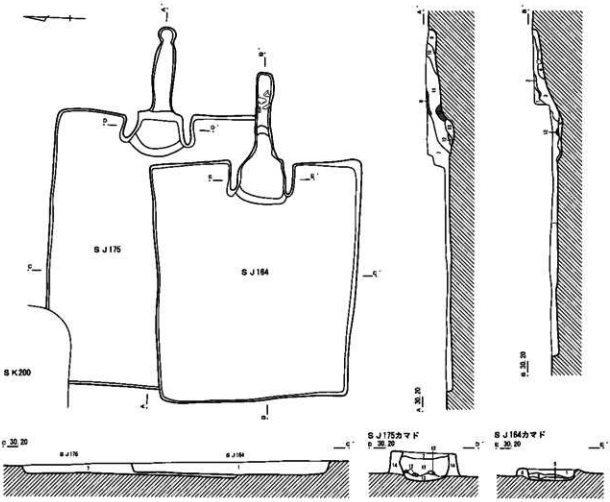
遺物は、須恵器坏・甕が出土した。

第175号住居跡（第303・305図）

K－13・14グリッドに位置する。第150・164号住居・第200号土坑と重複し、土坑・両住居跡に切られている。第150号住居跡・第164号住居跡・当住居跡の順に古くなる。南西隅は、第200号土坑に壊されている。規模は、主軸長東西4.27m、南北(3.44)m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－90°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、71cm×77cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ132cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台坏椀・埦・皿、土師器甕と鉄製品が出土した。6・7ともに用途不明の板状鉄製品である。6は現存長3.3cmで、幅が1.8cmに広がる部分がわずかに彎曲する。7は現存長3.6cmで、径0.3cmの孔を有する。



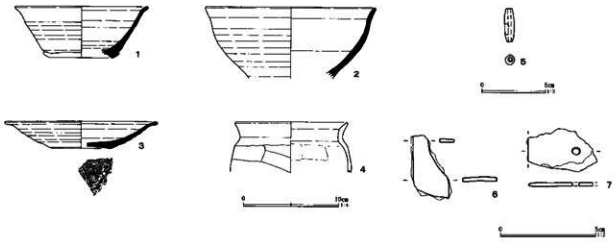
第164・175号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒微量　黄褐色土粒多量
2　暗赤褐色土　焼土層（カマド天井崩落土）
3　赤褐色土　カマド天井崩落土・暗褐色土の混土層
4　暗褐色土　焼土粒多量　炭化物微量
5　黒褐色土　灰層　焼土粒多量
6　暗褐灰色土　焼土粒・炭化物少量　灰褐色粘土含む
7　暗褐色土　焼土粒少量　黄褐色土ブロック微量
8　暗赤褐色土　焼土層（カマド天井残欠）
9　暗褐色土　焼土粒・炭微量
10　暗褐色土　黄褐色土ブロック混入
11　暗褐色土　焼土粒多量　炭化物少量
12　赤褐色土　焼土層（カマド天井崩落土）
13　黒褐色土　灰層　焼土混入
14　暗黄褐色土　白色粒・黄褐色土ブロック少量　焼土粒微量

第303図　第164・175号住居跡

第304図　第164号住居跡出土遺物

第164号住居跡出土遺物観察表（第304図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.8)	4.0	(5.3)	AK	普通	暗灰	10	覆土	底部回転糸切り
2	須恵甕	(23.8)			FHJ	普通	灰白	15	覆土	



第305図　第175号住居跡出土遺物

第175号住居跡出土遺物観察表（第305図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台塊	(14.0)	5.4	(7.4)	ACJK	良好	灰褐	15	覆土	
2	須恵塊	(18.0)			ACJ	良好	黄灰	15	カマド	内面やや磨耗する
3	須恵皿	(16.0)	2.8	(6.0)	AJK	良好	灰	10	覆土	底部回転糸切り
4	土師甕	(11.6)			BCF	普通	褐	14	覆土	
5	土錘	長さ2.6　径0.75　孔径0.20				普通	にぶい橙	90	覆土	

第165号住居跡（第306・307図）

K・L－13・14グリッドに位置する。第151・172号住居跡と重複し、第151号住居跡に北壁南半が切られ、第172号住居跡に入れ子状になって切っている。規模は、主軸長東西5.83m、南北2.86m、深さ27cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、77cm×37cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ80cmが確認できた。

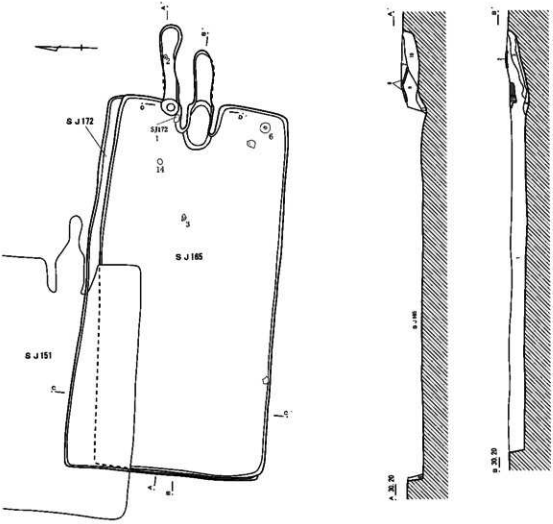
遺物は、須恵器坏・高台坏塊・皿・蓋、土師器台坏甕、灰釉陶器高台付稜塊・緑釉片、土錘、礫が出土した。

第172号住居跡（第306・308図）

K・L－13・14グリッドに位置する。第151・165号住居跡と重複し、住居跡の殆どが第165号住居跡が入子状になって切られ、北壁西半の上部が第151号住居跡に切られている。規模は、主軸長北壁で東西5.85m、西壁で3.07mが確認でき、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

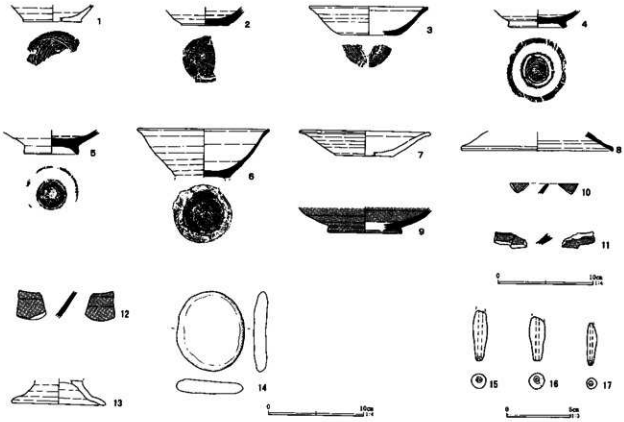
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、33cm×25cm、深さ13cmを測り、煙道部は長さ90cmが確認できた。

遺物は、塊・高台坏塊が出土した。



第165号住記録
1　暗褐色土　焼土粒多量　炭化物少量　白色粒微量
2　暗赤褐色土（カマド天井の残存部分）
3　暗赤褐色土　焼土粒主体（カマド天井崩落土）
4　黒褐色土　灰層　焼土粒多量
5　暗黄褐色土（カマド組り方）
第172号住記録
6　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量
7　暗灰褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量
8　暗赤褐色土　焼土層　カマド天井（S J 172）
9　暗灰褐色土　焼土ブロックやや多量　炭化物微量
10　暗灰褐色土　焼土ブロック多量　炭化物微量（カマド天井崩落土）
11　暗灰褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量　炭少量

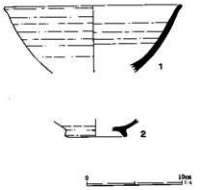
第306図　第165・172号住居跡



第307図　第165号住居跡出土遺物

第165号住居跡出土遺物観察表（第307図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(6.1)	AJ	良好	灰黄褐	35	覆土	酸化焔焼成
2	須恵坏			5.0	ABJK	良好	灰	40	据り方	底部回転糸切り
3	須恵坏	(12.3)	3.0	(5.6)	AIK	不良	灰	30	覆土	
4	須恵高台椀			6.1	AIJ	普通	灰	70	覆土	底部内面重ね焼痕
5	須恵高台椀			5.5	BC	不良	灰	60	覆土	
6	須恵高台椀	13.6			AJK	普通	灰	90	覆土	高台部欠損
7	須恵皿	(13.7)	2.6	(6.0)	ABFG	不良	にぶい赤褐	13	覆土	酸化焔焼成
8	須恵蓋	(15.8)			AG	普通	灰オリーブ	15	覆土	
9	緑釉稜椀			(7.7)	AG	良好	淡緑	20	覆土	猿投産
10	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
11	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
12	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
13	土師台付甕			(9.7)	ACF	普通	橙	20	覆土	
14	礫	長さ8.3　幅7.0　厚さ1.3						—	覆土	
15	土錘	長さ(3.9)　径1.15　孔径0.3				普通	橙	90	覆土	
16	土錘	長さ(3.4)　径1.2　孔径0.24				普通	にぶい橙	70	覆土	
17	土錘	長さ(3.3)　径0.8　孔径0.2				普通	灰黄褐	90	覆土	



第308図　第172号住居跡出土遺物

第172号住居跡出土遺物観察表（第308図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵壺	(18.5)			AJK	普通	灰	30	カマド	
2	須恵高台壺			(6.1)	ACJ	普通	灰	60	カマド	底部回転糸切り

第166号住居跡（第309・310・311・312・313図）

L－14・15グリッドに位置する。第186・219号住居跡と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北5.32m、東西4.56m、深さ46cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－3°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、台付甕、須恵器坏・高台坏壺・皿・蓋、灰釉陶器高台付皿・高台坏壺・羽釜・（長頸）瓶・甕・円面硯と鉄製品が出土した。99は縄を有する鉄製刀子である。切先を含む刃の一部を欠く。現存長10.3cm、茎部長6.8cm、刃部幅0.9～1.3cmである。両関で背刃ともに明瞭な角関である。茎部の表面には柄木の木質が残っている。縄の大きさは1.4cm×0.7cm、塞がりのない筒状のものである。

第186号住居跡（第309・314図）

L－14・15グリッドに位置する。第166・219号住居跡と重複し、東壁・南壁・住居跡の殆どが第166号住居跡に切られている。規模は、主軸長西壁で南北4.60m、北壁で東西3.52m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－2°－Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

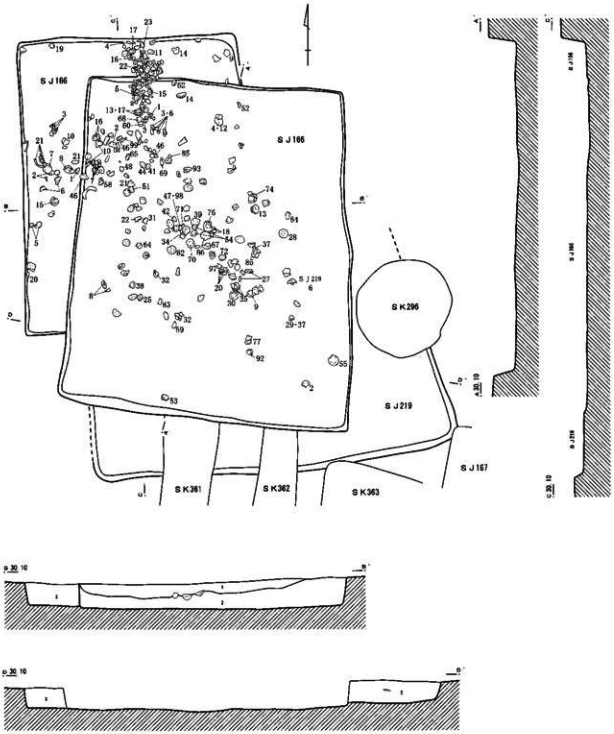
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・甕・円面硯と鉄製品が出土した。23は鉄製の刀子もしくは刀（短刀）である。切先を含む刃部と、茎の大半を欠く。現存長21.1cm、刃幅1.4～2.5cmである。背関は明瞭な角関である。刃関は失われているため、両関として復元した。

第219号住居跡（第309・315図）

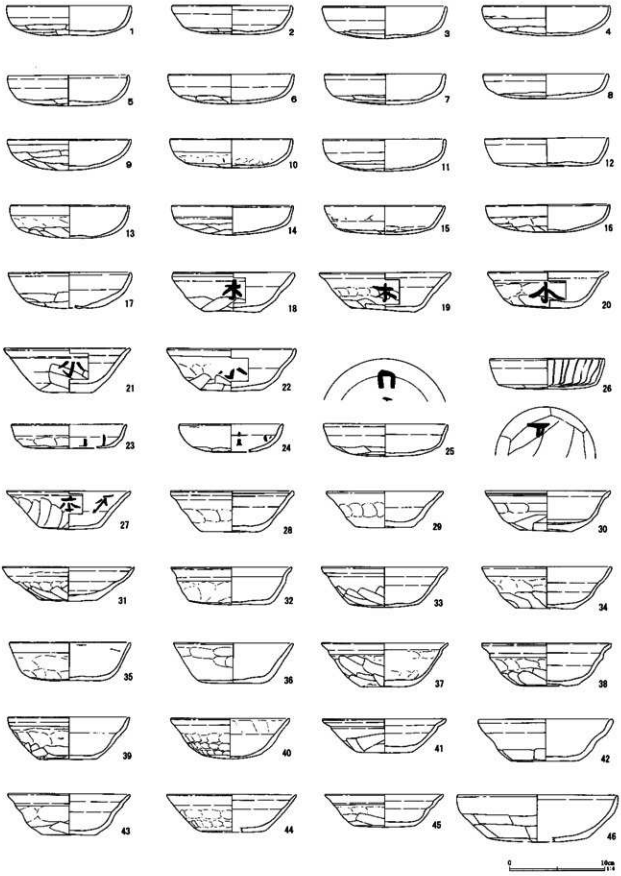
L－14・15グリッドに位置する。第166・167・186号住居跡・第296・361・362・363号土坑と重複し、第166号住居跡に住居跡の殆どが切られ、他の住居跡・土坑にも切られている。規模は、南壁で東西5.16m、南北は不明、深さ35cm程を測る。主軸方位は、N－8°－Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

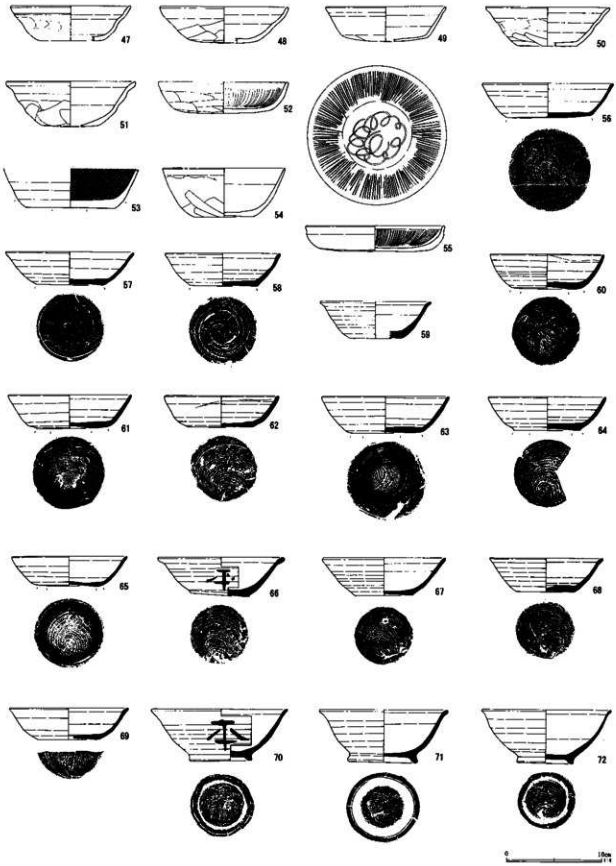
遺物は、土師器坏、須恵器坏・壺・蓋、灰釉陶器高台壺と鉄製品が出土した。11は用途不明の棒状鉄製品である。現存長は3.6cm。断面は蒲鉾形を呈する。



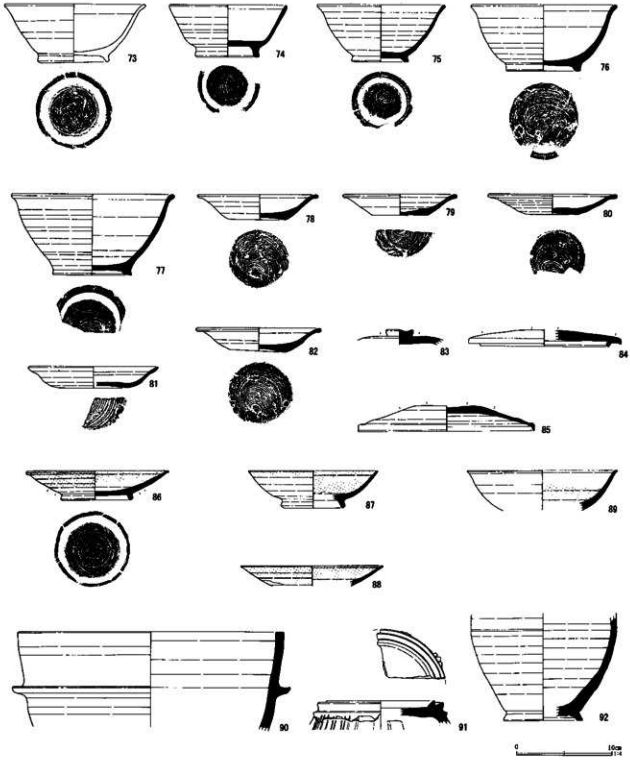
第309図　第166・186・219号住居跡



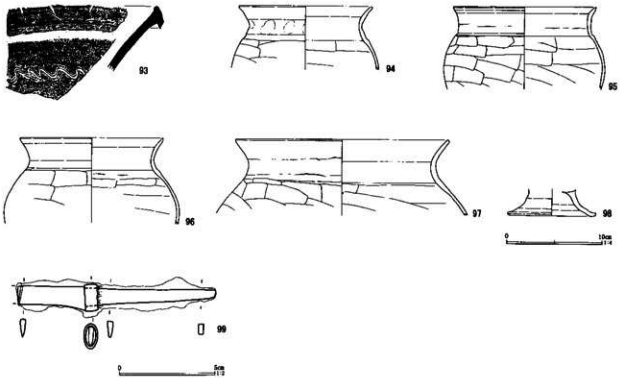
第310図　第166号住居跡出土遺物（1）



第311図　第166号住居跡出土遺物（2）



第312図　第166号住居跡出土遺物（3）



第313図　第166号住居跡出土遺物（4）

第166号住居跡出土遺物観察表（第310図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)	3.1		ACG	普通	にぶい橙	40	覆土	
2	土師坏	12.5	3.0	10.3	ABCJ	普通	橙	95	覆土	
3	土師坏	(13.0)	2.9		AJ	普通	にぶい橙	45	覆土	
4	土師坏	13.3	3.2		ABF	普通	橙	90	床直	
5	土師坏	12.6	3.2		BJ	良好	橙	70	覆土	
6	土師坏	(13.0)	3.1		AB	普通	にぶい橙	50	覆土	
7	土師坏	12.5	3.2		AJ	良好	にぶい橙	70	覆土	
8	土師坏	(12.8)	2.6		ACJ	普通	橙	50	床直	
9	土師坏	12.9	3.3		ABC	普通	にぶい橙	100	床直	
10	土師坏	12.8	3.1		BCF	普通	にぶい橙	100	覆土	
11	土師坏	(12.7)	3.4		ABF	普通	橙	65	覆土	
12	土師坏	(12.8)	2.6	(10.9)	ABC	普通	橙	40	床直	口縁部外面～内面底部外周回転ナデ
13	土師坏	12.5	3.5		BCJ	普通	橙	85	覆土	
14	土師坏	12.7	3.1		ABCJ	普通	にぶい橙	95	覆土	
15	土師坏	12.6	3.1		BCF	普通	橙	90	覆土	
16	土師坏	13.0	2.9		BCFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
17	土師坏	12.8	3.8		ABCG	普通	にぶい橙	95	覆土	歪みあり
18	土師坏	12.7	4.1	5.8	AF	良好	にぶい橙	95	覆土	墨書「木」 体部内面回転ナデ
19	土師坏	13.7	4.0	6.5	AF	良好	橙	98	覆土	墨書「木」 体部内面回転ナデ
20	土師坏	12.8	3.9	7.4	ABF	普通	にぶい橙	70	覆土	墨書「木」
21	土師坏	(13.1)	4.2	5.1	ABF	良好	浅黄橙	60	覆土	墨書「木」
22	土師坏	(13.6)	4.5	6.6	ABCFJ	普通	にぶい黄橙	70	覆土	墨書「木」

第166号住居跡出土遺物観察表（第310・311図）

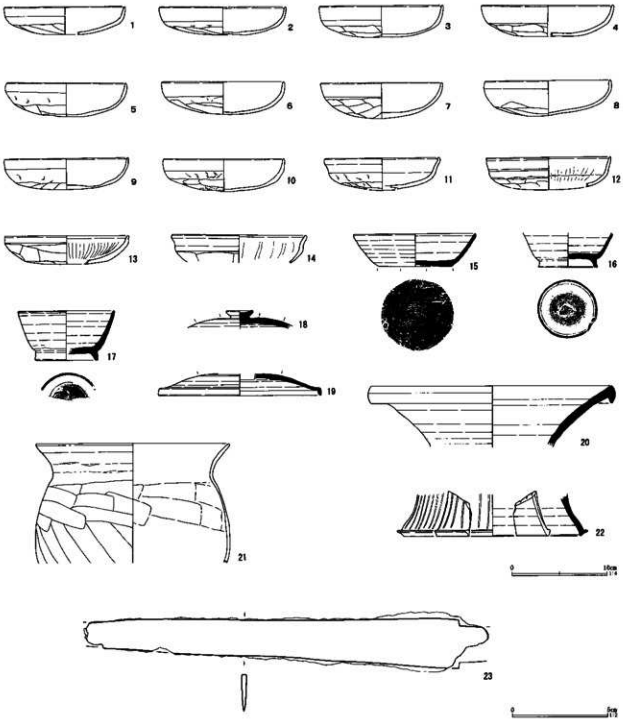
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
23	土師坏	(11.9)	2.5	(9.6)	ABG	普通	にぶい橙	20	覆土	墨書　口縁部外面～体部内面回転ナデ
24	土師坏	(10.8)	2.9		ACE	普通	にぶい黄橙	20	覆土	墨書
25	土師坏	(12.9)	3.4	(11.5)	ABCF	普通	にぶい褐	50	覆土	墨書　口縁部外面～底部内面外周回転ナデ
26	土師坏	(11.8)	3.2	10.4	ABC	良好	橙	60	覆土	墨書　暗文　口縁部外面～体部内面回転ナデ
27	土師坏	13.1	4.1	6.4	ABFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	墨書外面「木」、内面「不」　底部ヘラ削り
28	土師坏	12.8	4.3	6.1	AFJ	普通	橙	100	覆土	
29	土師坏	(12.1)	3.8	6.1	ABFJ	良好	にぶい橙	30	覆土	底部外周のみ手持ちヘラ削り
30	土師坏	13.1	3.2	5.4	ABF	普通	橙	98	覆土	
31	土師坏	(13.7)	3.6	6.0	F	良好	浅黄橙	25	覆土	内面回転ナデ　底部一方向ヘラ削り
32	土師坏	12.7	4.0	8.4	ABCF	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
33	土師坏	(13.0)	4.2	(7.1)	ABF	普通	橙	50	覆土	
34	土師坏	13.5	4.4	6.2	ABCF	普通	褐灰	90	覆土	
35	土師坏	12.7	4.0	8.3	BFJ	不良	明赤褐	80	覆土	
36	土師坏	(12.4)	(4.2)	(7.3)	AF	普通	にぶい橙	20	覆土	
37	土師坏	(13.4)	4.6	5.3	ABCF	普通	橙	70	覆土	
38	土師坏			6.6	BCFJ	普通	にぶい橙	60	覆土	
39	土師坏	12.8	4.4	6.1	ABCF	良好	にぶい橙	90	覆土	やや歪みあり
40	土師坏	(12.4)	4.3	(6.8)	AFG	普通	にぶい橙	45	覆土	
41	土師坏	(12.9)	3.5	5.7	AFG	良好	橙	50	覆土	
42	土師坏	13.9	4.5	7.2	ABF	普通	橙	100	覆土	体部内面油煙一部付着
43	土師坏	(12.6)	4.3	(5.7)	AF	普通	にぶい橙	30	覆土	
44	土師坏	(13.5)	3.9	(7.1)	ADFJ	普通	橙	45	覆土	
45	土師坏	(12.3)	3.5	(6.2)	ABF	良好	にぶい橙	20	覆土	
46	土師坏	(16.7)	(5.0)	(10.5)	ABCF	良好	にぶい橙	60	覆土	
47	土師坏	(12.4)	3.7	(6.5)	F	普通	にぶい橙	30	覆土	口縁部外面回転ナデ
48	土師坏	(13.2)	3.8	(7.2)	ABF	良好	灰黄	30	覆土	
49	土師坏	(12.4)	3.7	(9.0)	ACF	普通	橙	45	覆土	
50	土師坏	(12.8)	4.1	(6.2)	ABF	普通	橙	30	覆土	
51	土師坏	(13.4)	4.7	(5.9)	ABD	普通	橙	25	覆土	
52	土師坏	13.6	3.3	10.2	ABFJ	普通	橙	90	床直	暗文土器
53	土師塊			(9.2)	BFG	良好	浅黄橙	30	覆土	黒色土器　体部外面下端～底部外周右回転ヘラ削り
54	土師塊	12.8	5.2	6.3	AG	普通	にぶい橙	80	覆土	体部内面回転ナデ
55	土師坏	14.4	2.7	11.5	ACF	良好	橙	98	覆土	暗文土器
56	須恵坏	13.8	3.6	8.7	AHJ	良好	灰	80	覆土	底部全面回転ヘラ削り
57	須恵坏	13.4	3.5	7.0	AHK	良好	灰	80	覆土	底部全面右回転ヘラ削り
58	須恵坏	12.1	3.5	7.0	HK	良好	灰	70	覆土	底部全面右回転ヘラ削り
59	須恵坏	(11.6)	4.1	(6.3)	GK	良好	灰	45	覆土	
60	須恵坏	11.9	3.7	7.3	A	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
61	須恵坏	13.0	3.6	7.5	AHK	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
62	須恵坏	12.0	3.3	6.8	ACK	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
63	須恵坏	13.4	3.9	7.4	HK	普通	灰	80	覆土	底部周辺回転ヘラ削り
64	須恵坏	(12.4)	3.5	7.1	AHK	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
65	須恵坏	12.1	3.1	6.7	AHK	良好	灰	100	床直	底部右回転糸切り
66	須恵坏	13.1	4.0	6.1	ACJ	普通	灰白	90	覆土	墨書「本」

第166号住居跡出土遺物観察表（第311～313図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
67	須恵坏	(12.7)	4.0	6.0	AJ	普通	灰	65	覆土	
68	須恵坏	(11.8)	3.5	6.1	AGIJ	普通	灰	60	覆土	
69	須恵坏	(12.4)	3.3	(6.4)	AEG	良好	灰白	40	覆土	
70	須恵高台塊	14.1	5.5	6.6	AFJK	不良	灰黄	95	覆土	墨書「本」
71	須恵高台塊	13.3	5.5	7.0	AGIJK	普通	灰	90	覆土	
72	須恵高台塊	(13.4)	5.6	5.9	AFJK	普通	灰	60	覆土	底部のみ酸化焔焼成
73	須恵高台塊	14.6	6.1	7.5	AF	普通	にぶい橙	90	覆土	酸化焔焼成
74	須恵高台塊	(12.2)	5.5	6.6	AJ	普通	灰白	60	覆土	
75	須恵高台塊	(13.1)	6.0	6.0	AGI	普通	灰	35	覆土	
76	須恵高台塊	(15.2)	7.0	(7.9)	ACJK	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
77	須恵高台塊	(16.9)	8.5	(8.2)	IJ	普通	黄灰	30	覆土	
78	須恵皿	(12.5)	2.6	5.9	JK	普通	灰	60	覆土	
79	須恵皿	(11.7)	2.2	(5.9)	AJK	普通	灰	30	覆土	
80	須恵皿	(13.6)	3.1	(5.5)	AJ	普通	灰	30	覆土	
81	須恵皿	(13.4)	2.3	(7.0)	AFI	普通	灰	25	覆土	
82	須恵皿	12.8	2.5	6.0	AK	良好	灰	98	覆土	底部回転糸切り
83	須恵蓋				AHJK	普通	灰白	—	覆土	天井部右回転ヘラ削り
84	須恵蓋	(16.0)			AGH	良好	灰	15	覆土	天井部左回転ヘラ削り
85	須恵蓋	(18.5)			AH	良好	灰	35	覆土	つまみ欠損　天井部右回転ヘラ削り
86	灰釉高台皿	14.9	3.1	7.6	AG	良好	灰白	95	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　浜北産
87	灰釉高台塊	(13.5)	3.9	(5.1)	AGJ	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
88	灰釉皿	(14.8)			AG	良好	灰白	15	覆土	施釉ツケガケ　東濃産
89	灰釉塊	(15.6)			AG	良好	灰白	15	覆土	施釉ハケヌリ
90	須恵羽釜	(27.8)			ACGK	普通	灰黄	10	覆土	
91	須恵円面硯	(13.0)			AJ	良好	灰	20	覆土	圏足硯　脚台部は長方形透孔と縦位の沈線（透孔+2条沈線）
92	須恵長頸瓶			(8.2)	ACIK	普通	灰白	60	覆土	
93	須恵壺				A	良好	暗灰	—	覆土	外面自然釉
94	土師甕	(14.0)			ABFJ	普通	にぶい赤褐	30	覆土	
95	土師甕	(15.0)			BCFJ	普通	にぶい褐	15	覆土	
96	土師甕	(15.0)			ABJ	普通	にぶい赤褐	25	覆土	
97	土師甕	(22.4)			ABCFJ	普通	橙	70	覆土	やや歪みあり
98	土師台付甕			(8.8)	ABCE	普通	にぶい赤褐	破片	覆土	台部のみ

第186号住居跡出土遺物観察表（第314図）

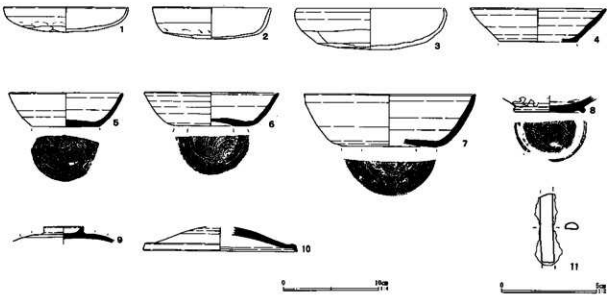
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	2.9		ABJ	普通	にぶい橙	25	覆土	
2	土師坏	13.3	2.9		ABFJK	普通	橙	80	床直	
3	土師坏	(13.0)	3.3		ABCJ	良好	にぶい橙	40	覆土	
4	土師坏	(13.8)	3.3		ABFJ	普通	橙	15	覆土	
5	土師坏	12.6	3.6		ABJ	普通	にぶい橙	90	覆土	
6	土師坏	12.8	3.4		ABJ	普通	にぶい橙	90	覆土	
7	土師坏	12.7	3.8		ABJ	普通	にぶい橙	90	覆土	
8	土師坏	13.1	3.7		ABJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
9	土師坏	(13.0)	3.3		ABFJ	普通	橙	60	床直	やや歪みあり



第314図　第186号住居跡出土遺物

第186号住居跡出土遺物観察表（第314図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	土師坏	12.6	3.5		ABJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
11	土師坏	(12.0)	(3.3)		ABJ	普通	にぶい褐	25	覆土	
12	土師坏	(13.0)			ABJ	普通	にぶい橙	10	覆土	内面放射状暗文
13	土師坏	(13.0)	3.0		AJ	良好	橙	10	覆土	内面放射状暗文
14	土師坏	(14.0)	(2.9)		ABJ	普通	にぶい橙	15	覆土	内面暗文
15	須恵坏	12.8	3.5	7.8	AHJK	良好	灰	90	覆土	底部周辺回転ヘラ削り
16	須恵高台坏			6.2	AJK	良好	灰	80	覆土	
17	須恵高台坏	(10.0)	5.2	(6.6)	AK	普通	灰	30	覆土	
18	須恵蓋				AHK	普通	灰	40	覆土	つまみ径2.8　天井部回転ヘラ削り
19	須恵蓋	(17.0)			AHJK	良好	灰	30	覆土	天井部回転ヘラ削り
20	須恵甕	(25.1)			AGH	良好	灰	15	覆土	
21	土師甕	(20.1)			ABCFJ	普通	橙	60	覆土	
22	須恵円面硯			(18.4)	A	良好	灰	10	覆土	圏足硯　脚台部長方形透孔と縦位沈線（長方形透孔＋沈線３or４条）



第315図　第219号住居跡出土遺物

第219号住居跡出土遺物観察表（第315図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	2.6		ABCJ	普通	橙	20	覆土	
2	土師坏	12.4	3.3	10.2	BFJ	普通	にぶい橙	60	覆土	底部ヘラ削り
3	土師坏	(15.5)	4.3		AB	普通	にぶい褐	40	覆土	
4	須恵坏	(14.4)	3.5	(8.2)	A	良好	灰	20	覆土	底部回転ヘラ削り
5	須恵坏	(12.0)	3.6	(7.0)	AHK	良好	黄灰	30	覆土	
6	須恵坏	(14.0)	3.5	(7.5)	FHJK	良好	橙	30	覆土	底部回転糸切り
7	須恵瓶	(18.0)	5.5	(10.0)	AK	良好	灰	30	覆土	
8	灰釉高台瓶			(7.4)	AG	良好	灰	45	覆土	高台内糸切り　施釉ハケヌリ　二川産
9	須恵蓋				AGK	良好	灰	10	覆土	環状つまみ
10	須恵蓋	(15.0)			AG	良好	灰	15	覆土	

第167号住居跡（第316・317図）

L・M－15グリッドに位置する。第219・220号住居跡と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北4.20m、東西3.82m、深さ34cm程を測る。平面形は、歪んだ方形を呈する。南北方向を基準にすると主軸方位は、N－16°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

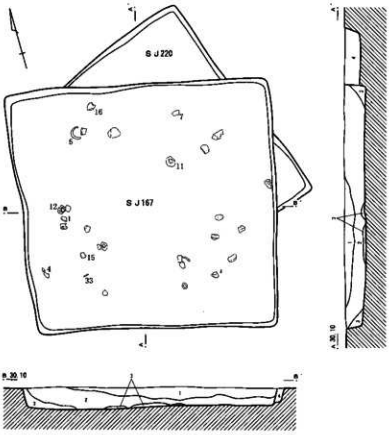
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埦・皿・高台坏皿・鉢・甕、灰釉陶器高台付埦・高台付皿、緑釉陶器片、砥石、羽口と鉄製品が出土した。33は鉄製刀子である。現存長5.8cm、刃幅0.7cmである。切先を含む刃部と茎先を欠く。両関で刃関がやや浅い。34は用途不明の管状鉄製品である。長さ3.3cm、径0.9cmである。

第220号住居跡（第316・317図）

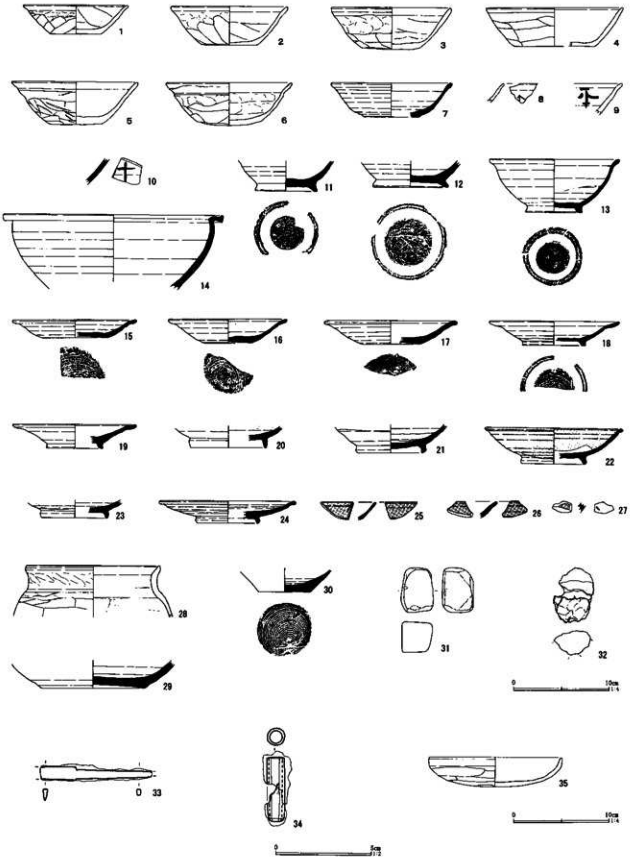
L・M－15グリッドに位置する。第167号住居跡と重複し、住居跡の殆どが切られている。規模は、南北が東壁で3.67m、東西は北壁で確認できた2.17m、深さ25cm程を測る。主軸方位は東壁を基準とすると、N－20°－Wを測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。



第316図　第167・220号住居跡



第317図　第167・220号住居跡出土遺物

第167号住居跡出土遺物観察表（第317図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.0)	3.1	5.3	ABCF	普通	橙	50	床直	やや歪みあり　底部一方向平行ヘラ削り
2	土師坏	(12.0)	4.1	(6.0)	BCFJ	普通	橙	20	覆土	手持ちヘラ削り
3	土師坏	12.6	4.5	6.1	BFJ	普通	にぶい橙	70	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
4	土師坏	(14.4)	4.1	(8.6)	BCF	普通	橙	25	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
5	土師坏	13.2	4.5	5.6	ABCF	普通	にぶい黄橙	100	覆土	やや歪みあり
6	土師坏	(13.0)	4.5	6.8	CFJ	普通	にぶい褐	40	覆土	手持ちヘラ削り
7	須恵坏	(12.6)		(6.0)	ACJK	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
8	土師坏				A	良好	にぶい橙	破片	覆土	墨書
9	土師坏				AF	普通	にぶい橙	破片	覆土	墨書「本」
10	須恵坏				AFJ	普通	灰黄	破片	覆土	墨書「十」
11	須恵高台坏			6.6	I	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
12	須恵高台坏			7.8	J	普通	灰	70	覆土	
13	須恵高台坏	(13.6)	5.6	6.0	AK	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
14	須恵鉢	(22.8)			AG	良好	灰	25	覆土	
15	須恵皿	(12.7)	1.9	(6.8)	AJ	良好	灰	25	覆土	底部回転糸切り
16	須恵皿	(12.4)	2.5	5.3	ACK	良好	灰	15	覆土	
17	須恵皿	(13.3)	2.5	(6.0)	AC	普通	灰褐	25	覆土	底部回転糸切り
18	須恵高台皿	(13.6)	2.6	6.6	AJ	良好	灰褐	30	覆土	やや歪みあり
19	須恵高台坏	(12.8)	2.5	(6.0)	AK	普通	灰	20	覆土	底部回転糸切り
20	灰釉高台壺			(7.9)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ一筆 浜北産
21	灰釉高台壺			(6.8)	GK	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ
22	灰釉高台壺	(14.4)	3.8	(6.8)	AG	良好	灰黄	30	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕あり　浜北産
23	灰釉高台皿			(6.9)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕あり　浜北産
24	灰釉高台皿	(14.0)	2.3	(6.4)	AG	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕あり　東濃産
25	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
26	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
27	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
28	土師甕	(14.0)			ABF	普通	橙	25	覆土	
29	須恵甕			(10.8)	A	良好	灰	25	覆土	
30	須恵坏			5.5	A	普通	灰白	60	覆土	
31	砥石	長さ4.6　幅3.25　厚さ3.2						—	覆土	角閃石安山岩製　6面使用
32	羽口	長さ5.8　幅4.0						破片	覆土	

第220号住居跡出土遺物観察表（第317図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
35	土師坏	(13.8)	3.1		ABCFG	普通	橙	40	覆土	底部手持ちヘラ削り

第168号住居跡（第318・319図）

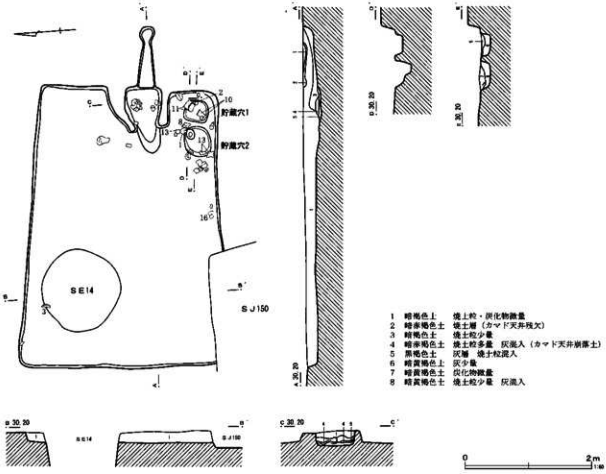
J・K－14グリッドに位置する。第150号住居跡・第9号井戸跡と重複し、南西隅は第150号住居跡に切られている。規模は、主軸長東西4.39m、南北3.11m、深さ17cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

貯蔵穴1は、南東隅に設けられており、34cm×39cmの円形で、深さ35cmを測る。

貯蔵穴2は、南東隅貯蔵穴1の西に隣接して設けられており、47cm×42cmの円形で、深さ35cmを測る。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、103cm×58cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ97cmが確認できた。

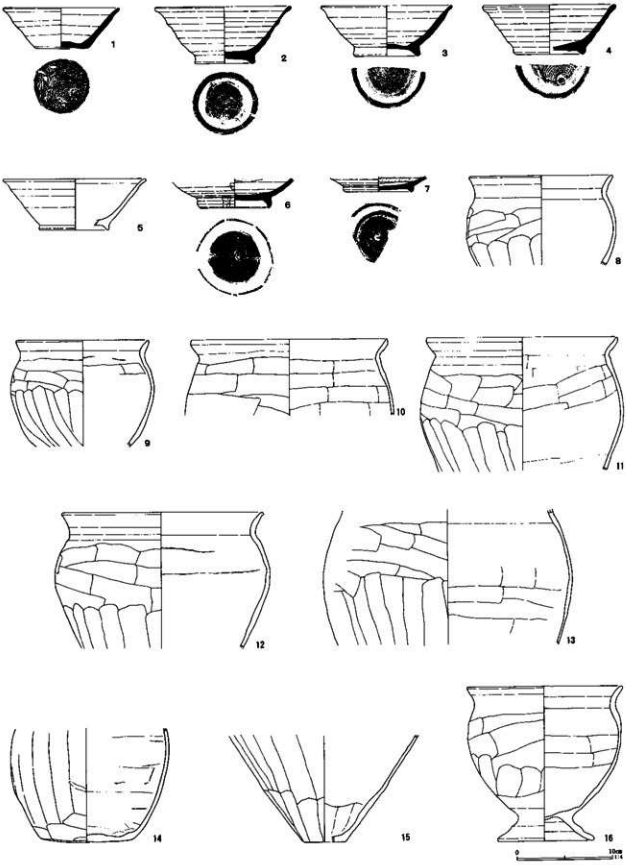
遺物は、須恵器坏・高台付埦、土師器甕・台付甕、灰釉陶器高台付埦・高台付皿が出土した。



第318図 第168号住居跡

第168号住居跡出土遺物観察表（第319図）

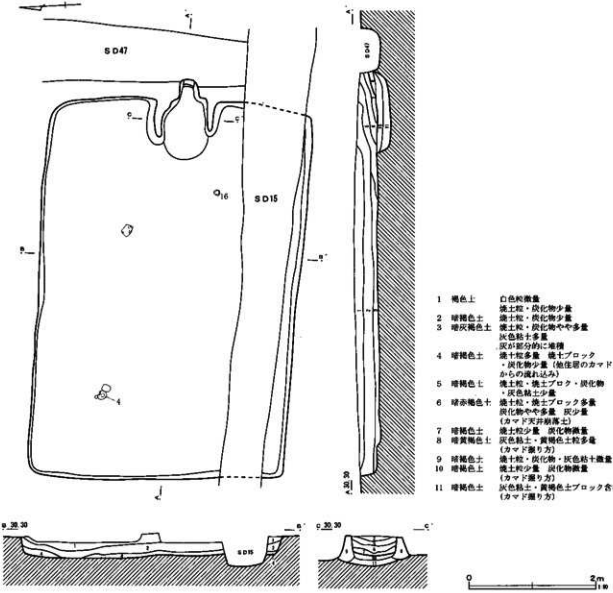
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.2	4.3	5.8	AJ	普通	灰黄	90	床直	底部回転糸切り
2	須恵高台埦	(14.3)	6.0	6.4	ABJ	普通	灰黄褐	70	貯蔵穴	やや歪む
3	須恵高台埦	(13.8)	5.4	7.0	ABFJ	普通	灰黄褐	40	床直	
4	須恵高台埦	(14.0)	5.3	(7.6)	ABJ	普通	灰黄	40	貯蔵穴	底部回転糸切り
5	須恵高台埦	(14.9)	5.3	(7.0)	ABFG	普通	にぶい橙	25	覆土	酸化焔焼成



第319図　第168号住居跡出土遺物

第168号住居跡出土遺物観察表（第319図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	灰釉高台碗			7.2	AJ	良好	灰白	80	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　東遺江産
7	灰釉高台皿			(7.0)	A	良好	灰	40	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　東濃産
8	土師甕	(14.8)			ABF	普通	にぶい黄橙	30	床直	
9	土師甕	13.8			ABFJ	普通	にぶい橙	75	覆土	
10	土師甕	(20.3)			ABF	普通	浅黄橙	20	貯蔵穴	
11	土師甕	19.9			AB	良好	灰黄	25	貯蔵穴	
12	土師甕	(20.8)			AF	普通	浅黄橙	25	カマド	
13	土師甕				ABCF	良好	浅黄橙	20	貯蔵穴	胴部
14	土師甕			9.8	AFGJ	普通	にぶい赤褐	60	覆土	
15	土師甕			4.6	ABGF	良好	暗褐	50	覆土	
16	土師台付甕	16.2	16.3	(9.8)	ABGJ	良好	橙	80	床直	



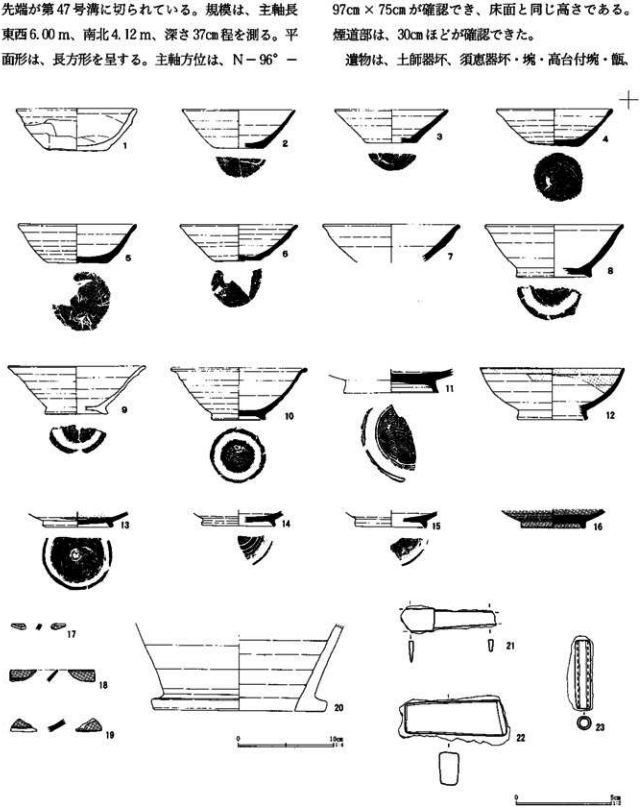
第320図　第169号住居跡

第169号住居跡（第320・321図）

Ⅰ・J－14グリッドに位置する。第15・47号溝と重複し、南壁寄りで第15号溝に切られ、カマド先端が第47号溝に切られている。規模は、主軸長東西6.00m、南北4.12m、深さ37cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－96°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマド先端部分は、第47号溝により壊されている。燃焼部は、97cm×75cmが確認でき、床面と同じ高さである。煙道部は、30cmほどが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・椀・高台付椀・甑、



第321図　第169号住居跡出土遺物

灰釉陶器高台付椀・高台付皿、緑釉陶器高台付椀・緑釉陶器片と鉄製品が出土した。21は鉄製刀子である。現存長5.0cm、刃幅1.2cm、刃部の大半と茎先を欠いている。両関で、刃と背ともに明瞭な角関である。22は長さ5.2cm、幅1.7cm、厚さ0.9cmの棒状の鉄製品である。用途不明。製品ではなく、鉄素材の可能性もある。23は用途不明の管状鉄製品である。長さ3.5cm、径0.7cmである。

第169号住居跡出土遺物観察表（第321図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	4.4	6.2	ABFJ	良好	にぶい橙	70	覆土	手持ちヘラ削り
2	須恵坏	(10.9)	4.0	(5.1)	AJ	不良	灰白	30	覆土	
3	須恵坏	(11.8)	3.5	(5.5)	ABCF	普通	灰褐	25	覆土	
4	須恵坏	12.0	4.0	5.4	ABJ	普通	灰白	90	床直	底部回転糸切り
5	須恵坏	(12.2)	4.0	6.3	AGJ	普通	灰	45	覆土	
6	須恵坏	12.3	3.8	5.0	AGJ	普通	黄灰	70	覆土	底部回転糸切り
7	須恵壺	(14.0)			CH	普通	灰	35	覆土	
8	須恵高台椀	(14.3)	5.5	(7.5)	AH	普通	灰	30	覆土	
9	須恵高台椀	(14.4)	5.0	(6.5)	FJK	普通	橙	20	覆土	酸化焔焼成
10	須恵高台椀	(14.1)	5.5	5.6	AJ	普通	黄灰	70	カマド	
11	須恵高台椀			10.0	AJK	普通	灰	40	覆土	
12	灰釉高台椀	(15.0)	5.4	(7.2)	A	良好	灰白	25	カマド	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　浜北産
13	灰釉高台皿			6.8	AGJ	良好	灰白	60	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　東遠江産
14	灰釉高台椀			(7.7)	J	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉 内面重ね焼き痕　東濃産
15	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	10	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　浜北産
16	緑釉高台椀			6.8	F	普通	オリーブ灰	90	覆土	底部内面ヘラ磨き　東濃産
17	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
18	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
19	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
20	須恵甑			(17.8)	BCFH	普通	にぶい黄橙	20	覆土	酸化焔焼成

第170号住居跡（第322・323図）

Ⅰ－15グリッドに位置する。第213号住居跡・第224・225土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。西壁の一部は、第225号土坑に切られ壁溝のみの確認である。南西隅は、第224号土坑に切られている。規模は、主軸長東西3.92m、南北3.54m、深さ40cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

壁溝は、東壁のカマド、貯蔵穴の部分を除いて、全周する。幅11～22cm、深さ10～18cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、72cm×100cmの方形気味で北で浅くなり、南側で深さ35cmを測る。

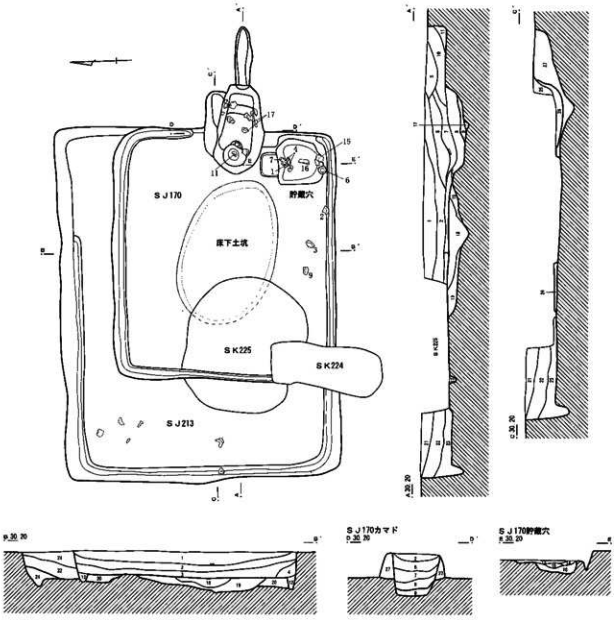
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、140cm×37cm、深さ32cmを測り、煙道部は93cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋が出土した。

第213号住居跡（第322・324図）

Ⅰ－15グリッドに位置する。第170号住居、第224・225号土坑と重複し、住居跡・土坑に切られている。規模は、主軸長東西5.56m、南北4.38m、深さ33cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは東壁に設けられ、一部遺存していた。燃

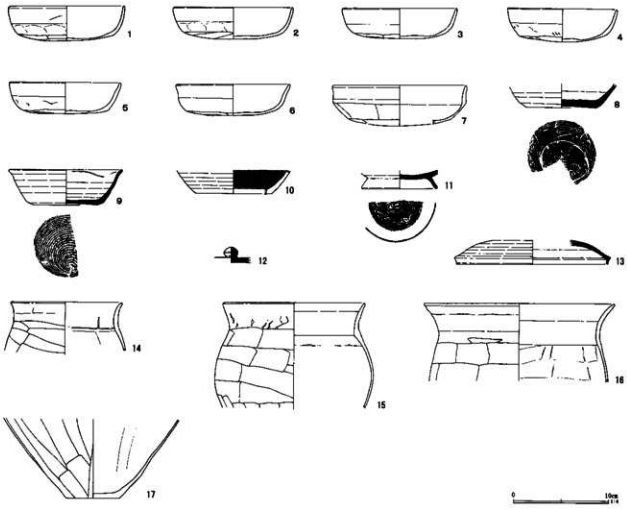


第170号住居跡
1　暗褐色土　白色粒・炭化物少量　焼土粒多量
2　暗褐色土　焼土粒少量　炭化物多量
3　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物・炭褐色粘土粒少量
4　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量　灰褐色粘土粒少量
5　暗赤褐色土　焼土ブロック多量
6　暗黄褐色土　焼土ブロック・炭化物少量　黄褐色土粒多量（カマド天井崩落土）
7　暗褐色土　焼土ブロック・炭化物・灰少量
8　灰褐色土　灰層　焼土ブロック・炭化物・灰褐色粘土粒少量　灰多量
9　暗黄褐色土　焼土ブロック・炭・灰褐色粘土ブロック少量　黄褐色土粒多量（カマド貼り方）
10　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
11　暗褐色土　焼土粒・暗灰褐色粘土粒少量　炭化物微量
12　暗灰褐色土　炭化物微量　暗灰色粘土多量
13　暗灰色土　焼土粒・炭化物・灰の瓦層（貯蔵穴）
14　黒褐色土　焼土粒少量　炭化物多量（貯蔵穴）
15　黒褐色土　焼土粒瓦層　炭化物多量（貯蔵穴）
16　暗褐色土　焼土粒・炭化物・灰色粘土少量（貯蔵穴）
17　暗黄褐色土　焼土粒・炭化物・灰少量　黄褐色土粒多量（支脚掘穴）
18　暗灰褐色土　焼ブロック・暗灰色粘土粒多量　炭化物少量（床下土坑）
19　黄灰褐色土　炭化物微量　暗灰色粘土粒・黄褐色土ブロック少量（床下土坑）
20　黄灰褐色土　焼土粒微量　炭化物少量　灰色粘土粒多量（掘り方）

第213号住居跡
21　暗褐色土　白色粒・炭化物微量　焼土粒少量
22　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
23　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量
24　暗黄褐色土　灰色粘土少量（貼り床）
25　褐色土　焼土粒・焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量　炭化物微量　灰色粘土粒少量
26　暗灰褐色土　灰層　焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量　黄褐色土ブロック少量　灰色粘土粒多量
27　暗褐色土　炭化物・灰色粘土粒少量

0　2m
1:80

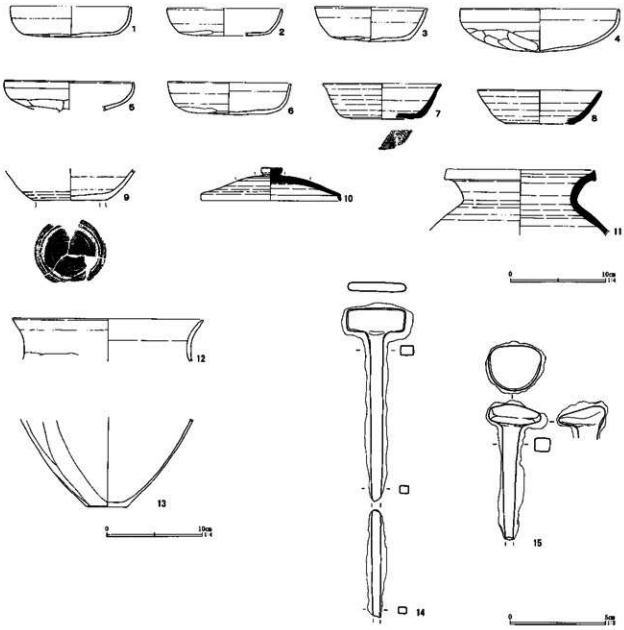
第322図　第170・213号住居跡



第323図　第170号住居跡出土遺物

第170号住居跡出土遺物観察表（第323図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.3)	3.7		ABCFJ	普通	にぶい橙	60	貯蔵穴	
2	土師坏	(12.6)	3.4		ABJ	普通	橙	40	覆土	
3	土師坏	(12.0)	3.2		ABCJ	普通	橙	70	覆土	やや歪む
4	土師坏	11.6	3.5		ABFJ	普通	にぶい褐	80	貯蔵穴	
5	土師坏	11.8	3.3	9.0	ABFJ	普通	にぶい褐	60	覆土	
6	土師坏	12.0	3.3	9.4	ABJ	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴	やや歪む
7	土師坏	(14.0)	(4.0)		ABJ	普通	橙	15	貯蔵穴	
8	須恵坏			7.5	AJK	良好	灰	80	覆土	底部右回転糸切り
9	須恵坏	(12.0)	3.7	6.6	ACJK	良好	灰	50	覆土	底部右回転糸切り
10	土師甕			(8.0)	AJ	普通	橙	10	覆土	内黒
11	須恵高台坏			(8.0)	AFJ	普通	灰黄褐	50	カマド	
12	須恵蓋				A	普通	灰	25	覆土	
13	須恵蓋	(16.0)			AJ	良好	灰	10	覆土	
14	土師甕	(11.5)			ABF	良好	橙	30	覆土	
15	土師甕	(14.8)			ABCF	普通	にぶい橙	30	貯蔵穴	
16	土師甕	(20.0)			ABCJ	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	
17	土師甕			5.6	AFJ	良好	橙	40	カマド	



第324図　第213号住居跡出土遺物

焼部は、101cm、深さ7cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・高台付塊・甕、須恵器坏・蓋・甕と鉄製品が出土した。14は2片に分離し、接合しないが同一個体と考えられる鉄製品である。現存長は10.0cmと5.6cmである。端部を叩いて1.2cm×3.1cmの長方形を形作っている。用途は不明だが、釘に類する接合具の可能性もある。15は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は7.0cmである。頭部は基部端を円形に叩き潰して作られており、大きさは2.3cm×2.7cmである。

第213号住居跡出土遺物観察表（第324図）

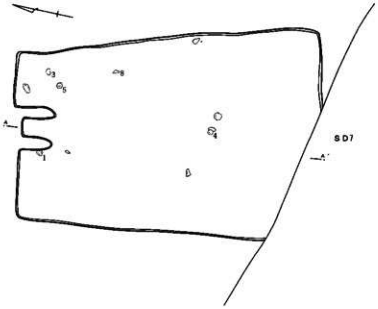
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	3.3	10.0	ACFJ	普通	橙	60	覆土	
2	土師坏	(11.9)	2.9		J	普通	にぶい橙	25	覆土	
3	土師坏	11.5	3.6	8.0	ABF	普通	橙	95	覆土	
4	土師坏	(16.6)	4.6		ABFJ	普通	橙	50	覆土	
5	土師坏	(13.4)	(3.0)		ABJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
6	土師坏	(12.8)	3.3		ABF	普通	にぶい橙	35	覆土	
7	須恵坏	(12.4)	3.7	(6.6)	AFJK	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
8	須恵坏	(13.0)	3.5	(7.4)	AJK	良好	灰	15	覆土	
9	土師高台坏			(7.5)	AFJ	普通	橙	60	覆土	高台剥離
10	須恵蓋	14.7	3.5		AHJK	普通	灰	60	覆土	つまみ径2.2cm　天井部回転ヘラ削り
11	須恵甕	(15.6)			AHJK	良好	灰	30	覆土	
12	土師甕	(20.0)			ABFJ	普通	にぶい橙	10	覆土	
13	土師甕			(4.2)	FJ	普通	にぶい橙	75	覆土	

第171号住居跡（第325・326図）

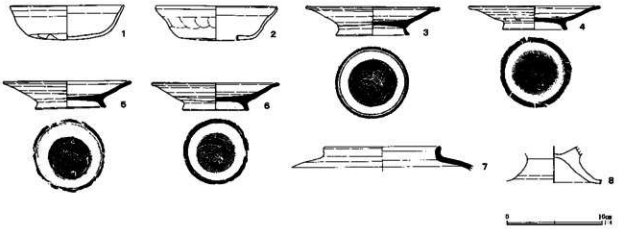
L・M－14グリッドに位置する。第179号住居跡・第7号溝と重複し、溝に南西隅が切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長4.78m×3.33m、深さ10cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N－8°－Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、掘り方が確認できた。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器高台付皿・短頸壺が出土した。



第325図　第171号住居跡



第326図　第171号住居跡出土遺物

第171号住居跡出土遺物観察表（第326図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	3.6		ABC	普通	にぶい赤褐	70	覆土	内外面に油煙付着
2	土師坏	(12.6)	3.6		ABF	普通	橙	15	覆土	
3	須恵高台皿	14.1	3.1	7.7	ACFJK	良好	褐灰	70	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台皿	(14.0)	2.5	6.8	ACK	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
5	須恵高台皿	13.4	2.9	7.4	ACJK	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台皿	(13.4)	2.8	6.9	AJK	良好	灰	40	床直	底部回転糸切り
7	須恵短頸壺	(12.0)			AG	良好	灰	10	覆土	自然釉
8	土師台付甕				ABC	普通	橙	30	覆土	

第173号住居跡（第327・328図）

G－15・16グリッドに位置する。第190号住居跡・第434号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.69m、南北3.39m、深さ21cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－97°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、77cm×58cmの方形気味で、深さ49cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、82cm×70cm、深さ13cmを測り、煙道部は、長さ145cmが確認できた。

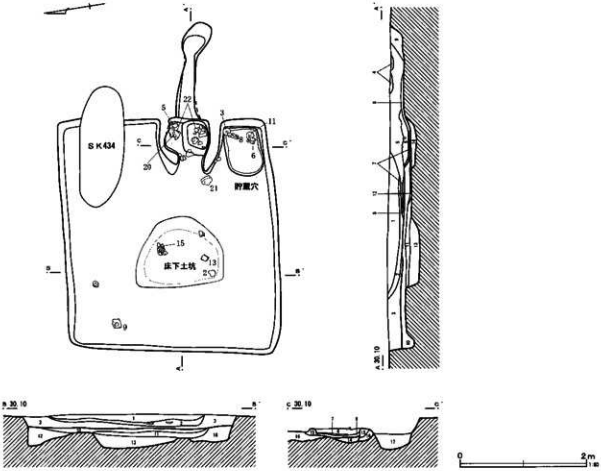
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付埦、灰釉陶器高台付埦が出土した。

第174号住居跡（第329・330図）

F・G－15グリッドに位置する。第161号住居跡・第240号土坑・第48号溝と重複し、すべてに切られている。規模は、主軸長東西4.76m、南北3.80m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－68°－Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。カマド左袖の部分は、第240号土坑に切られ、燃焼部は、69cm×73cm、深さ10cm程が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・灰釉陶器高台付埦と鉄製品が出土した。7は鉄鏃の一部と考えられる鉄製品である。現存長3.4cm、角関をもつ頸部破片である。

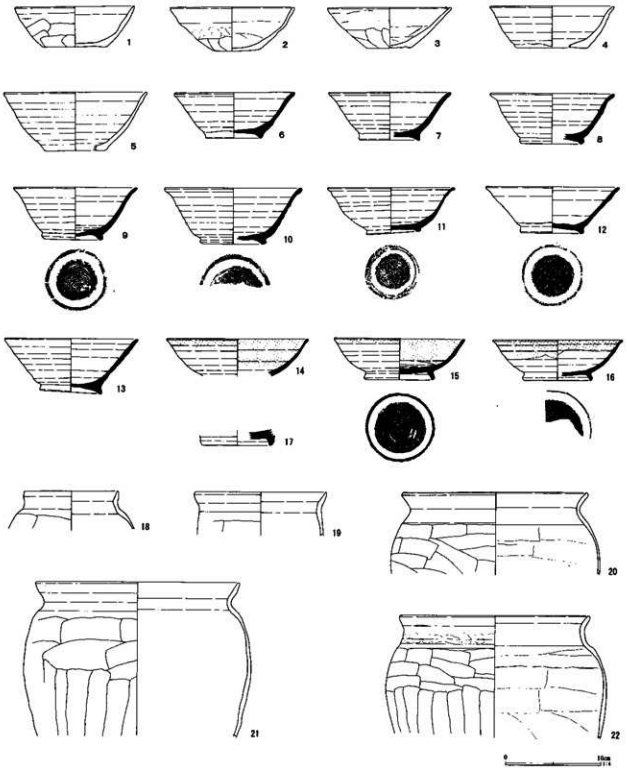


1　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック少量
2　黒褐色土　灰土体　焼土粒少量
3　暗褐色土　黄褐色土粒少量
4　赤褐色土　焼土層（煙道天井焼失）
5　暗灰褐色土　焼土粒少量
6　暗褐色土　灰を主体　黒褐色土との混土（カマド天井崩落土）
7　暗灰色土　焼土粒・黄褐色土粒微量
8　黒褐色土　灰層
9　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量　黄褐色土粒多量
10　灰褐色土　焼土粒微量　灰色粘土多量（掘り床）
11　灰褐色土　10層と近似　粘土主体（粘り底）
12　黒色土　炭化物・灰主体（掘り方）
13　灰褐色土　褐色土多く含む（床下土坑）
14　暗褐色土　褐色土・灰色土の混土層（カマド掘り方）
15　黄褐色土　黄褐色土・灰色粘土の混土層
16　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック少量（カマド掘り方）
17　灰褐色土　炭化物多量（貯蔵穴）
18　灰褐色土　焼土粒・炭化物・黄褐色土粒含む

第327図　第173号住居跡

第173号住居跡出土遺物観察表（第328図）

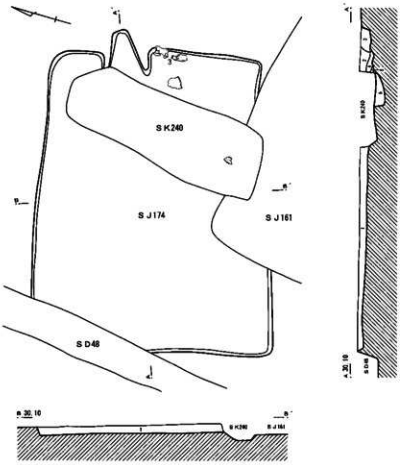
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.3	(6.6)	ABFJ	普通	にぶい褐	30	貯蔵穴	
2	土師坏	13.0	4.0	4.8	ABFJ	普通	灰黄褐	60	覆土	
3	土師坏	13.0	4.3	4.8	ABFJ	普通	橙	95	覆土	
4	土師坏	(13.0)	4.4	(7.4)	AJ	不良	黄灰	20	覆土	ロクロ土師器　底部調整不明
5	土師坏	(15.0)	6.1	(6.4)	ACFJK	普通	にぶい黄褐	15	カマド	ロクロ土師器　底部調整不明
6	須恵高台埦	(12.6)	4.8	6.0	AFJ	不良	黄灰	60	貯蔵穴	底部調整不明
7	須恵高台埦	(12.8)	5.0	(6.4)	ABJ	不良	灰	10	覆土	底部調整不明
8	須恵高台埦	(12.8)	5.3	(6.2)	AJ	良好	灰白	40	貯蔵穴	底部回転糸切り
9	須恵高台埦	(13.0)	5.5	6.5	AJ	良好	黄灰	60	覆土	
10	須恵高台埦	(14.4)	5.9	(7.0)	AJ	良好	灰黄褐	50	覆土	



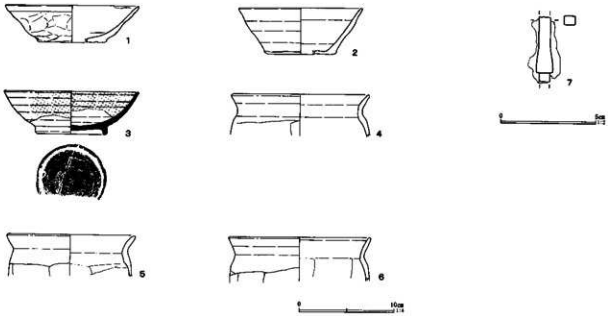
第328図　第173号住居跡出土遺物

第173号住居跡出土遺物観察表（第328図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
11	須恵高台埦	13.4	4.9	5.8	AJK	良好	灰	70	覆土	
12	須恵高台埦	(14.0)	4.9	6.6	ABJ	普通	灰	30	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台埦	(14.0)	5.8	6.3	AFJ	不良	にぶい黄橙	60	覆土	
14	灰釉埦	(14.6)			G	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ　東濃産
15	灰釉高台埦	13.5	4.3	6.9	AGK	良好	灰白	80	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕あり　東濃産
16	灰釉高台埦	(13.4)	4.2	(7.1)	AG	良好	灰黄	25	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕あり　東濃産
17	灰釉高台埦			(7.1)	A	普通	灰白	10	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ　猿北産
18	土師甕	(9.8)			ABF	普通	にぶい褐	25	覆土	
19	土師甕	(13.7)			AF	普通	にぶい橙	15	覆土	
20	土師甕	(19.4)			ABFJ	普通	橙	30	カマド	
21	土師甕	(21.2)			J	普通	灰白	10	覆土	
22	土師甕	20.0			ABFJ	普通	にぶい橙	70	カマド	



第329図　第174号住居跡



第330図　第174号住居跡出土遺物

第174号住居跡出土遺物観察表（第330図）

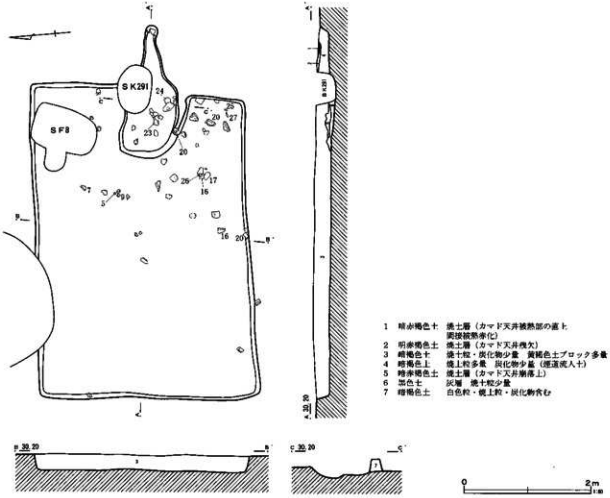
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)	3.9	(7.0)	ABFJ	普通	にぶい黄橙	15	覆土	底部未調整
2	土師坏	(13.0)	4.9	(7.6)	ABFJ	普通	にぶい橙	40	覆土	ロクロ土師器　底部糸切り
3	灰釉高台埦	(14.0)	4.5	7.1	G	良好	灰白	50	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕　東濃産
4	土師甕	(14.2)			AG	良好	にぶい橙	25	カマド	
5	土師甕	(13.3)			FG	普通	にぶい橙	25	覆土	
6	土師甕	(14.6)			ABFJ	良好	灰褐	30	覆土	

第176号住居跡（第331・332・333図）

゛J・K－14・15グリッドに位置する。第203号住居跡・第291号土坑、第8号火葬墓と重複し、住居跡以内に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.91m、南北3.48m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－96°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマドの北側に第291号土坑があり切られている。燃焼部は、83cm×83cm、深さ8cmが残存し、煙道部は長さ70cmが確認できた。

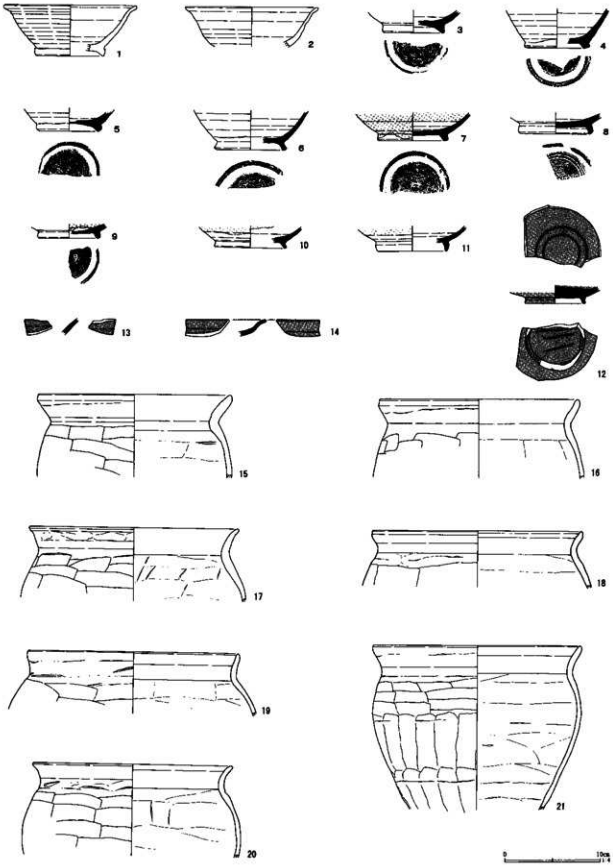
遺物は、土師器高台付埦・甕、須恵器高台付埦・甕、灰釉陶器高台付埦、緑釉陶器高台付皿と鉄製品が出土した。26は鉄製刀子である。切先と茎先を欠き、現存長は7.9cmである。刃幅は0.5～1.1cmで、関の形状は推定であるが、刃関の不明瞭な両関と考えられる。27は角棒状の鉄製品で、現存長は4.4cmである。用途は不明である。



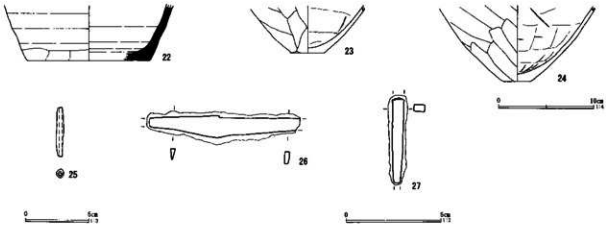
第331図 第176号住居跡

第176号住居跡出土遺物観察表（第332図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台埦	(14.0)	(5.4)	(7.0)	ABFJ	普通	浅黄橙	20	覆土	ロクロ土師器
2	土師埦	(14.0)			AJ	良好	にぶい橙	20	覆土	ロクロ土師器
3	須恵高台埦			(6.0)	AC	普通	灰	35	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台埦			(6.8)	ACJ	良好	黄灰	40	覆土	
5	須恵高台埦			(6.0)	ACJ	良好	灰	50	床直	底部回転糸切り
6	須恵高台埦			(7.6)	AGJ	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
7	灰釉高台埦			(7.4)	AG	良好	灰	50	床直	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 浜北産
8	灰釉高台埦			(7.0)	AJ	良好	灰	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉なし 浜北産
9	灰釉高台埦			(6.2)	A	良好	灰	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
10	灰釉高台埦			(7.6)	AJ	良好	黄灰	20	覆土	高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
11	灰釉高台埦			(7.0)	A	良好	灰	10	覆土	高台内糸切り 施釉 東濃産
12	緑釉高台皿			(6.3)	J	良好	―	40	床直	猿投産
13	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
14	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
15	土師甕	(20.0)			ABFJ	普通	橙	10	カマド	
16	土師甕	(20.5)			AFJ	普通	にぶい橙	25	覆土	



第332図　第176号住居跡出土遺物（1）



第333図　第176号住居跡出土遺物（2）

第176号住居跡出土遺物観察表（第332・333図）

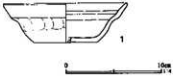
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
17	土師甕	(22.0)			AFJ	良好	にぶい橙	20	床直	
18	土師甕	(22.0)			ABJ	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
19	土師甕	(22.0)			ABCFJ	普通	浅黄橙	25	覆土	
20	土師甕	(21.0)			ABFJ	普通	にぶい黄橙	30	カマド	やや歪みあり
21	土師甕	(20.0)			ABCFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
22	須恵甕			(13.0)	AJ	普通	灰	20	覆土	
23	土師甕			(3.6)	ABFJ	普通	橙	30	カマド	
24	土師甕			2.8	ACFJ	普通	橙	40	カマド	
25	土錘	長さ3.8	径0.6	孔径0.25		普通	灰白	100	覆土	

第177号住居跡（第334・335図）

K－13・14グリッドに位置する。第151・165・172・198・202号住居跡及び第293号土坑と重複し、東壁は第165号住居跡・第293号土坑に切られ、北西隅は第151号住居跡に切られ、第172・198・202号住居跡を切っている。規模は、遺存主軸長東西2.50m、遺存南北1.06m、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N－98°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、122cm×45cmが残存していた。

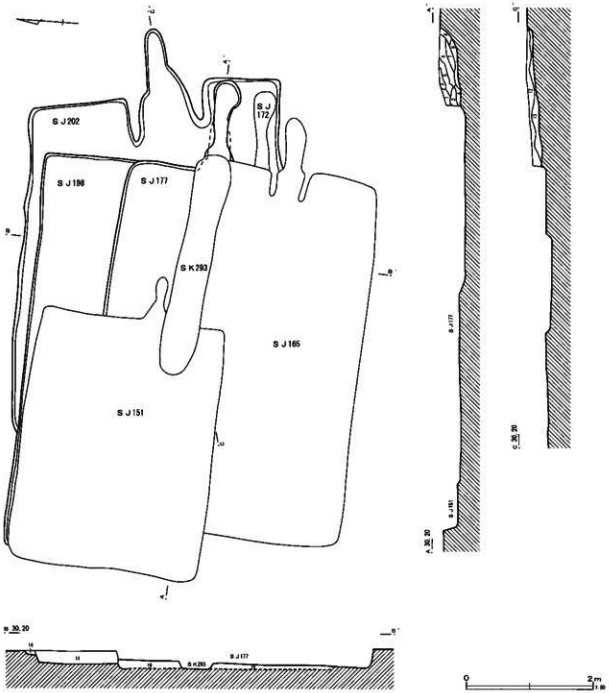
遺物は、土師器坏が出土した。



第335図　第177号住居跡出土遺物

第177号住居跡出土遺物観察表（第335図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)	4.1	(6.5)	ABF	普通	にぶい橙	30	カマド	



第177号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量
2　明赤褐色土　焼土層　カマド天井
3　暗褐色土　焼土粒・黄褐色土ブロック混入
4　黒褐色土　灰層　焼土粒やや多く混入
5　暗褐色土　焼土粒微量　炭化物少量
6　暗褐色土　焼土粒少量　炭化物多量
7　暗褐色土　焼土粒少量　焼土ブロック混入
8　暗褐色土　焼土粒多量　灰と炭の混土層
9　暗褐色土　焼土粒少量　灰混入（燃焼部）
10　暗灰褐色土　粘土粒・炭化物微量　粘土多量（貼り床）
第198号住居跡
11　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量　粘土含む
第202号住居跡
12　暗褐色土　白色粒・炭化物少量　焼土粒多量　砂質土（カマド天井崩落土）
13　黒褐色土　白色粒・炭化物微量　焼土粒少量　砂質土（カマドの煙欠）
14　暗褐色土　焼土少量　炭化物微量

第334図　第177・198・202号住居跡

第198号住居跡（第334・336図）

K－13・14グリッドに位置する。第151・177・202号住居跡と重複し、第151・177に切られ、第202号住居跡を切っている。規模は、遺存している北壁で主軸長東西3.10m、遺存している東壁で南北1.37mが確認でき、北壁を基準とすると主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

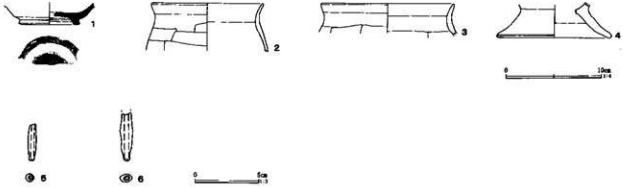
遺物は、須恵器高台坏塊、土師器甕・台付甕、土錘が出土した。

第202号住居跡（第334・337図）

K・L－13・14グリッドに位置する。第151・165・172・177・198号住居跡・第293号土坑と重複し、東壁と北壁が依存しており、すべてに切られている。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、218cm×97cmが残存していた。

遺物は、土師器甕が出土した。



第336図　第198号住居跡出土遺物

第198号住居跡出土遺物観察表（第336図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台塊			(5.7)	AJ	普通	暗灰黄	20	覆土	
2	土師甕	(11.6)			AF	普通	にぶい橙	破片	覆土	
3	土師甕	(13.9)			AF	普通	橙	20	覆土	
4	土師台付甕			(11.7)	AF	普通	灰黄褐	20	覆土	
5	土錘	長さ2.9	径0.7	孔径0.2		普通	にぶい赤褐	100	覆土	
6	土錘	長さ(3.7)	径1.0	孔径0.3		普通	にぶい黄橙	80	覆土	

第337図　第202号住居跡出土遺物

第202号住居跡出土遺物観察表（第337図）

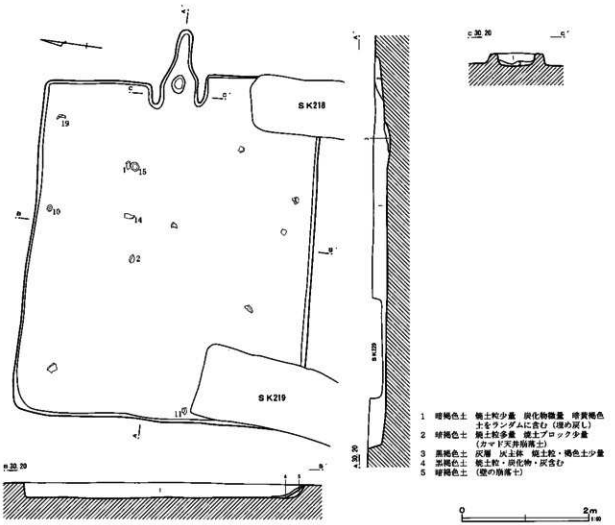
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	(19.0)			ABCFJ	普通	にぶい褐	30	カマド	
2	土師甕			(8.0)	AB	良好	黒褐	20	覆土	

第178号住居跡（第338・339図）

L－13グリッドに位置する。第208号住居跡・第218・219・220号土坑と重複し、土坑には切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西5.33m、南北4.50m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、75cm×65cm、深さ7cm程を測り、煙道部は、長さ105cmが確認できた。

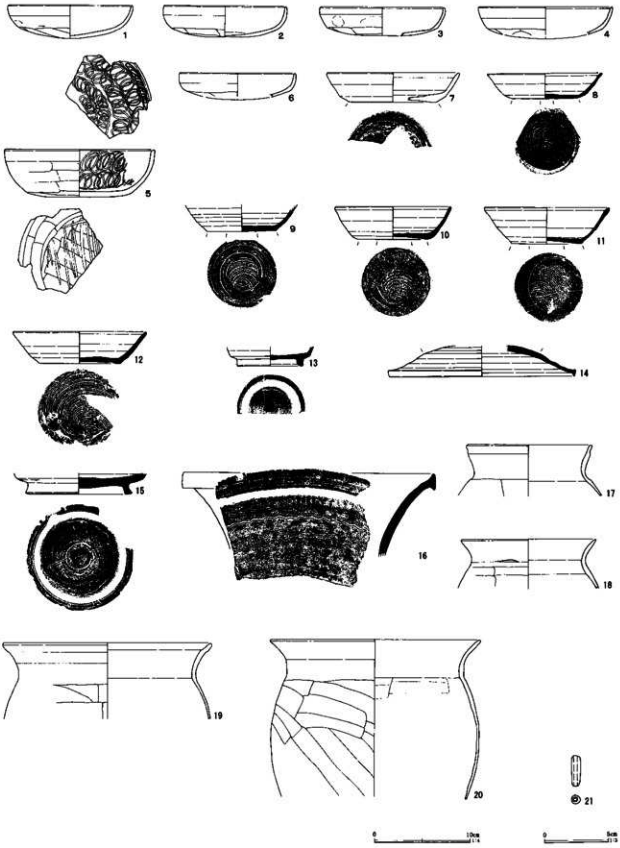
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・高台付盤・甕、土錘が出土した。



第338図 第178号住居跡

第178号住居跡出土遺物観察表（第339図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.5		BCJ	普通	橙	40	覆土	
2	土師坏	(13.0)	3.3		AJK	普通	明赤褐	30	覆土	
3	土師坏	(13.0)	3.0		BCFJ	普通	にぶい橙	20	覆土	
4	土師坏	(14.0)	(2.9)		ABC	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(15.6)	5.0	(10.8)	AFJ	良好	橙	20	覆土	内面螺旋状暗文 底部外面ヘラ削り後暗文
6	土師坏	(12.0)	(2.5)		BCJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
7	須恵坏	(13.8)	3.1	(9.2)	AFJ	普通	橙	30	覆土	酸化焔焼成



第339図　第178号住居跡出土遺物

第178号住居跡出土遺物観察表（第339図）

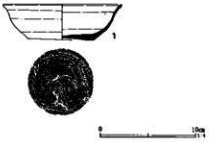
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏	(12.0)	2.7	6.8	AHJK	良好	灰	60	覆土	
9	須恵坏		(2.8)	7.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
10	須恵坏	(12.0)	3.4	7.1	AHJK	良好	灰	70	覆土	体部外面下端回転ヘラ削り
11	須恵坏	(13.2)	3.8	7.3	AHJK	良好	灰	60	覆土	底部ヘラ記号
12	須恵坏	(14.0)	3.3	8.6	AGJK	良好	灰白	60	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台坏			(6.8)	AJK	良好	灰	50	覆土	
14	須恵蓋	(19.4)			ACJ	良好	灰	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
15	須恵高台盤			11.1	ACJ	良好	灰	90	覆土	底部回転ヘラ削り
16	須恵甕	(26.0)			AJK	良好	褐灰	25	覆土	
17	土師甕	(13.0)			ABJ	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕	(14.0)			ABCFG	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
19	土師甕	(21.6)			ABCF	普通	橙	15	床直	
20	土師甕	(21.9)			ABCF	普通	橙	10	掘り方	
21	土錘	長さ2.4	径0.7	孔径0.3		普通	橙	80	覆土	

第179号住居跡（第340・341図）

L・M－14グリッドに位置する。第171号住居跡、第7号溝と重複し、住居跡に上部を殆ど切られ、南西部を溝に切られている。規模は、主軸長東西4.77m、南北4.86m、深さ12cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N－76°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、102cm×75cmが遺存していた。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第340図　第179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表（第340図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.5	3.7	7.0	CJK	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り

第180号住居跡（第342・343図）

K・L－13・14グリッドに位置する。第195号住居跡と重複し、切っている。北壁は不明瞭である。規模は、主軸長東西6.64m、南北3.10m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cm×70cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・高台付椀・円面硯、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器、碁石が出土した。

第178号住居跡出土遺物観察表（第339図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏	(12.0)	2.7	6.8	AHJK	良好	灰	60	覆土	
9	須恵坏		(2.8)	7.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
10	須恵坏	(12.0)	3.4	7.1	AHJK	良好	灰	70	覆土	体部外面下端回転ヘラ削り
11	須恵坏	(13.2)	3.8	7.3	AHJK	良好	灰	60	覆土	底部ヘラ記号
12	須恵坏	(14.0)	3.3	8.6	AGJK	良好	灰白	60	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台坏			(6.8)	AJK	良好	灰	50	覆土	
14	須恵蓋	(19.4)			ACJ	良好	灰	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
15	須恵高台盤			11.1	ACJ	良好	灰	90	覆土	底部回転ヘラ削り
16	須恵甕	(26.0)			AJK	良好	褐灰	25	覆土	
17	土師甕	(13.0)			ABJ	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕	(14.0)			ABCFG	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
19	土師甕	(21.6)			ABCF	普通	橙	15	床直	
20	土師甕	(21.9)			ABCF	普通	橙	10	掘り方	
21	土錘	長さ2.4 径0.7 孔径0.3				普通	橙	80	覆土	

第179号住居跡（第340・341図）

L・M－14グリッドに位置する。第171号住居跡、第7号溝と重複し、住居跡に上部を殆ど切られ、南西部を溝に切られている。規模は、主軸長東西4.77m、南北4.86m、深さ12cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N－76°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、102cm×75cmが遺存していた。

遺物は、須恵器坏が出土した。

第340図　第179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表（第340図）

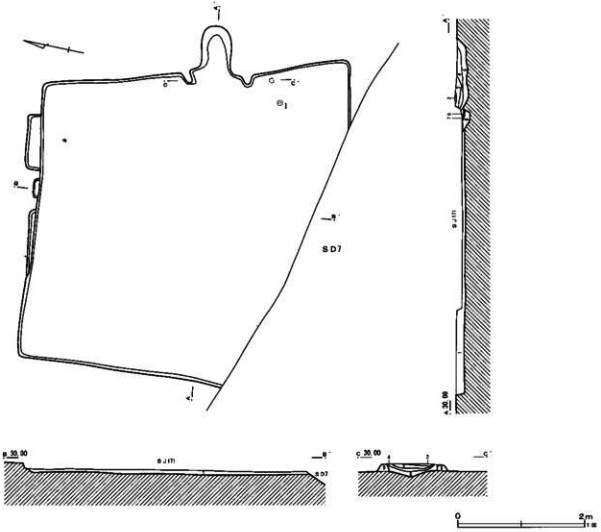
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.5	3.7	7.0	CJK	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り

第180号住居跡（第342・343図）

K－L－13・14グリッドに位置する。第195号住居跡と重複し、切っている。北壁は不明瞭である。規模は、主軸長東西6.64m、南北3.10m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cm×70cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・高台付埦・円面硯、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器、碁石が出土した。



第179号住居跡
1　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
2　赤褐色土　焼土層（カマド天井崩落土）
3　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
4　暗褐色土　焼土ブロック多量　炭化物・灰少量（カマド天井崩落土）
5　黒灰色土　灰層　焼土粒少量
6　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量（カマド掘り方）
7　黒色土　焼土粒少量
8　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量　6層に近似（カマド掘り方）
9　暗灰褐色土　灰褐色粘土含む

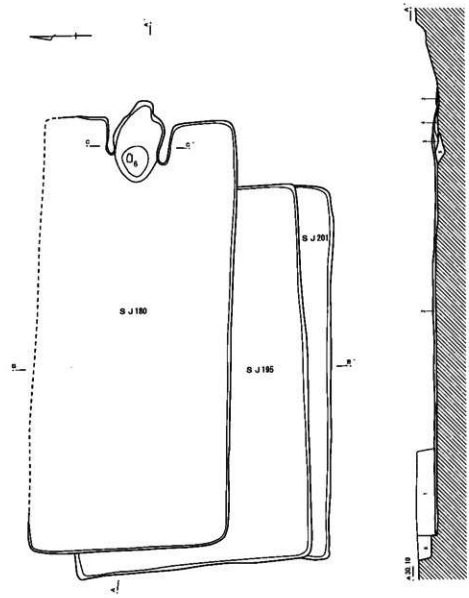
第341図　第179号住居跡

第195号住居跡（第344・345図）

L－13・14グリッドに位置する。第180・201号住居跡と重複し、第180号住居跡に切られ、第201号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西5.84m、西壁で南北3.72m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－89°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

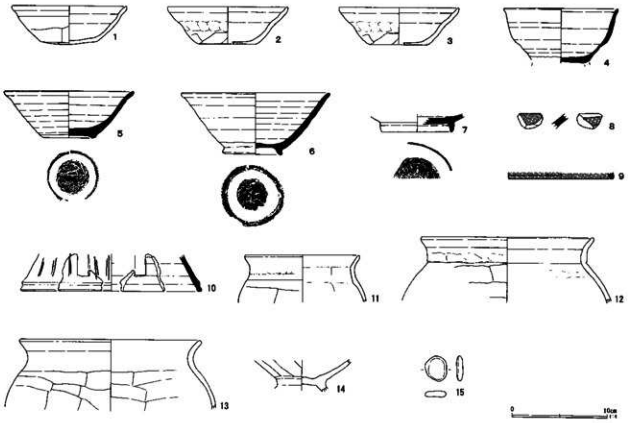
遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付椀と鉄製品が出土した。6は大きく折れ曲がる角棒状の鉄製品である。現存長は4.6cm。のばすと9cmほどになる。用途は不明である。



第180・195・201号住居跡
1　暗褐色土　白色粒混入　焼土粒・炭化物多量
2　暗褐灰色土　焼土粒・炭化物少量　炭色粘土多量（貼り床）
3　暗灰褐色土　焼土粒多量（カマド天井崩落土）
4　黒色土　灰層　焼土粒多量混入
5　黒褐色土　焼土粒・炭化物多量　灰混入（カマド掘り方）
6　暗灰褐色土　白色粒混入　焼土粒少量　炭化物やや多量（SJ195）
7　暗黄褐色土　黄褐色土との混土（SJ195貼り床）
8　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量（SJ201）

0　2m

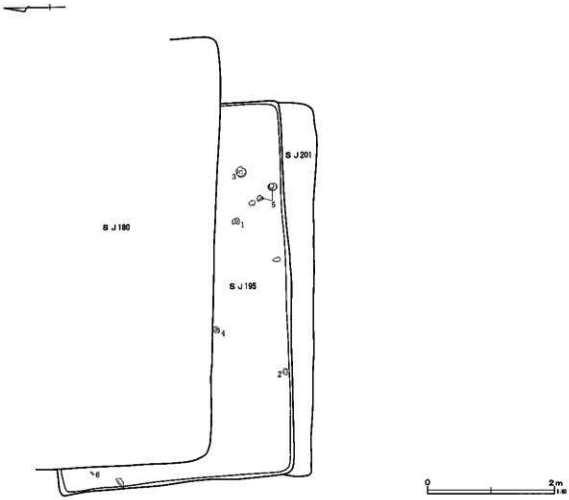
第342図　第180号住居跡



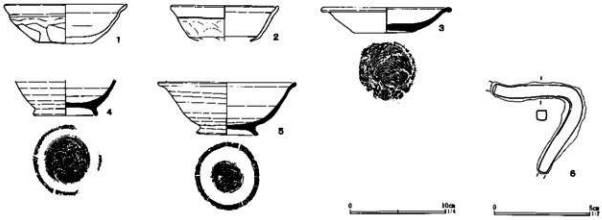
第343図　第180号住居跡出土遺物

第180号住居跡出土遺物観察表（第343図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.9)	4.1	(6.0)	ABF	普通	によい橙	25	覆土	
2	土師坏	(12.5)	3.9	(6.0)	BJ	良好	灰黄	25	覆土	
3	土師坏	(13.7)	3.9	(6.1)	AFJ	良好	橙	20	覆土	
4	須恵高台椀	(12.0)	(5.7)		AEG	良好	褐灰	40	覆土	高台部分剥離
5	須恵高台坏	13.6	4.9	5.1	ACJ	良好	灰	70	覆土	
6	須恵高台椀	15.6	6.5	6.4	AJK	普通	灰	80	カマド	器形の歪み大きい
7	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内糸切り　施釉　内面重ね焼き痕あり 東濃産
8	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
9	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
10	須恵円面硯			(18.8)	A	良好	灰	10	覆土	圏足硯　脚台部は長方形透孔と縦位の沈線
11	土師甕	(10.8)			B	良好	によい黄橙	20	覆土	
12	土師甕	(18.0)			ABJ	普通	褐灰	15	覆土	
13	土師甕	(18.8)			ACF	良好	灰黄褐	15	覆土	
14	土師台付甕				ABFG	普通	灰褐	30	覆土	
15	砥石	長さ2.1　幅2.2　厚さ0.6						―	覆土	



第344図　第195号住居跡



第345図　第195号住居跡出土遺物

第195号住居跡出土遺物観察表（第345図）

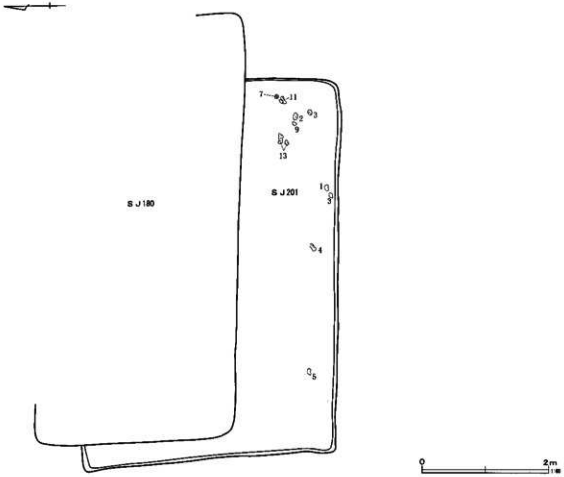
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.9	4.2	5.9	ABFJK	普通	にぶい橙	90	覆土	やや歪みあり
2	土師坏	(11.2)	(3.7)		ABF	普通	橙	30	覆土	歪み大きい
3	須恵坏	13.0	2.8	6.0	ADG	良好	灰	90	床直	底部回転糸切り
4	須恵高台椀			6.5	AJK	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
5	須恵高台椀	14.4	5.5	6.5	AIJK	良好	灰	95	床直	底部回転糸切り

第201号住居跡（第346・347図）

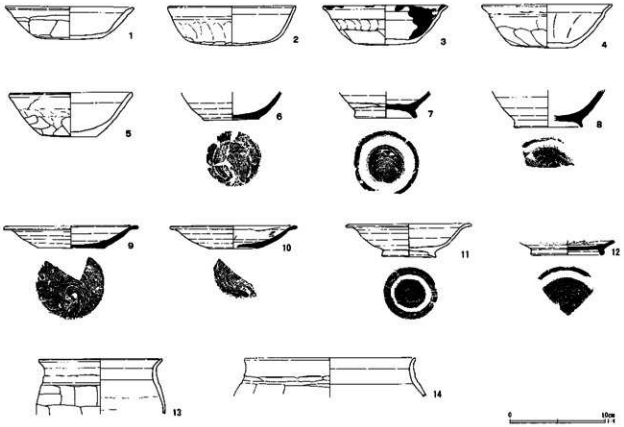
L－13・14グリッドに位置する。第195号住居跡と重複し、切られている。規模は、主軸長南壁で東西5.82m、東壁で南北0.55mが確認でき、深さ25cm程を測る。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・高台坏皿・甕、須恵器坏・高台坏椀・皿、灰釉陶器高台付皿が出土した。



第346図　第201号住居跡



第347図　第201号住居跡出土遺物

第201号住居跡出土遺物観察表（第347図）

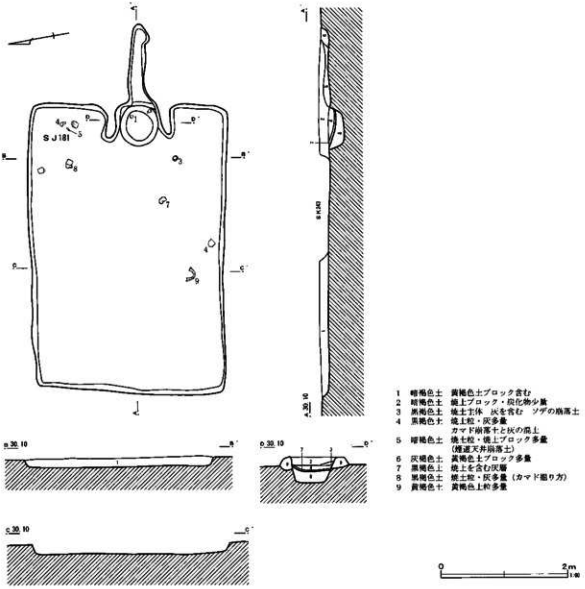
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	3.4	7.3	ABFJ	普通	橙	15	床直	底部ヘラ削り
2	土師坏	(13.4)	4.2		ABFJ	普通	橙	45	床直	底部ヘラ削り
3	土師坏	13.0	4.2	6.4	AF	普通	橙	60	床直	油煙内外面付着　底部ヘラ削り
4	土師坏	13.8	4.6	6.7	ABFJ	普通	橙	95	床直	底部一方向平行ヘラ削り
5	土師坏	12.8	4.7	5.9	ABFJ	普通	橙	100	床直	やや楕円形　底部一方向平行ヘラ削り
6	須恵坏			5.5	ACF	不良	褐灰	50	覆土	
7	須恵高台椀			6.5	AJK	良好	灰	80	覆土	
8	須恵高台椀			(7.0)	ACF	普通	灰	20	覆土	
9	須恵皿	(14.2)	3.4	7.0	AGJK	良好	灰	60	床直	
10	須恵皿	(13.4)	2.4	(5.0)	AGJK	良好	灰	45	覆土	
11	土師高台皿	13.3	3.5	5.6	AFJK	普通	にぶい褐	100	床直	ロクロ土師器
12	灰釉高台皿			(7.2)	AJK	良好	灰	20	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ　浜北産
13	土師甕	(13.0)			ABFJ	普通	にぶい褐	25	覆土	
14	土師甕	(18.0)			ABFJ	普通	にぶい橙	10	覆土	

第181号住居跡（第348・349図）

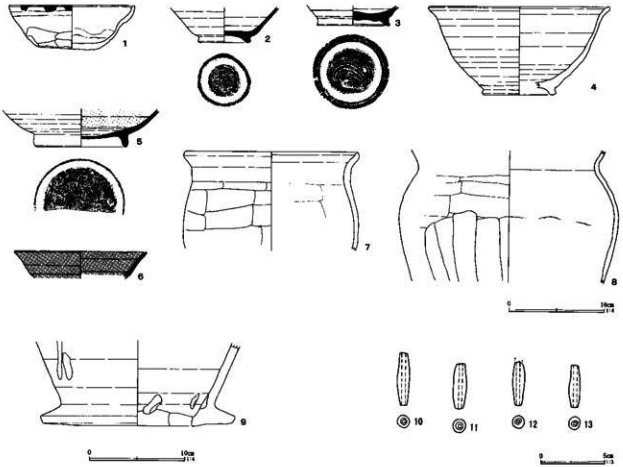
G－16グリッドに位置する。第189号住居跡・第243号土坑と重複し、土坑にカマド前を切られ、住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.54 m、南北3.07 m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－100°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、64cm × 72cm、深さ13cm程を測り、煙道部は長さ128cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台坏埦・甕・甑、須恵器高台付埦、灰釉陶器高台坏埦、緑釉埦と土錘が出土した。



第348図　第181号住居跡



第349図　第181号住居跡出土遺物

第181号住居跡出土遺物観察表（第349図）

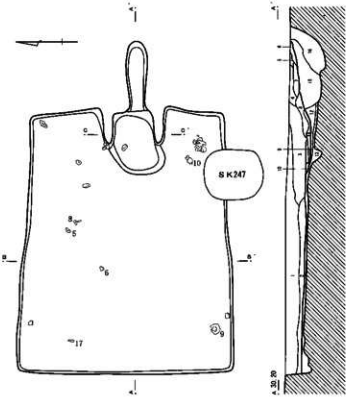
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.2	4.7	6.8	ABFJK	普通	橙	100	カマド	底部ヘラ削り
2	須恵高台埦			5.5	AJ	良好	灰	60	覆土	やや歪みあり　底部回転糸切り
3	須恵高台埦			7.6	AJK	良好	灰	100	床直	底部右回転糸切り
4	土師高台埦	(19.0)	(9.3)	(7.6)	ACFJK	普通	にぶい橙	40	床直	ロクロ土師器
5	灰釉高台埦			9.4	AK	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り　内面ハケヌリ　二川産
6	緑釉陶器埦						灰オリーブ	10	覆土	輪花稜埦　猿投産
7	土師甕	(18.0)			ABFJ	普通	灰黄	20	床直	
8	土師甕				J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
9	土師甑			(19.8)	ABFJK	普通	浅黄	40	床直	
10	土錘	長さ4.1　径1.0　孔径0.3				普通	灰黄	100	覆土	
11	土錘	長さ3.5　径1.0　孔径0.3				普通	褐灰	100	覆土	
12	土錘	長さ(3.45)　径0.95　孔径0.25				普通	灰白	90	覆土	
13	土錘	長さ3.3　径1.9　孔径0.29				普通	灰黄	95	覆土	

第182号住居跡（第350・351図）

K－14・15グリッドに位置する。第203・280号住居跡・第247号土坑と重複し、土坑に南壁の一部が切られ、2軒の住居跡を切る。規模は、主軸長東西4.20m、南北3.40m、深さ30cm程を測る。平面形は、やや台形気味を呈する。主軸方位は、N－90°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、98cm×68cm、深さ7cm程を測り、煙道部は長さ110cmが確認できた。

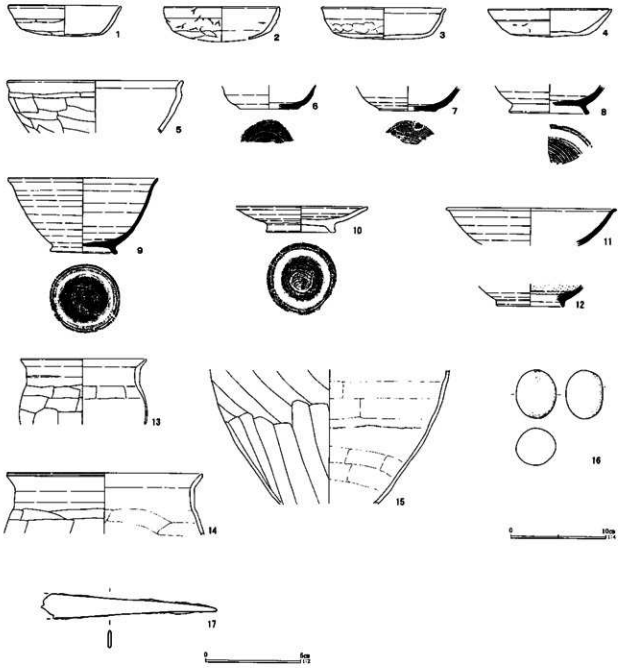
遺物は、土師器坏・鉢・甕、須恵器高台坏椀・高台坏皿、灰釉陶器椀・高台椀、磨石と鉄製品が出土した。17は、鉄製の柄もしくは茎である。現存長9.2cmである。



第350図　第182号住居跡

第182号住居跡出土遺物観察表（第351図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.9	3.3	8.7	ABJ	普通	橙	90	覆土	底部ヘラ削り
2	土師坏	(12.0)	(3.4)		AFJ	普通	橙	20	覆土	
3	土師坏	(12.9)	3.4	(10.4)	ABJ	普通	にぶい橙	30	覆土	底部ヘラ削り
4	土師坏	(13.0)	2.9	(8.2)	AJ	普通	にぶい橙	20	覆土	底部ヘラ削り
5	土師鉢	(18.2)			BCG	良好	橙	25	覆土	



第351図　第182号住居跡出土遺物

第182号住居跡出土遺物観察表（第351図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	須恵坏			(6.0)	AGJ	良好	灰	30	覆土	
7	須恵坏				(6.0)	AK	普通	灰	20	覆土
8	須恵高台埦			(8.4)	JK	普通	灰	20	覆土	
9	須恵高台埦	(15.8)	8.0	7.1	ACJK	良好	灰	65	床直	底部回転糸切り
10	須恵高台皿	(14.0)	2.7	7.2	ACFJK	普通	にぶい赤褐	60	覆土	酸化焔焼成
11	灰釉埦	(17.6)			AG	良好	灰白	10	覆土	施釉なし　二川産
12	灰釉高台埦			(6.8)	AG	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　内面ハケヌリ　内面重ね焼き痕　二川産

第182号住居跡出土遺物観察表（第351図）

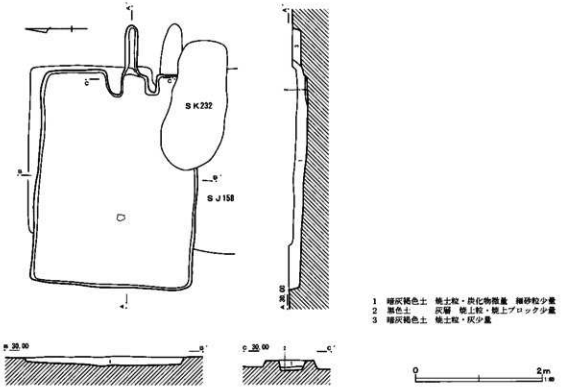
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	土師甕	(13.2)			BC	良好	橙	20	覆土	
14	土師甕	(20.5)			ABFG	良好	灰褐	15	カマド	
15	土師甕				ABFG	普通	にぶい褐	15	覆土	
16	磨石	長さ5.1　幅4.2　厚さ3.9					灰白	―	覆土	

第183号住居跡（第352・353図）

M・N－12・13グリッドに位置する。第158号住居跡・第232号土坑と重複し、土坑に南東隅が切られ、住居跡に殆ど上部が切られる。規模は、主軸長東西3.40m、南北2.56m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、50cm×43cmを測り、床面と同じ高さで、煙道部は長さ66cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏が出土した。



第352図　第183号住居跡

第353図　第183号住居跡出土遺物

第183号住居跡出土遺物観察表（第353図）

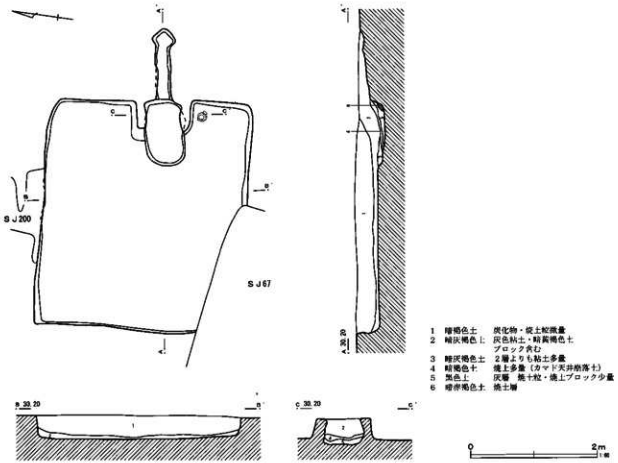
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	(3.5)	(6.8)	ABF	普通	にぶい橙	25	覆土	内外面油煙斑状に付着
2	須恵坏			5.0	AI	良好	にぶい褐	40	覆土	底部右回転糸切り　酸化焔焼成
3	土師小型甕	(10.8)			AF	普通	褐	15	覆土	
4	土師小型甕	(12.9)			ABFJ	普通	橙	10	覆土	

第184号住居跡（第354・355図）

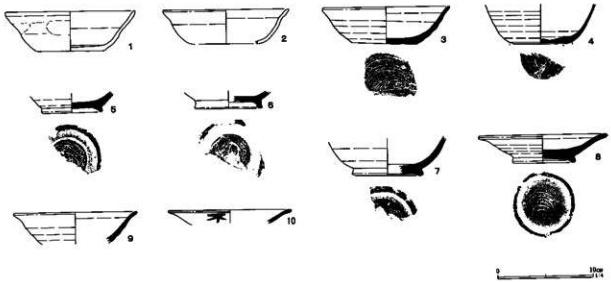
N－12グリッドに位置する。第67・200号住居跡と重複し、第67号住居跡に南壁西半部が切られ、第200号住居跡を切る。規模は、主軸長東西3.55m、南北3.25m、深さ38cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－82°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、105cm×62cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ110cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付埦・高台付皿が出土した。



第354図　第184号住居跡



第355図　第184号住居跡出土遺物

第184号住居跡出土遺物観察表（第355図）

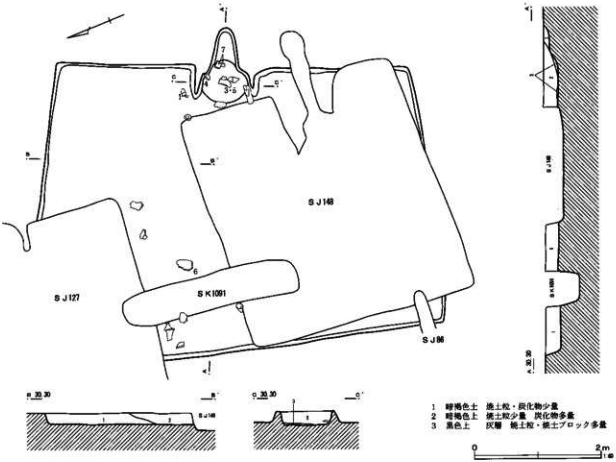
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.5)	(4.2)	(7.1)	CFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	底部外周手持ちヘラ削り
2	土師坏	(13.0)			AF	不良	にぶい橙	15	覆土	
3	須恵坏	(13.2)	3.9	(6.8)	FIJ	普通	黄灰	75	覆土	底部剥離
4	須恵高台塊				ABK	普通	灰	40	覆土	黒斑　高台剥離
5	須恵高台塊			(6.0)	AGJ	普通	灰	40	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台塊			(7.0)	G	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
7	須恵高台塊			(7.5)	AJ	普通	灰	15	覆土	
8	須恵高台皿	13.5	3.0	6.5	AC	不良	灰白	90	覆土	
9	須恵塊	(12.7)			A	良好	灰	30	覆土	
10	須恵皿	(13.0)			ACG	良好	灰	20	覆土	墨書あり

第185号住居跡（第356・357図）

L－12・13グリッドに位置する。第86・127・148号住居跡・第1091号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡に南半と北西隅が切られている。規模は、主軸長東西4.67m、南北5.94m、深さ20cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N－115°－Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は住居跡に切られるが、97cm×80cmが残存し、深さは床面と同じである。煙道部は、長さ40cmが確認できた。

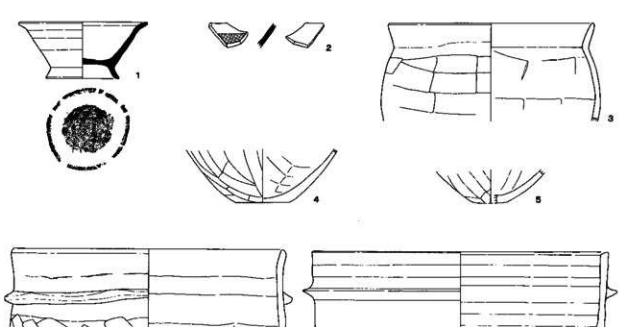
遺物は、須恵器高台付塊、土師器甕・羽釜、緑釉陶器破片が出土した。



第356図 第185号住居跡

第185号住居跡出土遺物観察表（第357図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台椀	(13.8)	5.9	5.8	ABCJ	普通	浅黄橙	60	覆土	
2	緑釉陶器						―	破片	覆土	猿投産
3	土師甕	(21.8)			ABJ	良好	にぶい黄褐	20	カマド	外面ヘラ削り　内面横ナデ
4	土師甕			5.6	ABCF	普通	にぶい黄橙	40	カマド	
5	土師甕			(4.0)	ABJ	良好	にぶい橙	25	カマド	
6	土師羽釜	(28.3)			AFJ	普通	浅黄橙	30	床直	
7	土師羽釜	(30.9)			AFJ	良好	にぶい橙	10	カマド	体部外面→方向回転ヘラ削り



第357図　第185号住居跡出土遺物

第187号住居跡（第358・359図）

H・I－16グリッドに位置する。規模は、主軸長南北3.40m、東西2.80m、深さ44cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－12°－Eを指す。

柱穴が6本と貼り床の下のP7が壁に沿って並び、東壁と北壁の一部には布掘り状に壁溝が廻る。幅9～17cm、深さ10cm程を測る。片岩が確認された土坑からは焼土粒・焼土ブロック・灰が混入しており、炉とも考えられ、工房跡とみられる。

遺物は、須恵器皿、灰釉陶器高台埦、古銭、土錘と鉄製品が出土した。5は鉄鏃である。現存長5.0cm、鏃身部現存長3.5cmで、短頸の雁股鏃である。6は鉄製の釘もしくはそれに類する接合具の脚部の破片と考えられる。現存長は3.5cmである。

第188号住居跡（第360・361図）

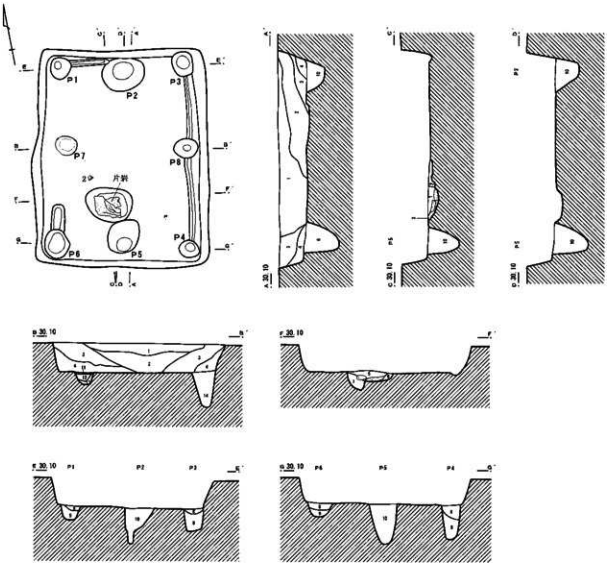
N－12グリッドに位置する。第45・67号住居跡と重複し2軒から上部が切られている。規模は、主軸長東西4.68m、南北2.93m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。袖部から先端まで103cm、幅30cmが確認できたが詳細は不明である。

遺物は、須恵器皿が出土した。

第187号住居跡出土遺物観察表（第359図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			(9.0)	AJK	良好	灰	15	覆土	
2	灰釉高台埦			(6.6)	AJ	良好	灰白	40	覆土	高台内糸切り　東遺江産
3	土錘	長さ (2.2)	径 (0.8)	孔径0.3	普通		浅黄橙	50	覆土	
4	古銭	径 2.45	孔 0.70×0.75	厚さ0.06			―	―	ピット6	「皇宋通寶」北宋銭(北九州方面で製造?)

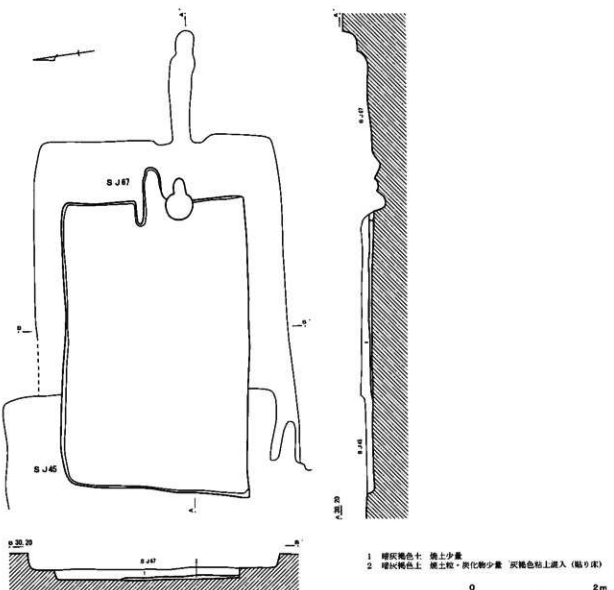


1　褐色土　白色粒・黄褐色土多量　焼土粒・炭化物少量
2　褐色土　白色粒少量　焼土粒・炭化物微量　黄褐色土粒多量
3　暗褐色土　白色粒・焼土粒・炭化物少量　黄褐色土粒多量
4　黒褐色土　黄褐色土ブロック多量
5　暗灰褐色土　焼土ブロック・焼土粒多量
6　黒褐色土　焼土粒少量　灰多量
7　暗褐色土　白色物なし
8　暗褐色土　白色粒・黄褐色土粒多量
9　褐色土　黄褐色土粒多量
10　暗褐色土　白色粒少量　焼土粒・炭化物微量　黄褐色土粒多量
11　灰色土　粘土質（貼り床）
12　暗灰色土　白色粒多量
13　暗褐色土　白色粒多量　炭化物微量
14　暗褐色土　焼土粒微量

0　2m

第358図　第187号住居跡

第359図　第187号住居跡出土遺物

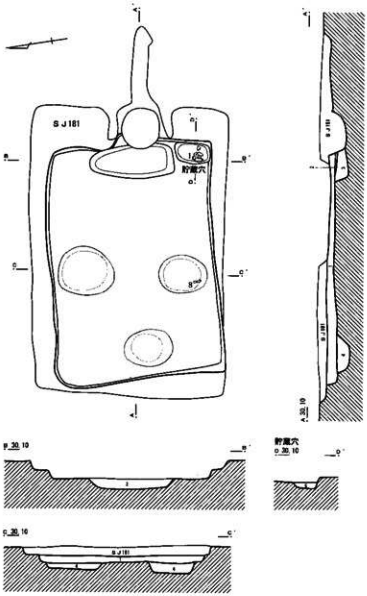


第360図　第188号住居跡

第361図　第188号住居跡出土遺物

第188号住居跡出土遺物観察表（第361図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			(6.0)	CG	普通	灰白	20	覆土	底部回転糸切り
2	須恵皿	(13.5)	2.6	(6.8)	ACFK	普通	にぶい黄褐	15	覆土	底部回転糸切り



第362図　第189号住居跡

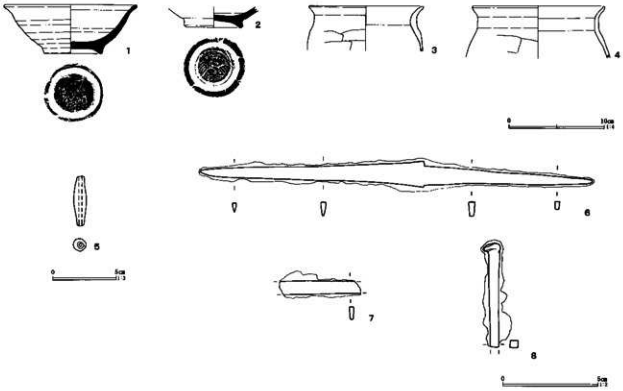
第189号住居跡（第362・363図）

G－16グリッドに位置する。第181号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.69m、南北2.65m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、33cm×54cmの楕円形で、深さ18cmを測る。

カマドは、東壁に設けられているが、殆どが第181号住居跡に切られている。燃焼部は、38cmが残存していた。

遺物は、須恵器高台付椀、土師器甕、土錘と鉄製品が出土した。6は鉄製刀子である。完存しており、長さは20.6cm、刃長11.8cm、刃幅0.4～1.4cm、茎長8.8cmである。関は明瞭な両関である。目釘孔は存在しない。7は刀子の茎と考えられる鉄製品である。現存長4.2cm。8は鉄製釘である。現存長は5.4cmで、脚部を欠く。頭部は基部先端をつぶして折り曲げている。



第363図　第189号住居跡出土遺物

第189号住居跡出土遺物観察表（第363図）

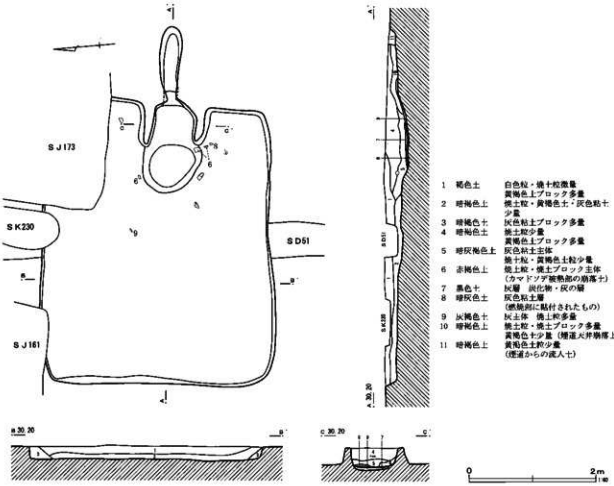
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台椀	14.0	5.1	6.0	AJK	良好	褐灰	80	貯蔵穴	やや歪みあり
2	須恵高台椀			(5.7)	AFGK	普通	黄灰	80	覆土	
3	土師甕	(11.9)			BFJ	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
4	土師甕	(13.8)			AFJ	普通	橙	15	覆土	
5	土錘	長さ3.85　径1.0　孔径0.25				普通	黒褐	100	覆土	

190号住居跡（第364・365図）

G－15グリッドに位置する。北東隅の壁は、第161・173・204号住居跡・第230号土坑・第51号溝と重複し、第204号住居跡を切る他はすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.45m、南北3.64m、深さ21cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、159cm×93cm、深さ13cm程を測り、煙道部は長さ101cmが確認できた。

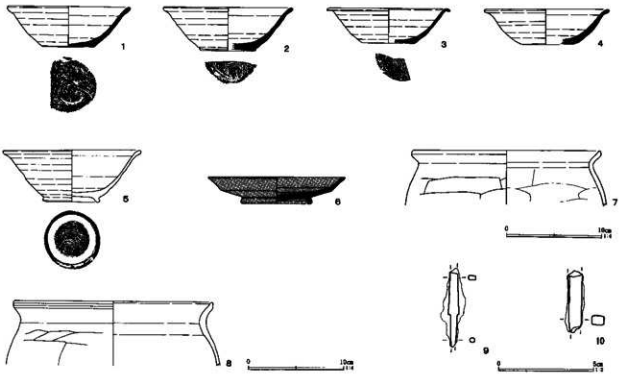
遺物は、須恵器坏・高台付埦、土師器甕、緑釉陶器高台付稜皿と鉄製品が出土した。9は鉄鏃の一部



第364図　第190号住居跡

第190号住居跡出土遺物観察表（第365図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.8)	4.3	5.6	AJ	普通	灰	40	覆土	
2	須恵坏	(13.6)	4.6	(5.8)	ABFJ	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
3	須恵坏	(13.0)	3.6	(5.6)	AJK	良好	灰	15	覆土	
4	須恵坏	(13.0)	3.7	6.0	ABJ	普通	にぶい黄橙	60	覆土	底部回転糸きり
5	土師高台埦	(14.4)	5.5	6.1	AJK	普通	褐	70	覆土	ロクロ土師器
6	緑釉高台稜皿	14.1	2.8	7.3	―	良好	灰白	55	カマド・他	猿投産
7	土師甕	(19.6)			ABF	普通	灰褐	20	覆土	
8	土師甕	(20.7)			AF	普通	にぶい黄橙	40	覆土	



第365図　第190号住居跡出土遺物

と考えられる鉄製品である。角関を有する。現存長は3.9cmである。10は用途不明の角棒状鉄製品である。現存長3.2cm。

第191号住居跡（第366・367図）

I－14グリッドに位置する。第162号住居跡・第47号溝と重複し、西壁が住居跡に切られ、カマド上部が溝に切られている。規模は、主軸長東西3.84m、南北2.50m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

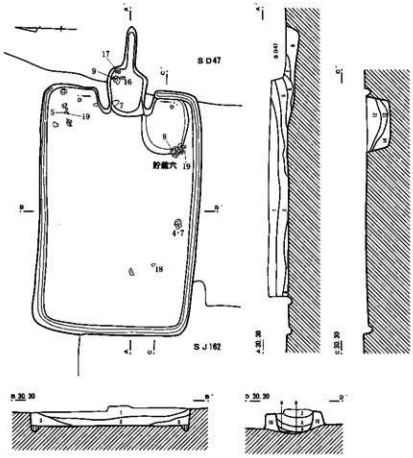
貯蔵穴は、南東隅に設けられており、86cm×73cmの楕円形で、深さ37cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、77cm×62cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ65cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付埦、土師器高台付埦・甕、灰釉陶器高台付埦・高台付皿、陶器が出土した。

第191号住居跡出土遺物観察表（第367図）

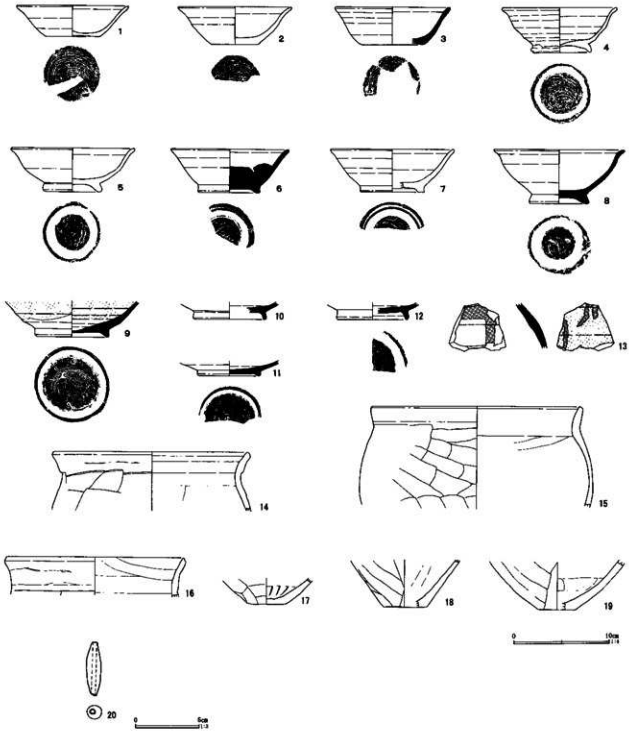
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.5)	3.3	5.7	AJ	普通	橙	70	覆土	酸化焔焼成
2	須恵坏	(11.9)	4.0	(4.9)	AFJ	普通	橙	30	カマド	酸化焔焼成
3	須恵坏	(11.9)	4.0	(6.0)	AG	普通	にぶい褐	20	覆土	底部右回転糸切り
4	土師高台埦	12.0	4.7	6.3	ABFJK	普通	橙	60	覆土	やや歪みあり　ロクロ土師器
5	須恵高台埦	(12.8)	4.5	5.7	AFJ	普通	橙	50	カマド	酸化焔焼成
6	須恵高台埦	(12.2)	4.6	(6.3)	AFJ	普通	にぶい黄橙	30	カマド	底部～体部中位内面油煙付着　一部酸化焔焼成
7	須恵高台埦	(12.8)	4.5	(6.7)	ABFJ	普通	橙	30	覆土	酸化焔焼成
8	須恵高台埦	(13.5)	5.7	6.0	ABFJ	普通	にぶい黄橙	60	覆土	歪みあり
9	灰釉高台埦			7.4	G	良好	灰	70	カマド	高台内糸切り　施釉ツケガケ　内面に重ね焼き痕　東濃江産



第366図 第191号住居跡

第191号住居跡出土遺物観察表（第367図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	灰釉高台椀			(7.5)	AG	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉なし 東濃産
11	灰釉高台皿			(6.4)	AG	良好	灰白	40	覆土	高台内糸切り 施釉なし 底部内面に重ね焼き痕 東濃産
12	灰釉高台皿			(7.3)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉なし 東濃産
13	陶器瓶				CJ	普通	―	破片	覆土	緑色、黄褐色釉
14	土師甕	(20.2)			ACF	普通	橙	20	カマド	
15	土師甕	(21.6)			ABFJ	普通	灰黄褐	15	貯蔵穴	
16	土師甕	(18.5)			ABFJ	普通	橙	15	カマド	
17	土師甕			4.0	ABF	普通	にぶい黄橙	50	カマド	
18	土師甕			(4.5)	ABFK	良好	にぶい黄橙	25	覆土	
19	土師甕			(4.0)	ABCF	普通	橙	25	カマド	
20	土錘	長さ4.2 径1.1 孔径0.35				普通	にぶい橙	100	覆土	

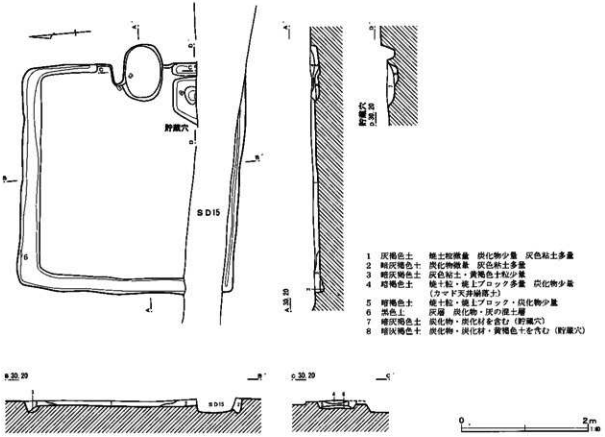


第367図　第191号住居跡出土遺物

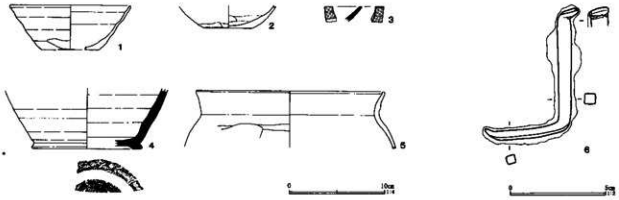
第192号住居跡（第368・369図）

Ⅰ・J－14グリッドに位置する。第15号溝と重複し、南壁側が切られている。規模は、主軸長東西3.60m、南北3.42m、深さ8cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

壁溝は、カマドを除いて全周し、幅13～30cm、深さ10cm程を測る。



第368図 第192号住居跡



第369図 第192号住居跡出土遺物

第192号住居跡出土遺物観察表（第369図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.7	(6.0)	ABF	普通	にぶい橙	30	カマド	
2	土師甕			(5.0)	AFJ	普通	にぶい黄橙	40	カマド	
3	緑釉陶器					－	－	破片	覆土	表採産
4	須恵瓶			(11.5)	AFJK	普通	灰	25	貯蔵穴	
5	土師甕	(19.6)			ACF	普通	にぶい黄橙	15	カマド	

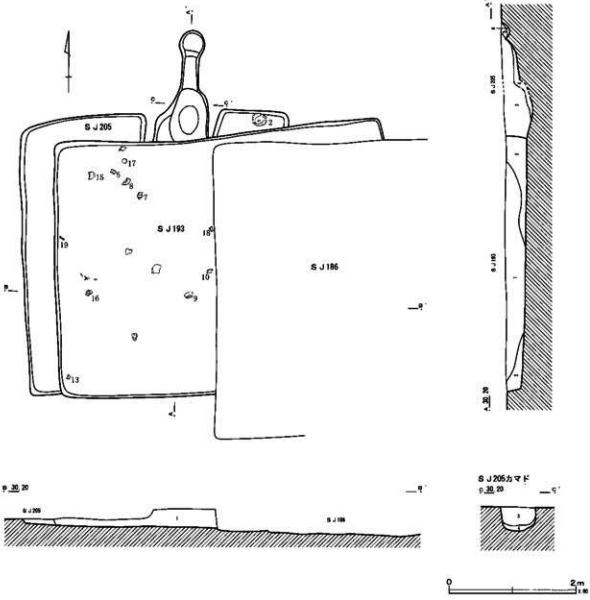
貯蔵穴は、南東に設けられており、一部は第15号溝に切られ、確認できたのは74cm×36cmで、深さ25cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、88cm×60cm、深さ10cm程を測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器長頸瓶、灰釉陶器破片と鉄製品が出土した。6は鉄製釘である。完形で基部の中ほどからほぼ直角に折れ曲がっている。現状の長さは6.4cmであるが、まっすぐにのばすと10cmほどの長さになる。頭部は基部先端をつぶして折り曲げている。

第193号住居跡（第370・371図）

L－14グリッドに位置する。第186・205号住居跡と重複し、第186号住居跡に切られ、第205号住居跡を切っている。切り合いから第186号住居跡・当住居跡・第205号住居跡の順に古くなる。規模は、

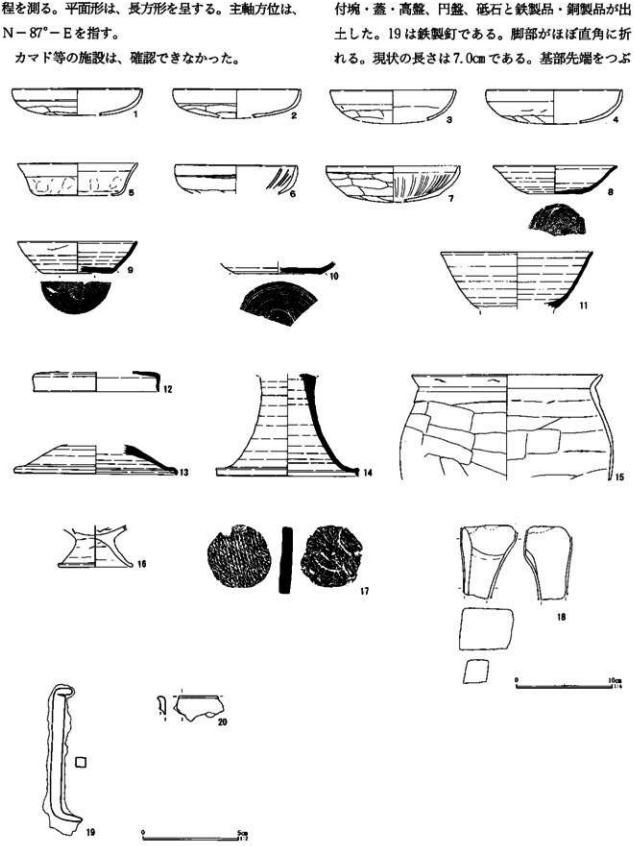


第370図 第193・205号住居跡

主軸長北壁で東西5.21m、南北4.00m、深さ30cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器坏・椀・高台付椀・蓋・高盤、円盤、砥石と鉄製品・銅製品が出土した。19は鉄製釘である。脚部がほぼ直角に折れる。現状の長さは7.0cmである。基部先端をつぶ



第371図　第193号住居跡出土遺物

し、折り曲げて頭部を形作る。20は縁を有する銅製品である。現存長は2.6cm、厚さは約0.2cmである。縁はわずかに肥厚する。内面には溶けた銅が付着している。用途は不明である。

第205号住居跡（第370・372図）

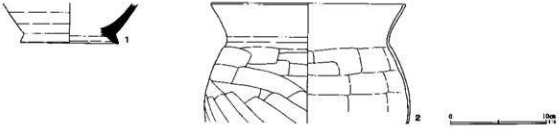
L－14グリッドに位置する。第186・193号住居跡と重複し、住居跡の殆どが切られている。規模は、西壁で主軸長南北4.24m、北壁で東西4.24m、深さ8cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－1°－Eを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。焚口付近が他の住居跡に切られているため確認できた。燃焼部は、83cm×80cm、深さ13cm程を測り、煙道部は、長さ90cmが確認できた。

遺物は、須恵器（長頸）瓶、土師器甕が出土した。

第193号住居跡出土遺物観察表（第371図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	2.8		ABCJ	普通	橙	30	覆土	
2	土師坏	(13.2)	3.0		ABJ	普通	橙	40	覆土	
3	土師坏	(13.0)	(3.2)		ABFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	やや歪みあり
4	土師坏	(14.0)	(3.5)		ABJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(12.6)	3.4	(8.6)	ABFJ	普通	橙	30	覆土	
6	土師坏	(12.6)	(3.0)		ADJ	普通	にぶい橙	20	覆土	内面の一部に暗文
7	土師坏	(14.0)	3.9		ABCE	普通	橙	50	床直	内面放射状暗文
8	須恵坏	(13.0)	3.0	5.8	AJK	普通	灰	40	覆土	やや歪みあり　底部回転糸切り
9	須恵坏	(12.6)	3.4	7.2	AJK	良好	灰	45	覆土	体部下端から底部周辺回転ヘラ削り
10	須恵瓶			(9.0)	AHJ	良好	灰	25	覆土	体部下端から底部回転ヘラ削り
11	須恵高台埦	(16.0)			AIJK	普通	灰	25	覆土	
12	須恵蓋	(13.0)			A	良好	褐灰	20	覆土	自然釉
13	須恵蓋	(17.0)			AF	良好	灰褐	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
14	須恵高盤			14.6	AHJK	良好	黄灰	70	覆土	脚部のみ
15	土師甕	(20.0)			ABC	普通	にぶい赤褐	15	覆土	
16	土師台付甕			(7.8)	ABJ	普通	黒褐	60	覆土	
17	須恵円盤	径6.9			AJ	良好	灰	－	覆土	甕片転用
18	砥石	長さ7.7 幅5.6 厚さ4.4					－	－	覆土	凝灰岩製



第372図　第205号住居跡出土遺物

第205号住居跡出土遺物観察表（第372図）

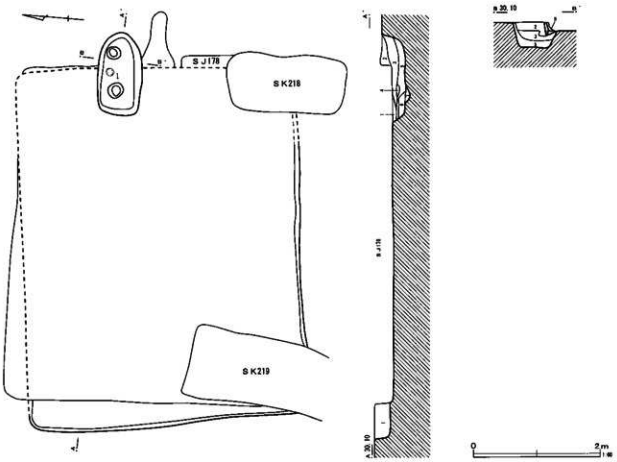
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵瓶			(10.0)	A	良好	灰	15	覆土	
2	土師甕	(20.3)			ABCF	普通	橙	80	床直	

第194号住居跡（第373・374図）

L－13グリッドに位置する。第178号住居跡・第218・219号土坑と重複し切られ、住居跡には殆どが切られている。規模は、主軸長東西5.69m、残存する部分の西壁で南北4.42m、深さ25cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、131cm×68cm、深さ27cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。



1　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量
2　暗灰褐色土　焼土粒少量　炭化物微量
3　黒褐色土　焼土粒・焼土ブロック・炭化物・灰多量（カマド天井崩落土）
4　黒色土　灰層　焼土粒少量
5　黒褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量
6　暗褐色土　4層近似　炭化物多量
7　暗褐色土　焼土粒・炭化物多量
8　暗灰褐色土　2層と近似（SJ178カマドソデ）
9　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量（SJ178カマド掘り方）

第373図　第194号住居跡

第374図　第194号住居跡出土遺物

第194号住居跡出土遺物観察表（第374図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	3.5		ABJ	普通	橙	100	カマド	
2	土師甕	(19.0)			ABFJ	普通	橙	20	覆土	

第196号住居跡（第375・376図）

K・L－16グリッドに位置する。第197・214号住居跡と重複し、2軒の住居跡をきっている。規模は、主軸長東西3.86m、南北2.72m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－89°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、110cm×52cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ104cmが確認できた。

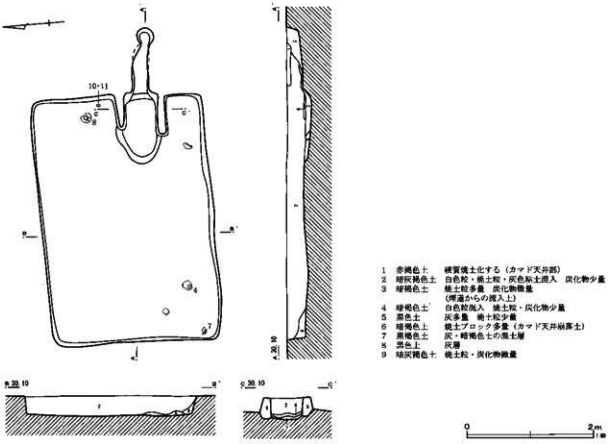
遺物は、土師器坏・高台付椀・甕・台付甕、須恵器坏・高台付椀、灰釉陶器高台付椀・高台付皿が出土した。

第197号住居跡（第377・378図）

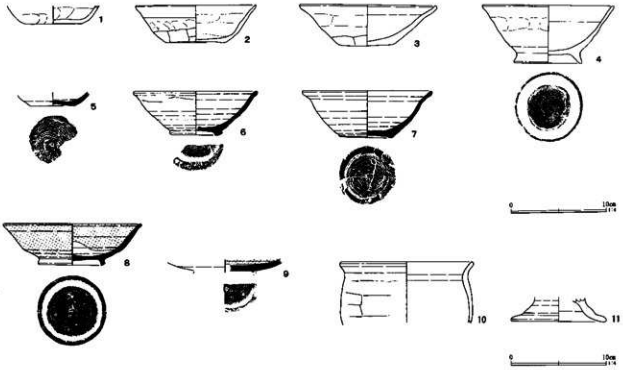
K・L－15・16グリッドに位置する。第196・214号住居跡・第326号土坑と重複し、北東部は第196号住居跡に、南東隅は第326号土坑に切られ、第214号住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.84m、南北4.08m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－99°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、107cm×72cm、深さ26cmを測り、煙道部は長さ55cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台



第375図　第196号住居跡



第376図　第196号住居跡出土遺物

第196号住居跡出土遺物観察表（第376図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(6.0)	ABFJ	普通	黄褐	40	覆土	体部内面ロクロ痕　底部外面手持ちヘラ削り
2	土師坏	(12.6)	3.9	6.4	ABFJ	普通	にぶい赤褐	40	覆土	
3	土師坏	(14.1)	4.4	5.6	AFG	普通	褐灰	80	床直	体部内面下半ロクロナデ
4	土師高台塊	13.6	6.1	6.9	ABK	普通	にぶい橙	60	覆土	ロクロ土師器
5	須恵坏			4.9	AJK	普通	灰	30	覆土	
6	須恵高台塊	(13.0)	4.6	4.8	A	良好	褐灰	30	覆土	底部回転糸切り　周辺ナデ
7	須恵高台塊	13.8	5.0	5.7	AJ	良好	灰白	85	覆土	底部回転糸切り
8	灰釉高台塊	14.4	4.3	6.5	GK	良好	灰白	80	床直	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕　東濃産
9	灰釉高台皿				G	良好	灰白	10	覆土	高台内ヘラ削り　内面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕　浜北産
10	土師甕	(13.6)			ABFG	普通	にぶい橙	15	床直	
11	土師台付甕			(9.8)	ABJ	普通	にぶい橙	40	床直	脚部

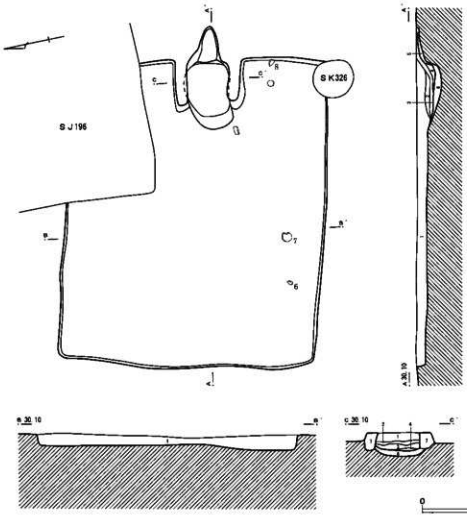
付塊・高台付皿・甕が出土した。

第199号住居跡（第379・380図）

G－16・17グリッドに位置する。第181・189号住居跡と重複し、2軒の住居跡に西壁が切られている。規模は、主軸長南北3.53m、南壁で東西4.13m、深さ19cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－9°－Eを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、80cm×63cmで床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台塊、灰釉陶器高台付皿が出土した。

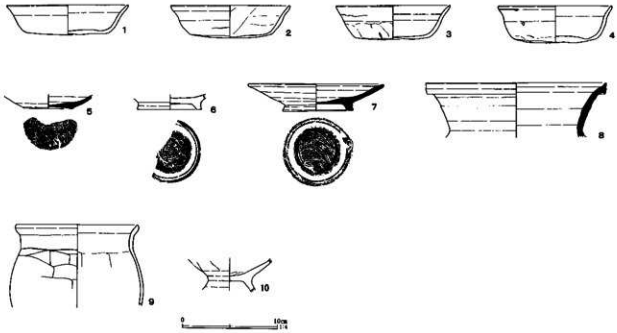


1 暗褐色土　白色粒・焼土粒・炭化物少量
2 暗褐色土　焼土ブロック・炭化物多量（カマド天井崩落上）
3 黒褐色土　焼土粒・炭化物多量
4 黒色土　灰層
5 暗灰褐色土　焼土粒微量　粘土混入（カマド掘り方）
6 暗灰褐色土　焼土粒やや多量　炭化物少量（カマド掘り方）
7 暗灰褐色土　白色粒少量　灰褐色粘土含む

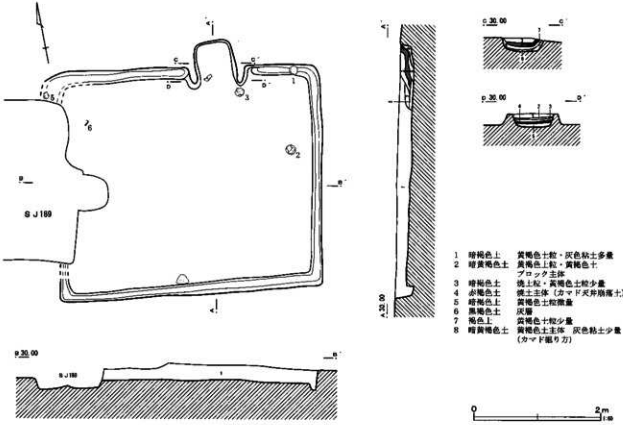
第377図　第197号住居跡

第197号住居跡出土遺物観察表（第378図）

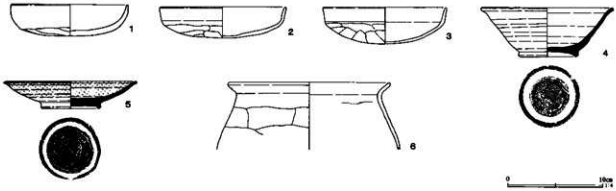
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)	3.1	(8.3)	ABFG	普通	橙	30	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ底部外面中央を除き手持ちヘラ削り
2	土師坏	12.5	3.4	8.7	ABFJ	普通	にぶい橙	90	床直	
3	土師坏	12.1	3.6	7.9	ABFJ	普通	橙	90	覆土	口縁部外面～体部内面ロクロナデ
4	土師坏	(12.0)	3.9		ABFG	普通	橙	40	覆土	
5	須恵坏			(5.1)	AJK	普通	灰	45	覆土	
6	須恵高台椀			6.7	ACJ	良好	にぶい褐	50	床直	酸化焔焼成
7	須恵高台皿	14.3	2.9	7.4	AFJK	良好	にぶい赤褐	90	床直	
8	須恵甕	(18.8)			AK	普通	灰	20	覆土	
9	土師甕	(12.6)			ABF	普通	にぶい赤褐	25	覆土	
10	土師台付甕				AFG	普通	にぶい黄褐	70	覆土	



第378図　第197号住居跡出土遺物



第379図　第199号住居跡



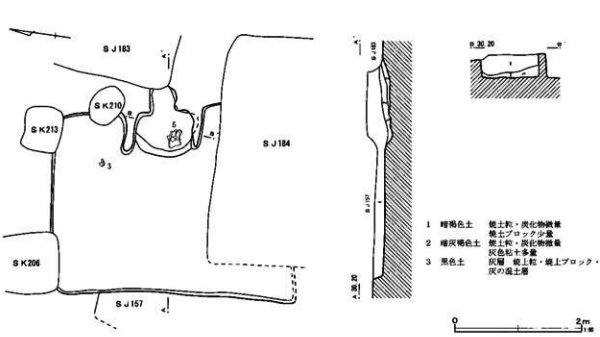
第380図　第199号住居跡出土遺物

第199号住居跡出土遺物観察表（第380図）

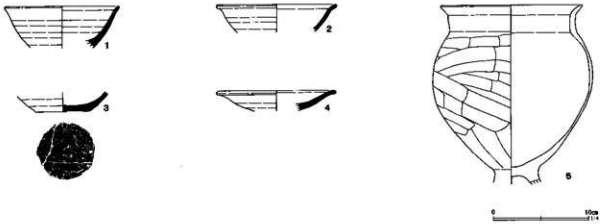
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.2	3.3		ABC	普通	にぶい橙	95	床直	
2	土師坏	13.0	3.3		ABJ	普通	橙	90	床直	
3	土師坏	(13.0)	3.8		ABCJ	不良	にぶい橙	85	カマド	
4	須恵高台椀	14.0	5.2	6.3	AJ	普通	灰	70	覆土	
5	灰釉高台皿	(13.7)	2.9	6.2	AGK	良好	灰白	50	壁溝	高台内へら削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕あり　東濃産
6	土師甕	(16.7)			ABF	普通	にぶい褐	25	覆土	

第200号住居跡（第381・382図）

M・N－12グリッドに位置する。第157・183・184号住居跡・第206・210・213号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西3.00m、西壁で南北3.80m、主軸方位は、N－82°－Eを指す。



第381図　第200号住居跡



第382図　第200号住居跡出土遺物

第200号住居跡出土遺物観察表（第382図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.8)			AJ	普通	灰白	15	覆土	
2	須恵坏	(12.4)			AC	普通	灰	20	覆土	
3	須恵坏			5.8	ACIJ	普通	にぶい橙	80	床直	底部回転糸切り
4	須恵皿	(12.5)			AJ	普通	暗赤灰	15	覆土	
5	土師台付甕	(14.7)			ABJ	普通	にぶい黄橙	90	カマド	台部欠損　口縁部内面に油煙付着

カマドは、東壁やや北寄りに設けられ、先端部分は、第183号住居に切られている。燃焼部は、74cm×100cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ36cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・皿、土師器台付甕が出土した。

第203号住居跡（第383・384図）

J・K－14・15グリッドに位置する。第176・182号住居跡・第255号土坑と重複し、北東隅の壁は、第255号土坑に切られ、南壁と北西部の多くが切られている。規模は、主軸長東西5.14m、推定の南北4.00m程、深さ22cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N－101°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、104cm×28cm、深さ15cm程を測り、煙道部は長さ54cmが確認できた。

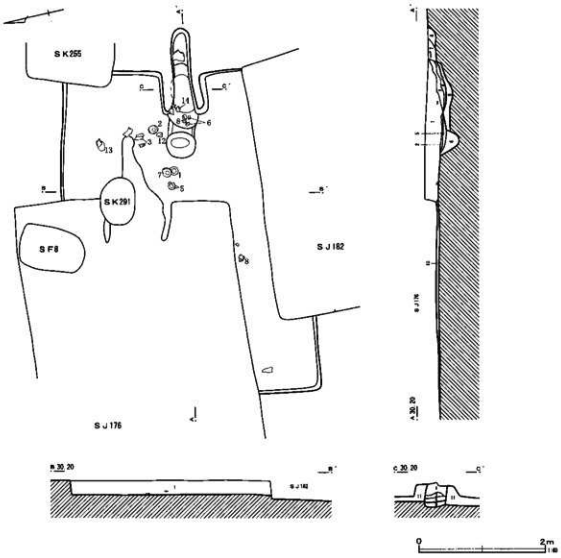
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埦・皿・蓋・甕、灰釉陶器埦が出土した。

第204号住居跡（第385・386図）

G－15・16グリッドに位置する。第190号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.81m、南北2.94m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－96°－Eを指す。

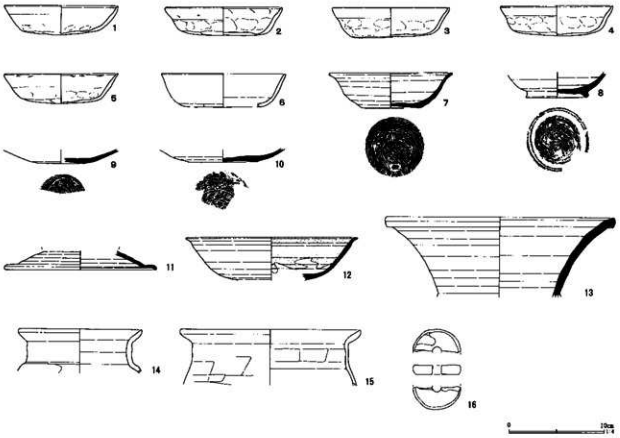
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、108cm×67cmで床面と同じ高さで、煙道部は長さ106cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕と鉄製品が出土した。6は角棒状の鉄製品である。現存長は3.2cm。用途は不明である。



1　暗灰褐色土　焼土粒やや多量　炭化物少量　白色粒微量
2　褐色土　焼土・灰の混土
3　暗灰褐色土　焼土粒多量　炭少量（カマド火井崩落土）
4　黒褐色土　灰層　焼土粒少量　灰混入
5　黒褐色土　焼土粒少量　炭化物多量　灰混入
6　黒褐色土　灰主体　焼土粒多量
7　暗褐色土　焼土粒少量
8　褐褐色土　焼土粒・炭化物少量
9　暗灰褐色土　焼土粒少量　灰多量（カマド掘り方）
10　暗灰褐色土　焼土粒少量（貼り床）
11　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物微量

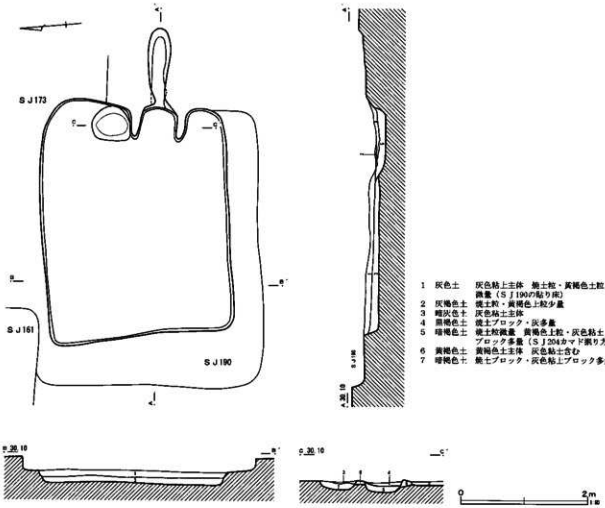
第383図　第203号住居跡



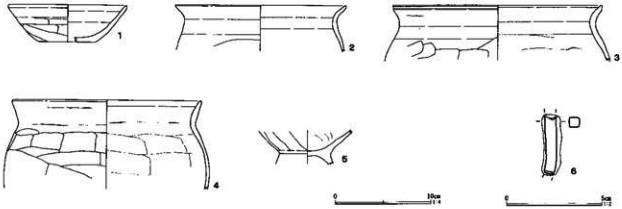
第384図　第203号住居跡出土遺物

第203号住居跡出土遺物観察表（第384図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.0	3.1	8.0	ABJ	普通	橙	100	床直	
2	土師坏	12.2	3.0	9.0	ABJ	普通	にぶい橙	100	覆土	
3	土師坏	12.3	3.2	8.4	ABJ	普通	にぶい橙	95	覆土	
4	土師坏	11.9	3.2	9.1	ABJ	良好	にぶい褐	70	覆土	
5	土師坏	12.0	3.2	8.4	ABCJ	普通	橙	90	覆土	底部ヘラ削り
6	土師坏	(12.9)	(3.5)		ABJ	普通	橙	25	カマド	歪みあり
7	須恵坏	13.0	3.7	6.5	AJK	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
8	須恵高台坏			6.6	AGJ	良好	灰	60	覆土	底部回転糸切り
9	須恵皿			(5.0)	AJ	良好	灰	35	覆土	底部回転糸切り
10	須恵皿			(7.2)	AK	良好	オリーブ灰	15	覆土	底部回転糸切り
11	須恵蓋	(15.8)			AG	良好	灰	10	覆土	
12	灰釉壺	(18.0)	(4.5)		AJ	良好	灰	15	覆土	施釉ハケヌリ　二川産
13	須恵甕	(23.9)			AJK	良好	灰	45	覆土	外面自然釉
14	土師甕	(12.9)			ABC	良好	にぶい赤褐	15	カマド	
15	土師甕	(18.8)			ACF	普通	橙	20	カマド	
16	紡錘車	径5.0 孔径0.9 厚さ1.0					灰	50	覆土	須恵器の転用



第385図　第204号住居跡



第386図　第204号住居跡出土遺物

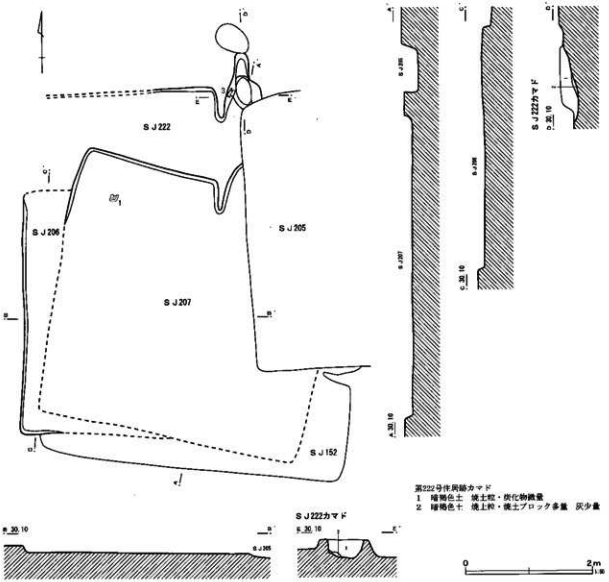
第204号住居跡出土遺物観察表（第386図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.3)	3.9	(6.0)	AF	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
2	土師甕	(17.7)			AFJ	良好	にぶい黄橙	15	覆土	
3	土師甕	(21.7)			AFJ	良好	灰黄	20	覆土	
4	土師甕	(19.5)			BFJ	普通	浅黄橙	40	覆土	
5	土師台付甕				A	良好	灰黄	70	覆土	

第206号住居跡（第387図）

L－14グリッドに位置する。第152・206・207・222号住居跡と重複しているが切りあい関係は不明である。規模は、西壁で主軸長南北3.82m、東西0.72mが確認できたのみで、深さ10cm程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N－2°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。



第387図 第206・207・222号住居跡

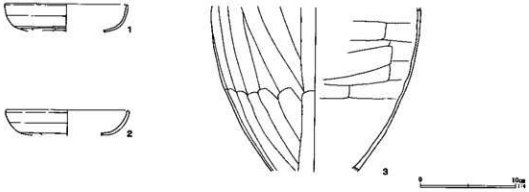
第207号住居跡（第387・388図）

L－14グリッドに位置する。第152・205・206・222号住居跡と重複しているが、第205号住居跡に切られている以外は不明である。規模は、主軸長南北不明、北壁で確認できた東西2.94m、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N－5°－Eを指す。

第388図　第207号住居跡出土遺物

第207号住居跡出土遺物観察表（第388図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.9)	3.9	8.8	ABCJ	普通	にぶい褐	60	床直	やや歪みあり　内面暗文



第389図　第222号住居跡出土遺物

第222号住居跡出土遺物観察表（第389図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)			ABF	普通	にぶい褐	15	カマド	
2	土師坏	(12.8)			BF	普通	橙	20	カマド	
3	土師甕				ABC	良好	橙	－	カマド	

カマドは、北壁に設けられているが、掘り方のみの確認で詳細は不明である。

遺物は、土師器坏が出土した。

第222号住居跡（第387・389図）

L－14グリッドに位置する。第205・206・207号住居跡と重複しているが、第205号住居跡に切られている以外は不明である。カマドのみの確認である。カマド主軸方位は、N－0°－Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。一部、第205号住居跡に切られているが、燃焼部は、114cm×55cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ38cmが確認できた。

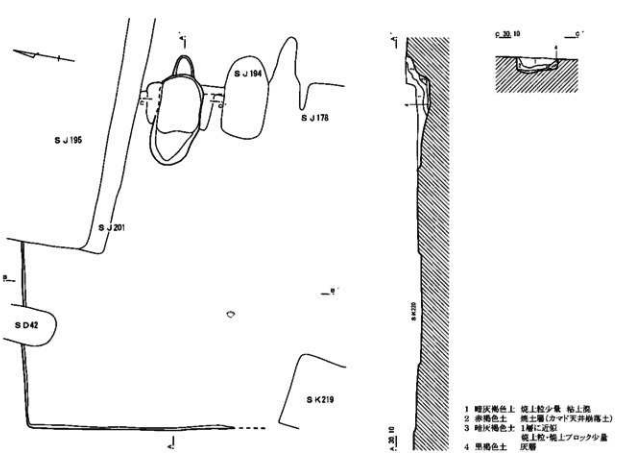
遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第208号住居跡（第390・391図）

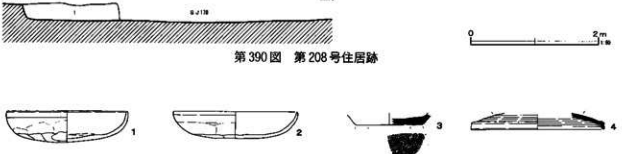
L－13グリッドに位置する。第178・194・195・201号住居跡・第219・220号土坑・第42号溝と重複し、第220号土坑に中央付近が切られ、いずれの遺構にも切られている。規模は、主軸長東西5.28m、西壁で確認できた南北3.25m、深さ25cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－81°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、145cm×65cm、深さ22cmを測り、煙道部は長さ29cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋が出土した。



第390図 第208号住居跡



第391図 第208号住居跡出土遺物

第208号住居跡出土遺物観察表（第391図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	3.3		ABJ	普通	橙	55	カマド	
2	土師坏	(12.8)	2.8		ABFG	普通	にぶい橙	10	覆土	
3	須恵坏			(7.0)	AGH	良好	灰オリーブ	20	覆土	底部右回転周辺ヘラ削り

第208号住居跡出土遺物観察表（第391図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
4	須恵蓋	(14.0)			AJ	良好	灰	20	カマド	天井部回転ヘラ削り
5	土師甕	(21.6)			ABF	良好	橙	30	カマド	
6	土錘	長さ4.7 径0.95 孔径0.2				普通	黄灰	100	覆土	

第209号住居跡（第392・393図）

L－12グリッドに位置する。第127・148号住居跡・第109・349号土坑・第14号溝と重複し、住居跡に南壁・北壁が切られ住居跡内が土坑・溝に切られている。規模は、主軸長東西4.68m、南北3.18m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－99°－Eを指す。

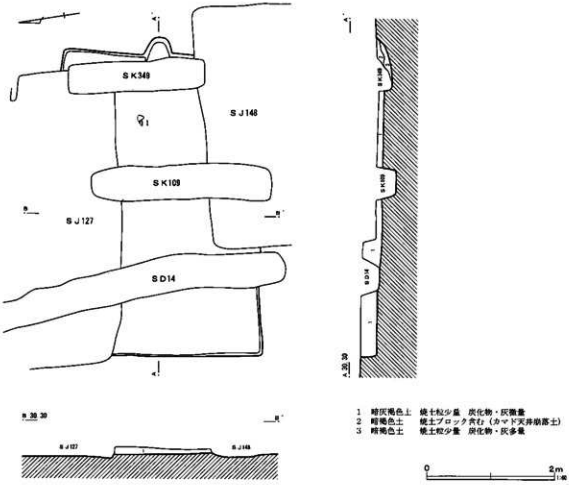
カマドは、東壁に設けられている。カマド前が土坑によって切られているため、確認できた燃焼部は、45cm×45cm、深さ15cmを測る。

遺物は、須恵器坏・高台付埦、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器破片が出土した。

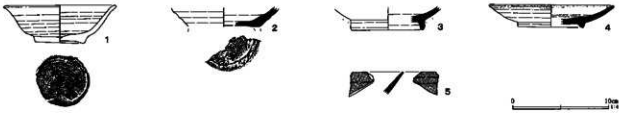
第210号住居跡（第394・395図）

L－12・13グリッドに位置する。第148号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.88m、南北3.32m、深さ18cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－88°－Eを指す。

壁溝は、南壁のみで確認され、幅10～18cm、深さ5cm程を測る。



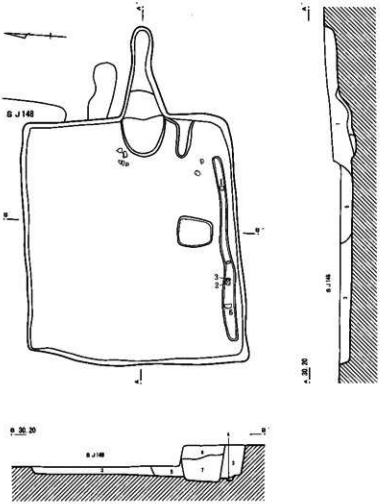
第392図 第209号住居跡



第393図　第209号住居跡出土遺物

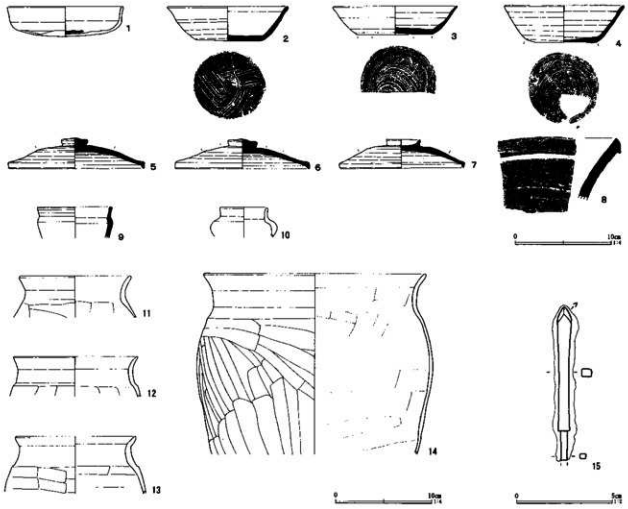
第209号住居跡出土遺物観察表（第393図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.5)	3.9	5.1	ACFJ	普通	浅黄橙	70	床直	酸化焔焼成
2	須恵高台塊				ABCD	普通	浅黄橙	25	覆土	高台部剥離
3	須恵高台塊			(7.3)	A	良好	灰	15	覆土	体部外面下端に右回転ヘラ削り
4	灰釉高台皿	(13.0)	2.3	(6.7)	GJ	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
5	緑釉陶器				—			破片	覆土	猿投産



1　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量
　　灰・炭化物少量
2　黒色土　灰層　焼土粒多量
3　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
4　黒褐色土　焼土粒・炭化物微量
5　暗褐色土　焼土粒・炭化物少量（SJ148覆土）
6　黒褐色土　白色粒少量　焼土粒・炭化物微量
　　（ピット覆土）
7　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量（ピット覆土）

第394図　第210号住居跡



第395図　第210号住居跡出土遺物

第210号住居跡出土遺物観察表（第395図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.9	3.1		AB	良好	橙	80	壁溝	口縁部内外面横ナデ　底部内面油煙付着
2	須恵坏	12.4	3.7	6.8	AEK	普通	黄灰	75	覆土	底部外面手持ちヘラ削り
3	須恵坏	(12.8)	4.0	7.8	AHJ	良好	灰白	40	壁溝	底部周辺右回転ヘラ削り
4	須恵坏	12.6	3.9	7.5	AHJ	良好	褐灰	85	掘り方	やや歪みあり
5	須恵蓋	(14.0)	3.2		AJ	良好	灰	60	覆土	天井部回転ヘラ削り　つまみ径2.8
6	須恵蓋	(13.9)	3.1		AJ	良好	灰	70	壁溝	天井部外面左回転ヘラ削り　つまみ径3.05
7	須恵蓋	12.8	3.1		AJK	良好	灰	100	掘り方	天井部回転ヘラ削り　つまみ径3.5
8	須恵甕				AJ	良好	灰	破片	覆土	
9	須恵小形壺	(7.7)			A	良好	灰	10	覆土	
10	ミニチュア	(4.7)			AB	普通	橙	10	覆土	
11	土師甕	(11.5)			ABC	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
12	土師甕	(12.8)			ABC	普通	にぶい褐	15	覆土	
13	土師甕	(12.4)			BCF	普通	にぶい褐	25	覆土	
14	土師甕	(22.9)			ABFJK	良好	にぶい橙	30	掘り方	
15	鉄製品						—	—	覆土	

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、103cm×70cm、深さ10cmを測り、煙道部は長さ100cmが確認できた。

また、南壁寄りにある土坑は、住居跡を切り床面も掘り込み、住居跡に関する土坑ではない。

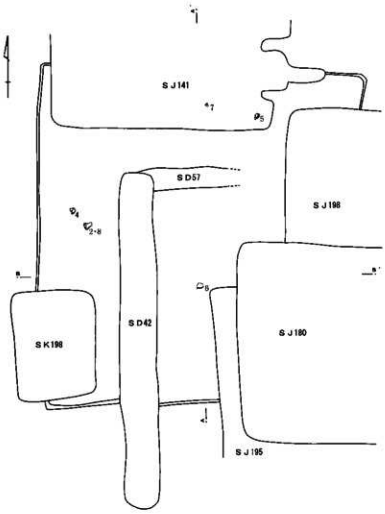
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・小型壺、ミニチュア土器と鉄製品が出土した。15は鉄鏃である。錆化が著しく、鏃身部の形状は推定であるが、鑿箭式と呼ばれる無関の三角形鏃と考えられる。現存長は7.9cm、鏃身部の長さは6.4cmである。関は角関である。

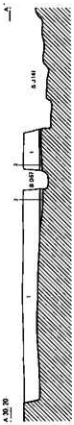
第211号住居跡（第396・397図）

K・L－13グリッドに位置する。第141・180・195・198号住居跡・第198号土坑・第42・57号溝と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長西壁で南北5.41m、北壁で東西5.10m、深さ25cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は西壁を基準値すると、N－1°－Eを指す。

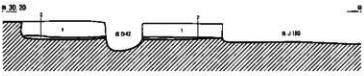
カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付埦・皿、灰釉陶器高台付埦・高台付皿と鉄製品が出土した。11は用途不明の管状鉄製品である。長さは2.9cm、最

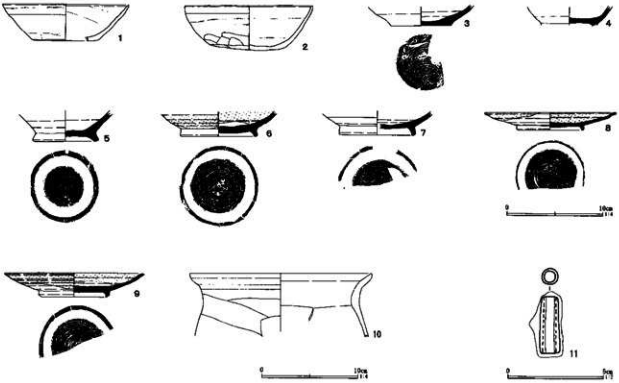




1　暗灰褐色土　焼土粒少量　炭化物微量　炭・粘土流入
2　暗灰色土　　粘土主体　焼土粒・炭化物微量（貼り床）



第396図　第211号住居跡



第397図　第211号住居跡出土遺物

第211号住居跡出土遺物観察表（第397図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)	3.8	(7.0)	ABCFJ	普通	橙	40	覆土	やや磨耗する
2	土師坏	13.4	4.7	7.9	ABFJK	普通	橙	90	床直	底部外面外周部のみヘラ削り
3	須恵皿			(5.8)	A	普通	にぶい黄橙	40	覆土	底部回転糸切り　内面に赤色顔料付着
4	須恵高台椀				ABCJ	普通	にぶい黄橙	70	床直	高台欠損
5	須恵高台椀			6.8	AC	普通	灰黄	80	床直	
6	灰釉高台椀			7.6	AG	良好	灰白	75	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕　浜北産
7	灰釉高台椀			(7.6)	AJ	普通	灰白	40	カマド	高台内ヘラ削り　施釉なし　東濃産
8	灰釉高台皿	(13.8)	1.9	6.8	GJ	良好	灰白	40	床直	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東濃産
9	灰釉高台皿	(14.6)	2.6	6.7	AG	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ一筆　東濃産
10	土師甕	(18.8)			AB	普通	にぶい橙	15	覆土	

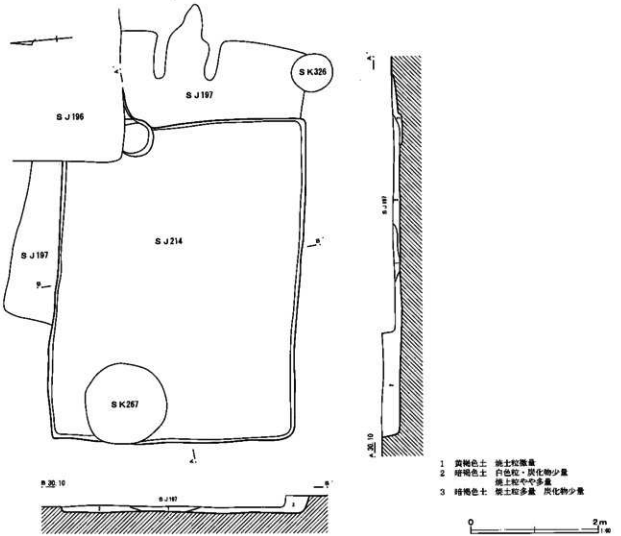
大径は1.0cmである。

第214号住居跡（第398・399図）

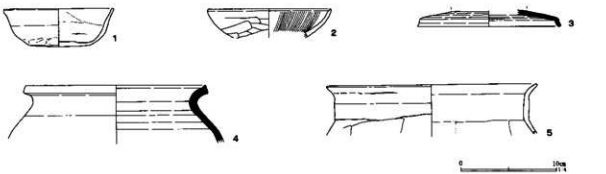
K・L－15・16グリッドに位置する。第196・197号住居跡・第267号土坑と重複し、すべての遺構に切られ、住居跡により住居跡上部が切られている。規模は、主軸長東西4.98m、南北3.87m、深さ28cm程を測る。平面形は、やや歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N－97°－Eを指す。

カマドは、東壁で北に片寄って設けられている。北半は住居跡によって切られ、確認できたのは50cm×46cm、深さ8cm程を測り、煙道部は57cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋・甕が出土した。



第398図 第214号住居跡



第399図 第214号住居跡出土遺物

第214号住居跡出土遺物観察表（第399図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.5	3.9	6.6	ABFJ	普通	にぶい橙	70	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
2	土師坏	(12.8)			AB	良好	橙	15	覆土	暗文土器
3	須恵蓋	(14.9)			AFJ	良好	灰黄	15	覆土	
4	須恵甕	(18.7)			AJ	普通	灰	15	覆土	
5	土師甕	(21.8)			ABF	良好	にぶい橙	25	覆土	

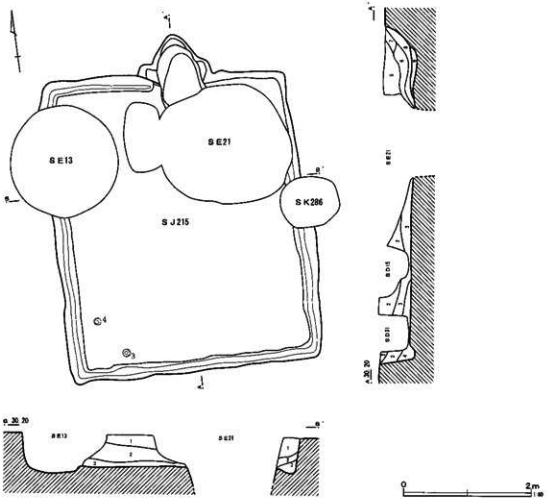
第215号住居跡（第400・401図）

Ⅰ・Ｊ－15グリッドに位置する。第286号土坑・第13・21号井戸跡・第15・31号溝と重複し、すべての遺構に切られ、南壁に沿って第31号溝が東西に貫通し、中央やや南寄りに第15号溝が東西に貫通している。北西の壁を、第13号井戸が切り、カマド付近から北東隅を第21号井戸が切っている。規模は、主軸長南北4.76ｍ、東西4.06ｍ、深さ50cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－0°－Ｅを指す。

壁溝はほぼ全周し、幅17～25cm、深さ7～10cmを測る。

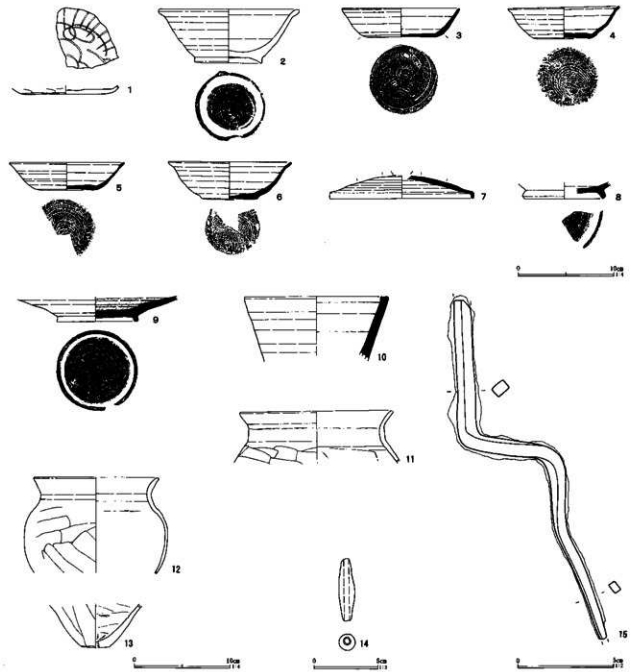
カマドは、北壁に設けられている。カマド前面は第21号井戸により切られており、燃焼部は、87cm×70cmが残存し、確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付埦・甕、須恵器坏・蓋・鉢、土錘と鉄製品が出土した。15は角棒状の鉄製品である。大きく屈曲しねじれている。のばした現存長は21.5cmほどになる。



1　暗褐色土　焼土粒少量　炭化物微量
2　灰褐色土　焼土粒多量　炭化物微量　黄褐色土粒少量
3　褐色土　焼土粒・炭化物・黄褐色土粒微量
4　灰褐色土　焼土粒・炭化物少量　黄褐色土粒多量
5　灰褐色土　白色粒微量　焼土粒・炭化物・灰褐色粘土粒少量
6　明灰褐色土　焼土粒少量　炭化物微量　灰褐色粘土粒多量
7　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物多量
8　暗赤褐色土　焼土粒多量　炭化物微量（カマド天井崩落土）
9　灰褐色土　焼土粒・炭化物微量（カマド掘り方）

第400図　第215号住居跡



第401図　第215号住居跡出土遺物

第215号住居跡出土遺物観察表（第401図）

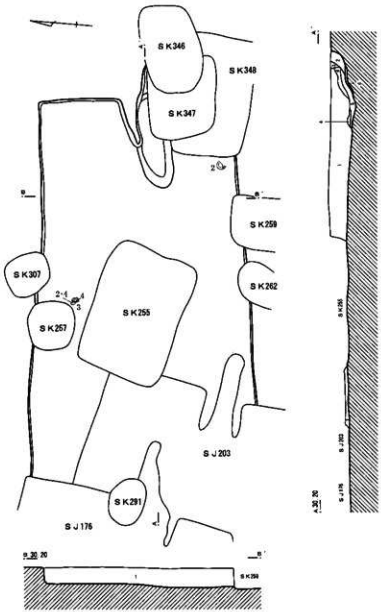
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(9.3)	ACJ	良好	にぶい褐	25	覆土	暗文
2	土師高台椀	(14.4)	5.6	6.8	AFJ	普通	にぶい黄橙	60	覆土	ロクロ土師器
3	須恵坏	12.3	3.0	7.1	ACJK	良好	灰	100	床直	体部下端ヘラ削り　底部全面ヘラ削り
4	須恵坏	11.7	3.3	6.0	AHJK	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
5	須恵坏	(12.0)	2.9	6.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
6	須恵坏	(13.0)	3.9	5.8	AJK	良好	灰	40	覆土	
7	須恵蓋	(15.0)			AHJ	良好	黄灰	10	覆土	天井部回転ヘラ削り
8	灰釉高台椀			(8.1)	GH	普通	灰黄	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉なし　二川産

第215号住居跡出土遺物観察表（第401図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
9	灰釉高台皿			8.4	AGJ	良好	灰	70	覆土	
10	須恵鉢	(15.0)			ACG	普通	黄灰	15	覆土	
11	土師甕	(16.0)			AFJ	普通	褐	15	覆土	
12	土師甕	(12.8)			ABFJ	普通	にぶい褐	30	覆土	
13	土師甕			(3.0)	ABCFJ	普通	にぶい褐	15	覆土	
14	土錘	長さ4.9 径1.6 孔径0.3				普通	にぶい黄橙	100	覆土	

第216号住居跡（第402・403図）

J・K－14・15グリッドに位置する。第176・203号住居跡・第255・257・259・262・307・346・347・348号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西は、南壁で確認でき5.93 m、南北3.54 m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方

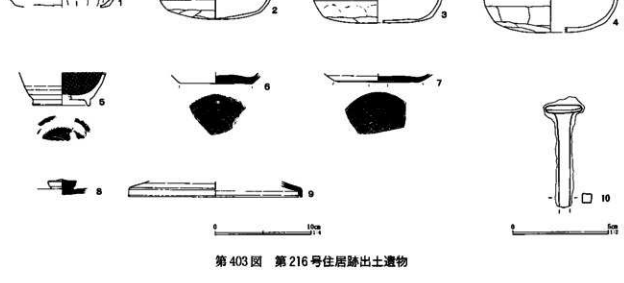


第402図 第216号住居跡

形を呈する。主軸方位は、N－83°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。南東半が土坑に切られ、燃焼部は、148cm×55cm、深さ10cm程が確認でき、煙道部は、長さ44cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付坏、須恵器埦・蓋と鉄製品が出土した。10は鉄製釘である。脚部を含む基部下半を欠き、現存長は5.3cmである。



第403図　第216号住居跡出土遺物

第216号住居跡出土遺物観察表（第403図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.7)		(9.8)	AB	良好	橙	15	覆土	暗文土器
2	土師坏	12.0	3.5		ABFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
3	土師坏	(13.4)	3.8		ABCFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
4	土師坏	(14.0)	4.8		ABFJ	普通	にぶい橙	20	覆土	
5	土師高台坏			(5.9)	J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	黒色土器
6	須恵埦			(7.4)	AGH	良好	灰オリーブ	20	覆土	内面のみ酸化焔焼成
7	須恵埦			(8.0)	AH	良好	灰	25	覆土	体部下端外面～底部右回転ヘラ削り
8	須恵蓋				AH	普通	灰	60	覆土	つまみ径3.0
9	須恵蓋	(18.0)			JK	不良	灰	10	覆土	

第217号住居跡（第404・405図）

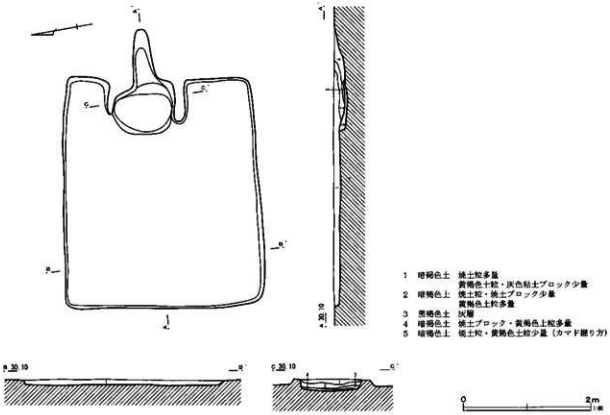
J－16・17グリッドに位置する。第267号住居跡と重複し、上部を切っている。規模は、主軸長東西3.60m、南北3.10m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃焼部は、78cm×95cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ86cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付埦、灰釉陶器高台付埦が出土した。

第218号住居跡（第406・407図）

J－16グリッドに位置する。第229・247号住居跡、第376・380・425号土坑と重複し、土坑に切られ、第229号住居跡の上部を切り、第247号住居跡を切っている。カマドの一部は、第376・379号土坑に切られている。規模は、主軸長東西5.24m、南北2.90m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方



第404図　第217号住居跡

第405図　第217号住居跡出土遺物

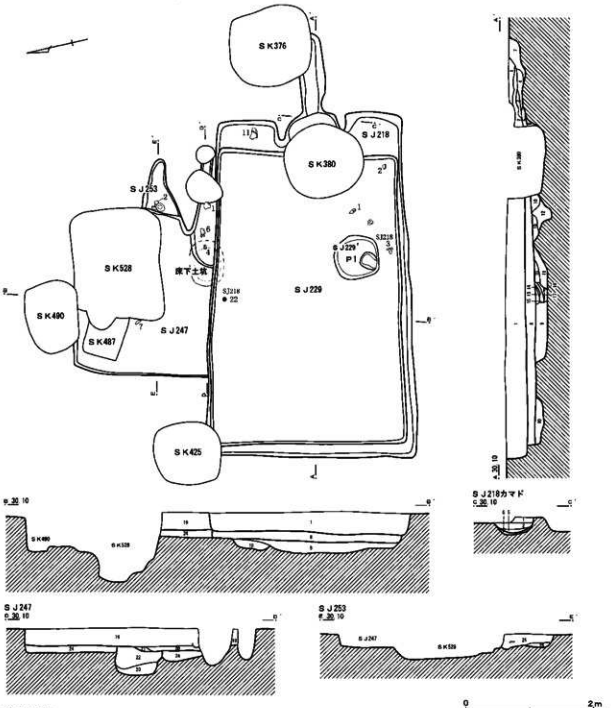
第217号住居跡出土遺物観察表（第405図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			5.6	ACJ	良好	灰	50	覆土	底部回転糸切り
2	須恵坏			(7.8)	AJ	良好	褐灰	25	覆土	底部ヘラ記号「×」
3	須恵高台椀			7.0	AJK	良好	灰黄褐	60	覆土	底部回転糸切り
4	灰釉高台椀			(8.0)	AJ	良好	灰白	20	覆土	高台内糸切り　施釉なし　東濃産

形を呈する。主軸方位は、N－104°－Eを指す。

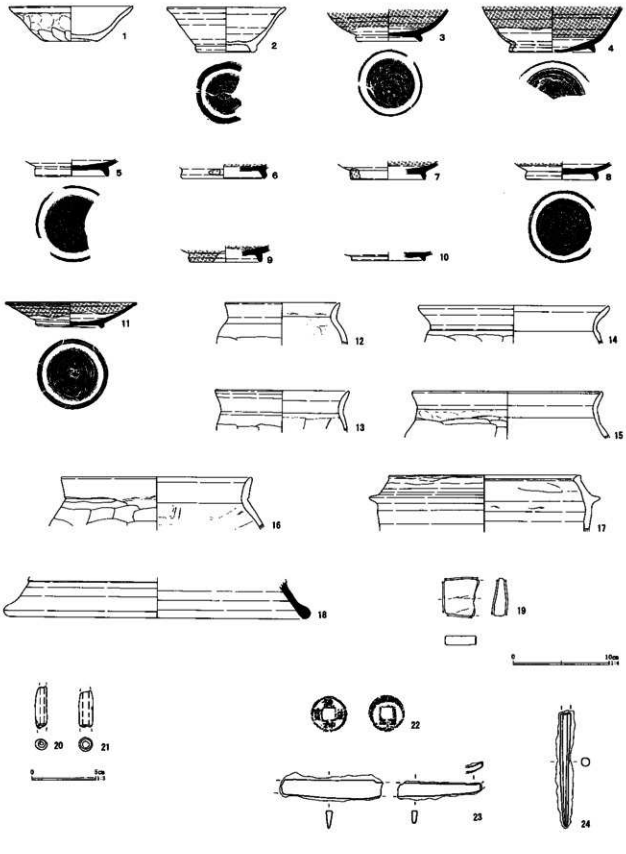
カマドは、東壁に設けられている。確認できた燃焼部は、34cm×83cmで床面と同じ高さである。煙道部は、長さ106cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付椀・甕・羽釜、灰釉陶器高台付椀・高台付皿、砥石、土錘、古銭と鉄製品が出土した。23は鉄製刀子である。現存長5.2cmの関部を含む刃部片と、現存長4.4cmで茎先を欠く茎部に分かれる。同一個体と推定される。刃幅は0.9cm、刃関の浅い両関の刀子である。24は丸棒状の鉄製品である。先端部を有し、現存長は6.0cmである。用途は不明であるが、紡錘車の軸部の可能性もある。



第218号住居跡
1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量
2 暗灰色土 灰色土主体 焼土粒・炭化物少量
3 赤褐色土 焼土粒多量（カマド天井崩落土）
4 暗褐色土 焼土粒多量 灰少量
5 黒褐色土 灰層 焼土粒・黄褐色土粒多量
6 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量（カマド掘り方）
7 暗褐色土 焼土ブロック多量（煙突天井崩落土）
第229号住居跡
8 暗灰色土 焼土粒・黄褐色土粒多量
9 暗褐色土 焼土粒多量 黄褐色土粒少量
10 灰色土 焼土粒微量 褐色土粒多量（掘り方）
11 褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック少量
12 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土ブロック多量（掘り方）
14 黒色土
15 暗褐色土 黄褐色土多量
16 黒色灰土 灰層 焼土ブロック含む
17 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土粒多量
18 暗灰色土 黄褐色土ブロック多量
第247号住居跡
19 暗褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土粒多量
20 黒色灰土 灰層 焼土ブロック多量 炭化物少量
21 灰色土 粘土層（カマド転付粘土）
22 黒褐色土 焼土粒・炭・黄褐色土ブロック多量（S J 247床下土坑）
23 褐色土 黄褐色土主体（S J 247床下土坑）
24 灰褐色土 白色粒・炭黄褐色土粒多量 焼土粒少量（S J 247貼り床）
25 暗褐色土 黄褐色土粒多量（S J 253カマド）

第406図 第218・229・247・253号住居跡



第407図　第218号住居跡出土遺物

第218号住居跡出土遺物観察表（第407図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.6	5.5	AFJ	普通	浅黄橙	30	覆土	
2	土師高台埦	(12.4)	4.7	6.4	AFJK	普通	にぶい黄橙	40	覆土	ロクロ土師器
3	灰釉高台埦			6.7	AK	良好	灰黄	70	覆土	高台内糸切り　施釉ツケガケ　東遺江産
4	灰釉高台埦			(9.0)	A	良好	灰	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕　浜北産
5	灰釉高台埦			7.7	A	良好	灰白	60	覆土	高台内ヘラ削り　釉なし　東遺産
6	灰釉高台埦			(8.4)	A	良好	灰黄	10	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　東遺江産
7	灰釉高台埦			(7.7)	A	良好	灰黄	10	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　浜北産
8	灰釉高台埦			7.2	AG	良好	灰白	90	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　浜北産
9	灰釉高台埦			(7.3)	A	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ　東遺産
10	灰釉高台皿			(7.7)	A	良好	灰白	15	覆土	高台内糸きり　施釉なし　東遺産
11	灰釉高台皿	(13.7)	2.7	7.2	A	良好	灰黄	60	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　東遺江産
12	土師甕	(12.0)			ABFJ	普通	にぶい橙	25	覆土	
13	土師甕	(14.0)			ABFJ	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
14	土師甕	(20.0)			ABFJ	普通	浅黄橙	15	覆土	
15	土師甕	(20.0)			AJ	普通	灰黄褐	10	覆土	
16	土師甕	(20.0)			ABCJ	普通	にぶい褐	15	覆土	
17	土師羽釜	(20.0)			ABFJ	普通	にぶい黄橙	10	覆土	
18	須恵高台部			(32.0)	AJ	良好	灰	5	覆土	
19	砥石	長さ3.9　幅(3.7)　厚さ1.1				－	－	－	覆土	
20	土錘	長さ(3.3)　径0.9　孔径0.3				普通	灰黄	80	覆土	
21	土錘	長さ(2.95)　径1.1　孔径0.5				普通	橙	60	覆土	
22	古銭	径1.9　孔0.65×0.60　厚さ0.1				－	－		覆土	「饒益神寶」（にょうえきしんぽう）清和天皇貞観元年(859年)発行

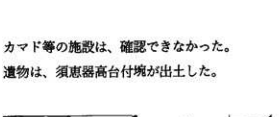
第229号住居跡（第406・408図）

Ｊ－16グリッドに位置する。第218・247・252号住居跡・第380・425号土坑と重複し、２基の土坑に壁の一部と第218号住居跡に上部が切られ、第247・252号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.60ｍ、南北2.96ｍ、深さ47cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－104°－Ｅを指す。

ピットが南壁寄りで確認され、径70cm×65cmの円形で、深さ15cm、南端で28cmを測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

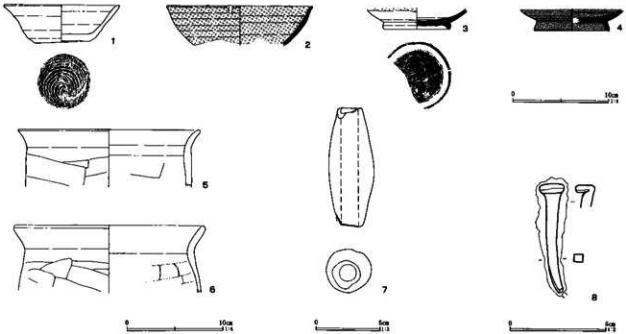
遺物は、須恵器高台付埦が出土した。



第408図　第229号住居跡出土遺物

第229号住居跡出土遺物観察表（第408図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埦	(14.0)	5.0	6.4	ACJK	普通	褐灰	60	覆土	
2	須恵高台埦			6.1	AJK	良好	灰	50	覆土	



第409図　第247号住居跡出土遺物

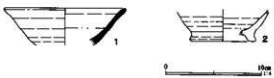
第247号住居跡出土遺物観察表（第409図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.1	4.0	5.9	ABFJ	普通	橙	90	カマド	ロクロ土師器
2	灰釉埦	(14.9)			A	良好	灰白	20	覆土	輪花埦　施釉ツケガケ　東濃産
3	灰釉高台埦			6.8	G	良好	灰白	50	覆土	高台内糸切り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕　東濃産
4	緑釉高台埦			(7.8)	G	良好	暗緑	25	カマド	
5	土師甕	(18.8)			AJ	良好	浅黄	20	覆土	
6	土師甕	(19.6)			ABJ	良好	橙	25	カマド	
7	土錘	長さ9.2　径3.5　孔径1.35				普通	灰白	90	床直	

第247号住居跡（第406・409図）

J－16グリッドに位置する。第218・229・253号住居跡・第487・490・528号土坑・ピットと重複し、土坑・住居跡のいずれの遺構にも切られている。規模は、主軸長東西2.52m、確認できた南北2.06m、深さ28cm程を測る。主軸方位は、N－103°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。ピットに切られ、更に北半しか確認できないが燃焼部は、102cm深さ7cm程残存していた。煙道部は、ピットに切られ不明である。



第410図　第253号住居跡出土遺物

第253号住居跡出土遺物観察表（第410図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.4)			ABC	普通	灰黄	20	カマド	
2	土師高台埦		6.3	(7.0)	BCFJ	普通	橙	40	カマド	ロクロ土師器

遺物は、土師器坏・甕、灰釉陶器椀・高台付椀、緑釉陶器高台付椀、土錘と鉄製品が出土した。8は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は5.7cmである。基部先端を叩いて頭部を作り、折り曲げている。

第253号住居跡（第406・410図）

J－16グリッドに位置する。第253号住居跡に切られ、カマドのみの検出である。主軸方位は、N－105°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。確認できた燃焼部は、82cm×58cmが残存していた。

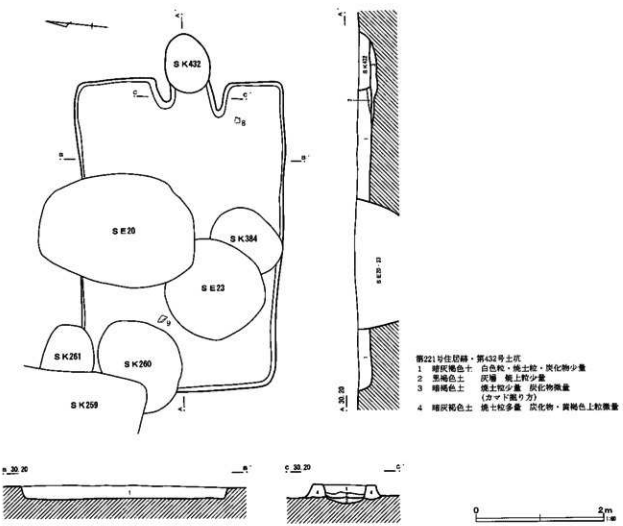
遺物は、須恵器坏、土師器高台付椀が出土した。

第221号住居跡（第411・412図）

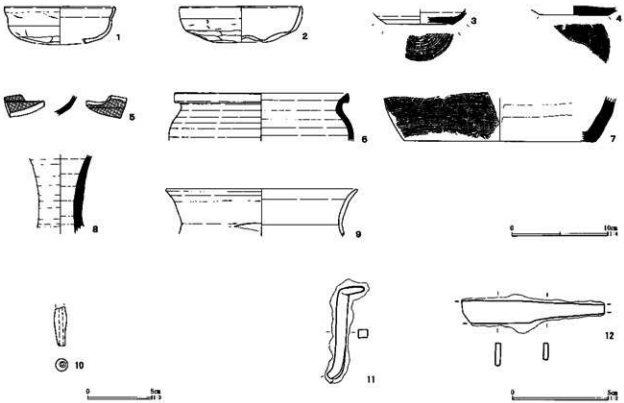
K－15グリッドに位置する。第259・260・261・384・432号土坑・第20・23号井戸跡と重複し、土坑・井戸跡すべてに切られている。規模は、主軸長東西4.78m、南北3.20m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－84°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられ、ほぼ第432号土坑に壊されている。確認できた燃焼部は、35cm×67cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器椀・甕、緑釉陶器、土錘と鉄製品が出土した。11は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は5.0cmである。基部の端を叩いて頭部としている。12は延板状の鉄製品である。現存長7.5cm。一見刀子に見えるが、刃はなく用途は不明である。



第411図 第221号住居跡



第412図　第221号住居跡出土遺物

第221号住居跡出土遺物観察表（第412図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.6)	3.8		ADJ	普通	橙	20	カマド	
2	土師坏	(12.6)	3.8		ABCJ	普通	にぶい橙	40	覆土	やや歪みあり
3	須恵坏			(7.0)	AB	良好	黄灰	25	覆土	底部回転糸切り
4	須恵坏			(7.0)	BH	良好	灰白	35	覆土	底部回転ヘラ削り
5	緑釉陶器						―	破片	カマド	
6	須恵甕	(18.0)			AJK	良好	灰	10	覆土	
7	須恵甕			(20.0)	J	良好	灰	20	覆土	
8	須恵長頸瓶				HJ	良好	灰	100	床直	
9	土師甕	(20.0)			ABFJ	普通	橙	10	覆土	
10	土錘	長さ(3.0)		径0.95	孔径0.3	普通	にぶい黄橙	90	覆土	

第223号住居跡（第413・414図）

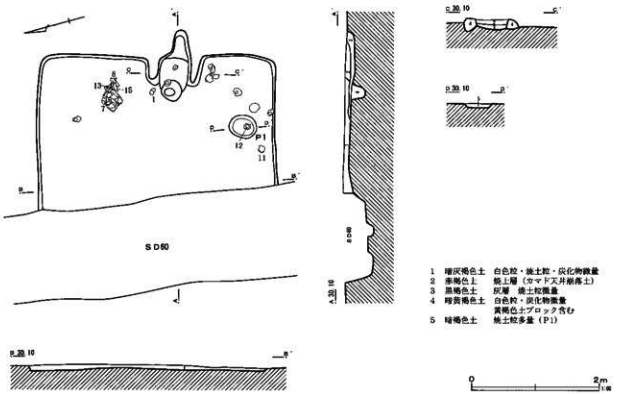
L－17グリッドに位置する。第225号住居跡・第60号溝と重複し、西半部が溝に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長の確認できた東西2.42m、南北3.66m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－108°－Eを指す。

南壁寄りにピット1基が検出され、径45cm×37cm、深さ7cm程を測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、50cm×52cmで、深さは床面と同じ高さである。煙道部は、長さ43cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器高台付椀・皿、土錘と鉄製品が出土した。14は厚さ約0.1cmの

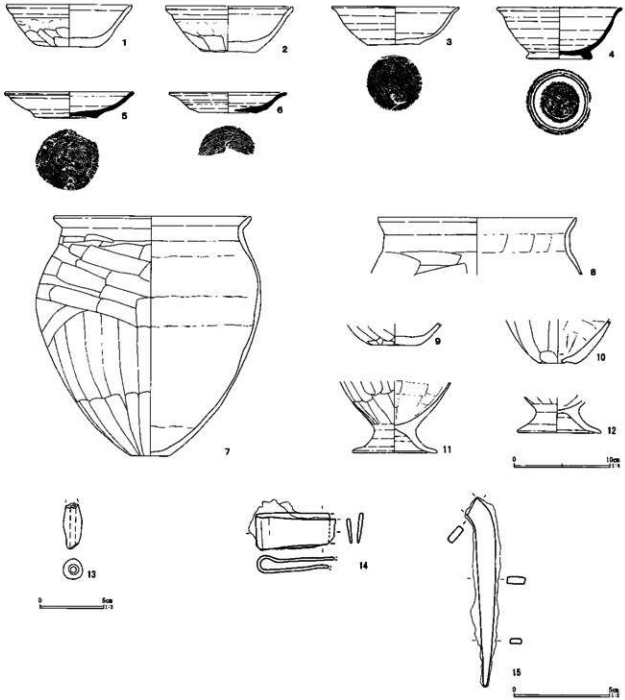
鉄板が二つ折りになったものである。現存長は4.2cm、幅は1.3～1.6cmである。15は延板状の鉄製品である。一方の端部は細くなり、反対側はカーブしている。現存長は9.8cmである。1・2ともに用途は不明である。



第413図 第223号住居跡

第223号住居跡出土遺物観察表（第414図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	4.4	6.4	ABFJK	普通	橙	70	覆土	体部内面ロクロ痕
2	土師坏	13.4	4.8	5.8	ABFJ	普通	褐	60	覆土	
3	土師坏	(13.2)	4.0	5.5	ABFJ	普通	橙	60	覆土	ロクロ土師器 底部回転糸切り
4	須恵高台塊	(13.0)	5.4	6.9	AFJK	良好	灰	40	覆土	歪み大きい
5	須恵Ⅲ	13.5	2.8	6.5	AJK	良好	灰褐	100	覆土	歪み大きい
6	須恵Ⅲ	(12.2)	2.1	(6.0)	AJK	良好	灰	15	カマド	底部回転糸切り
7	土師甕	20.6	25.0	(4.0)	ABFGJ	普通	にぶい赤褐	90	床直	
8	土師甕	(20.6)			ABFK	普通	灰黄褐	20	床直	
9	土師甕			(5.0)	AFJ	普通	にぶい橙	40	覆土	底部外面一方向ヘラ削り
10	土師甕			(4.2)	ABFJ	普通	黒褐	30	覆土	
11	土師台付甕			(8.7)	ABF	良好	にぶい黄橙	60	床直	
12	土師台付甕			(8.6)	ABDJ	普通	褐灰	70	床直	
13	土錘	長さ(3.15) 径1.45 孔径0.4～0.45					黒褐	70	床直	



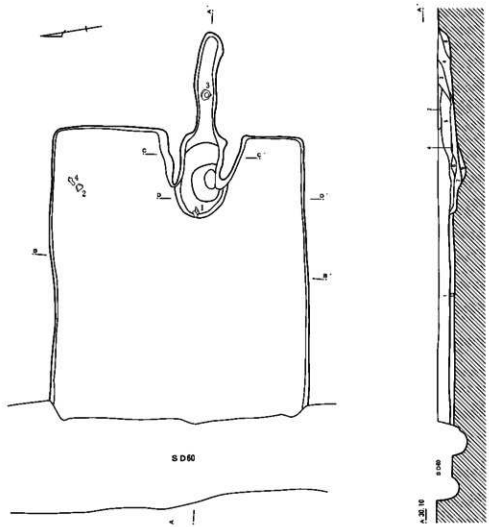
第414図　第223号住居跡出土遺物

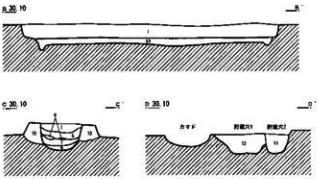
第224号住居跡（第415・416図）

L・M－17グリッドに位置する。第244号住居跡と重複している。西壁は、第60号溝に壊されている。規模は、主軸長東西（4.00）m、南北4.04m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－104°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、160cmが残存していた。煙道部は、長さ98cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器高台埦・瓶底部、灰釉陶器高台付埦が出土した。



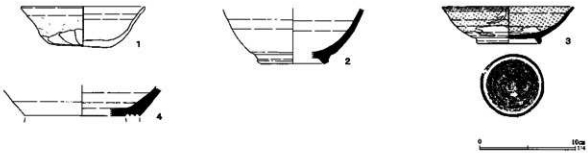


第224・244号住居跡

1　暗褐色土　白色粒多量　焼土粒・炭化物微量
2　赤褐色土　焼土層（カマド天井残欠）
3　暗褐色土　焼土ブロック多量（カマド天井崩落土）
4　暗灰褐色土　焼土ブロック多量（廃棄からの流入土）
5　暗褐色土　焼土粒多量　炭化物微量
6　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量　炭化物少量（カマド天井崩落土）
7　黒色土　炭層　焼土粒多量　炭化物少量
8　暗赤褐色土　焼土層　炭混入（焼失崩落土）
9　暗褐色土　焼土粒少量（カマド掘り方）
10　暗灰褐色土　白色粒微量　焼土粒部分的に混入　黄褐色土粒ランダムに含む
11　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物少量（貯蔵穴2）
12　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物少量（貯蔵穴1）
13　暗灰褐色土　焼土粒多量　炭化物微量（SJ244）

0　2m
1:40

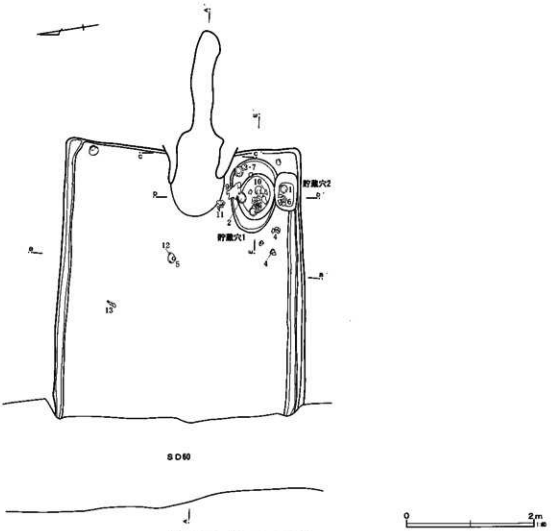
第415図　第224号住居跡



第416図　第224号住居跡出土遺物

第224号住居跡出土遺物観察表（第416図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.0	4.3	6.7	ABFJ	普通	橙	80	カマド	
2	須恵高台椀			(6.5)	BFG	普通	にぶい褐	30	床直	内面黒色
3	灰釉高台椀	13.8	3.9	6.6	AJ	良好	灰白	70	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ一筆 内面に重ね焼き痕　二川産
4	須恵甕				AG	良好	黄褐	20	覆土	高台部剥離　外面自然釉



第417図　第244号住居跡

第244号住居跡（第417・418図）

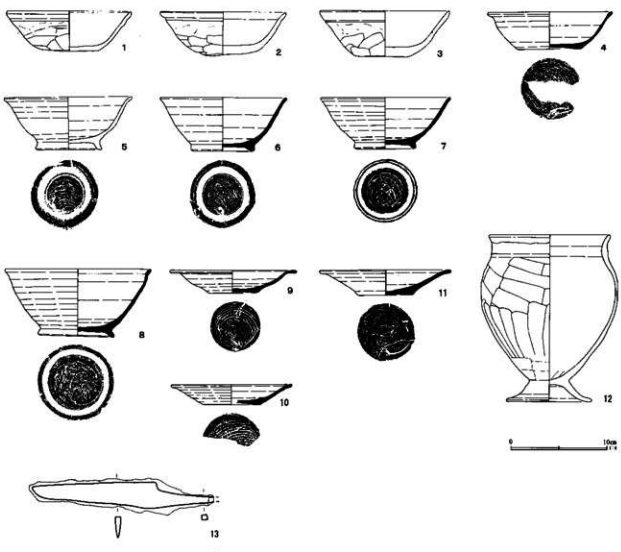
M－17グリッドに位置する。第224号住居跡・第60号溝と重複し、住居跡に上部が切られ、西壁は第60号溝に切られている。規模は、確認できた主軸長東西3.83m、南北4.00m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－102°－Eを指す。

貯蔵穴1は、南東隅に設けられており、104cm×68cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

貯蔵穴2は、南東隅に設けられており、53cm×36cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

カマドは、第224号住居跡に切られ、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・高台付椀・台付甕、須恵器坏・高台付椀・皿と鉄製品が出土した。13は鉄製刀子である。現存長9.4cm、刃長6.4cm、刃幅0.8～1.4cmである。背関は深く、刃関は不明瞭である。茎部は細く角棒状になる。



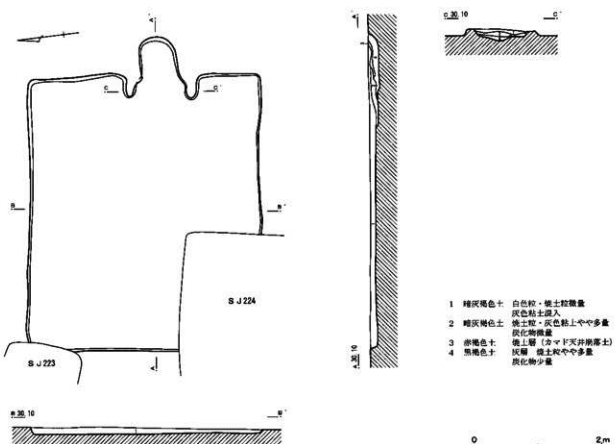
第418図　第244号住居跡出土遺物

第244号住居跡出土遺物観察表（第418図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	4.2	6.0	ABFJ	普通	にぶい赤褐	60	貯蔵穴2	底部一方向ヘラ削り
2	土師坏	13.2	4.6	5.9	ABFJ	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴1	
3	土師坏	13.6	4.8	5.8	ABFJ	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴1	
4	須恵坏	12.9	3.9	6.5	FJ	普通	にぶい黄橙	90	床直	磨耗著しい
5	土師高台埦	13.3	5.5	6.8	AFJK	普通	橙	100	床直	底部回転糸切り
6	須恵高台埦	(13.2)	5.6	6.6	ACJK	良好	灰	70	貯蔵穴2	
7	須恵高台埦	13.6	5.4	6.5	AFJK	普通	褐灰	100	貯蔵穴1	底部回転糸切り　磨耗著しい
8	須恵高台埦	15.2	7.1	8.0	AJK	良好	灰	85	床直	やや歪みあり
9	須恵皿	(13.4)	2.4	5.0	AJK	良好	灰	60	貯蔵穴1	底部回転糸切り
10	須恵皿	(12.6)	2.1	(6.2)	ACJK	良好	灰	40	貯蔵穴1	底部回転糸切り
11	須恵皿	(13.6)	2.6	5.8	AFJK	良好	黄灰	60	床直	底部右回転糸切り
12	土師台付甕	12.5	17.5	8.8	ACFJ	普通	にぶい黄褐	80	床直	

第225号住居跡（第419・420図）

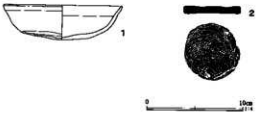
L・M－17グリッドに位置する。第223・224号住居跡と重複し、両住居跡に切られている。規模は、主軸長東西4.33m、南北3.65m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－96°－Eを指す。



第419図　第225号住居跡

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、148cm×58cm、深さ10cm程を測る。

遺物は、土師器坏、須恵器底部転用の円板が出土した。



第420図　第225号住居跡出土遺物

第225号住居跡出土遺物観察表（第420図）

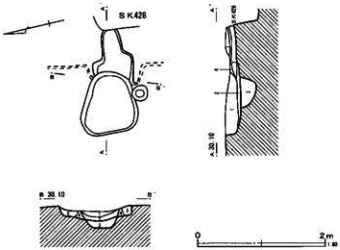
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.2)	3.6		ABCG	普通	にぶい橙	60	覆土	
2	須恵円板			5.9	ABG	普通	灰	100	覆土	外縁部平滑

第226号住居跡（第421・422図）

I－16グリッドに位置する。カマドのみの検出である。カマドの先端部分は、第428号土坑に切られている。

カマドの燃焼部は、98cm×88cm、深さ23cmを測り、煙道部は63cmが確認された。

遺物は、土師器高台付椀・甕が出土した。



1　暗褐色土　焼土粒少量　黄褐色土粒多量
2　黒色土　灰層　焼土粒少量
3　暗褐色土　黄褐色土粒少量（カマド掘り方）
4　暗黄褐色土（カマド掘り方）
5　暗褐色土　黄褐色土粒多量（カマド掘り方）
6　暗褐色土　焼土ブロック主体（カマド天井崩落土）
7　暗灰褐色土　焼土粒・黄褐色土粒多量

第421図　第226号住居跡

第422図　第226号住居跡出土遺物

第226号住居跡出土遺物観察表（第422図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台椀			5.7	ABFJ	普通	にぶい黄橙	100	覆土	ロクロ土師器
2	土師高台椀			6.6	AFJK	普通	橙	80	覆土	ロクロ土師器
3	土師甕			(5.0)	ABCFJ	普通	にぶい褐	15	覆土	

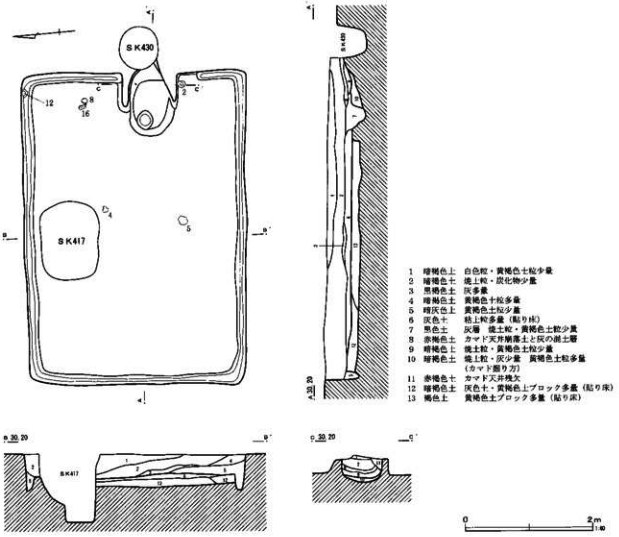
第227号住居跡（第423・424図）

J－15・16グリッドに位置する。第417・430号土坑と重複し、いずれにも切られている。規模は、主軸長東西4.90m、南北3.45m、深さ38cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

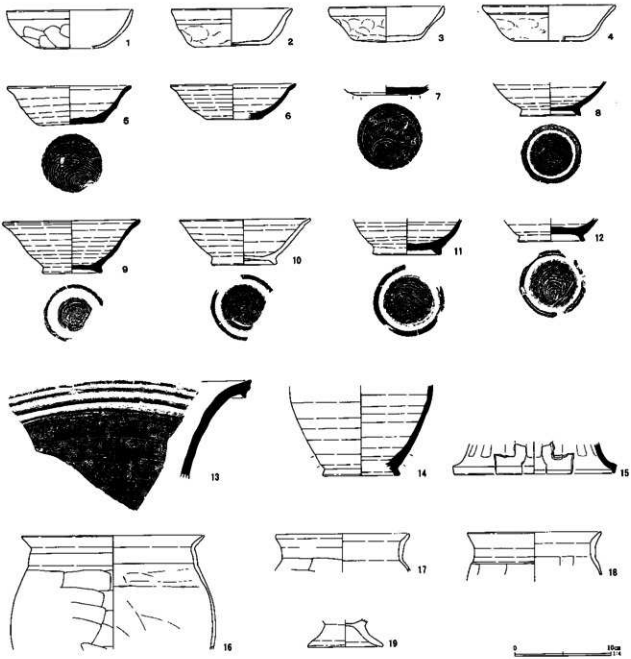
壁溝はカマド部分を除き全周し、幅13～20cm、深さ10～26cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられ、カマド先端部分は、第430号土坑に切られている。燃焼部は、110cm×68cmで床面と同じ高さである。煙道部は土坑に切られ、不明である。

遺物は、土師器坏・高台付椀・甕・台付甕、須恵器坏・高台付椀・甕・円面硯が出土した。



第423図 第227号住居跡



第424図　第227号住居跡出土遺物

第227号住居跡出土遺物観察表（第424図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)	4.0	(7.4)	ABFJ	普通	浅黄橙	40	覆土	
2	土師坏	12.7	4.0	7.8	ABFJ	不良	にぶい褐	100	覆土	
3	土師坏	(12.0)	3.7	7.0	ABCFJ	普通	橙	40	覆土	
4	土師坏	(14.0)	3.7	(7.2)	AFJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
5	須恵坏	12.9	4.1	6.4	ABFJ	良好	にぶい褐	85	覆土	やや歪みあり
6	須恵坏	(13.0)	3.7	(5.8)	AJK	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り
7	須恵壺			6.9	AGHJ	良好	灰	95	覆土	
8	須恵高台壺			6.4	AJK	良好	灰	70	床直	

第227号住居跡出土遺物観察表（第424図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
9	須恵高台椀	(14.2)	5.5	6.3	AJK	良好	灰	30	覆土	
10	土師高台椀	(13.7)	4.8	6.8	ABFJ	普通	橙	70	覆土	ロクロ土師器
11	須恵高台椀			7.2	AJK	良好	灰	90	覆土	
12	須恵高台椀			7.0	AFJK	良好	灰	80	壁溝	
13	須恵甕				AGK	良好	灰	破片	覆土	
14	須恵瓶			(7.7)	AJK	普通	灰黄	25	覆土	
15	須恵円面硯			(16.6)	A	普通	灰	5	覆土	圏足硯（脚部長方形透）
16	土師甕	(19.0)			ABFJ	良好	にぶい褐	15	床直	
17	土師甕	(13.7)			ABJ	普通	にぶい橙	20	覆土	
18	土師甕	(13.7)			BJ	普通	にぶい褐	25	覆土	
19	土師台付甕			7.8	AF	普通	褐灰	70	覆土	

第228号住居跡（第425・426図）

M・N－17グリッドに位置する。第237号住居跡・第92号溝と重複し、南側は溝に切られ、住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.92m、東壁で南北3.55mが確認でき、深さ17cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N－82°－Eを指す。

貯蔵穴はカマドのすぐ南側に位置し、南半は溝に切られている。68cm×37cm、深さ28cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、108cm×50cm、深さ15cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、灰釉陶器高台付塊が出土した。

第237号住居跡（第425・427図）

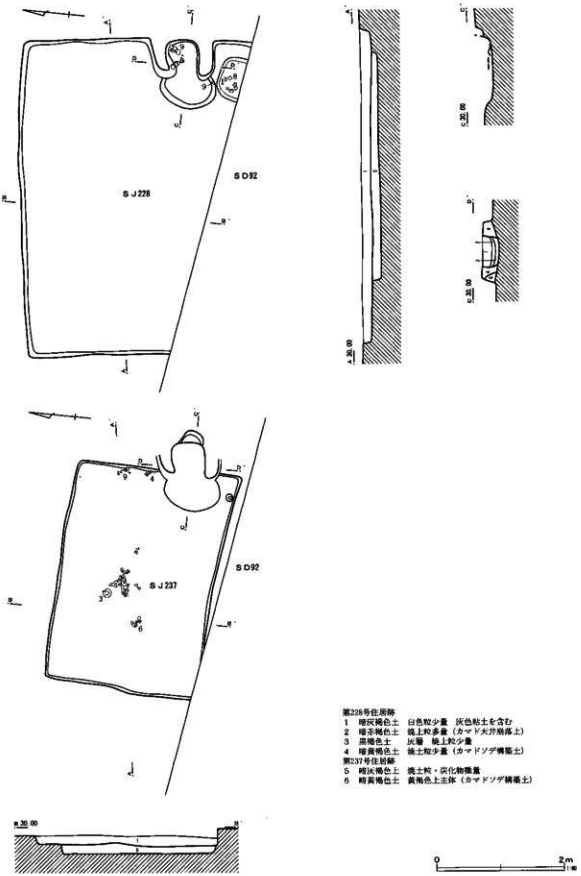
M・N-17グリッドに位置する。第228号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.50m、南北2.50m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられ、第228号住居跡に壊され先端の一部が確認されたのみである。

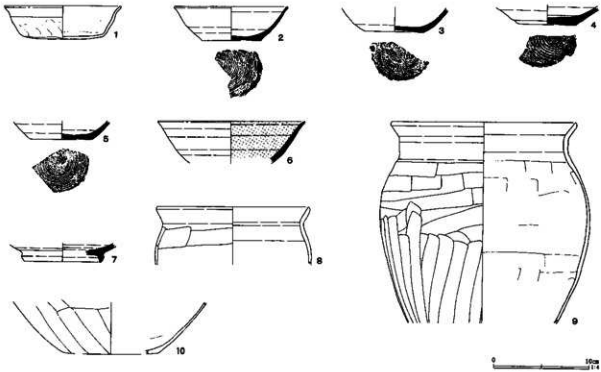
遺物は、土師器坏・小型甕・台付甕、須恵器坏、灰釉陶器高台付塊が出土した。

第228号住居跡出土遺物観察表（第426図）

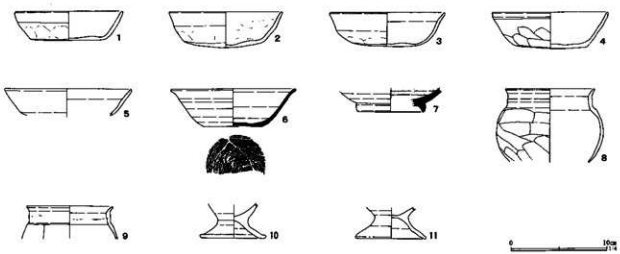
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)	3.5	(8.2)	ABJ	普通	にぶい橙	30	貯蔵穴	
2	須恵坏	(11.8)	3.5	(6.2)	AGJ	普通	灰黄	30	カマド	底部回転糸切り
3	須恵坏			(6.2)	AGK	普通	灰	30	カマド	
4	須恵坏			6.0	AJK	普通	灰	30	覆土	底部糸切り後、糸切り粘土板貼り付け
5	須恵坏			(6.6)	AFK	普通	灰黄	20	貯蔵穴	
6	灰釉椀	(15.1)			AG	良好	灰白	15	カマド	施釉ハケヌリ　二川産
7	灰釉高台椀			(8.0)	AG	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉なし　内面重ね焼き痕　東濃産
8	土師甕	15.8			AB	普通	にぶい褐	15	貯蔵穴	
9	土師甕	19.2			ABFG	普通	橙	70	カマド	
10	土師甕			(10.0)	ABFGJ	普通	橙	20	カマド	



第425図 第228・237号住居跡



第426図　第228号住居跡出土遺物



第427図　第237号住居跡出土遺物

第237号住居跡出土遺物観察表（第427図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.2	3.0	7.8	ABFJ	普通	橙	95	覆土	
2	土師坏	11.8	3.7	8.2	ABJK	普通	にぶい赤褐	85	覆土	
3	土師坏	12.0	3.5	7.0	ABJK	普通	にぶい橙	90	床直	
4	土師坏	12.0	3.7	7.5	ABFJ	普通	橙	80	床直	
5	土師坏	(13.1)			AGJ	普通	にぶい橙	35	床直	

第237号住居跡出土遺物観察表（第427図）

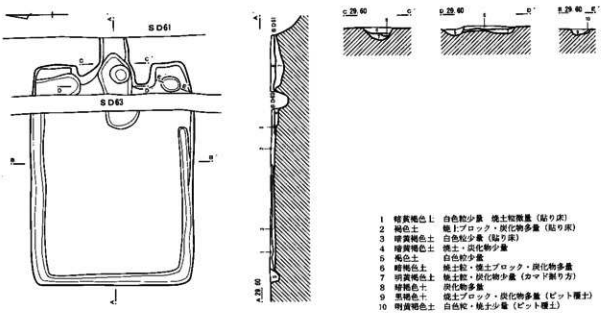
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	須恵坏	(13.0)	3.9	6.2	FJK	良好	にぶい黄橙	20	床直	
7	灰釉高台塊			(6.8)	AG	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ハケヌリ　二川産
8	土師甕	9.2			ABC	普通	にぶい赤褐	70	貯蔵穴	
9	土師甕	(9.0)			ACFJ	普通	にぶい赤褐	30	床直	
10	土師台付甕			(6.4)	AC	普通	にぶい赤褐	80	床直	
11	土師台付甕			(7.2)	ABF	普通	にぶい橙	70	貯蔵穴	

第230号住居跡（第428図）

Q・R－25・26グリッドに位置する。第61・63号溝と重複し、第63号溝が東壁寄りで南北に横断して切られ、カマド先端が第61号溝に切られる。規模は、主軸長東西3.46m、南北2.54m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－90°－Eを指す。

壁溝は東壁と南壁の一部を除き確認され、幅14～22cm、深さ5～7cmを測る。南東隅には、ピットが確認され、32cm×25cmの楕円形で、深さ10cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は一部が溝に切られているが、87cm×57cm、深さ20cmが残存していた。



第428図　第230号住居跡

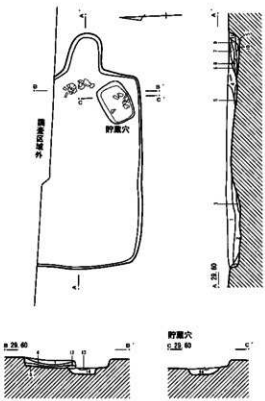
第231号住居跡（第429・430図）

Q－25グリッドに位置する。北側は、調査区域外となっている。規模は、主軸長東西2.98ｍ、西壁で南北1.58ｍが確認でき、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、68cm×58cm、深さ6cmを測る。

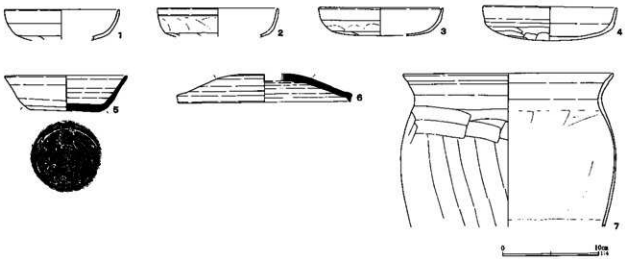
貯蔵穴は、南東隅に設けられており、67cm×51cmの長方形で、深さ23cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋が出土した。



1 暗黄褐色土　白色粒・黄褐色土粒多量　焼土粒微量
2 褐色土　白色粒微量　焼土粒多量　黄褐色土粒少量
3 黄褐色土　焼土粒少量
4 暗黄褐色土　白色粒・焼土粒多量　炭化物微量　黄褐色土粒少量
5 褐色土　焼土粒少量（カマド崩ウガ）
6 褐色土　焼土層　黄褐色土混入（かまど天井崩落ヤ）
7 褐色土　白色粒微量　焼土ブロック・炭化物炭化物多量
8 黒色土　灰層　炭化物主体　焼土粒少量
9 褐色土　7層に近似　焼土ブロック含む
10 褐色土　焼土層
11 暗褐色土　白色粒少量　焼土粒多量　焼成覆土
12 黒褐色土　炭化物層
13 暗黄褐色土　焼土・炭化物の混土層（ピット）
14 黄褐色土　焼土粒少量（ピット）

第429図　第231号住居跡



第430図　第231号住居跡出土遺物

第231号住居跡出土遺物観察表（第430図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)			ABJ	普通	にぶい褐	10	カマド	
2	土師坏	(12.6)			ABJK	普通	橙	15	カマド	
3	土師坏	(13.0)			ABJ	普通	にぶい橙	30	カマド	
4	土師坏	(14.0)			ABJ	普通	にぶい褐	30	覆土	
5	須恵坏	12.8	3.8	7.2	ACFJK	普通	橙	90	カマド	酸化焔焼成　体部外面下端～底部ヘラ削り
6	須恵蓋	(18.0)			AFJK	普通	浅黄橙	50	覆土	天井部回転ヘラ削り
7	土師甕	(21.7)			AFG	普通	にぶい黄褐	25	カマド	

第232号住居跡（第431・432図）

P－24グリッドに位置する。北側は、調査区域外となっている。規模は、主軸長南壁で東西4.03m、南北0.94mが確認できたのみで、深さ44cm程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N－85°－Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器鉢が出土した。

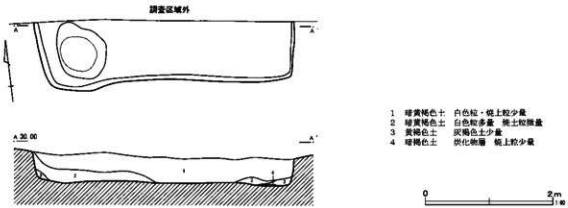
第233号住居跡（第433・434図）

L・M－15、M－16グリッドに位置する。規模は、主軸長東西4.72m、南北4.02m、深さ14cm程を測る。平面形は、やや歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N－75°－Wを指す。

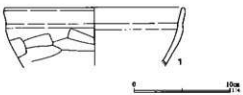
ピットが5基検出されたが配置が歪んでおり、柱穴とは断定できない。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。



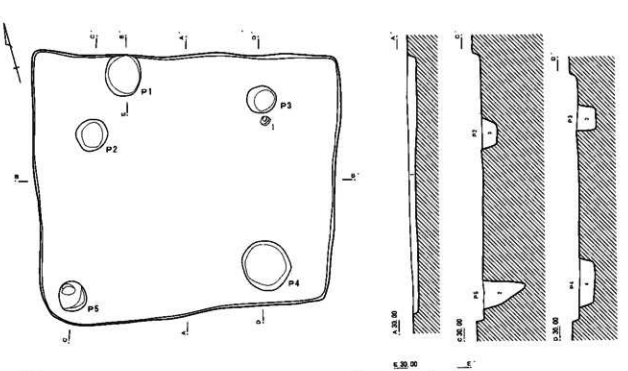
第431図　第232号住居跡



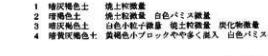
第432図　第232号住居跡出土遺物

第232号住居跡出土遺物観察表（第432図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師鉢	(18.7)			ABG	普通	にぶい橙	35	覆土	



第433図　第233号住居跡



第434図　第233号住居跡出土遺物

第233号住居跡出土遺物観察表（第434図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.4	4.9	5.8	ABFJ	普通	橙	90	覆土	口縁やや楕円形

第234号住居跡（第435・436図）

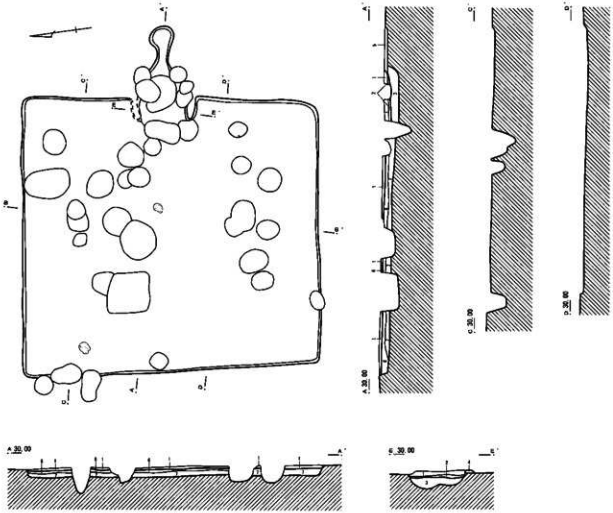
H・I－17、H－18グリッドに位置する。多数のピットに切られている。規模は、主軸長東西4.34m、南北4.66m、深さ4cm程を測る。平面形は、台形気味を呈する。主軸方位は、N－99°－Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。ピットに切られているため燃焼部は、90cm×77cmで床面と同じ高さで残存していた。煙道部は、62cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・小皿・甕が出土した。

第235号住居跡（第437・438図）

M－14・15グリッドに位置する。第6号溝と重複し、南半は切られている。規模は、主軸長東西3.28m、残存部は南北1.08m、深さ28cm程を測る。北壁を基準とすると主軸方位は、N－81°－Wを指す。

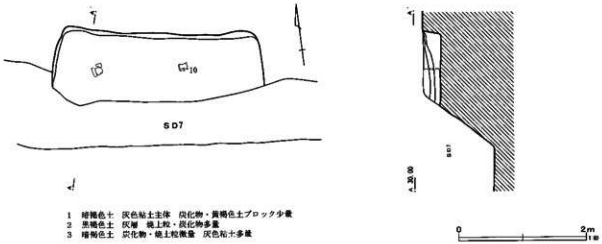


第435図 第234号住居跡

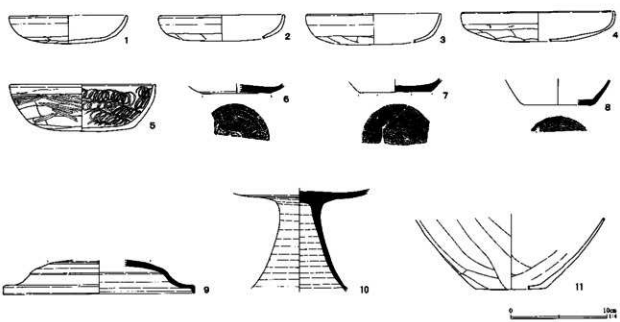
第436図 第234号住居跡出土遺物

第234号住居跡出土遺物観察表（第436図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.6)	4.2	(5.6)	ABFJ	普通	橙	15	カマド	
2	土師小皿	(10.0)	2.2	(6.6)	BFJ	普通	浅黄橙	10	覆土	
3	土師甕	(21.0)			ABFJ	普通	橙	15	カマド	



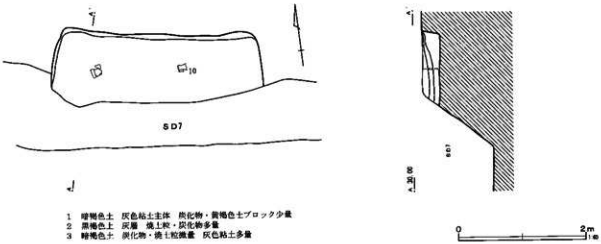
第437図 第235号住居跡



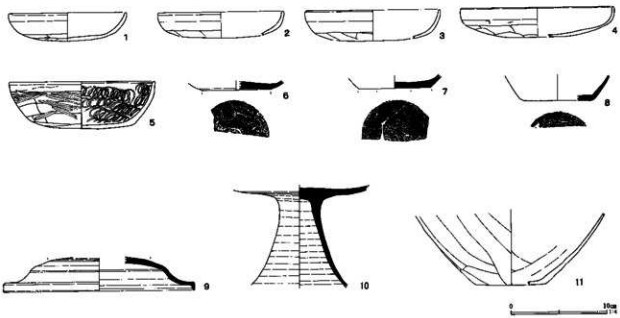
第438図 第235号住居跡出土遺物

第235号住居跡出土遺物観察表（第438図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.1)	(2.9)		AFG	普通	橙	15	覆土	
2	土師坏	(13.0)	(2.7)		ABCI	普通	にぶい橙	35	覆土	
3	土師坏	(14.0)			AF	普通	橙	15	覆土	
4	土師坏	(16.0)	3.1		AJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	15.1	4.9	10.8	ACF	良好	橙	90	覆土	暗文土器 内面螺旋状 外面体部ヘラ削り後暗文
6	須恵瓮			(7.0)	AH	良好	灰	40	覆土	底部回転ヘラ削り
7	須恵瓮			(7.0)	AH	良好	灰	40	覆土	



第437図 第235号住居跡



第438図 第235号住居跡出土遺物

第235号住居跡出土遺物観察表（第438図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.1)	(2.9)		AFG	普通	橙	15	覆土	
2	土師坏	(13.0)	(2.7)		ABCI	普通	にぶい橙	35	覆土	
3	土師坏	(14.0)			AF	普通	橙	15	覆土	
4	土師坏	(16.0)	3.1		AJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	15.1	4.9	10.8	ACF	良好	橙	90	覆土	暗文土器 内面螺旋状 外面体部ヘラ削り後暗文
6	須恵甕			(7.0)	AH	良好	灰	40	覆土	底部回転ヘラ削り
7	須恵甕			(7.0)	AH	良好	灰	40	覆土	

第235号住居跡出土遺物観察表（第438図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏			(7.0)	AH	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
9	須恵蓋	(19.8)			AH	良好	灰	35	覆土	天井部回転ヘラ削り
10	須恵高盤				AHJK	良好	灰	60	覆土	
11	土師甕			(7.4)	AB	普通	にぶい赤橙	40	覆土	

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・椀・蓋・高盤が出土した。

第236号住居跡（第439・441図）

K－16・17グリッドに位置する。第239・250・282・299号住居跡・第447・451号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡すべてを切っている。北東壁は、第447号土坑に壊されている。規模は、主軸長東西5.51m、南北4.41m、深さ8cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N－94°－Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃焼部は、168cm×73cm、深さは床面と同じで、煙道部は長さ65cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付椀・甕、土師器高台付椀、灰釉陶器高台付椀と鉄製品が出土した。7は現存長4.9cmの角棒状鉄製品である。一方は幅広の延板状となる。用途は不明。

第239号住居跡（第439・440・442・443図）

K－16・17グリッドに位置する。第236・250・282・299号住居跡と重複し、第236・250号住居跡に切られ、第282号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西6.94m、南北4.06m、深さ29cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、第236号住居跡カマドに切られ不明であるが、煙道部120cmが残存している。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・高台付坏・高台付椀・円面硯、灰釉陶器高台付椀・高台付皿、緑釉陶器高台付輪花椀と鉄製品が出土した。24は現存長9.9cm、25は現存長6.5cm、26は現存長3.7cmの角棒状鉄製品である。これらは釘もしくは釘に類する接合具の可能性がある。25はその形状から鎹の脚部かもしれない。24・26は床面から出土した。

第250号住居跡（第439・444図）

K－16グリッドに位置する。第196・236・239号住居跡・第450号土坑と重複し、第236号住居跡に切られ、第239号住居跡の上部を切っている。確認できた規模は、南北3.51m、東西1.44m、深さ12cm程を測る。東西を主軸とすると方位は、N－88°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器皿が出土した。

第282号住居跡（第439・445図）

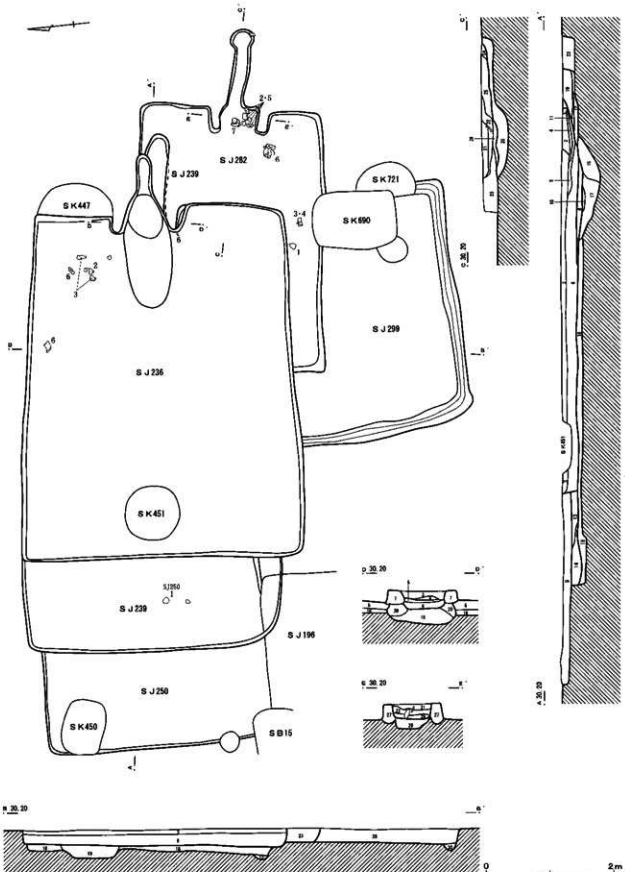
K－16・17、L－17グリッドに位置する。第236・239・299号住居跡・第690号土坑と重複し、第236・239号住居跡・第690号土坑に切られ、第299号住居跡を切っている。規模は、南壁で主軸長東西4.07m、南北2.86m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－99°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、92cm×60cmで床面と同じ高さで、煙道部は長さ118cmが確認できた。

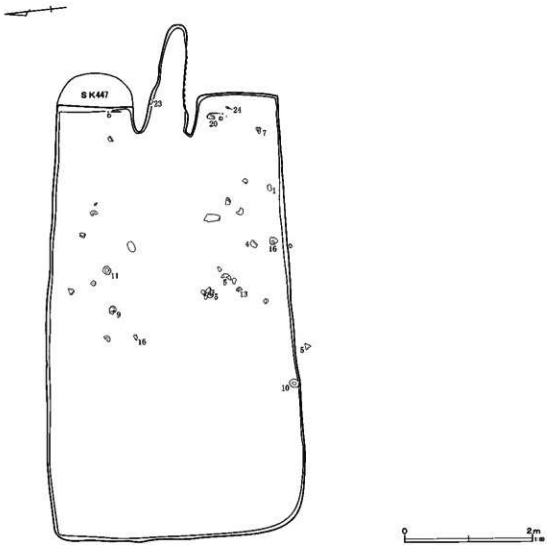
遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器瓶が出土した。

第299号住居跡（第439・446図）

K・L－16、L－17グリッドに位置する。第236・239・282号住居跡・第690・721号土坑と重複し、土坑・住居跡いずれもの遺構に切られている。規模は、南壁で東西3.78m、西壁で南北2.74mが残存し、深さ22cm程を測る。南壁を基準とすると主軸



第439図　第236・239・250・282・299号住居跡



第236・239・250・282・299号住居跡

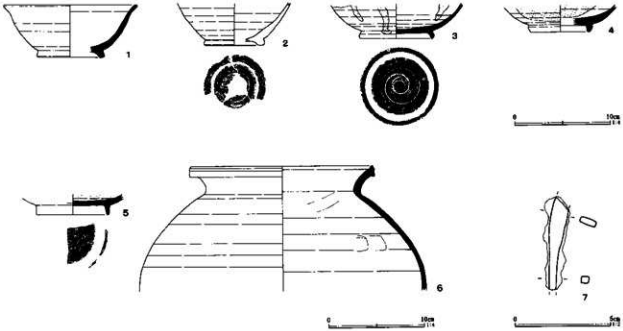
1　暗褐色土　焼土粒・炭色粘土ブロック多量（S J 236）
2　黄褐色土　焼土粒・炭化物少量（S J 236）
3　暗褐色土　焼土粒多量　黄褐色土粒少量（S J 236）
4　暗褐色土　焼土ブロック主体（カマド天井崩落土）（S J 236）
5　黒褐色土　炭層　焼土粒多量（S J 236）
6　暗灰色土　焼土粒・黄褐色土粒少量　埋め戻し（掘り方）（S J 236）
7　暗灰褐色土　焼土粒・黄褐色土粒少量　カマド構築土（S J 236）
8　灰色土　焼土粒・黄褐色土粒多量　埋め戻し
9　暗灰褐色土　白色粒・焼土粒少量　炭化物今廻に散在（S J 250）
10　暗褐色土　焼土粒・炭化物多量（S J 239）
11　暗赤褐色土　焼土ブロック多量（S J 239　カマド天井崩落土）
12　黒褐色土　炭層　焼土粒・黄褐色土ブロック含む（S J 239）
13　暗褐色土　焼土粒微量　黄褐色土粒少量（S J 239）
14　暗灰色土　焼土粒微量（S J 239）
15　暗灰褐色土　焼土粒・黄褐色土粒多量　焼土ブロック少量（S J 239カマド掘り方）
16　暗褐色土　焼土ブロック多量（S J 239カマド掘り方）
17　黒褐色土　焼土粒・炭・黄褐色土粒多量（S J 239カマド掘り方）
18　灰色土　灰色粘土主体　焼土粒・黄褐色土粒少量
19　灰色土　灰色粘土主体　黄褐色土粒含む（S J 239床下土坑）
20　暗灰色土　焼土粒微量　焼きロ咽喉ふに焼土化（S J 239カマドソデ）
21　暗褐色土　白色粒・黄褐色土粒多量　焼土粒少量（S J 282）
22　暗褐色土　焼土ブロック多量（S J 282カマド天井崩落土）
23　暗褐色土　白色粒・焼土粒・黄褐色土粒多量（S J 282）
24　暗褐色土　焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量（S J 282煙突崩落土）
25　暗褐色土　焼土粒微量（S J 282）
26　黒褐色土　炭層　焼土粒少量（S J 282）
27　灰褐色土　白色粒多量　焼土粒・炭化物少量
28　暗褐色土　黄褐色土ブロック・暗褐色土小粒土（S J 282カマド掘り方）
29　暗灰色土　灰色粘土主体　黄褐色土粒多量
30　暗褐色土　黄褐色土粒少量

第440図　第239号住居跡

方位は、N－88°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏と鉄製品が出土した。4は鉄製刀子である。切先を含む刃部と茎先を欠く。現存長は9.3cm、刃幅1.1～1.4cmである。関は明瞭な両関である。5は延板状の鉄製品である。現存長3.6cm。刀子の茎部とも考えられるが、少なくとも4と同じものではない。



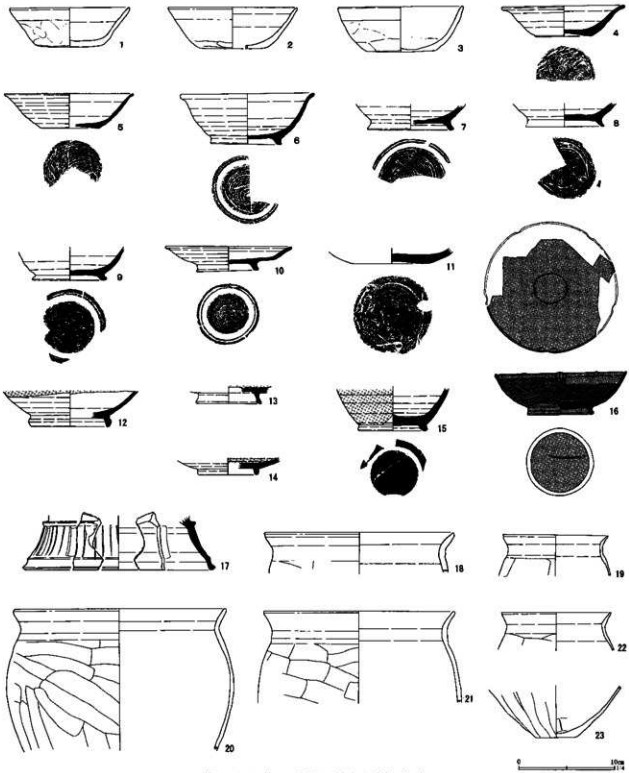
第441図　第236号住居跡出土遺物

第236号住居跡出土遺物観察表（第441図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台椀	(13.7)	5.5	(7.0)	AFIK	普通	灰黄	15	覆土	
2	土師高台椀			6.3	AFJK	不良	橙	60	覆土	ロクロ土師器
3	灰釉高台椀			7.4	AGK	良好	灰黄	70	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕
4	灰釉高台椀			(6.1)	G	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　内外面ハケヌリ　浜北産
5	灰釉高台椀			(7.5)	J	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　内面重ね焼き痕　東濃産
6	須恵甕	(18.8)			AJK	普通	灰	40	カマド	

第239号住居跡出土遺物観察表（第442図）

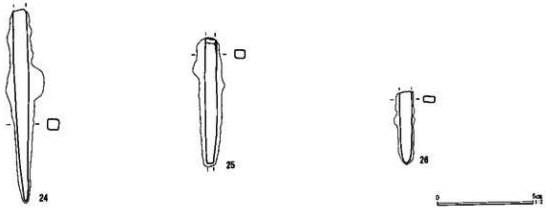
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	4.1	6.8	ABFJK	普通	にぶい褐	40	床直	内外面磨耗著しい
2	土師坏	(13.4)			AFG	普通	橙	30	覆土	
3	土師坏	(13.0)	4.7	7.2	FJK	普通	橙	60	覆土	やや磨耗する
4	須恵坏	(13.0)	3.2	6.2	AJK	普通	灰	45	覆土	器形の歪み大きい
5	須恵坏	13.5	3.6	6.2	AJK	良好	灰	80	床直	底部右回転糸切り
6	須恵高台椀	14.0	5.4	7.4	AJK	良好	灰	40	床直	やや歪みあり
7	須恵高台椀			(9.0)	AJ	良好	黄灰	40	覆土	底部回転糸切り
8	須恵高台椀			(8.0)	AJK	良好	褐灰	60	覆土	高台部の大部分が剥離
9	須恵高台椀			7.8	AFJK	普通	褐灰	80	覆土	底部回転糸切り
10	須恵高台皿	13.2	2.7	6.5	AJK	良好	にぶい赤褐	100	覆土	やや歪みあり　底部回転糸切り、周辺ナデ
11	須恵皿			7.5	ABGJK	普通	灰	70	覆土	底部内面のみ酸化焔焼成
12	灰釉高台椀			(8.0)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　内面に重ね焼き痕　東濃産



第442図　第239号住居跡出土遺物（1）

第239号住居跡出土遺物観察表（第442図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	灰釉高台皿			(6.7)	G	良好	灰白	10	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ハケヌリ一筆 内面に重ね焼き痕　東濃産
14	灰釉高台皿			(6.1)	AG	良好	灰白	11	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内面ハケヌリ 内面に重ね焼き痕　東濃産
15	灰釉瓶			(6.9)	A	良好	灰白	80	覆土	高台内ヘラ削り　施釉　外面ヘラナデ　東濃産
16	緑釉高台埦	13.7	4.3	7.0	―	良好	オリーブ灰	70	覆土	輪花埦　内外面磨き　全面施釉 トチン痕　高台内ヘラ描き　旋投産
17	須恵円面硯			(20.0)	A	良好	灰	5	覆土	圏足硯（長方形透孔+3条縦位沈線）
18	土師甕	(19.6)			ABFJ	普通	にぶい黄褐	20	覆土	
19	小型土師甕	(10.9)			ACF	普通	にぶい橙	25	覆土	
20	小型土師甕	(21.9)			ABFG	普通	にぶい黄橙	20	カマド	
21	土師甕	(19.7)			ABF	普通	浅黄	25	覆土	
22	土師甕	(10.3)			AC	普通	にぶい橙	25	覆土	
23	土師甕			(4.0)	ABF	良好	にぶい黄	20	覆土	

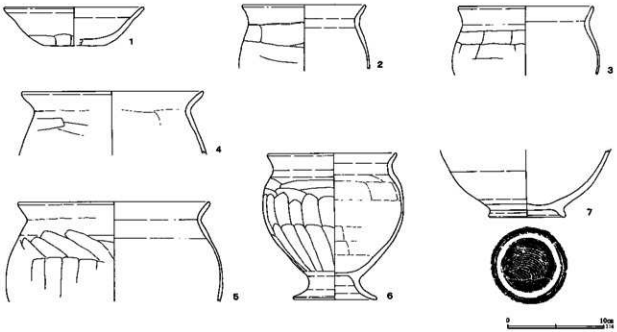


第443図　第239号住居跡出土遺物（2）

第444図　第250号住居跡出土遺物

第250号住居跡出土遺物観察表（第444図）

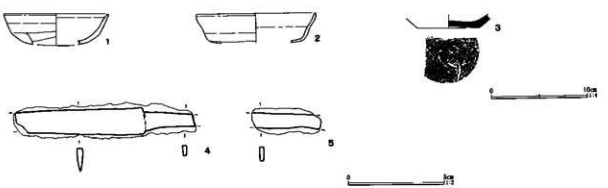
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			5.8	AK	普通	灰	80	床直	



第445図　第282号住居跡出土遺物

第282号住居跡出土遺物観察表（第445図）

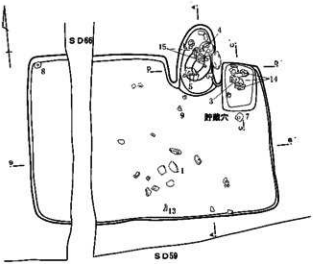
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.4)	4.0	(6.2)	ABF	普通	にぶい黄橙	30	覆土	底部外面一方向ヘラ削り
2	土師甕	(12.7)			ACFG	普通	灰褐	40	カマド	
3	土師甕	(13.9)			ABFG	普通	灰褐	40	覆土	
4	土師甕	(18.8)			AF	良好	浅黄橙	10	覆土	
5	土師甕	(19.9)			AFGJ	普通	浅黄橙	25	カマド	
6	土師台付甕	(13.3)	15.3	(8.4)	AF	普通	橙	60	覆土	
7	須恵瓶			7.8	AGJK	不良	にぶい黄橙	30	カマド	酸化焔焼成

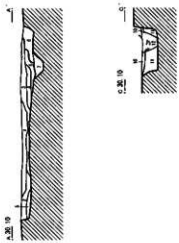


第446図　第299号住居跡出土遺物

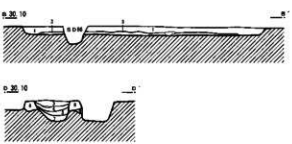
第299号住居跡出土遺物観察表（第446図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.8)			ABG	普通	にぶい黄褐	25	覆土	
2	土師坏	(12.3)		(9.8)	AB	普通	橙	20	覆土	
3	須恵坏			(6.3)	G	普通	灰	30	覆土	





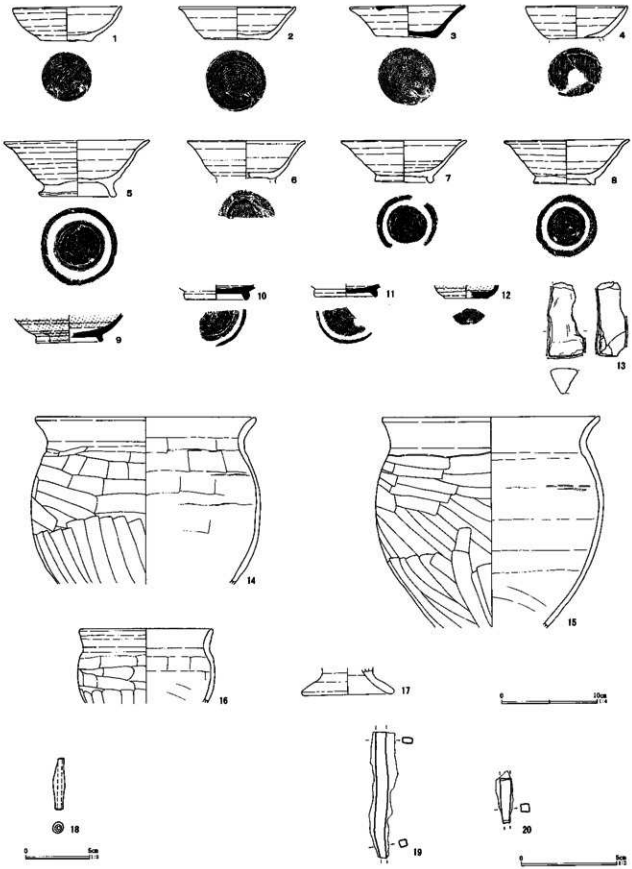
1 暗褐色土　焼土粒・炭化物少量
2 暗灰褐色土　焼土粒・炭化物多量　灰含む
3 灰褐色土　焼土粒・炭化物・炭色粘土・褐色土粒少量
4 黒褐色土　灰層　焼土粒少量
5 黒色土　焼土粒・炭化物多量　灰含む
6 暗褐色土　焼土粒・炭化物微量　褐色土粒多量（カマド掘り方）
7 暗褐色土　焼土粒・炭化物少量　褐色土ブロック多量
8 暗褐色土　焼土粒・炭色粘土多量　炭化物少量
9 黒褐色土　焼土粒・炭化物多量　炭色粘土少量
10 黒褐色土　焼土粒・炭化物少量（貯蔵穴）
11 暗褐色土　焼土粒微量　炭化物少量（貯蔵穴）
12 黒色土　焼土粒多量　炭化物少量（貯蔵穴）



第447図　第238号住居跡

第238号住居跡出土遺物観察表（第448図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.4)	3.6	5.3	BFJ	普通	橙	70	床直	ロクロ土師器　底部回転糸切り
2	土師坏	12.2	3.4	6.6	ABFJ	普通	にぶい橙	90	貯蔵穴	ロクロ土師器　底部回転糸切り　やや歪みあり
3	須恵坏	12.0	3.4	6.1	ABJ	良好	にぶい黄橙	100	貯蔵穴	口縁一部に油煙
4	土師高台坏	10.8	3.4		ABFJ	普通	橙	90	カマド	ロクロ土師器　高台剥離
5	土師高台埦	15.2	6.0	8.0	BFJ	普通	明黄褐	80	カマド	ロクロ土師器
6	土師高台埦	(12.4)			ABFJ	普通	にぶい橙	40	貯蔵穴	ロクロ土師器　高台剥離
7	土師高台埦	13.1	4.5	6.2	AFJ	普通	橙	95	覆土	ロクロ土師器
8	須恵高台埦	13.2	4.7	6.5	ABFJ	普通	橙	90	覆土	酸化焔焼成
9	灰釉高台埦			(6.8)	AG	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　東濃産
10	灰釉高台埦			(6.5)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り　施釉なし　東濃産
11	灰釉高台埦			(6.4)	AG	良好	灰白	30	覆土	高台内糸きり　施釉なし 内面重ね焼き痕　東濃産
12	灰釉耳皿			(4.4)	AG	良好	灰白	30	覆土	内底部糸きり　施釉外面ハケヌリ、内面自然釉
13	砥石	長さ7.8　幅3.7　厚さ2.7					―	―	覆土	
14	土師甕	(22.8)			AFJ	良好	にぶい黄橙	20	カマド	
15	土師甕	(22.5)			CFJ	良好	にぶい橙	60	カマド	
16	土師甕	(14.0)			ABFJ	良好	橙	30	覆土	
17	土師台付甕			9.3	ABJ	普通	明赤褐	70	覆土	
18	土錘	長さ4.0　径0.9～0.95　孔径0.4				普通	灰黄	100	覆土	



第448図　第238号住居跡出土遺物

第238号住居跡（第447・448図）

K－17・18、L－18グリッドに位置する。第257号住居跡・第66号溝と重複し、溝に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長南北2.73m、東西3.78m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－2°－Eを指す。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、78cm×54cmの長方形で、深さ37cmを測る。

カマドは、北壁東寄りに設けられている。燃焼部は、113cm×56cmで床面と同じ高さである。

遺物は、土師坏・高台付埦・小型甕・甕・台付甕、須恵器坏・高台付埦、灰釉陶器高台付埦・耳皿、砥石、土錘と鉄製品が出土した。19・20ともに用途不明の角棒状鉄製品である。19は現存長6.5cm、20は現存長2.3cmである。

第240号住居跡（第449図）

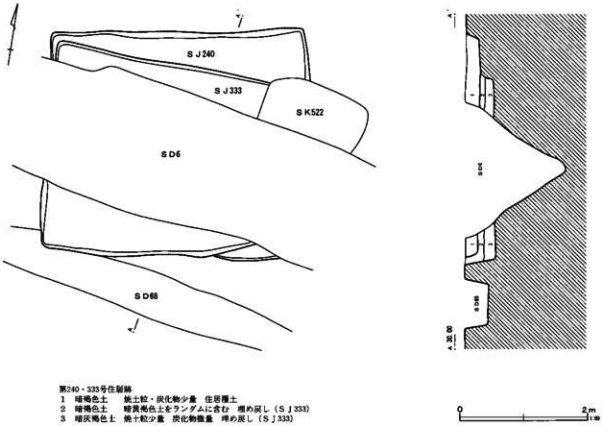
M・N－16グリッドに位置する。第333号住居跡・第522号土坑・第6号溝と重複し、住居跡の殆どが、東西に延びる第6号溝に切られ、第333号住居跡上部を切っている。規模は、東壁で主軸長東西4.01m、南北3.50m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－79°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第333号住居跡（第449図）

M・N－16グリッドに位置する。第240号住居跡・第522号土坑・第6・68号溝と重複し、住居跡の殆どが、東西に延びる第6号溝に切られ、第68号溝を切っている。規模は、主軸長東西3.26m以上、南北3.20m、深さ47cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。



第449図　第240・333号住居跡

第241号住居跡（第450・451図）

P－22グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。規模は、西壁で主軸長南北3.21 mが確認でき、東西3.53 m、深さ30cm程を測る。主軸方位は、N－5°－Wを指す。

壁溝は全周し、幅9～15cm、深さ5 cm程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師坏・甕、須恵器坏が出土した。

第242号住居跡（第452・453図）

P－19グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。第243号住居跡と重複し、切っている。規模は、南壁で東西4.06 m、確認できた南北は西壁で1.65 m、深さ41cm程を測る。南壁を基準にすると主軸方位は、N－78°－Eを指す。

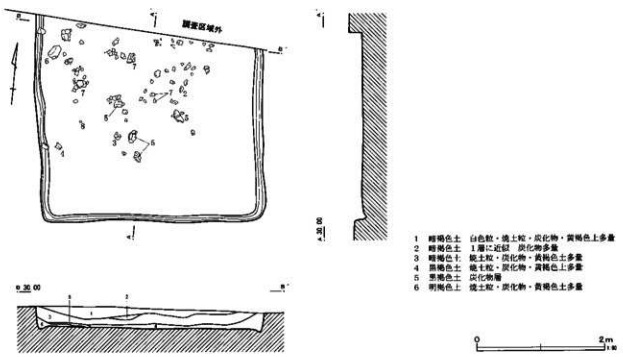
貯蔵穴2基とも南東隅に設けられており、貯蔵穴1は、径41cm×43cmの円形で、深さ16cmを測る。

貯蔵穴2は、貯蔵穴1と接して、南東隅に設けられており、径35cm×43cmの円形で、深さ13cmを測る。

壁溝は、南壁と西壁で確認でき、幅20～27cm、深さ8 cm程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

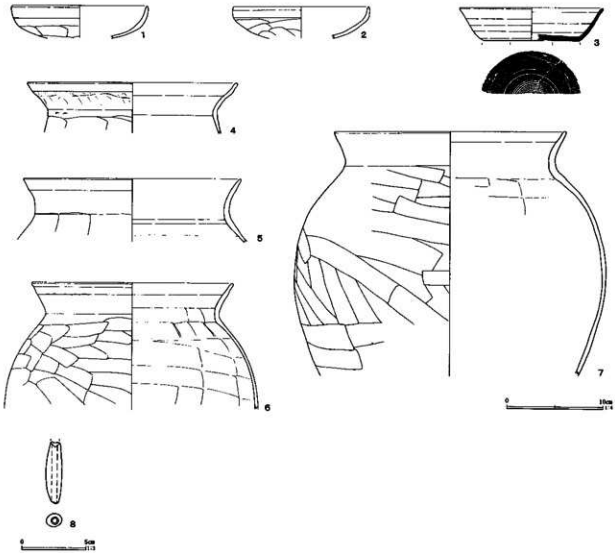
遺物は、土師器坏が出土した。



第450図　第241号住居跡

第241号住居跡出土遺物観察表（第451図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)			BJ	普通	灰褐	15	覆土	やや歪みあり
2	土師坏	(14.0)			ABFJ	普通	にぶい橙	15	床直	
3	須恵坏	(15.0)	3.4	(10.0)	AHJK	良好	灰	40	床直	
4	土師甕	(22.0)			ABFJ	普通	橙	20	覆土	
5	土師甕	(22.3)			ABFJK	普通	にぶい橙	90	床直	
6	土師甕	(20.8)			ABJ	普通	にぶい褐	30	覆土	
7	土師甕	(23.8)			AF	普通	明赤褐	40	覆土	
8	土錘	長さ (4.8) 径1.2 孔径0.5				普通	黒	95	覆土	



第451図　第241号住居跡出土遺物

第243号住居跡（第452・453図）

P－19・20グリッドに位置する北側は調査区域外となっている。第242号住居跡・第1号溝と重複し、溝と住居跡に切られている。規模は、南壁で確認できたのは東西3.61m、南北2.20mが残存し、深さ18cm程を測る。南壁を基準とすると主軸方位は、N－87°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏が出土した。

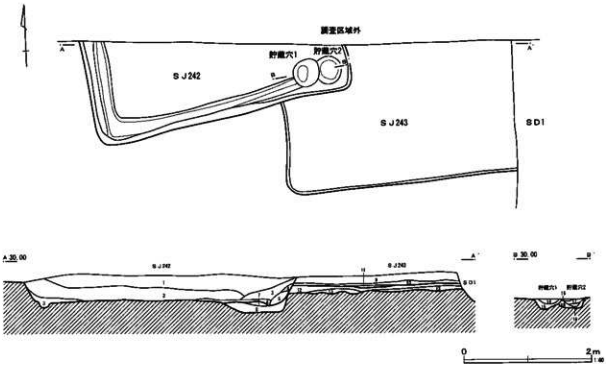
第246号住居跡（第454・455図）

I－17・18グリッドに位置する。第251号住居跡・第477号土坑・ピットと重複している。規模は、主軸長東西4.74m、南北3.90m、深さ22cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－101°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、80cm×60cmの長方形で、深さ49cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド前面にピットがあり切られていおり燃焼部は、60cm×60cmが残存し、深さ15cmほどを測る。煙道部は、長さ75cmが確認できた。

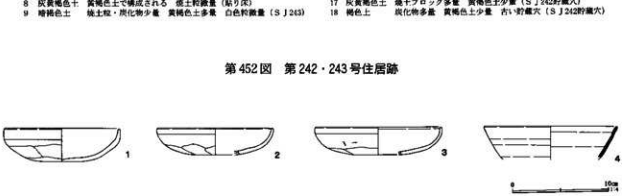
遺物は、須恵器坏・高台付椀、土師器甕と鉄製品が出土した。7は刀子の茎部と考えられる鉄製品である。現存長6.2cm。



第242・243号住居跡

1 暗褐色土　白色粒・焼土粒・炭化物少量　黄褐色土多量（S J 242）
2 暗褐色土　白色粒少量　焼土粒微量　黄褐色土多量
3 暗褐色土　焼土粒微量　黄褐色土多量
4 明赤褐色土　焼土層
5 黄褐色土　焼土粒・炭化物微量
6 灰黄褐色土
7 褐色土　焼土粒・黄褐色土多量（貼り床）
8 灰黄褐色土　黄褐色土で構成される　焼土粒微量（貼り床）
9 暗褐色土　焼土粒・炭化物少量　黄褐色土多量　白色粒微量（S J 243）
10 黒褐色土　焼土粒微量　炭化物少量　黄褐色土多量
11 黒褐色土　10層に近似　焼土粒・焼土ブロック多量
12 暗褐色土　焼土粒・炭化物微量　黄褐色土多量（貼り床）
13 黒褐色土　焼土粒微量　黄褐色土多量（貼り床）
14 褐色土　白色粒・炭化物微量　焼土粒少量（S J 242貯蔵穴）
15 暗黄褐色土　焼土粒微量　黄褐色土・灰褐色土（S J 242貯蔵穴）
16 黄褐色土　焼土粒微量（S J 242貯蔵穴）
17 灰黄褐色土　焼土ブロック多量　黄褐色土少量（S J 242貯蔵穴）
18 褐色土　炭化物多量　黄褐色土少量　古い貯蔵穴（S J 242貯蔵穴）

第452図　第242・243号住居跡



第453図　第242・243号住居跡出土遺物

第242号住居跡出土遺物観察表（第453図）

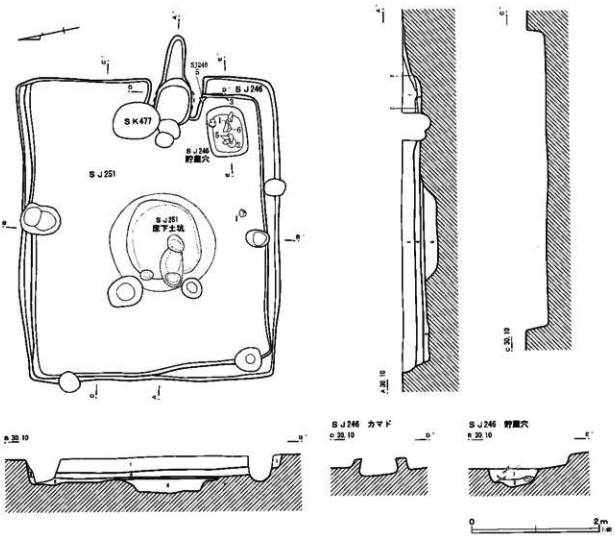
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)	3.5		ABJ	普通	橙	10	覆土	
2	土師坏	(12.0)			BFJ	普通	橙	10	覆土	
3	土師坏	(13.0)			ABJ	普通	橙	15	覆土	
4	須恵坏	(14.0)			AH	良好	灰	10	覆土	

第251号住居跡（第454・456図）

Ⅰ－17・18グリッドに位置する。第246号住居跡・第477号土坑・ピットと重複している。規模は、主軸長東西4.24m、南北3.88m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－101°－Eを指す。

カマドは、第246号住居跡に切られ不明である。

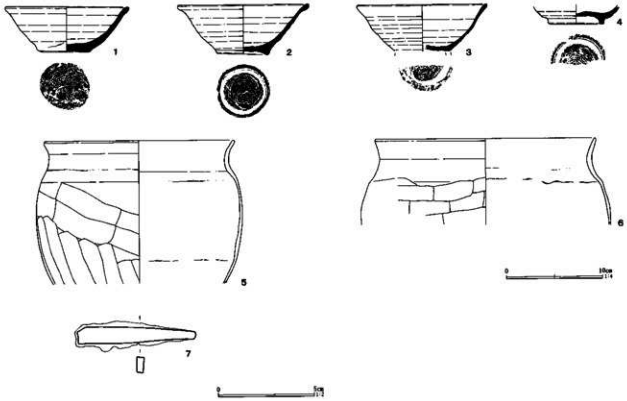
遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・椀・高台付椀・甕と鉄製品が出土した。8は鉄製刀子の刃部である。切先をわずかに欠き、現存長は6.6cm、刃幅は最大で1.1cmである。9は板状の鉄製品である。現存長は4.7cm、厚さは約0.2cmである。三角形を呈するが刃はなく用途は不明である。



第246号住居跡
1 暗灰褐色土　白色粒・焼土粒・黄褐色土粒多量
2 暗灰色土　焼土ブロック多量　黄褐色土粒微量（カマド天井崩落土）
3 黒褐色土　灰層　焼土粒多量
4 暗灰色土　焼土粒・炭化物少量（貼り床）

第251号住居跡
5 暗灰色土　焼土粒・黄褐色土粒少量（貼り床）
6 暗灰色土　焼土粒・黄褐色土粒少量（床下土坑）
7 暗灰色土　焼土粒・ローム粒少量（貯蔵穴）
8 暗灰色土　ロームブロック多量

第454図　第246・251号住居跡



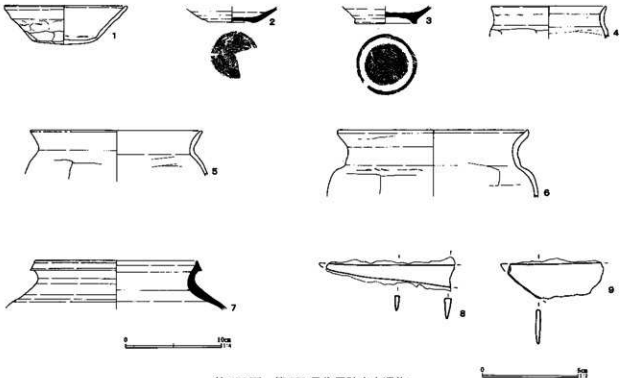
第455図　第246号住居跡出土遺物

第246号住居跡出土遺物観察表（第455図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.0)	4.7	5.4	AFJK	普通	灰	40	貯蔵穴	歪み大きい
2	須恵高台坏	13.7	5.3	5.5	ACJ	良好	灰	100	貯蔵穴	
3	須恵高台埦	(13.4)			AJ	良好	灰	20	覆土	高台剥離
4	須恵高台埦			(5.8)	ACJK	良好	灰	40	覆土	
5	土師甕	(19.6)			ABJ	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	
6	土師甕	(22.8)			ACFJ	普通	橙	20	貯蔵穴	

第251号住居跡出土遺物観察表（第456図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.0	6.6	ABFJ	普通	橙	70	床直	
2	須恵坏			5.0	AJK	良好	灰	60	覆土	底部右回転糸切り
3	須恵高台埦			6.5	AIJK	良好	灰	90	床直	底部右回転糸切り
4	土師小型甕	(12.0)			ABJ	普通	にぶい橙	10	床下土坑	
5	土師甕	(17.6)			BFJ	普通	橙	20	掘り方	
6	土師甕	(19.7)			BFJ	普通	橙	10	掘り方	
7	須恵甕	(17.0)			AFJK	普通	灰黄褐	10	掘り方	内外面の磨耗著しい



第456図　第251号住居跡出土遺物

第248号住居跡（第457・458図）

K－16・17グリッドに位置する。第239・260号住居跡、第447号土坑と重複し、住居跡・土坑すべてに切られている。規模は、北壁で東西2.82m、確認できた南北0.77m、深さ46cm程を測る。平面形は、不明である。北壁を基準とすると主軸方位は、N－96°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。

第260号住居跡（第457・459図）

K－16・17グリッドに位置する。第236・239・248・261号住居跡・第441・447・449号土坑と重複し、第236・239号住居跡・土坑に切られ、第248・261号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西7.10m、西壁で南北4.84m、深さ55cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。土坑・住居跡に切られ、煙道部のみで、120cmが確認できた。

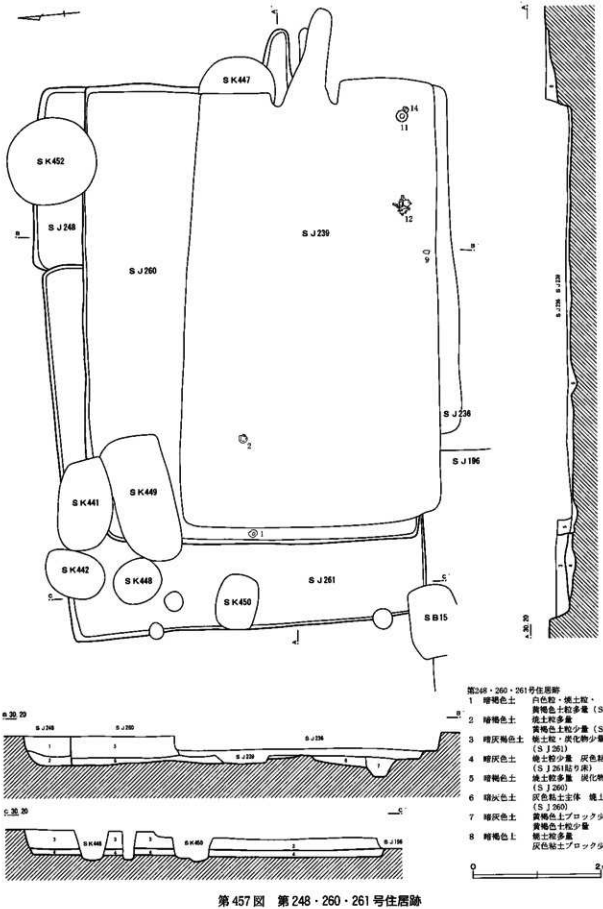
遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・高台付椀・皿、灰釉陶器高台付椀が出土した。

第261号住居跡（第457・460図）

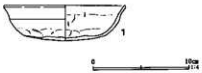
K－16グリッドに位置する。第248・260号住居跡・第441・442・448・449・450号土坑・第15号掘立柱建物跡と重複し、第248号住居跡を切り、他の遺構に切られている。規模は、北壁で主軸長東西5.86m、南北5.58m、深さ18cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－92°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付椀、緑釉陶器破片、土錘と鉄製品が出土した。6は鉄製鎌である。およそ半分を欠損する。現存長は7.3cm、刃部幅は残存部で2.9cmである。7は鉄製刀子である。茎先を欠き、現存長は8.7cm、刃長7.2cm、刃幅0.6～1.2cmである。茎の表面にはわずかに柄木の痕跡が見られる。8は鉄製刀子の切先部分である。現存長2.6cm、刃幅最大1.2cmである。9は用途不明の鉄製品である。厚さ約0.1cmの鉄板を折り曲げている。現存長は3.7cmである。



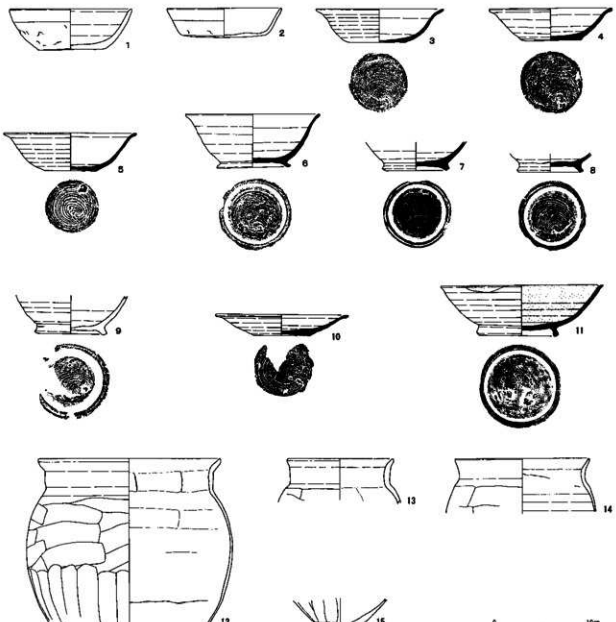
第457図 第248・260・261号住居跡



第458図　第248号住居跡出土遺物

第248号住居跡出土遺物観察表（第458図）

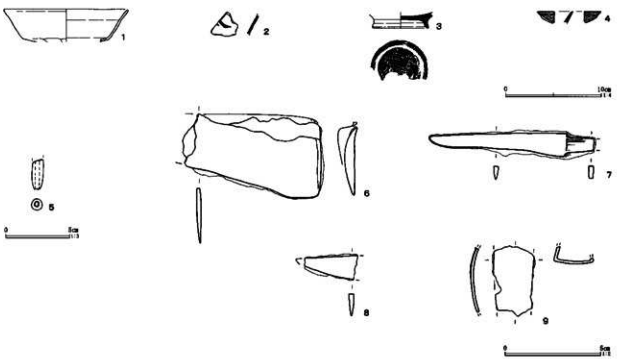
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	3.7	8.6	ABJ	普通	にぶい橙	70	覆土	



第459図　第260号住居跡出土遺物

第260号住居跡出土遺物観察表（第459図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	4.3	7.0	ABFJ	普通	橙	90	覆土	体部内面ロクロ痕　底部外面一方向ヘラ削り
2	土師坏	12.0	3.0	8.8	ABFJ	普通	橙	95	床直	
3	須恵坏	13.4	3.5	6.0	AJK	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
4	須恵坏	12.8	3.4	6.4	AJK	良好	灰	70	床直	やや歪みあり　底部回転糸切り
5	須恵坏	(13.6)	3.9	5.5	AFJK	普通	灰	40	覆土	底部のみ酸化焼成
6	須恵高台椀	(14.0)	5.7	7.6	ACJK	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
7	須恵高台椀			7.0	ADJ	普通	灰	60	覆土	底部回転糸切り
8	須恵高台椀			7.0	ACJK	普通	灰	90	覆土	底部右回転糸切り
9	土師高台椀			7.5	AFJK	良好	明赤褐	60	覆土	底部回転糸切り
10	須恵皿	(13.8)	2.2	6.0	ACJK	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
11	灰釉高台椀	17.0	5.3	8.5	AG	良好	黄灰	100	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ハケヌリ　東濃産
12	土師甕	(18.9)			AFJK	普通	にぶい黄橙	80	床直	
13	土師小型甕	(10.8)			ABCF	普通	橙	30	覆土	
14	土師小型甕	(13.9)			ABFG	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
15	土師台付甕				ADF	普通	にぶい赤褐	40	覆土	



第460図　第261号住居跡出土遺物

第261号住居跡出土遺物観察表（第460図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)			F	普通	暗灰黄	10	掘り方	
2	須恵坏				A	普通	灰	破片	覆土	外面に墨書
3	須恵高台椀			5.9	AG	普通	灰	60	覆土	
4	緑釉陶器						—	破片	覆土	
5	土錘	長さ (2.4)　径0.85　孔径0.4				普通	橙	40	覆土	

第249号住居跡（第461・462図）

N－13・14グリッドに位置する。北東部は調査区域外となっている。第531・532・534号土坑・第75号土溝と重複し、土坑すべてと溝に切られている。北壁・南壁の一部が確認されたのみで規模は、北壁2.25m、南壁4.05m、深さ20cm程を測る。東西方向を基準とすると主軸方位は、N－89°－Eを指す。

壁溝は、壁が確認されたところではすべて確認され、幅7～13cm、深さ10～13cmを測る。

貯蔵穴2基が検出され、住居跡南東隅に設けられたものと推定される。貯蔵穴1は、南壁寄りに設けられており、79cm×42cmの楕円形で、深さ14cmを測る。貯蔵穴2は、貯蔵穴1の西で南壁寄りに設けられており、50cm×38cmの円形で、深さ40cmを測る。

カマドは、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器坏・高台付埦・皿、土製紡錘車が出土した。

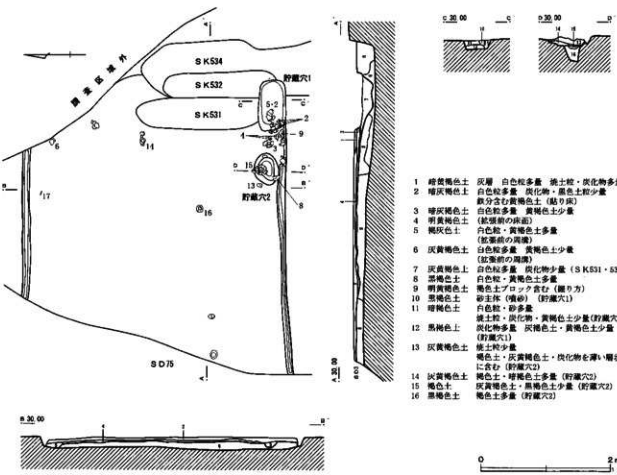
第252号住居跡（第463・464図）

J・K－16グリッドに位置する。第218・229号住居跡・第380・415・555号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.72m、南北3.74m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

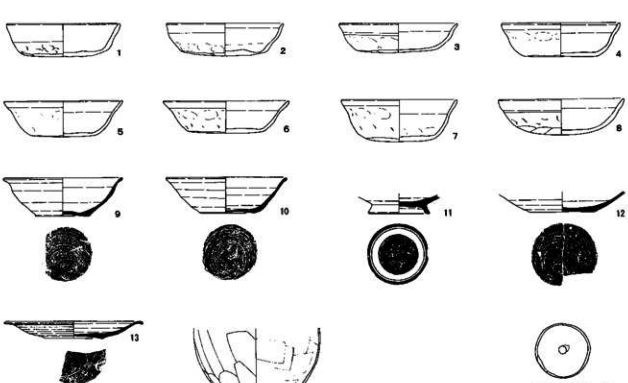
壁溝は、カマドを除きほぼ全周し、幅13～15cm、深さ5～8cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド東半が土坑に切られているため、燃焼部は、105cm×53cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付埦、須恵器坏・高台付埦・（長頸）瓶、灰釉陶器高台付埦、緑釉陶器高台と砥石が出土した。



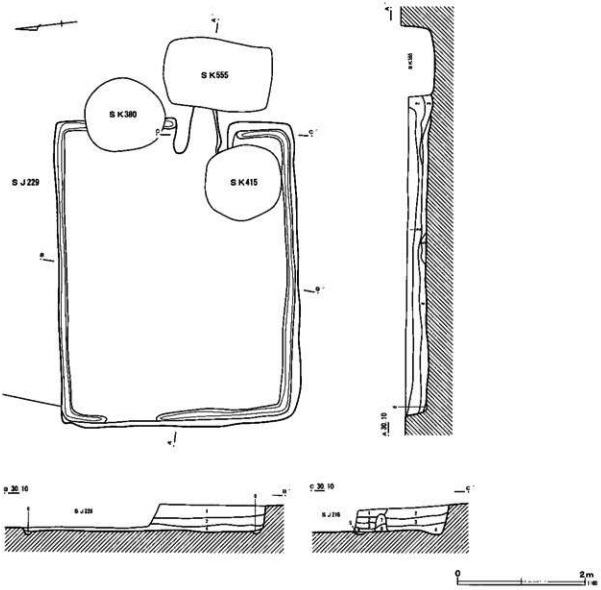
第461図 第249号住居跡



第462図　第249号住居跡出土遺物

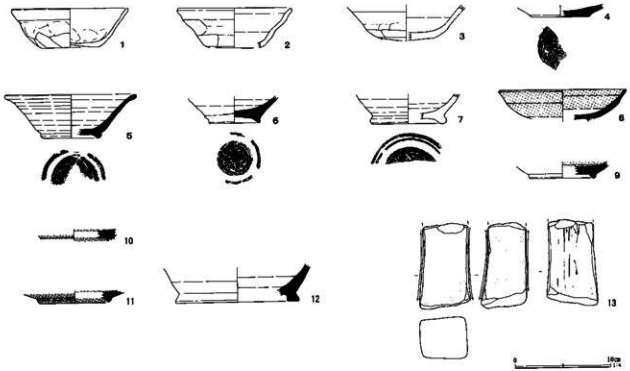
第249号住居跡出土遺物観察表（第462図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.8	3.5	9.3	AFJ	普通	橙	80	覆土	
2	土師坏	12.2	3.4	8.8	ABJ	普通	橙	95	貯蔵穴1	
3	土師坏	12.4	3.1	8.5	ABJK	普通	にぶい赤褐	85	床直	
4	土師坏	(12.2)	3.6	(7.4)	BFJ	普通	橙	25	床直	
5	土師坏	(12.4)	3.7	(6.6)	FJ	普通	橙	40	床直	
6	土師坏	(13.0)	3.4	(8.0)	FJ	普通	橙	30	床直	やや歪みあり
7	土師坏	(12.0)	4.4		FJ	普通	橙	40	覆土	やや歪みあり
8	土師坏	(13.0)	3.7		ABDJ	普通	にぶい橙	40	貯蔵穴2	
9	須恵坏	12.4	4.0	5.7	AJK	良好	灰	60	床直	底部回転糸切り
10	須恵坏	12.7	3.8	5.8	AJK	普通	灰白	95	貯蔵穴2	底部回転糸切り
11	須恵高台椀			6.3	AFJK	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
12	須恵皿			7.1	ABJK	普通	にぶい黄褐	70	覆土	
13	須恵皿	(14.6)	1.8	(6.2)	AJK	良好	灰	15	床直	底部に糸引き痕
14	須恵蓋	14.2			AG	普通	灰	60	床直	
15	土師台付甕				AC	良好	にぶい赤褐	90	貯蔵穴2	
16	土師台付甕			10.4	AC	普通	橙	95	床直	外面一部に油煙付着
17	土製紡錘車	径5.7×5.7		厚さ0.7	孔径0.8	良好	灰	100	覆土	須恵器底部の転用　周縁部研磨



1　暗灰褐色土　焼土粒少量　炭化物微量　灰色粘土多量
2　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物・灰色粘土少量
3　暗灰褐色土　炭層　焼土粒・炭化物・灰色粘土多量　灰が帯状に堆積
4　暗灰褐色土　焼土粒・炭化物・灰色粘土・褐色土ブロック多量
5　暗黄褐色土　炭化物・灰色粘土微量
6　暗褐色土　炭化物微量
7　暗灰褐色土　焼土粒・灰色粘土少量　炭化物微量
8　暗褐色土　焼土粒やや多量　炭化物微量　灰色粘土少量

第463図　第252号住居跡



第464図　第252号住居跡出土遺物

第252号住居跡出土遺物観察表（第464図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.2	4.2	6.0	ABFJK	普通	橙	80	覆土	底部周辺手持ちヘラ削り
2	土師坏	(11.7)		(6.0)	BJ	普通	にぶい褐	20	覆土	
3	土師坏			(5.8)	AFJ	普通	灰褐	20	覆土	
4	須恵坏			(6.0)	AK	普通	灰	25	覆土	
5	須恵高台椀	(13.8)	4.5	(6.4)	FJK	普通	黄灰	60	覆土	
6	須恵高台椀			5.4	ACFJ	普通	灰	70	覆土	底部外面墨書か？
7	土師高台椀			(8.0)	ABDFJK	普通	灰黄褐	40	覆土	ロクロ土師器
8	灰釉高台椀	(13.1)			G	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉ツケガケ　高台欠損　浜北産
9	灰釉高台椀			(6.9)	FG	普通	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内面ハケヌリ　二川産
10	緑釉高台				J	普通	―	10	覆土	猿投産
11	緑釉高台			(7.2)	GJ	不良	―	10	覆土	猿投産
12	須恵瓶			(12.8)	AJ	普通	灰	15	覆土	
13	砥石	長さ9.0　幅5.4　厚さ4.8				―	―	―	覆土	

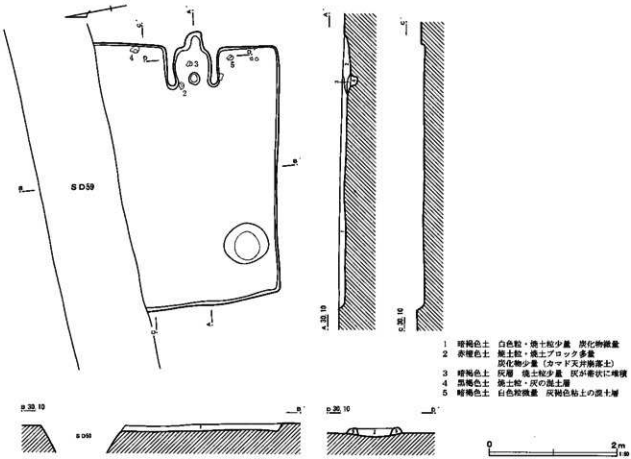
第254号住居跡（第465・466図）

L－18グリッドに位置する。第255号住居跡・第59号溝と重複し、溝に北側が切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.89m、確認できた東壁で南北2.76m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－97°－Eを指す。

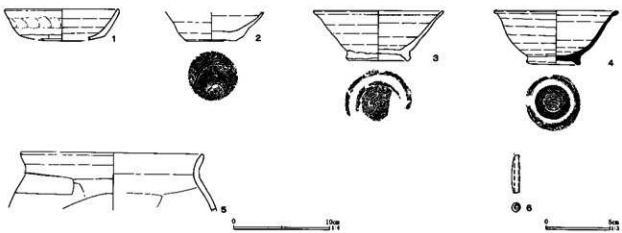
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、95cm×57cmで床面と同じ高さである。

南西隅に土坑が確認され、径70cm×62cm、深さ37cmを測る。

遺物は、土師器坏・高台付椀・土師器甕、須恵器坏・高台付椀と土錘が出土した。



第465図　第254号住居跡



第466図　第254号住居跡出土遺物

第255号住居跡（第467・468図）

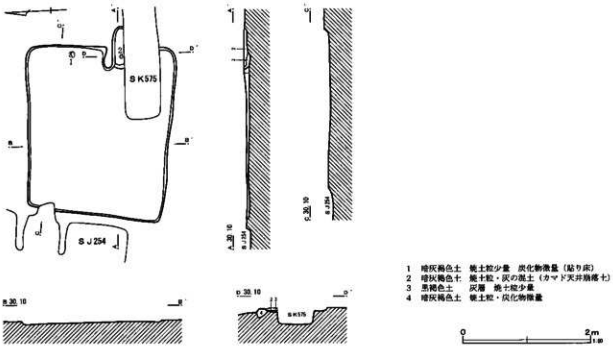
L－18グリッドに位置する。第254号住居跡・第575号土坑と重複し、両遺構から切られている。規模は、主軸長東西2.66 m、南北2.30 m、深さ4cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－93°－Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマドの南半は、第575号土坑に切られている。燃焼部は、65cmが残存していた。

遺物は、須恵器高台付埦、土師器高台付埦が出土した。

第254号住居跡出土遺物観察表（第466図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.8)		(8.8)	ACF	普通	にぶい橙	20	覆土	
2	須恵坏			5.2	ABFJ	普通	浅黄橙	60	カマド	酸化焔焼成
3	土師高台椀	(13.6)	5.2	6.8	ABFJ	不良	橙	40	カマド	ロクロ土師器
4	須恵高台椀	13.0	5.6	5.7	ABJ	普通	にぶい橙	70	床直	
5	土師甕	(18.9)			BFGJ	良好	にぶい黄橙	15	覆土	
6	土錘	長さ (2.9) 径0.6 孔径0.3				普通	浅黄	90	覆土	



第467図 第255号住居跡

第468図 第255号住居跡出土遺物

第255号住居跡出土遺物観察表（第468図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			6.0	AJ	普通	にぶい橙	80	覆土	酸化焔焼成 底部内面螺旋状ヘラ痕
2	土師高台椀			5.1	BGJ	普通	浅黄橙	40	カマド	ロクロ土師器

第256号住居跡（第469・470図）

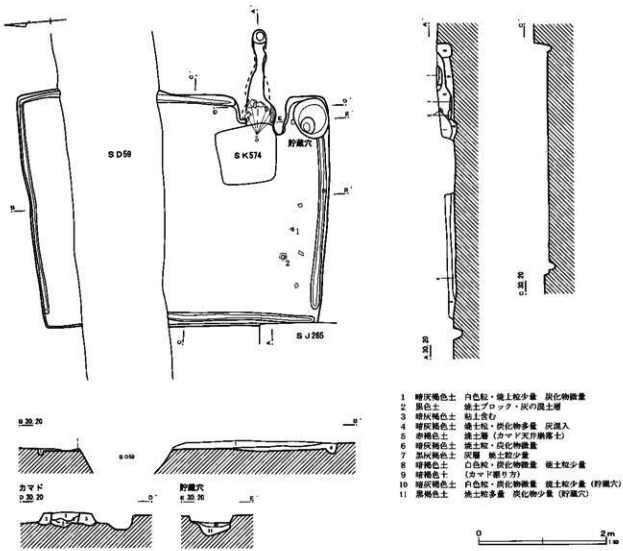
L－18・19グリッドに位置する。第265・310号住居跡・第574号土坑・第59号溝と重複し、第310号住居跡を切り、他のすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西3.64m、南北4.72m、深さ15cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－95°－Eを指す。

壁溝は、カマド部分を除きほぼ全周し、幅13cm程、深さ10～12cmを測る。

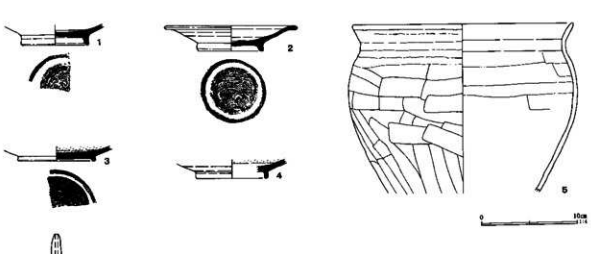
貯蔵穴は、南東隅に設けられており、径63cm×53cmの円形で、深さ33cmを測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。カマド前は土坑に切られているため確認できた燃焼部は、80cm×43cm、深さ5cm程が残存していた。煙道部は、長さ120cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付皿、土師器甕、灰釉陶器高台付皿と土錘が出土した。



第469図 第256号住居跡



第470図　第256号住居跡出土遺物

第256号住居跡出土遺物観察表（第470図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台皿			(6.9)	AJ	良好	灰黄褐	20	覆土	
2	須恵高台皿	(14.9)	2.7	6.7	AJ	普通	灰	35	覆土	
3	灰釉高台皿			(7.8)	AGK	普通	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内面ハケヌリ　二川産
4	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	15	カマド	高台内ヘラ削り　施釉内面ハケヌリ一筆内面に重ね焼き痕　二川産
5	土師甕	22.8			ABFG	良好	にぶい橙	60	カマド	
6	土錘	長さ4.1　径0.8　孔径0.2				普通	浅黄橙	100	覆土	

第257号住居跡（第471図）

K・L－17・18グリッドに位置する。第238号住居跡・第59・66号溝と重複し、南側は第59号溝に切られ、住居跡に上部が切られている。中央南北方向に第66号溝が切っている。規模は、主軸長東西4.00m、確認できた南北2.26mが残存し、深さ17cm程を測る。主軸方位は、N－89°－Eを指す。

壁溝は、カマド部分を除き全周し、幅15～20cm、深さ8cm程を測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、74cm×60cm、深さ10cm程を測る。

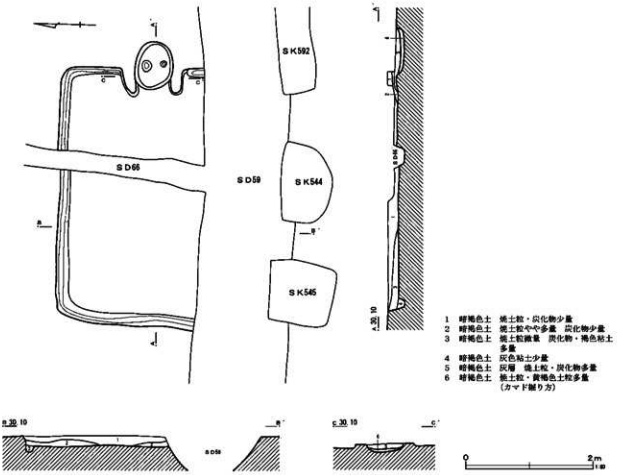
第258号住居跡（第472・473図）

K－17・18グリッドに位置する。第495・694・695号土坑・第27・30号井戸跡・第66号溝と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.00m、南北3.46m、深さ19cm程を測る。平面形は、方形を呈する。東西方向を主軸とすると主軸方位は、N－69°－Eを指す。

壁溝は、全周すると推定され、幅15～22cm、深さ5～10cmを測る。

カマド等の施設は、確認されなかった。

遺物は、灰釉陶器（長頸）瓶が出土した。



第471図 第257号住居跡

第262号住居跡（第474・475図）

J－16・17グリッドに位置する。第295号住居跡・第376・486・491・675号土坑と重複し、住居跡を切り、土坑には切られている。規模は、主軸長東西2.86m、南北3.80m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－99°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、81cm×84cmの円形で深さ、41cmを測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、90cm×50cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ73cmが確認できた。

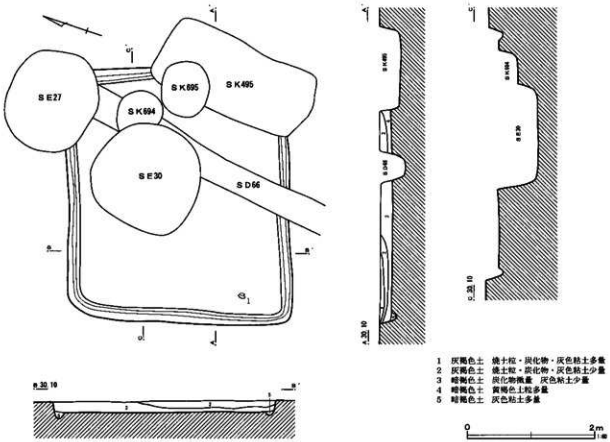
遺物は、土師器坏・高台付埦・甕、須恵器坏、砥石、土錘が出土した。

第295号住居跡（第474・476図）

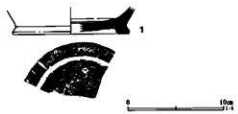
J－17グリッドに位置する。第262号住居、第486・712号土坑と重複し、住居跡・土坑に切られている。規模は、主軸長南北2.18m、北壁で東西3.00mが確認でき、深さ5cm程を測る。主軸方位は、N－10°－Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。カマド前は住居跡に切られており、燃焼部は80cm×50cmが残存していた。

遺物は、土師器甕が出土した。



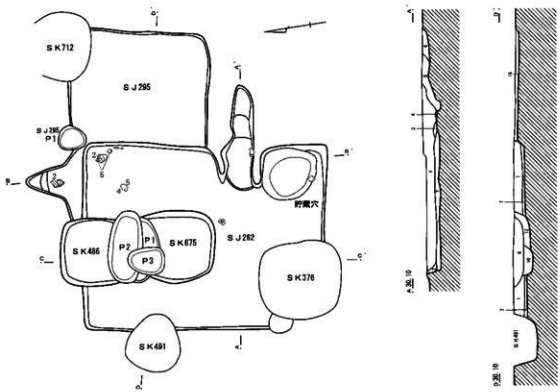
第472図 第258号住居跡



第473図 第258号住居跡出土遺物

第258号住居跡出土遺物観察表（第473図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	灰釉瓶			(12.0)	G	良好	灰白	30	覆土	高台内ヘラ削り 施釉なし 底部内面に自然釉



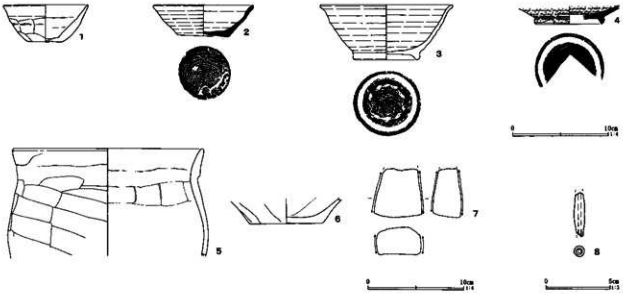
第262・295号住居跡　第486・675号土坑
1　暗褐色土　白色粒少量　焼土粒多量
2　暗灰色土　灰白色粘土含む
3　黒色灰土　灰層
4　赤褐色土　焼土層
5　暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量
6　暗褐色土　焼土粒微量
7　暗灰色土　焼土粒微量　灰色粘土土坏（貼り床）
8　暗褐色土　白色粒多量　焼土粒微量（ピット1）
9　黒褐色土　白色粒・焼土粒・黄褐色土ブロック多量（ピット2）
10　黒褐色土　焼土粒少量（ピット3）
11　黒褐色土　白色粒・焼土粒少量　黄褐色土ブロック多量（SK486）
12　黒褐色土　黄褐色土ブロック少量（SK675）
13　暗褐色土　焼土粒・炭化物多量（貯蔵穴）
14　暗褐色土　焼土ブロック多量　炭化物少量（SJ295燃焼部）
15　暗褐色土　焼土粒・炭化物微量（SJ295カマド脇り方）
16　暗褐色土　焼土粒多量　焼土ブロック少量

0　2m

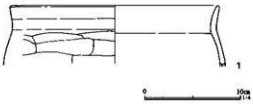
第474図　第262・295号住居跡

第262号住居跡出土遺物観察表（第475図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	9.0	3.9	3.6	ABFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
2	須恵坏	10.6	3.3	5.5	BFJ	普通	褐灰	100	覆土	底部回転糸切り
3	土師高台椀	(14.0)	5.7	7.0	ACFJK	普通	にぶい褐	60	貯蔵穴	ロクロ土師器
4	灰釉高台椀			7.2	A	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　東濃産
5	土師甕	(19.7)			AFJ	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
6	土師甕			(7.5)	AF	良好	橙	25	覆土	
7	砥石	長さ5.1　幅4.9　厚さ2.9							覆土	
8	土錘	長さ(3.35)　径0.85　孔径0.2～0.25					灰白	80	覆土	



第475図　第262号住居跡出土遺物



第476図　第295号住居跡出土遺物

第295号住居跡出土遺物観察表（第476図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	(21.5)			ABGJ	普通	橙	20	カマド	

第263号住居跡（第477・478図）

Ⅰ・J－18・19グリッドに位置する。第635号土坑・第36号井戸跡と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.32m、西壁で南北2.63m、深さ3cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N－106°－Eを指す。

壁構は西壁と南・北両壁の一部に確認でき、幅17～20cm、深さ7cm程を測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、97cm×55cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ48cmが確認できた。

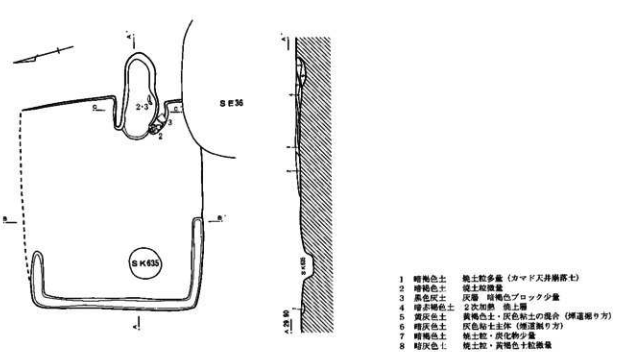
遺物は、土師器坏・高台付埦・羽釜が出土した。

第264号住居跡（第479・480・481図）

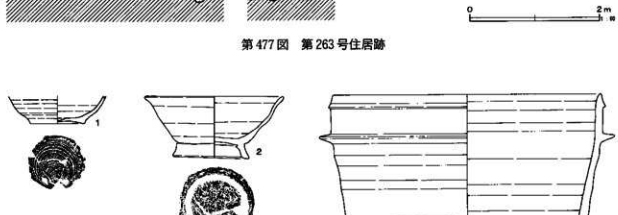
L・M－19グリッドに位置する。第312号住居と重複し、切っている。規模は、主軸長東西3.38m、南北4.90m、深さ19cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、60cm×84cmの楕円形で、深さ48cmを測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、94cm×70cm、深さ12cm程を測る。煙道部は長さ70cmが確認できた。



第477図　第263号住居跡



第478図　第263号住居跡出土遺物

第263号住居跡出土遺物観察表（第478図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			5.8	BFJ	普通	にぶい橙	60	覆土	ロクロ土師器
2	土師高台埦	14.5	6.5	8.0	ABFJ	普通	浅黄橙	70	カマド	ロクロ土師器　内外面磨耗著しい
3	土師羽釜	(28.0)			AGJ	普通	灰白	15	カマド	

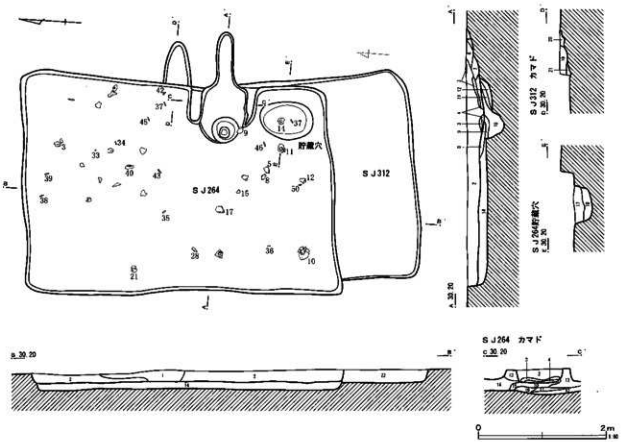
遺物は、土師器坏・高台付埦・甕、須恵器坏・高台埦・皿・長頸瓶、灰釉陶器高台坏皿、土錘と鉄製品が出土した。46は鉄製釘である。ほぼ完形で長さ8.2cm、頭幅1.1cmである。47は鉄製刀子と思われる刃の一部である。現存長2.1cm、刃幅最大0.9cm。切先に近い部分と推定される。48は鉄製刀子の茎部と考えられる。現存長8.5cm。49は丸棒状の鉄製品である。現存長は8.7cm。用途は不明である。50はC字状に曲がった角棒状鉄製品である。現存長5.2cm。用途は不明である。

第312号住居跡（第479・482図）

L・M－19グリッドに位置する。第264号住居跡と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.16m、東壁で南北3.90mが確認でき、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－83°－Eを指す。

カマドは、東壁に設けられているが、殆ど住居跡に切られ燃焼部は、66cm×40cmが残存していた。

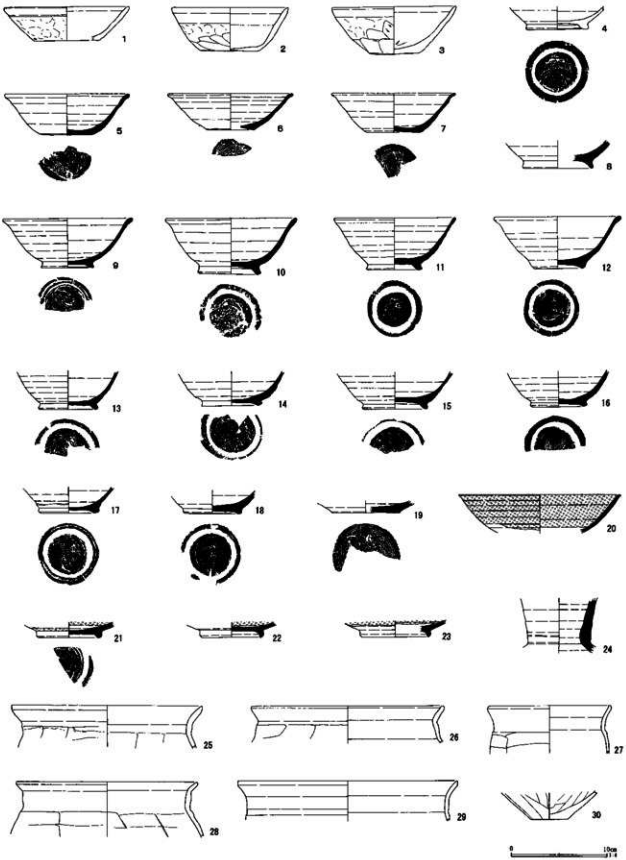
遺物は、須恵器坏・高台付埦・土師器甕が出土した。



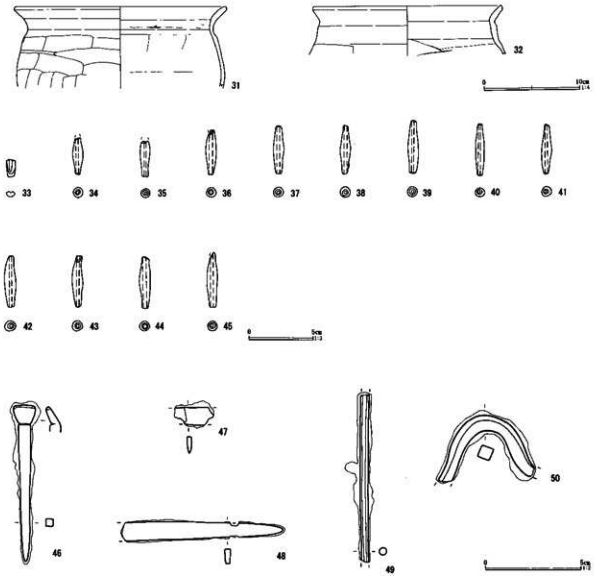
第264・312号住居跡

1 黒色土　焼土粒少量　炭化物・灰多量
2 暗褐色土　焼土粒少量　炭化物微量
3 暗褐色土　焼土層（カマド天井崩落上）
4 黒色土　灰層　焼十粒含む
5 暗褐色土　焼土ブロック、ランダムに含む（煙突からの流入上）
6 暗褐色土　白色粒微量　焼土粒多量
7 黒褐色土　焼土粒やや多量
8 暗灰褐色土　焼土粒やや多量　炭・炭化物少量（カマド掘り方）
9 暗褐色土　焼十粒やや多量　炭化物少量（カマド掘り方）
10 暗灰褐色土　焼土ブロック多量　炭化物・灰含む（カマド掘り方）
11 黒褐色土　焼土粒多量　炭混入（カマド掘り方）
12 暗褐色土　焼十粒微量　黄褐色土ブロック少量（カマド掘り方）
13 暗褐色土　白色粒・焼土粒少量　炭化物微量
14 暗灰褐色土　焼土粒やや多量　炭化物微量（貼り床）
15 暗黄褐色土　焼土粒多量（カマド掘り方）
16 暗褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量（カマド掘り方）
17 暗褐色土　焼十粒・炭化物少量（貯蔵穴）
18 暗灰褐色土　焼土粒・灰多量（貯蔵穴）
19 暗褐色土　焼土粒・炭化物少量（ＳＪ312カマド）
20 暗褐色土　焼十粒やや多量　炭化物少量（ＳＪ312カマド）
21 暗褐色土　焼土ブロック多量　炭化物少量（ＳＪ312カマド）
22 暗黄褐色土　暗褐色土ブロック混入（ＳＪ312掘り方）

第479図　第264・312号住居跡



第480図　第264号住居跡出土遺物（1）



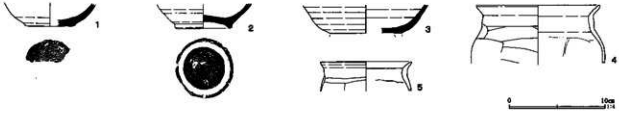
第481図　第264号住居跡出土遺物（2）

第264号住居跡出土遺物観察表（第480図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.6		AFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
2	土師坏	(12.2)	4.6	6.3	AFJ	不良	橙		覆土	
3	土師坏	(13.0)	5.0	5.4	ABCFJ	普通	にぶい褐	40	覆土	
4	土師高台椀			6.6	ABCFJK	良好	橙	90	覆土	ロクロ土師器
5	須恵坏	(13.0)	4.4	5.6	ACJK	良好	灰	40	覆土	歪み大きい
6	須恵坏	(13.0)	3.8	(5.0)	ACJK	良好	灰	15	覆土	底部回転糸切り
7	須恵坏	(13.0)	4.1	(6.0)	ACJK	良好	灰	15	カマド	底部右回転糸切り
8	須恵高台椀			(7.0)	AJ	普通	にぶい黄	30	覆土	
9	須恵高台椀	(13.6)	5.2	5.7	CJK	良好	灰	30	カマド	やや歪みあり
10	須恵高台椀	13.8	5.9	6.4	F	普通	灰黄褐	85	覆土	底部回転糸切り
11	須恵高台椀	(12.7)	5.4	5.8	AJK	良好	灰褐	60	覆土	底部回転糸切り
12	須恵高台椀	(13.0)	5.5	5.5	AK	普通	灰	60	覆土	

第264号住居跡出土遺物観察表（第480・481図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	須恵高台椀			6.3	ＡＪＫ	良好	灰	20	覆土	
14	須恵高台椀			6.3	ＡＪＫ	良好	灰	40	覆土	
15	須恵高台椀			(7.0)	ＡＦＪＫ	良好	灰	30	覆土	
16	須恵高台椀			(6.0)	ＡＪＫ	良好	褐灰	20	覆土	底部回転糸切り
17	須恵高台椀			(6.4)	ＡＪＫ	良好	灰	80	覆土	
18	須恵高台椀			6.1	ＦＪＫ	良好	にぶい褐	80	覆土	
19	須恵皿			(7.0)	ＡＪ	良好	灰	40	覆土	底部右回転糸切り
20	灰釉椀	(16.8)			Ａ	良好	灰白	30	覆土	施釉内外面ハケヌリ　東濃産
21	灰釉高台皿			(6.2)	Ｇ	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　浜北産
22	灰釉高台皿			(6.1)	Ａ	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り　施釉内外面ハケヌリ　二川産
23	灰釉高台皿			(7.0)	Ａ	良好	灰	10	掘り方	
24	須恵長頸瓶				ＡＣＦＪ	普通	灰	90	覆土	頸部径6.6
25	土師甕	(19.8)			ＡＢＦ	良好	にぶい黄橙	20	覆土	
26	土師甕	(19.7)			ＡＦＧ	良好	灰黄褐	15	覆土	
27	土師甕	(12.5)			ＡＦ	良好	にぶい橙	20	覆土	
28	土師甕	(18.9)			ＡＦＧ	普通	にぶい橙	20	覆土	
29	土師甕	(21.8)			ＡＢＦ	良好	橙	15	覆土	口縁部内面ロクロナデ
30	土師甕			4.8	ＡＣＦ	良好	黒褐	20	覆土	底部一方向ヘラ削り
31	土師甕	(22.0)			ＡＦＪ	良好	橙	15	覆土	
32	土師甕	(19.6)			ＡＢＦ	良好	にぶい橙	10	覆土	
33	土錘	長さ (1.4)　径 (0.7)　孔径0.2					橙	20	覆土	
34	土錘	長さ (2.85)　径0.8　孔径0.3					灰白	80	覆土	
35	土錘	長さ (2.8)　径0.75　孔径0.2					橙	70	覆土	
36	土錘	長さ3.5　径0.8　孔径0.3～0.35					にぶい橙	90	覆土	
37	土錘	長さ3.75　径0.8～0.85　孔径0.3					にぶい黄橙	100	覆土	
38	土錘	長さ3.85　径0.8　孔径0.25					浅黄橙	95	覆土	
39	土錘	長さ4.2　径0.8　孔径0.25					灰褐	100	覆土	
40	土錘	長さ4.05　径0.65　孔径0.25					橙	95	覆土	
41	土錘	長さ3.9　径0.8　孔径0.25					にぶい黄橙	100	貯蔵穴	
42	土錘	長さ4.0　径0.85　孔径0.3					橙	100	覆土	
43	土錘	長さ4.0　径0.85　孔径0.3					橙	100	覆土	
44	土錘	長さ4.0　径0.8　孔径0.3					橙	100	覆土	
45	土錘	長さ4.3　径0.85　孔径0.25					にぶい黄橙	90	覆土	



第482図　第312号住居跡出土遺物

第312号住居跡出土遺物観察表（第482図）

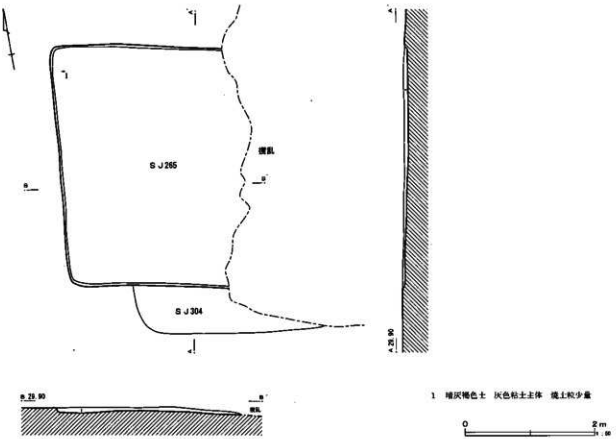
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(5.7)	AJ	普通	灰	22	掘り方	
2	須恵高台埦			6.0	J	普通	灰	50	覆土	底部回転糸切り
3	須恵高台埦				AFJK	普通	灰黄	20	覆土	高台部剥離
4	土師甕	(12.8)			AF	良好	褐灰	20	覆土	
5	土師甕	(9.4)			ABDF	良好	にぶい褐	25	覆土	胴部外面煤付着

第265号住居跡（第483・484図）

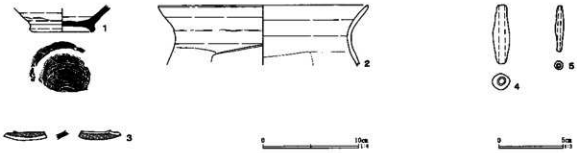
J・K－19グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。第304号住居跡と重複し、切っている。規模は、確認できた主軸長南北3.02m、東西3.74m、深さ8cm程を測る。主軸方位は、N－97°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器高台付埦、土師器甕、緑釉陶器、土錘が出土した。



第483図 第265号住居跡



第484図　第265号住居跡出土遺物

第265号住居跡出土遺物観察表（第484図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台境			(6.4)	J	普通	淡黄	60	床直	底部回転糸切り
2	土師甕	(21.6)			ACFJ	普通	橙	20	覆土	
3	緑釉陶皿				G	普通	―	破片	覆土	猿投産
4	土錘	長さ4.6	径1.3	孔径0.5		普通	にぶい赤橙	100	覆土	
5	土錘	長さ3.6	径0.5	孔径0.2		普通	黒褐	100	覆土	

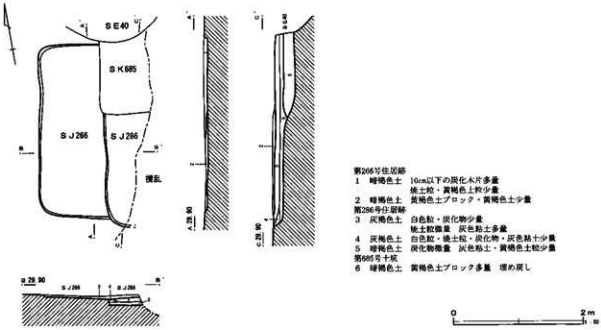
第266号住居跡（第485図）

J－19グリッドに位置する。第286号住居・第685号土坑と重複し、住居跡を切っている。規模は、主軸長南北2.73m、確認できた東西1.05m、深さ6cm程を測る。西壁を基準とすると主軸方位は、N－7°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第286号住居跡（第485図）

J－19グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。第266号住居・第685号土坑と重複し、上



第485図　第266・286号住居跡

部が住居跡に切られ、土坑上部を切っている。規模は、西壁残存は南北1.75m、残存する東西0.54m、深さ13cmを測る。西壁を基準とすると主軸方位は、N－8°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第267号住居跡（第486・487図）

J－16・17グリッドに位置する。第262号住居・第480・486・492号土坑・第62号溝と重複し、南壁上部が住居跡に、他のすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西2.88m、南北3.96m、深さ6cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－101°－Eを指す。

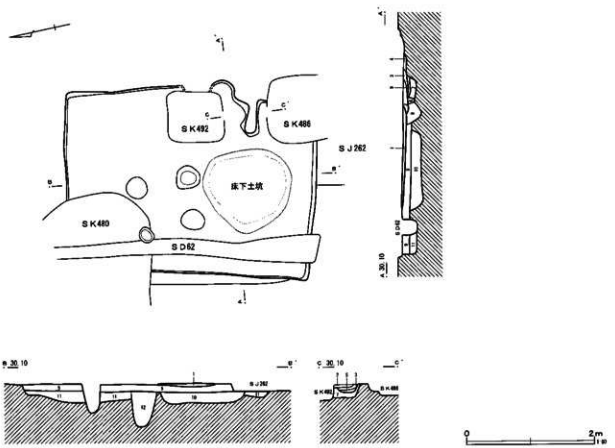
ピット2基は住居跡に関連するものであるが、柱穴ではないと考えられる。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。カマド北半は土坑に切られ、燃焼部は、77cmが残存していた。煙道部は、長さ30cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付埦、緑釉陶器高台坏が出土した。

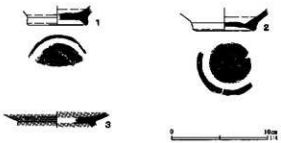
第268号住居跡（第488・489図）

L－13グリッドに位置する。第269・270・274・275号住居跡と重複し、第269号住居跡に切られ、第270・274・275号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西6.26m、南北4.61m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－85°－Eを指す。



1　暗褐色土　焼土粒少量　炭化物微量　灰褐色粘土粒やや多量（SJ217貼り床）
2　暗褐色土　焼土粒・炭化物やや多量
3　赤褐色土　焼土ブロック主体（カマド天井崩落土）
4　暗灰色土　焼十粒微量
5　黒色土　灰層　焼土粒・炭化物少量
6　暗黄褐色土　暗黄褐色土と粘土の焼土層
7　暗褐色土　焼十粒・焼土ブロック少量　灰褐色粘土多量（カマド掘り方）
8　暗灰黄褐色土　焼土粒・炭化物少量　灰多量
9　暗灰色土　焼土粒・炭化物微量　黄褐色土粒多量
10　暗褐色土　焼土粒・黄褐色土ブロック少量　暗灰色土ブロック多量
11　暗灰色土　10層と酷似　灰色粘土多量（掘り方）
12　黒褐色土　白色粒子・粘土粒子多　ローム粒少量

第486図　第267号住居跡



第487図　第267号住居跡出土遺物

第267号住居跡出土遺物観察表（第487図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			(6.4)	AJ	良好	灰白	30	覆土	
2	須恵高台坏			(6.6)	A	良好	灰白	60	覆土	
3	緑釉高台皿					良好	オリーブ灰	15	覆土	搬投産

壁溝は、南壁・西壁と北壁の一部で検出され、幅17～25cm、深さ10～15cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド前は住居跡に切られており確認できた燃焼部は、80cm×80cm、深さ15cmを測り、煙道部は、長さ70cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器瓶が出土した。

第269号住居跡（第488・490図）

L－13グリッドに位置する。第268・270号住居と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北3.56m、東西5.08m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－3°－Wを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、67cm×70cm、深さ15cmを測り、煙道部は、長さ35cmが確認できた。カマド前のピットには灰が堆積していた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・蓋・高台・円面硯・高盤・瓶と鉄製品が出土した。14は鉄製刀子である。2片に分離するが、同一個体と推定される。切先を含む刃部片は現存長4.7cm、刃部最大幅0.8cm、刃部元～茎部の破片は現存長8.2cm、刃部幅1.1cmである。復元すると刃部の長さはおよそ12cmになると考えられる。関は背・刃ともにやや浅いが明瞭な角関で、茎の表面には柄木の木質がわずかに残っている。

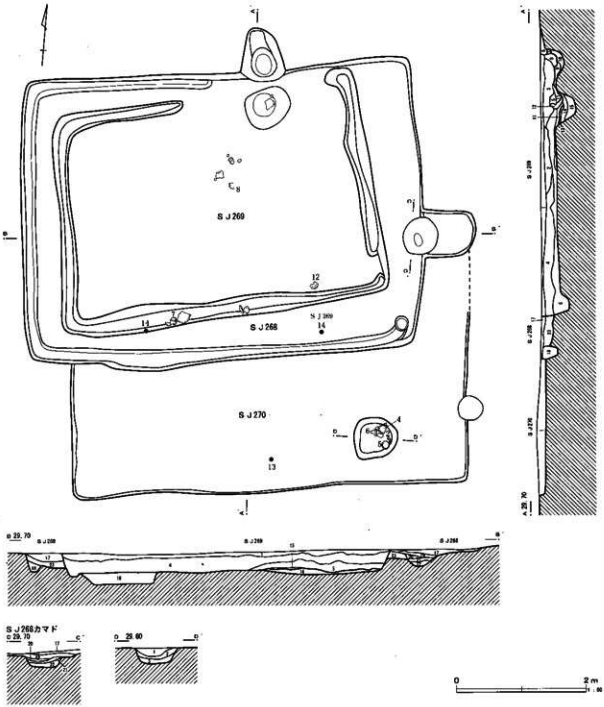
第270号住居跡（第488・491図）

L－13グリッドに位置する。第268・269号住居跡と重複し、2軒の住居跡に切られている。規模は、主軸長東西6.26m、確認できた東壁で南北2.60m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。南壁を基準とすると主軸方位は、N－98°－Eを指す。

南東隅に土坑が確認され、径70cm×63cmの円形で、深さ25cmを測る。貯蔵穴ともみられる。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・蓋と鉄製品が出土した。13は鉄製刀子である。茎先を欠き、現存長12.7cm、刃長8.1cm、刃幅0.6～1.1cmである。幅0.4cm、径1.2×1.0cmの筒状の鋲が装着される。関は両関である。



第269・270号住切跡

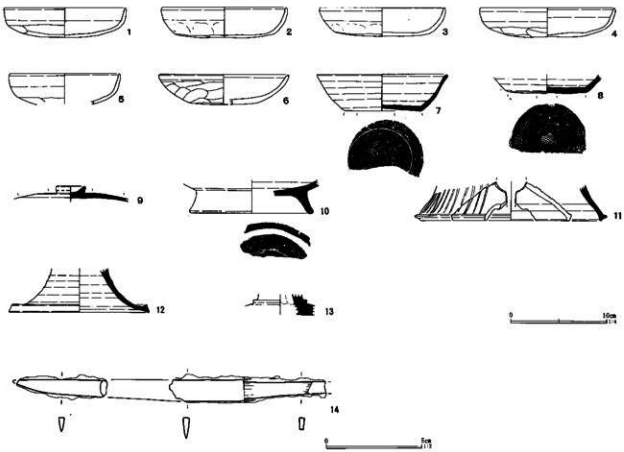
1 黒褐色土　ロ色粒多量　焼土粒少量　炭化物微量
2 暗灰黄褐色土　焼土粒少量　炭化物・黄褐色土ブロック多量
3 暗黄褐色土　焼土粒・炭化物多量
4 暗黄灰色土　焼土粒・炭化物少量
5 褐灰色土　焼土粒・炭化物微量　黄褐色土ブロック多量
6 灰黄褐色土　焼土粒・黄褐色土ブロック多量
7 黒色土　炭化物・褐色土の混土
8 褐色土　焼土ブロック多量　炭化物微量（カマド天井崩落土）
9 暗褐色土　褐色土・黄褐色土の混土（燃焼掘り方）
10 灰黄褐色土　黄褐色土ブロック多量（燃焼掘り方）
11 黒色土　灰層　炭化物層
12 暗黄褐色土　炭化物含む
13 明黄褐色土　下面に炭化物が帯状に堆積（カマド掘り方）
14 暗褐色土　灰褐色土・黄褐色土の混土（カマド掘り方）
15 黄褐色土　褐色土ブロック多量
16 明黄褐色土　灰褐色土ブロック少量（掘り方）
17 褐色土　焼土粒・炭化物多量　焼土ブロック少量
第268住周溝
18 褐色土　焼土粒少量　黄褐色土ブロック多量
19 暗褐色土　焼土粒多量　炭化物1体　黄褐色土粒少量
20 暗黄褐色土　焼土粒・炭化物多量（カマド）
21 黒褐色土　焼土粒・炭化物・黄褐色土ブロック多量　焼め焼し（カマド）
22 黒褐色土　焼土粒少量　炭化物・黄褐色土ブロック多量　焼め焼し（カマド）
23 暗黄褐色土　焼土粒・炭化物少量
第270住居跡内土坑
1 暗褐色土　焼土粒・黄褐色土ブロック少量　黄褐色土粒多量
2 黒褐色土　焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量
3 暗黄褐色土　黄褐色土粒・黄褐色土ブロック多量　炭化物微量

第488図　第268・269・270号住居跡

第489図　第268号住居跡出土遺物

第268号住居跡出土遺物観察表（第489図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(16.0)	4.4	(7.0)	BCJ	普通	にぶい褐	30	カマド	
2	須恵甑				AK	良好	灰	30	床直	



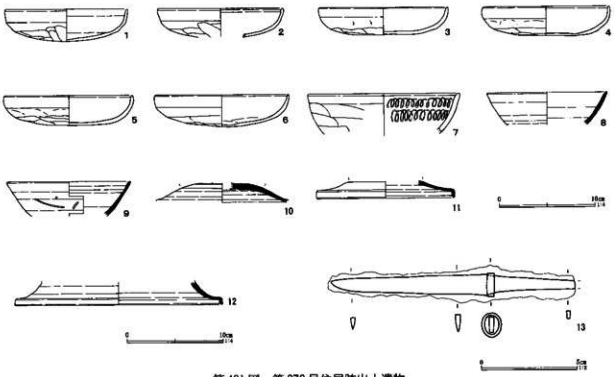
第490図　第269号住居跡出土遺物

第269号住居跡出土遺物観察表（第490図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.1		BJ	普通	橙	90	覆土	
2	土師坏	(13.0)	3.2	(10.4)	BFJ	普通	橙	60	カマド	
3	土師坏	13.0	3.0	10.0	BJ	普通	橙	80	覆土	
4	土師坏	(14.0)	3.0		BJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(11.6)			ABJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
6	土師坏	(13.6)	3.1	(7.0)	ABFJ	良好	にぶい赤褐	25	覆土	

第269号住居跡出土遺物観察表（第490図）

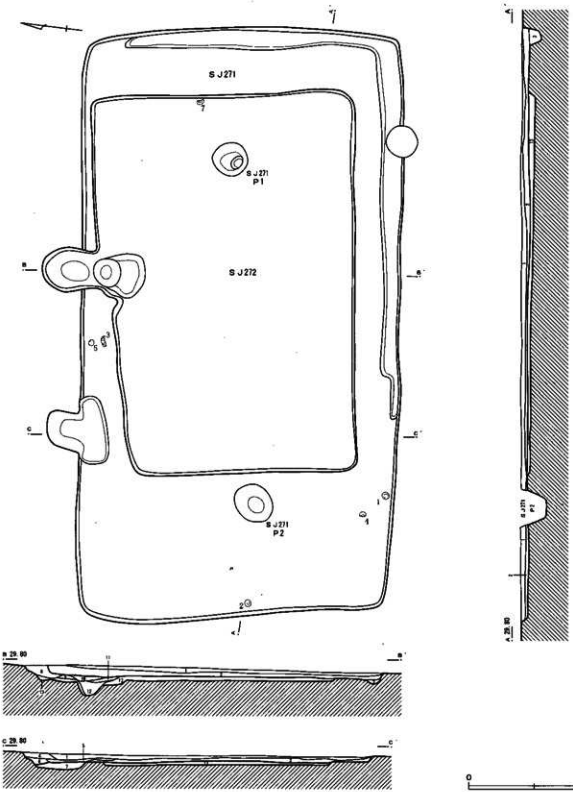
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
7	須恵坏	(13.7)	3.8	8.0	AJK	良好	にぶい橙	60	壁溝	底部回転糸切り後周辺回転ヘラ削り
8	須恵坏			8.0	AHJ	良好	灰	60	床直	底部回転糸切り後周辺回転ヘラ削り
9	須恵蓋				AHJK	良好	灰	40	覆土	つまみ径3.1　天井部回転ヘラ削り
10	須恵高台			(13.0)	CJK	良好	灰白	20	覆土	
11	須恵円面硯			(20.0)	AJK	良好	暗灰	10	覆土	脚部沈線と円形透孔　外面自然釉
12	須恵高盤			(14.6)	AHJ	良好	灰	30	床直	
13	須恵瓶				AG	良好	灰白	25	覆土	



第491図　第270号住居跡出土遺物

第270号住居跡出土遺物観察表（第491図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)	3.4		ACJ	普通	橙	30	覆土	やや歪みあり
2	土師坏	(13.0)			BFJ	普通	橙	25	ピット	
3	土師坏	(13.4)	2.9		ABF	普通	橙	40	覆土	
4	土師坏	13.2	3.1		ABF	普通	にぶい赤褐	80	ピット	
5	土師坏	13.5	3.2		ABF	普通	橙	100	ピット	
6	土師坏	14.0	3.4		ABF	普通	にぶい橙	90	ピット	
7	土師坏	(15.2)			AB	良好	橙	15	覆土	螺旋状の暗文
8	須恵坏	(12.4)			AGH	良好	灰	25	覆土	
9	須恵坏	(12.8)			AG	良好	灰	20	覆土	体部外面にヘラ書
10	須恵蓋				AH	良好	灰	10	覆土	
11	須恵蓋	(14.2)			AG	良好	灰	10	覆土	
12	須恵蓋	(21.8)			A	良好	灰	15	覆土	



第271住居跡
1 暗褐色土　白色粒少量　焼土粒微量　黄褐色土多量
2 黄褐色土　灰褐色土・黄褐色土の混土層
3 灰黄褐色土　白色粒・焼土粒微量　黄褐色土ブロック多量
4 黒褐色土　焼土粒・焼土ブロック主体　炭化物多量（カマド天井崩落土）
5 黒褐色土　灰層　炭化物主体　焼土粒多量
6 黒褐色土　灰層　炭化物主体　焼土粒多量
7 黄褐色土　褐色土主体（カマド掘り方）

第272号住居跡
8 褐色土　焼土ブロック多量
9 黄褐色土　褐灰色土多量
10 暗黄褐色土　焼土粒・焼土ブロック多量　炭化物少量（火井崩落土）
11 黒色土　灰層　炭化物主体　焼土粒少量
12 黒褐色土　炭化物・黄褐色ブロックの混土層
焼土粒微量（カマド掘り方）
13 暗黄褐色土　焼土粒微量　粘土粒多量

第492図　第271・272号住居跡

第271号住居跡（第492・493図）

L－14グリッドに位置する。第272号住居跡と重複し、上部を切っている。規模は、主軸長南北5.00m、東西9.25m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－7°－Wを指す。

壁溝は、東壁と南壁に部分的に検出され、幅17～40cm、深さ8～20cmを測る。

柱穴が2本確認され、径52～55cm、深さ30cmを測る。

カマドは、北壁で西に片寄って設けられている。燃焼部は、90cm×107cmで床面と同じ高さである。煙道部は13cmが確認できた。

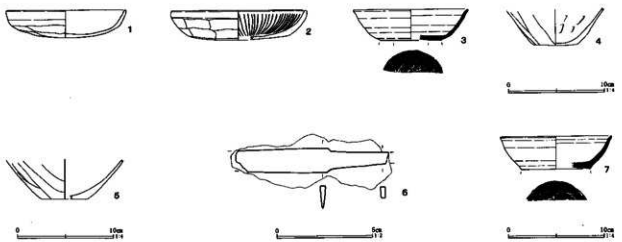
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏と鉄製品が出土した。6は鉄製刀子である。切先を含む刃部と茎先を欠く。現存長8.2cm、刃幅1.2cmである。関は両関で、背関のほうがやや深い角関を呈する。

第272号住居跡（第492・493図）

L－14グリッドに位置する。第271号住居と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長南北4.08m、東西5.94m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－6°－Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、120cm×58cmを測る。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第493図　第271・272号住居跡出土遺物

第271号住居跡出土遺物観察表（第493図）

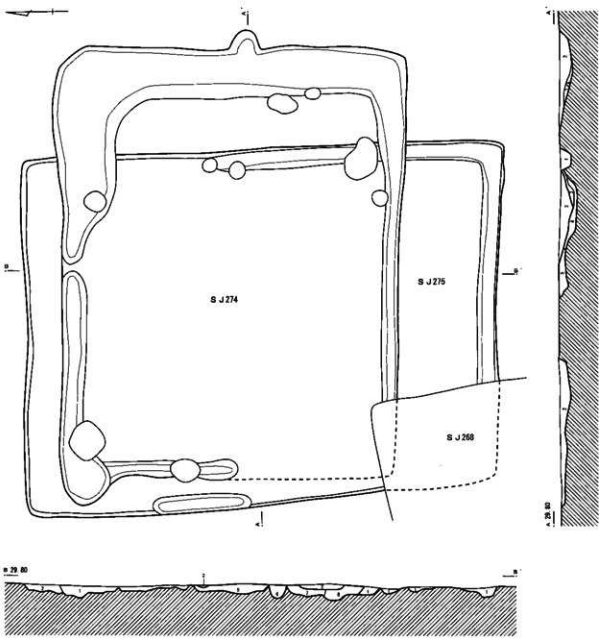
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	2.9		ABFJ	普通	橙	100	覆土	
2	土師坏	14.2	3.1	10.5	BFJ	普通	にぶい赤褐	80	床直	内面に放射状の暗文
3	須恵坏	(12.0)	3.2	(6.4)	AHJK	良好	灰	40	床直	底部回転糸切り、周辺回転ヘラ削り
4	土師甕			4.7	ABFHJ	良好	にぶい黄橙	70	覆土	
5	土師甕			(4.7)	ABFJ	良好	にぶい褐	40	床直	
7	須恵坏	(11.5)	3.4	7.2	AH	良好	灰	40	床直	

第274号住居跡（第494・495図）

K・L－13・14グリッドに位置する。第268・275号住居跡と重複している。南西隅壁は、第268号住居に壊されている。規模は、主軸長東西6.75m、南北5.24m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－91°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付椀・皿・瓶、


S J274
S J275
S J268
SB
SB
SA
SA
SA

灰釉陶器高台付埦、土錘と鉄製品が出土した。17は延板状の鉄製品である。一方の端部は丸くなる。現存長は5.8cm、厚さは約0.3cmである。用途は不明である。

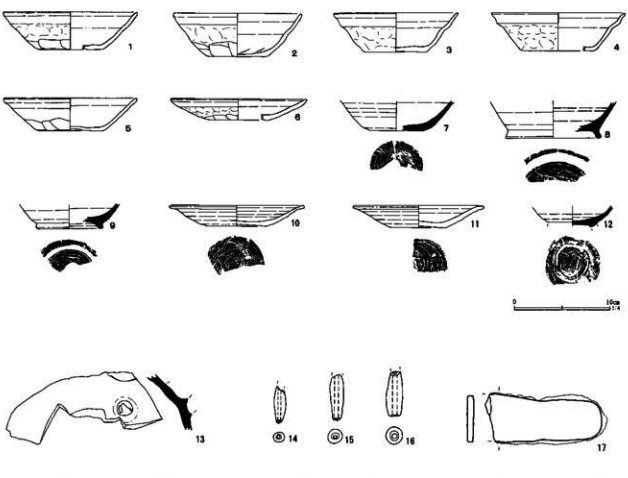
第275号住居跡（第494図）

L－13・14グリッドに位置する。第274号住居と重複している。南西隅壁は、第268号住居に壊されている。規模は、主軸長南北7.31m、東西5.64m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－1°－Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第274・275号住居跡出土遺物（第496図）

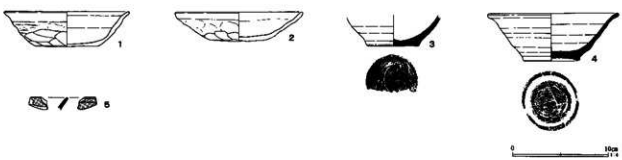
6は鉄製の鋳造品である。現存長9.5cm、断面は破断面では三角形を呈し、端部では半円形となる。端部の幅は4.8cm×8.0cmである。用途は不明であるが、容器の脚部である可能性もある。7は鉄釘の基部～脚部である。くの字状に曲がり、現存長は3.8cmである。

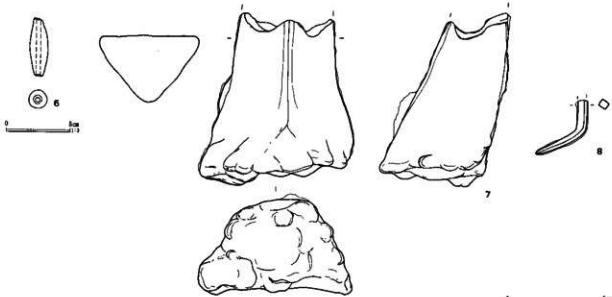


第495図　第274号住居跡出土遺物

第274号住居跡出土遺物観察表（第495図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)	4.0	(6.8)	ABFJ	普通	橙	25	覆土	
2	土師坏	(13.4)	4.6	(6.2)	BFJ	普通	にぶい黄橙	20	覆土	口縁部外面～底部内面横ナデ　底部一方向へラ削り
3	土師坏	(13.0)	4.1	(6.4)	ABFJ	普通	にぶい橙	30	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	(14.0)	4.0	(7.4)	BFJ	普通	橙	20	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
5	土師坏	(14.0)	3.4	(7.0)	ABFJ	普通	褐	50	覆土	内面一部油煙付着　底部外周へラ削り
6	土師皿	(14.2)	2.3	(6.0)	ABFJ	普通	橙	30	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
7	須恵坏			(5.6)	AGK	普通	灰	30	覆土	
8	須恵高台椀			(10.0)	AFG	普通	褐灰	15	覆土	
9	須恵高台椀			(7.0)	AJK	普通	灰黄褐	25	覆土	
10	須恵皿	(13.8)	2.1	(5.3)	AFGJ	普通	黒褐	30	覆土	酸化焔焼成
11	須恵皿	(13.5)	2.4	(5.8)	FGJ	普通	暗灰黄	20	覆土	酸化焔焼成
12	灰釉高台椀				AJK	良好	灰	80	覆土	高台内糸きり　高台欠損　施釉なし
13	須恵瓶				AJK	良好	灰	5	覆土	把手付き
14	土錘	長さ (2.85)		径0.9	孔径0.3	普通	明赤褐	70	覆土	
15	土錘	長さ (3.55)		径1.1	孔径0.3	普通	橙	70	覆土	
16	土錘	長さ (3.6)		径1.75	孔径0.45	普通	にぶい橙	90	覆土	





第496図　第274・275号住居跡出土遺物

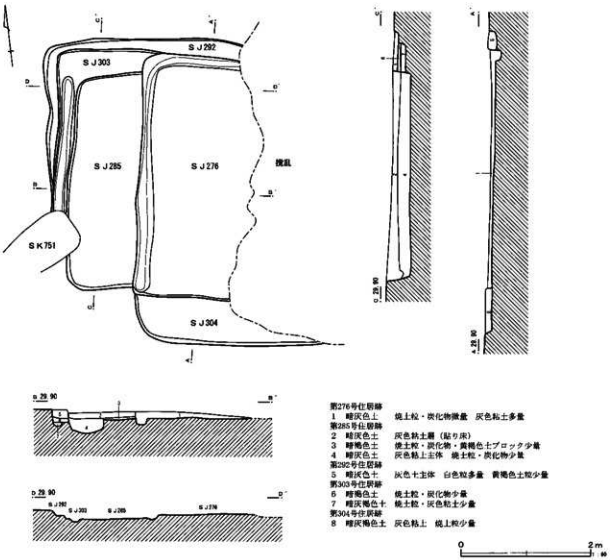
第274・275号住居跡出土遺物観察表（第496図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.7	(6.6)	ABFG	普通	橙	15	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ　底部ヘラ削り
2	土師坏	13.2	3.1	6.0	ABFJ	普通	橙	70	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ　底部外周のみ一方向ヘラ削り
3	須恵坏			5.3	AJK	普通	灰	50	覆土	
4	須恵高台椀	(13.8)	5.0	6.0	AJK	普通	灰	60	覆土	底部回転糸切り
5	緑釉椀							破片	覆土	廃投産
6	土錘	長さ4.5　径1.45　孔径0.35～0.4					橙	100	覆土	

第276号住居跡（第497・498図）

J・K－19グリッドに位置する。第285・292・303・304号住居跡と重複し、すべての住居跡を切っている。東側は撹乱を受けている。規模は、西壁で南北3.74m、確認できた東西1.82m、深さ8cm程を測る。主軸方位は東西方向を基準とすると、N－100°－Eを指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅15～28cm、



第497図　第276・285・292・303・304号住居跡

深さ10cm程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、土師器甕が出土した。

第285号住居跡（第497・499図）

J－K－19グリッドに位置する。第285・292・303・304号住居跡と重複し、すべての住居跡を切っている。東側は撹乱を受けている。規模は、主軸長は西壁で南北3.74m、確認できた東西1.82m、深さ15cm程を測る。主軸方位は東西方向を基準とすると、N－94°－Eを指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅15～28cm、深さ10cm程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、土師器甕が出土した。

第292号住居跡（第497図）

J－19グリッドに位置する。第285・292・303号住居跡・第751号土坑と重複し、土坑と第276・285号住居跡に切られ、第303号住居跡を切っている。東側は撹乱を受けている。規模は、北壁で東西3.10m、西壁で南北2.62mが確認でき、深さ7cm程を測る。主軸方位は、東西方向を基準とすると、N－95°－Eを指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅15～28cm、深さ10cm程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第303号住居跡（第497・500図）

J－19グリッドに位置する。第276・285・292号住居跡・第751号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。東側は、撹乱を受けている。規模は、北壁で1.60m、西壁で2.60mが確認でき、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N－97°－Eを指す。

壁溝は、西壁で検出され、幅20cm、深さ6cm程を測る。

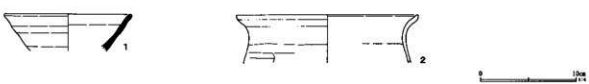
カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、鉄製品が出土した。延板状の鉄製品である。現存長は1.4cm。用途は不明である。

第304号住居跡（第497図）

K－19グリッドに位置する。東側は、撹乱を受けている。第276号住居跡と重複し、切られている。規模は、西壁で南北0.72m、南壁で東西2.90m、深さ10cm程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N－80°－Eを指す。

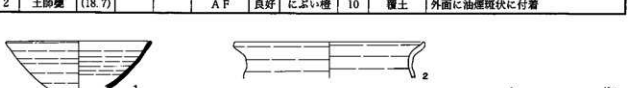
カマド等の施設は、確認できなかった。



第498図　第276号住居跡出土遺物

第276号住居跡出土遺物観察表（第498図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.1)			AG	普通	灰	15	覆土	
2	土師甕	(18.7)			AF	良好	にぶい橙	10	覆土	外面に油煙状に付着



第499図　第285号住居跡出土遺物

第285号住居跡出土遺物観察表（第499図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師壺	(15.0)			DG	不良	灰白	40	覆土	
2	土師壺	(19.7)			AFGJ	普通	にぶい橙	15	覆土	

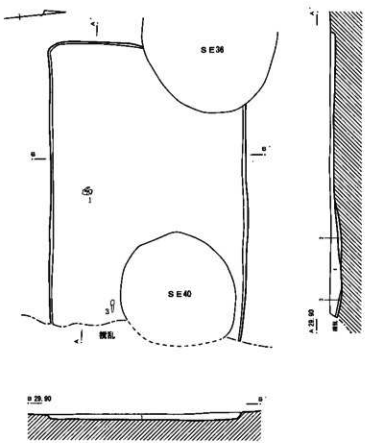
第500図　第303号住居跡出土遺物

第277号住居跡（第501・502図）

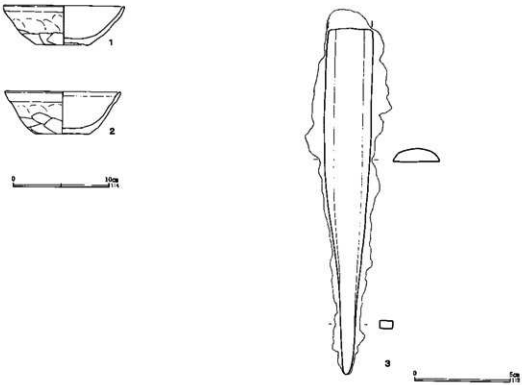
J－19グリッドに位置する。北東隅壁は、第266・294号住居跡・第36・40号井戸跡と重複し、井戸跡と第266号住居跡に切られ、第294号住居跡を切っている。東側は、撹乱を受けている。規模は、主軸長東西4.40mが確認でき、南北3.03m、深さ15cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N－96°－Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏と鉄製品が出土した。3は用途不明の鉄製品である。現存長は18.0cmで、断面半円形を呈する幅2.4cmの鉄棒が幅を減じて断面方形となり端部に至る。床面からの出土である。



第501図　第277号住居跡



第502図　第277号住居跡出土遺物

第277号住居跡出土遺物観察表（第502図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	4.1	5.4	ABFJ	普通	橙	80	床直	
2	土師坏	(12.0)	4.4	(5.8)	AFJ	普通	にぶい褐	30	覆土	

Ⅶ まとめ

1．弥生時代の遺物

飯塚北遺跡からは、5基の再葬墓から器形や文様がわかる土器が出土したほか、再葬墓と同時期と思われる遺物集中区からも破片類や石器・剥片類などが出土した。ここでは再葬墓から出土した土器群について比較検討するとともに、再葬墓と土壙、遺物集中区の有機的な関係から、再葬にいたる過程を復元してみたい。

（1）飯塚北遺跡出土の弥生土器

5基の再葬墓では、2～3個体の土器が埋設されたいわゆる複棺の再葬墓となるものが、第1号・第2a号・第2b号の3基で、第4号は単独出土、第3号は破片類がまとまっていたものの復元個体は出土していない。土器の出土状態を検討した際にも、第1号及び2a号・2b号の出土状況には、底面に接して直立するように埋設された壺形土器と、それに接して覆土上面に埋設された個体が認めたられたことから埋設の順序を推定することができた。土器棺の埋設に際しては追葬などが行われ、時間差が存在した可能性は否定できないが、調査所見および出土土器を検討する限り、出土位置の相違が細分に足る時間差をもっていないと考えられた。したがってここでは各再葬墓から出土した土器群を一括性の高い組成として捉えた。

第1号再葬墓からは3個体の土器が出土した。このうち遺構底面に直立して埋設されていた壺形土器の肩部には、櫛歯状工具による波状文や横位鋸歯文が施文されており、肩部の張る第4号再葬墓出土土器とも近似した様相を持っている。一方、同再葬墓の上面から出土した無文の小型広口の壺形土器にも口唇肥厚帯をもち、胴部には文様帯を意図したミガキが施されていることから、施文手法が相違するとはいえ、両社には文様帯としての共通性を窺うことができる。胴上半部を欠損した縄文地に沈線文が描かれる土器は、明らかに磨り消し縄文によるモチーフ構成をもっている。

一方、第2a号再葬墓と第2b号再葬墓は、第1号・第4号再葬墓出土土器とは内容が異なり、地縄文の土器群を主体とした構成となっており、文様描出手法においても、平行沈線によって描かれたモチーフ間に磨り消しが施されていないなどの際立った差異がある。また、第2a号と第2b号再葬墓出土土器のうち、広口で長胴の壺形土器については、胴下部の文様は相違するものの、胎土・整形・文様施文手法などが酷似しており、極めて近接した時間内での所産あるいは同一製作者の手によるものとも考えられる。

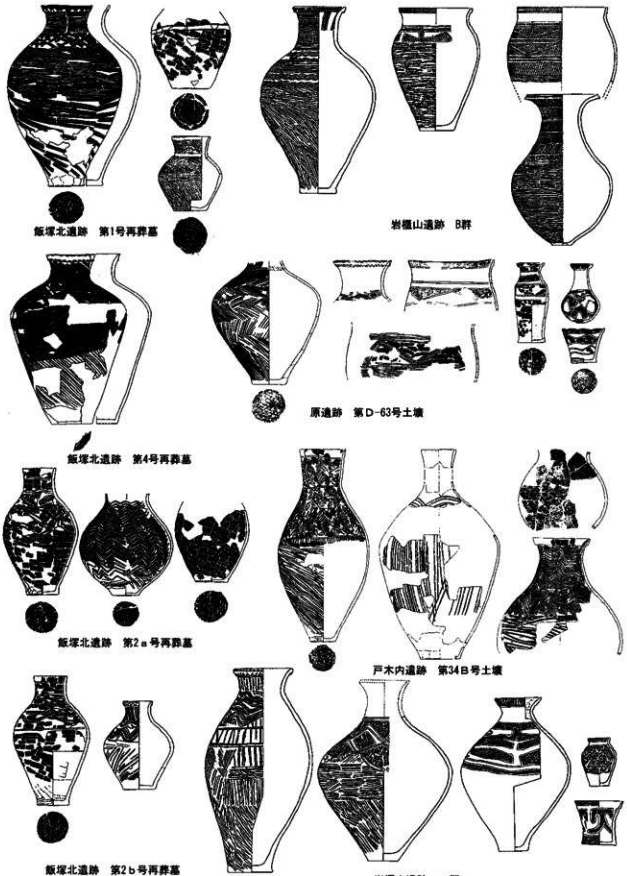
ここで飯塚北遺跡第1号再葬墓および第4号再葬墓出土土器の組み合わせをもとに、近似した組成をもつ一括資料との比較を試みてみよう。比較資料として提示したのは、岩櫃山遺跡B群一括資料（杉原1962）と原遺跡D－第63号土壙出土資料（若狭2001）である。岩櫃山遺跡ではA～Cまで3箇所の集中地点があり、時期区分に関してはほぼ同一段階に含める立場と、A群→B・C群の2段階の変遷を措定する立場とがある。飯塚北遺跡の資料を比較すると、第1号再葬墓一括資料の組み合わせは、A群の組み合わせと近似していると思われるが、飯塚北遺跡における壺形土器は胴部に比較し口頸部が短く、寸詰まりな印象を受けることからむしろ甕の口頸部形態に近いものと考えられる。肥厚した口唇下部に押圧が施される点に岩櫃山B群との類似性が見られる。しかし岩櫃山例の地条痕に対し、飯塚北例

は地縄文であることや、岩櫃山例が丸子式相当資料や大洞A'系の甕形土器と同様の多帯構成に対し、飯塚北例では横位矢羽根状文と波状文の組み合わせとはいえ一帯構成である点が相違する。肩部に一帯の文様態をもつ土器は、飯塚北遺跡第4号再葬墓出土土器においても共通し、出土土器の特徴とも言える。この2基の再葬墓出土土器と大洞A'系の甕形土器に胴部一帯構成が存在する点との類似性を考えるべきかもしれない。これに対して飯塚北遺跡第2a号と第2b号再葬墓出土土器は様相がまったく異なっている点にも注目しておきたい。

飯塚北遺跡の周辺では、多数の再葬墓が検出された横間栗遺跡（鈴木　1999）がある。報告では再葬墓が3時期に区分されており、また岩櫃山遺跡出土土器との対比関係から2時期に区分する見解も提出されている。

それでは飯塚北遺跡と横間栗遺跡とで対比関係が可能であろうか。横間栗遺跡では、第8号再葬墓出土甕形土器のように、幅狭く連続した平行沈線文により描かれた菱形文と、小型壷や甕形土器にみられる単沈線文とがあり、いずれも地が磨り消され、後者では単位文的な文様構成を意図しているようである。前者では胴部が3帯構成となり、横位平行沈線が本来は区画を意図していたと考えられるが、横位線から上方に伸びる平行沈線によって菱形上のモチーフが描かれており、後述する前組羽根倉遺跡1号再葬墓（書上ほか　1983）の甕形土器と同様に、重畳する菱形文にも通じる様相が見て取れる。前組羽根倉遺跡第1号再葬墓から出土した甕形土器は、肩部一帯の文様態に上下連鎖する菱形単位文が描かれており、横間栗遺跡第8号再葬墓とは対照的な文様構成となっている。あたかも岩櫃山遺跡B群の文様帯や文様描出手法をアレンジしたようにも見受けられる。

原遺跡D－63号土壙では、条痕文系の壷形土器や縄文地文で磨り消しが施された甕形土器とともに、小型の鉢や壷形土器が出土しており、組成からみると、岩櫃山遺跡B群と横間栗遺跡第8号再葬墓とをあわせたような機種構成である。磨り消し縄文の甕形土器は胴中位以下が欠損しているが、前組羽根倉遺跡第1号再葬墓出土の甕形土器に近似しているようである。小形壷形土器に見られる磨り消し縄文による文様には、大振りの波状文を対向させたものも認められることから、岩櫃山遺跡C群や横間栗遺跡第2号再葬墓あるいは上敷面遺跡で多量に出土した壷形土器に連続する土器と考えられる。飯塚北遺跡第1号再葬墓の並行期として大別した段階では、長頸壷が小形の磨り消し縄文系に多出する傾向が多いようであり、前組羽根倉遺跡で出土した条痕文系の壷は変則的な存在であったとも考えられる。因みに、飯塚北遺跡第1号再葬墓出土の条痕文系壷形土器の頸部に見られる多段横位の条痕は、前組羽根倉遺跡の長頸壷の頸部ともよく似た印象を受ける。飯塚北遺跡第4号再葬墓出土土器は、肥厚した口唇部上下に加えられた押圧手法が原遺跡D－63号土壙出土の壷形土器に近く、肩部の縦位矢羽根状のモチーフは、前組羽根倉遺跡などにも見受けられるように、周辺部にも近似した施文手法などが認められることから、飯塚北遺跡第1号土壙と近い時期と考えている。これらのなかにあって、横間栗遺跡もまた特異な内容を有するように思われる。やや古い段階として扱われる第9号、第12号再葬墓出土の壷形土器をみると口頸部が強く外反するものや、横位多重の条線で文様帯区画されるものがある。胴部は中央から口頸部寄りに最大径をもち、通常認められる壺と近い。これに対し、前組羽根倉遺跡の長頸壷は、胴部最大径が底部寄りにあり、様相を異にする。これらの相違は、例えば岩櫃山遺跡A群の組成にある丸子式の形態を例に取れば、前組例や横間栗例は、在地の壷形土器をベースに丸子式の要素の一部を取り入れた事例とも見られるであろう。現状では遺跡や資料が多いとはいえず、広範な資料であるため、地域差や系統差が錯りあって、複雑な状況を持っているように思われる。



第503図　再葬墓出土土器と関連資料

飯塚北遺跡第2a号と第2b号再葬墓出土土器は、縄文地文に沈線文施文される土器が主体であり、第1号再葬墓出土土器とは様相を異にしている。両土壙から出土した壺形土器は、細身でナデ肩の印象が強い。口頸部・胴上部・胴中位に文様帯を持つが、第2a号再葬墓出土土器は、胴中位の文様帯下端区画はない。いずれも各帯には菱形と鋸歯のモチーフが施文されるが、この2個体に関しては各帯のモチーフが異なっている。特に第2a号再葬墓出土土器の胴中位では、菱形あるいは横位矢羽根状の末端が閉塞する平行沈線文間に、弧状の並行沈線文が施文されている。このような文様描出手法は、地縄文と単沈線文や磨り消し縄文による文様施文手法の延長線上にあり、胴部への大振りな鋸歯文構成などを見ると、周辺では横間栗遺跡第2号再葬墓出土土器や上敷面遺跡出土土器（関　1983）などに、閉塞した沈線文などの手法上では、岩櫃山C群とも一部と対比できるものと考えられる。

飯塚北遺跡が位置する妻沼町周辺では、これらの組成に近似する一群は見出し難い。栃木県戸木内遺跡SK－34B出土土器群（内山　1997）がもっとも近い資料となろう。戸木内遺跡では、長胴の壺形土器と胴部の張りが強い壺形土器とがあり、後者は丸子式の器形と近い。いずれも飯塚北遺跡第2a号再葬墓出土土器と近似し、胴張りの壺形土器では飯塚北遺跡例では胴部全体に、戸木内例では口頸部から肩部にかけて縦位矢羽根状沈線文が施文されている。

一方飯塚北遺跡第2b号再葬墓では、無文地上に櫛歯状工具を用いて口頸部に縦位、肩部に波状に描かれた小形壺形土器がある。第1号再葬墓出土の無文小形壺形土器とは口頸部の形態を異にする。口唇が肥厚し、円形刺突が施されており、口唇上には、他の資料と同様に刻み目が加えられている。この資料は戸木内遺跡にはなく、岩櫃山遺跡A群やC群の条痕文系壺形土器の器形や文様構成、加飾手法に類似している点に注目しておきたい。

飯塚北遺跡の再葬墓出土土器が、第1号・第4号→第2a号・第2b号・第3号への変遷を想定した場合、横間栗遺跡において、第8号・第9号・第12号と第2号再葬墓出土土器との相違に時間差が介在するのであれば、飯塚北遺跡においても第1号と第2a号・第2b号との系統差を伴う組成の違いを時間差と捉えることができるであろう。同様に、岩櫃山遺跡出土土器におけるB群→C群・A群への変遷に関しても同様の見解が支持され得るものと考える。

飯塚北遺跡で検出された再葬墓出土土器は、周辺の資料群からみると、横間栗遺跡第1号再葬墓に後続し前期的な様相を引き継ぐ部分と、中期中葉段階の飯塚遺跡出土土器の直前段階に相当する部分とからなるものと考えられる。飯塚遺跡出土土器（荒川　1988）は、弥生中期中葉の出流原遺跡の新しい段階（若狭　1992）に措定されることから、弥生中期前葉のなかでの時間差をもった資料群とみなすことができるのではなかろうか。組成から見ると、1号再葬墓出土土器のように、前期的な系譜を引き継ぎつつ、中期中葉の様相へ急速に変わりつつある状況を反映していたものと考えられる。飯塚北遺跡第2号再葬墓と並行期とみなした横間栗遺跡第2号再葬墓出土土器は、飯塚遺跡や飯塚南遺跡（荒川　1988）などの土器群へ移行していることから、飯塚北遺跡第2号再葬墓並行期を弥生中期中葉的土器群の開始期とみることもできよう。

飯塚北遺跡では、再葬墓とともに多くの破片資料がまとまっていた遺物集中区が検出された。集中区出土土器には器形がわかる資料が少ないことから、位置づけを明確にすることは難しいが、おおよそ第1号再葬墓から第2号再葬墓の時期に含まれる資料が多いように思われ、再葬墓とかかわりを持って形成された遺構の可能性が高いようである。

以上、飯塚北遺跡再葬墓出土土器群について、周辺地域の出土土器群との比較を試みた。もとより雑駁な検討に過ぎないことは承知しているが、機会を改めて再度検討を加えてみたい。

(2) 再葬墓と他の遺構との関連性について

飯塚北遺跡からは、再葬墓を以外に、単独土壙・人骨廃棄土壙・遺物集中区が検出されている。個々の遺構の詳細については既に触れたところであり、それらの評価についてはさまざまな見解が生じることと思われる。しかしながら遺構同士を有機的に結びつけることによって、再葬にいたる経過を復元できる可能性が考えられる。ここでは上記の命題から飯塚北遺跡において再葬墓が形成された過程を探ってみたい。

土壙

第504図は、第5集中区を除く各遺構を、種別に網掛けしたものである。このなかで、第938号土壙に注目しておきたい。第938号土壙は不整円形の土壙で、下部から被熱していない骨が、上部からは被熱した骨片や灰、炭化物などが廃棄された状態で検出された。遺物集中区や単独土壙。再葬墓などはこの土壙を中心として環状や弧状に配置されていることが遺構分布の特徴である。

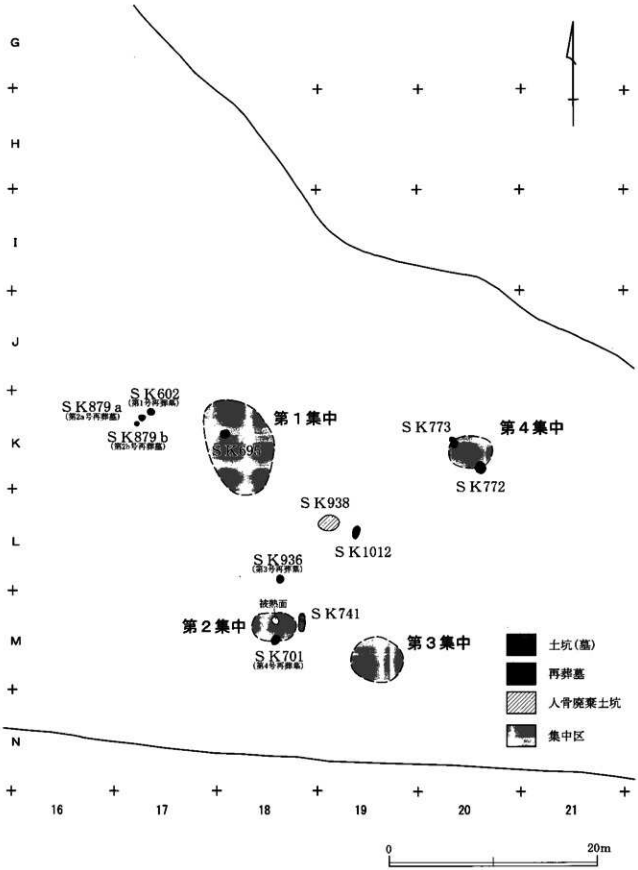
土壙には長方形と円形のものとがあり、前者には第741号土壙・第1012号土壙が、後者には第695号・第772号・第773号がある。いずれの土壙からも人骨をはじめ、遺物などは出土していないために、用途を判断することは難しいが、後述するように遺跡からは住居跡や居住施設と考えられる遺構が検出されていないことから、貯蔵施設と見ることも困難である。仮にこれらの土壙を、再葬墓の形成にかかわる埋葬施設とみると、飯塚北遺跡内での一連の行為が復元できる可能性がある。

5基の土壙中、一次葬として遺体を進展状態で埋葬できた土壙は第741号・第1012号土壙である。他の土壙は規模が小さいことから、進展以外の埋葬法あるいは成人以外を対象とした埋葬を考慮する必要がある。土壙の覆土には埋め戻されたような形跡が認められなかったことから、遺体を掘り出した後は自然埋没した可能性も考えねばならないだろう。これらの土壙がどの再葬墓と関連するのかは明らかではない。第1集中区や第4集中区では、土壙との重複関係が認められたが、調査の過程では覆土の相違をもって前後関係を決定できなかった。しかし、土壙は集中区調査後の精査時に検出されたことから、集中区が形成される以前に再葬墓が形成された可能性が高いと考えられる。

再葬墓

総計5基が検出された再葬墓は、各々系統を異にする土器が埋設されていた。そのこと自体も大きな問題となるが、ここでは埋設にかかわる時間的な問題について検討したい。土器の出土状態からみると、遺構の底面に接した個体と覆土上面に位置する個体があることから、必ずしも一時に埋設されたものではなく、追葬された可能性も考えられるが、調査時の所見では土器同士が密着するように出土しており、覆土の観察でも掘り返された形跡は認められなかったことから、飯塚北遺跡の場合は同時期あるいは極めて短期間に埋設され埋め戻されたものと想定している。

再葬墓のうち第1号（SK602)、第2a号（SK879a)、第2b号（SK879b）の3基は第1集中区の西側にあり、直線上に並ぶ極めて近接した位置関係にある。第4号（SK701）再葬墓は第2集中区と重複して検出されたが、出土状態からは第2集中区よりも先行するものと判断された。第5号（SK936）再葬墓は第2集中区の北側に位置する。再葬墓の古い段階には第1号と第4号が、新しい段階には第



第504図　弥生時代の遺構

2a号、第2b号、第5号が想定される。このうち複棺再葬墓は第1号と第2a号、第2b号のみで、第4号と第5号再葬墓は単棺である。第3号再葬墓は覆土上面に複数固体の土器破片や礫が検出されており、他とは様相が異なっている。

第2集中区と第5集中区は再葬墓との重複関係をもっている。第2集中区では遺物取り上げ途中で再葬墓が検出された。第5号再葬墓集は第5集中区の遺物取り上げ後の精査において検出されたもので、地中区の形成も再葬墓と同様に新旧に区分されるものと考えられる。

ところで土器棺内部からは微細な骨片がわずかながら出土している。また遺構の覆土内にも骨片が含まれていたが、いずれも部位を特定できるようなものはない。骨片は灰白色ないしは白色で、熱を受けていたことは明らかである。このことから、遺体を掘り出し、必要とされる部位を火葬した後に骨を破砕し、微細骨片を選択的に土器棺に封入し骨を含んだ土で埋めたものと考えられる。

ここで問題となるのは人骨が廃棄された第938号土壙である。この土壙は不整形で、覆土の観察からは、掘り返された形跡が認められた。土壙下部からは被熱していない下肢骨あるいは上腕骨と見られる比較的大きめな人骨が検出されたが、非常に脆く鑑定はおろか取り上げることもできなかった。ここからは頭蓋骨などは発見できず、部位が限られていた可能性がある。また個体数も不明である。このことから、遺体を掘り出した後に骨を解体したかあるいは一次葬として埋葬する際に遺体を解体したことも考慮しなければならないであろう。この土壙以外からはこのような出土状態を示すものがないことから、この土壙にのみ人骨が廃棄されていたものと考えられる。上層からは炭化物や灰あるいは粉状となった骨とともに灰白色ないしは白色の骨片が層状に堆積していた。このことから、第938号土壙は、当初は一次葬のための埋葬施設あるいは遺体を掘り出した跡に不要な骨を廃棄する場として使用され、その後に火葬された骨を廃棄する場として利用されたものと考えられる。

以上のことから、遺体を埋葬した後に一定期間を経て遺体を掘り出し、火葬すべき骨と不要な骨を選別し、不要な骨を廃棄したか、あるいは一次葬の時点で遺体が解体され、不要部分が廃棄された、火葬された後に不要部分が廃棄されたものと考えられる。いずれにしても、火葬された骨も極く一部が土器棺に封入されたに過ぎず、焼人骨もほとんどが廃棄されていたのであろう。しかしながら火葬以前に骨が破砕されていたか火葬後に破砕されたかは決定しがたい。再葬墓の覆土内からも微細な焼骨片が検出されたことから、土器棺を埋設する際には、埋め土にも骨片を混ぜていた可能性が高いといえる。第938号土壙はこのような目的で使用されていたのであろう。ただしすべての土器棺や再葬墓の覆土から骨片が検出されたわけではないので、このような一連の行為が全てにあてはまるものとも思われない。

遺物集中区

遺物集中区は計5箇所が検出された。位置的には人骨廃棄土壙を囲むように第1集中区から第4集中区が形成されている。第5集中区はこれらとは離れた位置にあり、西側の未調査区に広がる可能性も考えられる。第1から第4集中区の間は遺物分布が極めて希薄であることから、これらの集中区が何らかの意図を持って形成されていたことは明らかである。各集中区の規模や遺物量は変異が大きいが、もっとも濃密な分布を示しているのが第2集中区である。この集中区では地山面が被熱し赤変していた部分が検出されたことから、当初は住居跡の可能性を示すものと考えていた。第2集中区以外からは焼土化した地山面や柱穴、硬化面などは認められなかった。これらのことから、ここでは遺物集中区を、居住空

間としてよりも再葬墓の形成に伴う場として評価した。

集中区から出土した土器には小片が多く、全体を知ることができる資料は少ないが、条痕文系の壷形ことができる資料は少ないが、条痕文系の壷形土器を主体に、縄文系の甕形土器を含む組成と思われ、この点では再葬墓出土土器との差異はない。また赤彩された土器や小形土器などの祭祀的様相を窺わせる土器も出土していない。

出土土器には弥生前期に相当すると考えられる破片が少量出土しているが、ほとんどが再葬墓と同時期の資料と考えられる。また各集中区では、再葬墓の時間幅に並行する資料が含まれており、第３集中区では新しい段階の土器が主体的である。

集中区は、前述したように土壙や再葬墓と重複関係を持っており、第２集中区では再葬墓と同一段階と考えられる資料が含まれていることから、再葬墓の形成に際して集中区が形成されていた可能性が指摘できる。

集中区からは土器以外に石器類も出土している。主に石鏃とされる打製石器が主体であるが、各集中区からはチャートを主体とする剥片や微細なチップ類が含まれており、これらには定型的な石器は認められなかった。また剥片には使用による刃こぼれ状の痕跡を示すものも含まれていた。出土土器自体に祭祀的な性格付けはできないが、剥片・チップ類の多出もこの時期に一般的な事例と考えることができるのであろうか。

最後に、各遺構の関連性をまとめると、以下のような流れが想定できる。

死→　一次葬（土葬）→　骨の解体・破砕・廃棄→　火葬→　壷棺への封入→　骨の廃棄

死→遺体解体・破砕・廃棄→　火葬→　壷棺への封入→　骨の廃棄

集中区はこれらの過程の中で、おそらく土器棺の埋設後に形成されたと想定できる。遺物量が少ないことからも長期間継続して廃棄行為が行われたとは考え難い。

飯塚北遺跡の弥生時代の遺構をもとに、問題点を取り上げてみたが、今後の検討にゆだねる部分が多く、改めて検討してみたい。

引用参考文献

荒川　弘　1988　「飯塚遺跡」『東日本の弥生墓制』群馬県考古学研究所　千曲川水系古代文化研究所　北武蔵古代文化研究会

荒川　弘　1988　「飯塚南遺跡」『東日本の弥生墓制』群馬県考古学研究所　千曲川水系古代文化研究所　北武蔵古代文化研究会

内山敏行　1997　『戸木内遺跡（第４次調査）』栃木県文化振興事業団　埋蔵文化財センター

書上元博ほか　1983　「神川村前組羽根倉遺跡の研究」『埼玉県立博物館紀要』第12号

小出輝雄　2003　「弥生中期前葉の土器様相－横間栗遺跡出土土器を中心として－」『法制考古学』第30集

設楽博巳　1993　「壷棺再葬墓の基礎的研究」『国立歴史民族博物館研究報告』第50集　杉原荘介　1967　「群馬県岩櫃山遺跡における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第３巻第４号

杉原荘介　1981　「栃木県出流原における弥生時代の再葬墓群」『明治大学文学部研究報告』第八冊

鈴木敏昭　1999　『横間栗遺跡』熊谷市教育委員会

鈴木正博　2003　「脱条痕文縁辺文化研究序説－弥生式「Zigzag文様帯系土器群」と「脱条痕文」に観る相互作用と「共同の母体」観」『婆良岐考古』第25号

関　義則　1983　「須和田式土器の再検討」『埼玉県立博物館紀要』第10号

若狭　徹　2001　「中野谷・原遺跡」『安中市史　原始古代中世資料編』安中市

若狭　徹　1992　「北関東における弥生式土器の成立と展開」『駿台史学』第84号

2．奈良・平安時代の遺物

飯塚北遺跡では奈良・平安時代の住居跡305軒が検出された。本報告では、そのうち263軒の住居跡について報告を行った。残りの42軒については、他の遺構も加え来年度報告の予定であるため、一般集落では出土しない特殊な遺物について瞥見する。

今回報告の６軒の住居跡で、円面硯を出土している。未報告の42軒からは出土していない。いずれも破片であるが、円面硯の圏足硯の部類に入るものである。

第166号住居跡の円面硯は硯面部１/4程度の破片であるが、脚台部も上位が若干遺存し、長方形透孔と透孔間に縦位の２条の沈線で加飾されていることが確認でき、硯面部は内堤を持つ有堤式である。共伴遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台坏埦・皿・蓋、灰釉陶器高台坏埦・高台坏皿・羽釜・（長頸）瓶が出土しているが、時期が混在している。土師器坏は平底風の底部から内湾気味に立ち上がるもの、底部に僅かな丸みを持ち直立する口縁を持つもの、外反するものがある。８世紀第４四半期とみられる。また、平底で体部にＳ字状の屈曲を持つ坏があり、口径は13㎝程、器高は４㎝前後を主体とし、底部が縮小するものは結果的に体部が開いてくる。須恵器との類似性が強い土器である。口縁部近くまでヘラ削りされているものもみられる。９世紀第４四半期と考えられる。暗文坏は、平底で口縁部は短く立ち上がり端部で外反し、放射状暗文と螺旋状暗文が施されている。８世紀第１四半紀頃末から８世紀中葉と捉えることができる。須恵器坏は、底部全面ヘラ削り・周辺ヘラ削り・糸切りの３種が混在している。ヘラ削り・周辺ヘラ削りの坏は、口径13㎝程で８世紀中葉古段階の様相を呈している。底部糸切り坏は、口径12～13㎝、底径６㎝程で口径・底径比は１/２以下となる。他の高台坏・皿・灰釉陶器からすると９世紀第４四半期から10世紀初頭として捉えることができる。これらのことから、８世紀代の土器も含むが、円面硯も硯面部も径13㎝と小型であることからも、９世紀後半代の所産と考えられる。

第180号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみであるが、長方形透孔と透孔間に単位は不明であるが縦位の沈線が加飾されている。共伴遺物は、第166号住居跡でもみられた土師器坏で、平底で体部にＳ字状の屈曲を持つ坏と、高台付埦と口縁がコの字状を呈する土師器台付甕と甕が出土している。高台埦を比較すると口縁部は大きく外反するものではないが、土師器坏とコの字状口縁の甕などから第166号住居跡とほぼ同時期とみられる。

第186号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで、長方形透孔と透孔間に縦位沈線３状もしくは４条が加飾されている。共伴遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埦・蓋・甕が出土している。土師器坏は口径12.6～13.3㎝で、口縁部は内湾気味に立ち上がるものと、外傾するものがある。須恵器坏は、低部は周辺ヘラ削りのものでやや偏平気味で土師器坏より若干古い様相を示す。高台付埦は小型のもので、高台部から直立に近い角度で立ち上がり、土師器坏と同時期を示す。これらのことから、８世紀第４四半期とみられる。

第227号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで長方形と推定される透孔が確認できただけである。共伴遺物は、土師器坏・須恵器坏・高台付埦・（長頸）瓶、土師器甕が出土している。土師器坏は口径12～14㎝で平底を呈する。口縁部まで内湾して立ち上がるもの、外傾し直線的に立ち上がるもの、僅かなＳ字状を呈するものがある。須恵器坏は、底部は糸切りで口径・底径比は１/３以下で９世紀後半代を示す。土師器甕もコの字状口縁を呈している。９世紀後半代と捉えることができる。

第239号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで長方形透孔と透孔間に縦位の沈線２条が確認された。共伴遺物は、土師器坏須恵器坏高台坏埦、灰釉陶器埦、緑釉陶器埦が出土している。土師器坏は口径

13.4㎝で、僅かな屈曲を持つものと内湾して立ち上がるものがある。須恵器坏も底部糸切りで、口径・低径比１／２以下を示している。緑釉陶器はＫ－90窯式並行のものであることから、９世紀後半代ものと捉えられる。

第269号住居跡出土の円面硯は、脚台部に縦位の沈線が施されている。共伴遺物は、土師器坏、須恵器坏などである。土師器は口径11.6㎝～14.0㎝であるが、主体は13㎝程のものである。底部は僅かな丸底風のもと平底のもので、口縁部は前者が外傾して開き、後者は内湾しながら開く。須恵器坏は底部周辺ヘラ削りのもので、土師器同様に８世紀第４四半期である。

円面硯については、飛鳥時代から脚台部に透孔が等間隔に多数施された透脚硯や須恵器坏類を使用した転用硯、獣脚や蹄脚を持つものと脚が無いものの円面硯が使用され、東国では奈良時代から圏足硯が使用され大型の物から小型化へという変遷がある。また、硯面部では内堤のあるものから無いものへという流れがある。さらに、９世代以降は風字硯、そして10世紀以降は石硯と移行していく。

埼玉県内では、末野窯跡の東灰原一面より獣脚の円面硯が出土した。硯面部の縁は欠損し、内堤は微隆起状で海と陸が区分されている。復元外径26㎝、獣脚数推定16本とされ、７世紀第４四半期としている（赤熊 1999）。

８世紀になると、透脚硯が出現する。鳩山窯跡群の広町Ｂ号窯の他に虫草山窯跡・高岡廃寺などから出土している。８世紀中葉以降は、脚台部に透孔と縦位の沈線などで加飾されたものが出現する。一方、岡部町熊野遺跡からは８世紀第１四半期後半に低脚硯が出土している。これは、硯面部に内堤を持たず窪められた墨溜めを持つもので、脚台部には等間隔で方形の透孔がある。８世紀中葉から第３四半期には低脚硯ではない脚台部に長方形透孔と縦位の沈線が施されているものが出土している（富田 2002）。８世紀中葉まで熊野遺跡で墨溜めを持つものがみられたがそれ以降は類例がなく、時間的・地域的特長とみられる。

飯塚北遺跡では、脚台部が長方形透孔と縦位の沈線が組み合わされたもの、或いは沈線のみのものとがみられるが、概ね８世紀第４四半期と９世紀後半代まで円面硯が使用されている。

他にも集落内の住居跡から出土例があるが、若葉台遺跡や熊野遺跡のように官衙関連の集落と考えられているが、広範囲な遺跡・遺構の分布状況から官衙関連の集落と想定されているのであって、出土した遺跡や住居跡だけでは判断できない。本報告の飯塚北遺跡では住居跡のみの分析であったため、今後の掘立柱建物跡の整理結果と周辺遺跡の関連を踏まえて判断していくことが必要である。

紙幅の都合により、引用・参考文献は省略させていただく。